

筑紫野市

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

在宅介護実態調査

報告書

令和5年3月

筑紫野市

目次

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 回収の結果	1
4 報告書の見方	1
第2章 回答者の属性	2
1 性別	2
2 年齢	2
3 コミュニティ区域	2
4 包括区分（日常生活圏域）	4
5 要介護度	5
6 家族構成	5
7 調査票の記入者	6
8 介護・介助の必要性	6
9 介護・介助が必要になった主な原因	7
10 主な介護者	8
11 経済的な状況	8
12 住まい	8
第3章 からだを動かすことについて	9
1 運動器の機能低下者	9
2 転倒リスク者	13
3 閉じこもり傾向	17
4 各リスクと他設問との関係	22
5 その他の体を動かすことに関する設問	25
第4章 食べることについて	27
1 低栄養リスク者	27
2 口腔機能低下者	31
3 口腔機能の低下と義歯の有無の関係	35
4 口腔機能の低下と孤食の関係	36
5 その他の食べることに関する設問	36
第5章 毎日の生活について	38
1 認知機能低下者	38
2 IADL（手段的日常生活動作）低下者	43
3 その他の毎日の生活に関する設問	47
第6章 健康と幸せ	49
1 うつ傾向	49
2 主観的健康観	53
3 主観的幸福感	54
4 その他の健康に関する設問	55

第7章 社会的資源等の把握.....	57
1 ボランティア等への参加状況.....	57
2 ボランティア等への参加と主観的幸福感との関係.....	58
3 地域づくりの場への参加意向.....	59
4 助け合いの状況.....	60
5 交友関係について.....	63
第8章 認知症に関する相談窓口について.....	65
第9章 独自設問からみる筑紫野市の現状.....	66
1 高齢者の移動について.....	66
2 地域活動について.....	67
3 これからの施策に関することについて.....	72

在宅介護実態調査

第1章 調査の概要.....	81
1 調査の設計.....	81
2 回収の結果.....	81
3 報告書の見方.....	81
第2章 基本調査項目（A票）.....	82
1 調査票の回答者.....	82
2 年齢.....	82
3 性別.....	83
4 要介護度.....	83
5 世帯類型.....	83
6 家族等による介護の頻度.....	84
7 主な介護者の本人との関係.....	84
8 主な介護者の性別.....	84
9 主な介護者の年齢.....	85
10 主な介護者が行っている介護.....	85
11 介護のための離職の有無.....	86
12 保険外の支援・サービスの利用状況.....	86
13 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス.....	87
14 施設等検討の状況.....	87
15 本人が抱えている傷病.....	88
16 訪問診療の利用の有無.....	89
17 介護保険サービスの利用の有無.....	89
18 介護保険サービス未利用の理由.....	90
第3章 主な介護者様用の調査項目（B票）.....	91
1 主な介護者の勤務形態.....	91
2 主な介護者の働き方の調整の状況.....	91
3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援.....	92
4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識.....	92
5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護.....	93

第4章 介護保険事業計画の策定に向けた検討資料	94
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討.....	94
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討.....	99
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討.....	119
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討.....	133
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討.....	141
6 サービス未利用の理由など.....	146

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

第1章 調査の概要

1 調査の目的

「筑紫野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」策定に係る基礎資料とするため、課題の抽出調査及びデータの分析を実施し、計画の適切な策定に向けた基礎情報を得ること等を目的として、筑紫野市在住の高齢者に対し、現在の生活の状況、福祉に関する事業・介護保険事業に対する意見・意向を把握するアンケート調査を行った。

2 調査の設計

調査内容	国が示した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票」に基づき作成
調査対象者	筑紫野市の介護保険被保険者のうち、要介護1～5の認定を受けていない65歳以上の高齢者
抽出方法	無作為抽出
配布・回収方法	郵送による配布・回収
調査の期間	令和5年1月27日～令和5年2月15日

3 回収の結果

調査対象者	有効回収数	有効回収率
4,000人	2,890人	72.3%

4 報告書の見方

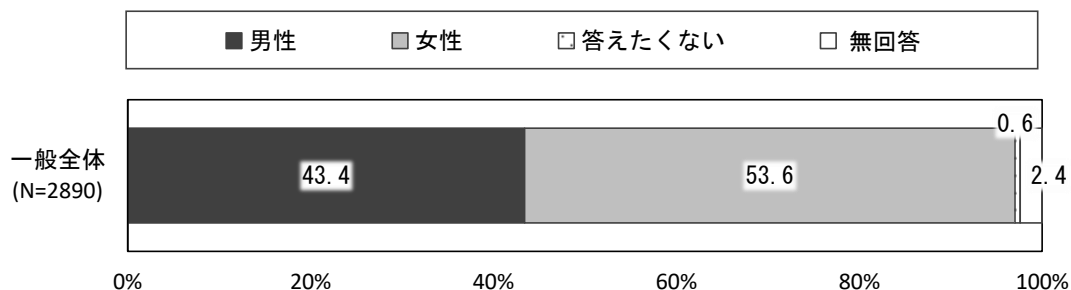
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示す。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。
- 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには「0.0」と表記している。

第2章 回答者の属性

1 性別

「男性」の割合が43.4%、「女性」の割合が53.6%となっている。

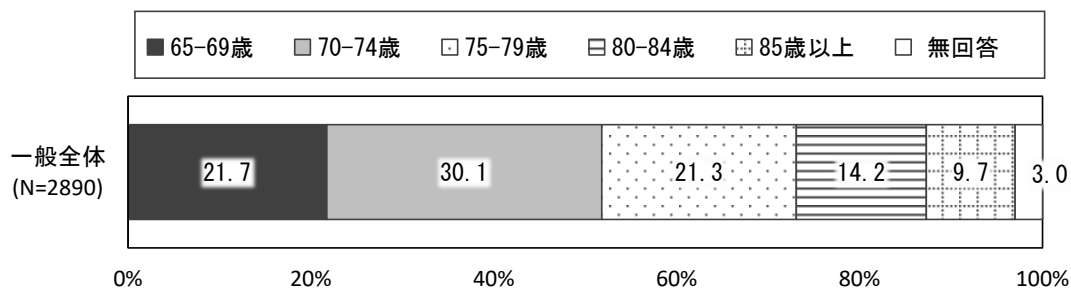
図表1 回答者の性別



2 年齢

「70-74歳」の割合が30.1%と最も高くなっている。次いで「65-69歳 (21.7%)」、「75-79歳 (21.3%)」となっている。

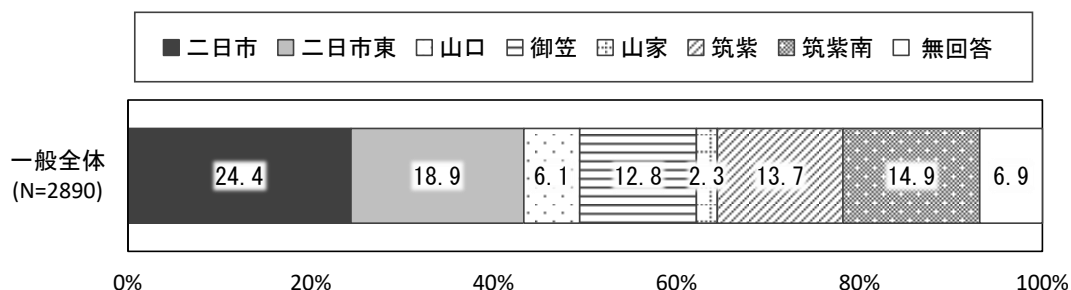
図表2 回答者の年齢



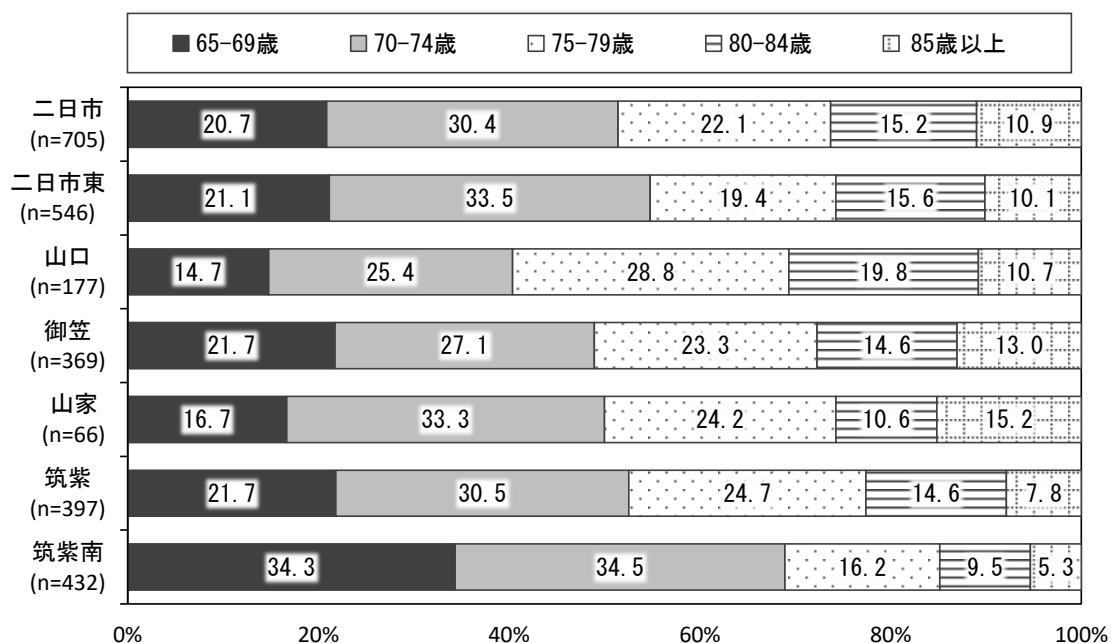
3 コミュニティ区域

全体では「二日市」の割合が24.4%と最も高くなっている。次いで「二日市東 (18.9%)」、「筑紫南 (14.9%)」となっている。

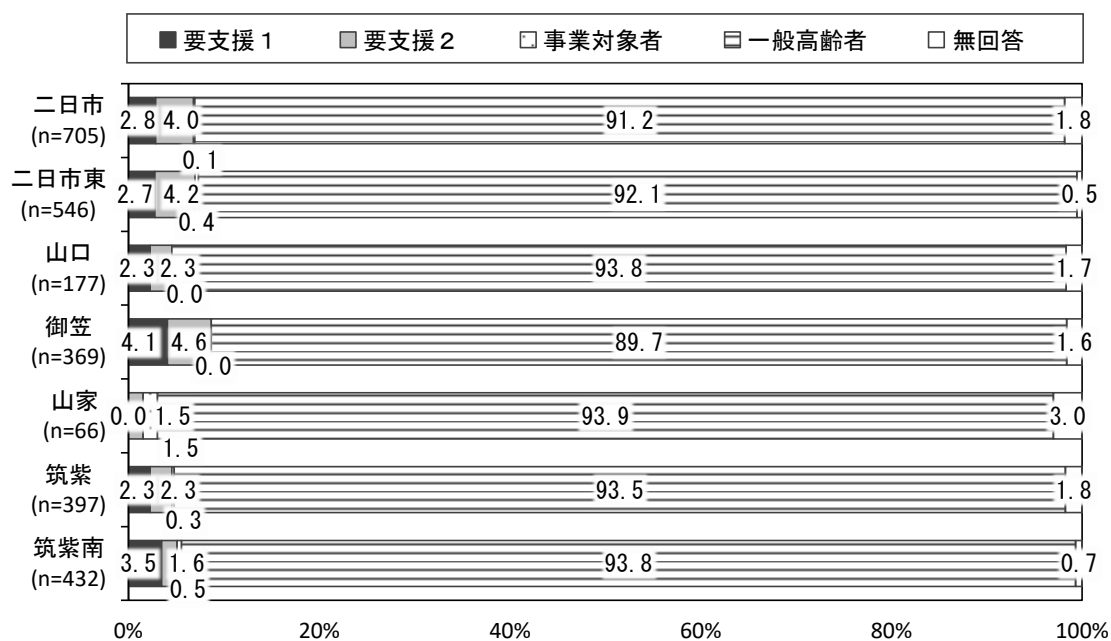
図表3 コミュニティ (全体)



図表4 コミュニティ（年齢階層別）



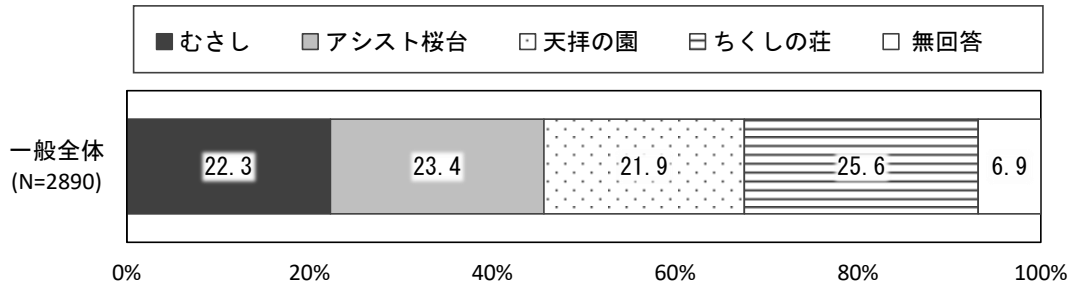
図表5 コミュニティ（要介護度別）



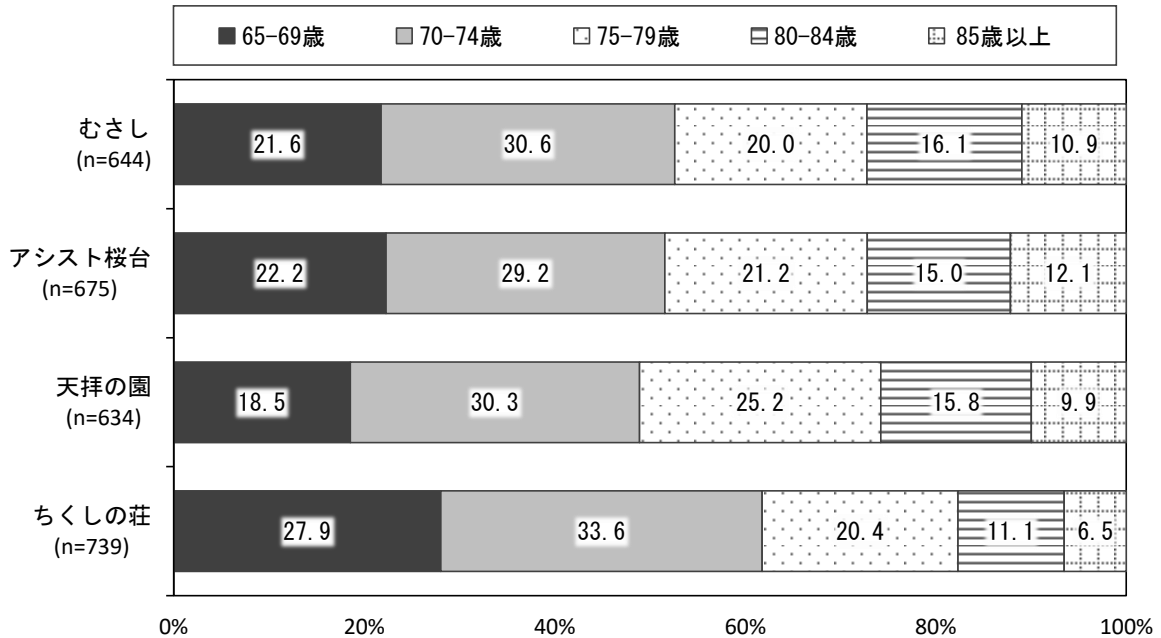
4 包括区分（日常生活圏域）

全体では「ちくしの荘」の割合が 25.6%と最も高くなっている。次いで「アシスト桜台（23.4%）」、「むさし（22.3%）」、「天拝の園（21.9%）」となっている。

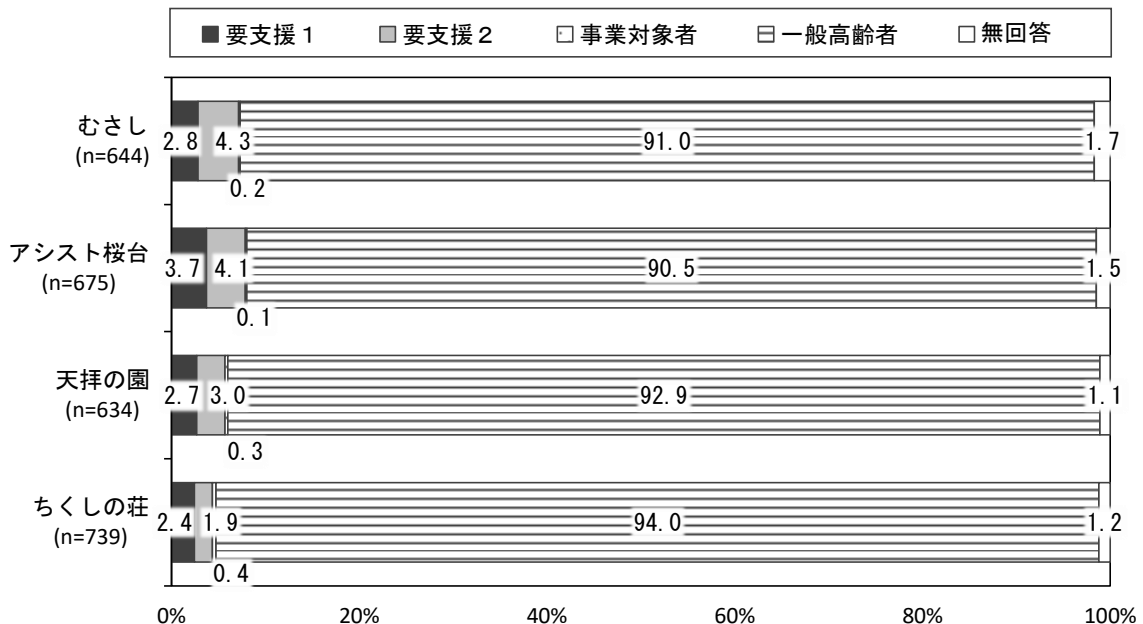
図表6 日常生活圏域（全体）



図表7 日常生活圏域（年齢階層別）



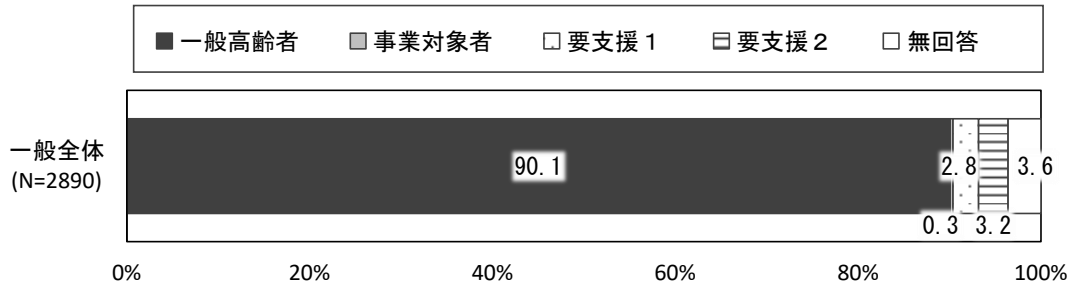
図表8 日常生活圏域（要介護度別）



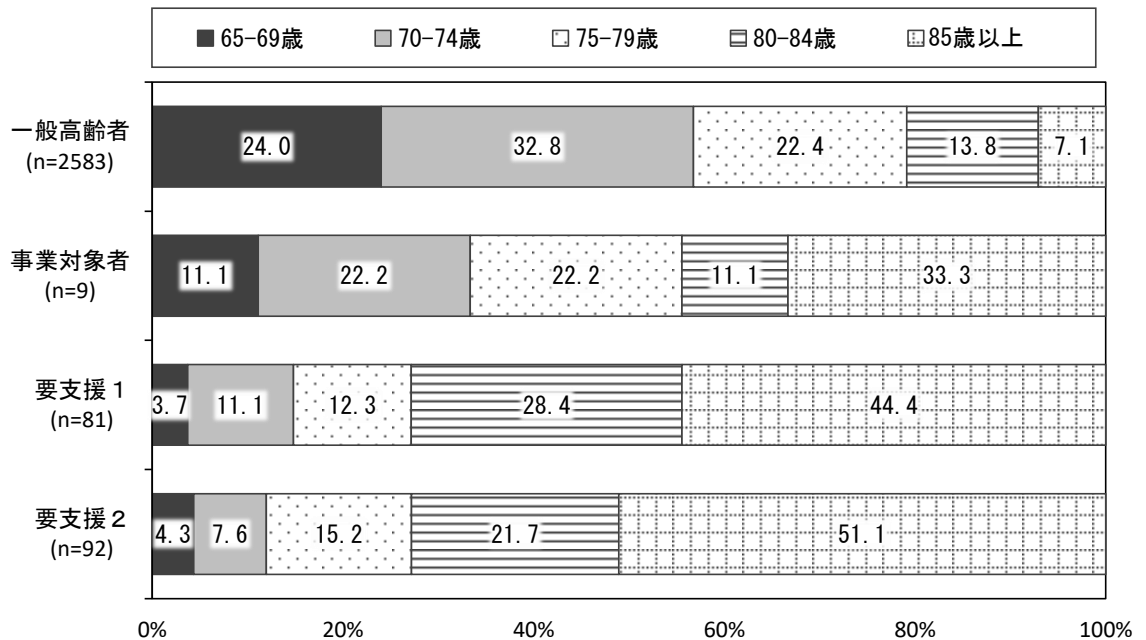
5 要介護度

全体では「一般高齢者」の割合が90.1%と最も高くなっている。次いで「要支援2 (3.2%)」、「要支援1 (2.8%)」、「事業対象者 (0.3%)」となっている。

図表9 要介護度 (全体)



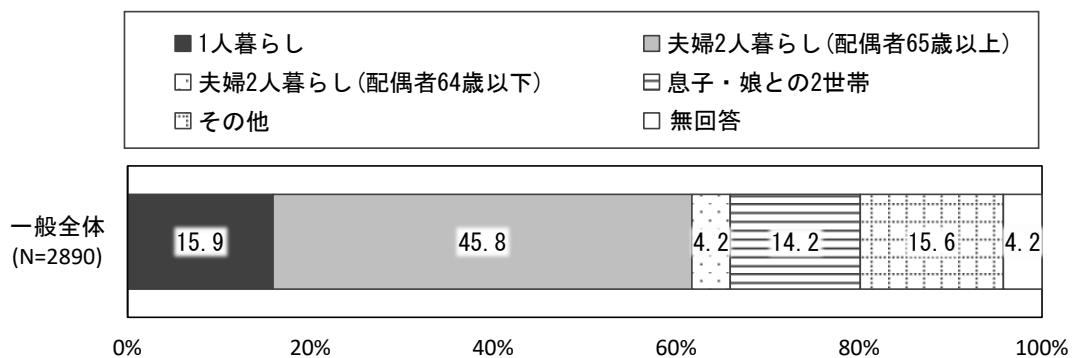
図表10 要介護度 (年齢階層別)



6 家族構成

全体では「夫婦2人暮らし (配偶者 65歳以上)」の割合が45.8%と最も高くなっている。次いで「1人暮らし (15.9%)」、「その他 (15.6%)」、「息子・娘との2世帯 (14.2%)」となっている。全体の61.7%が高齢者のみの世帯となっている。

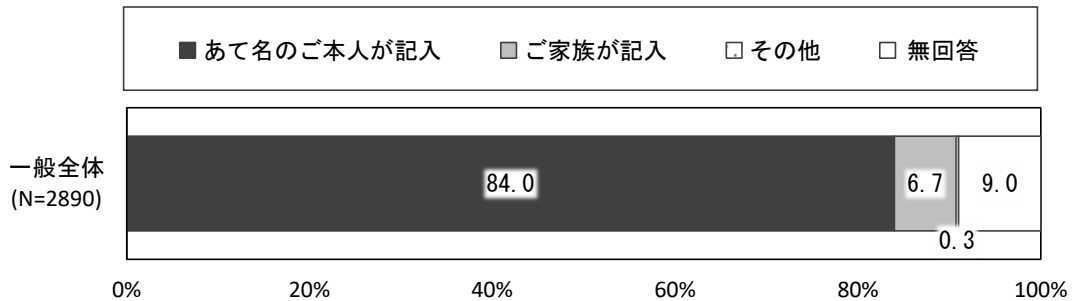
図表11 家族構成 (全体)



7 調査票の記入者

全体では「あて名のご本人が記入」の割合が84.0%と最も高くなっている。次いで「ご家族が記入（6.7%）」、「その他（0.3%）」となっている。

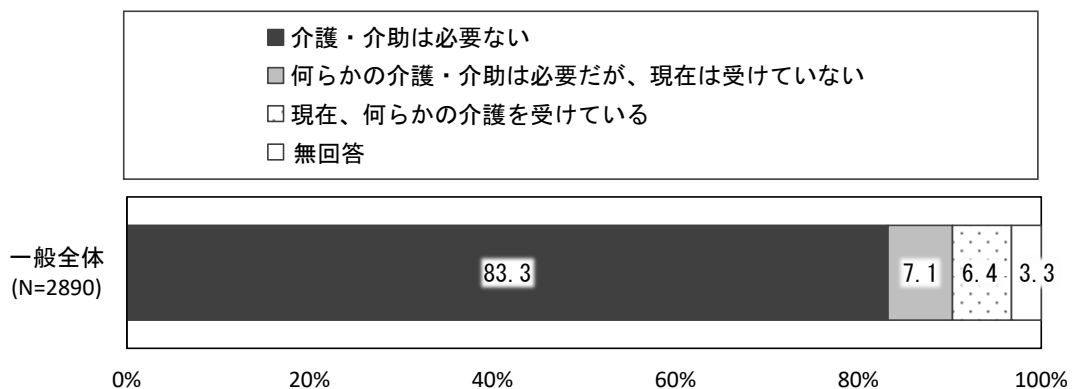
図表12 調査票の記入者（全体）



8 介護・介助の必要性

全体では「介護・介助は必要ない」の割合が83.3%と最も高くなっている。次いで「何らかの介護・介助が必要だが、現在は受けていない（7.1%）」、「現在、何らかの介護を受けている（6.4%）」となっている。

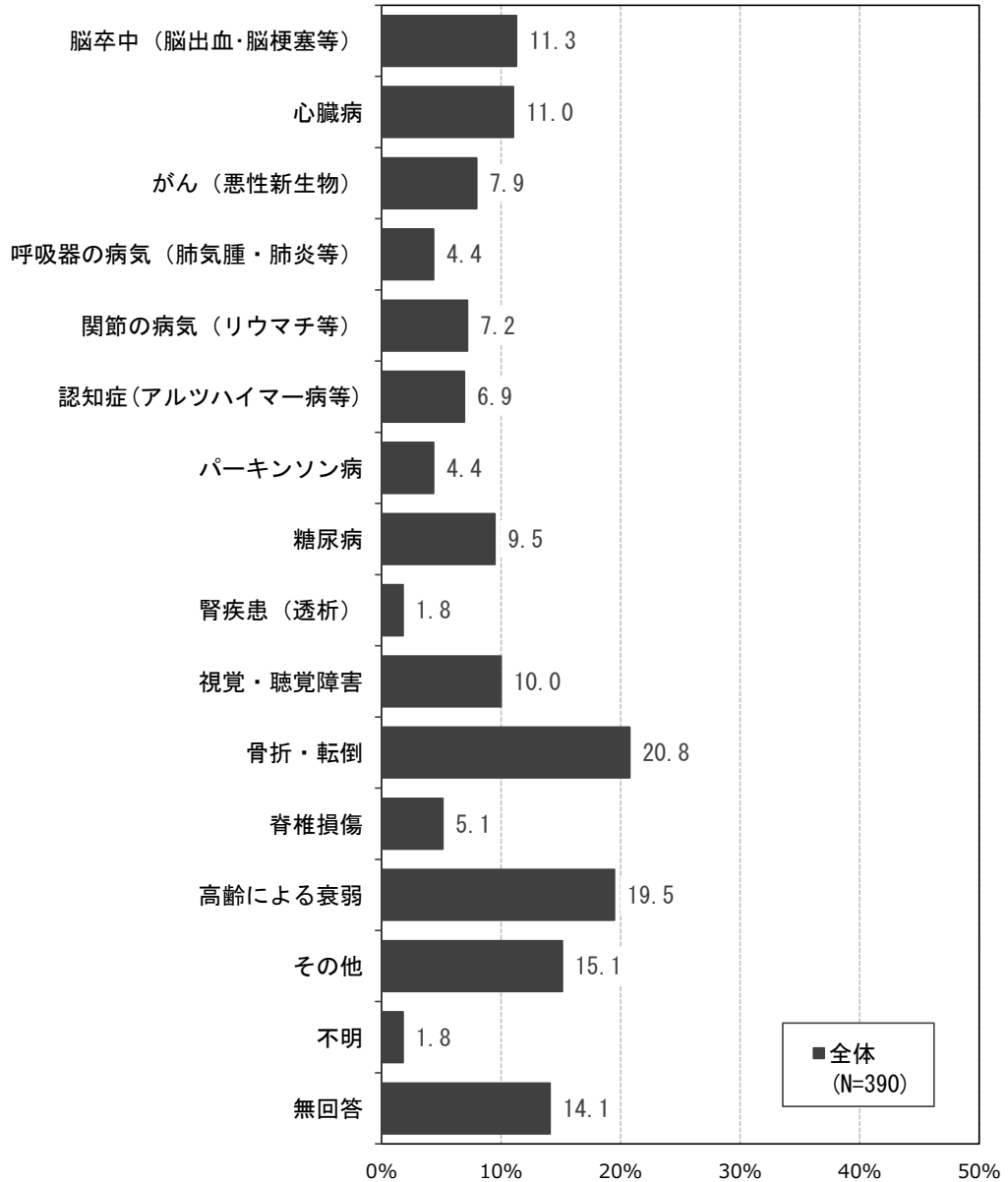
図表13 介護・介助の必要性（全体）



9 介護・介助が必要になった主な原因

全体では「骨折・転倒」の割合が20.8%と最も高くなっている。次いで「高齢による衰弱(19.5%)」、「その他(15.1%)」となっている。

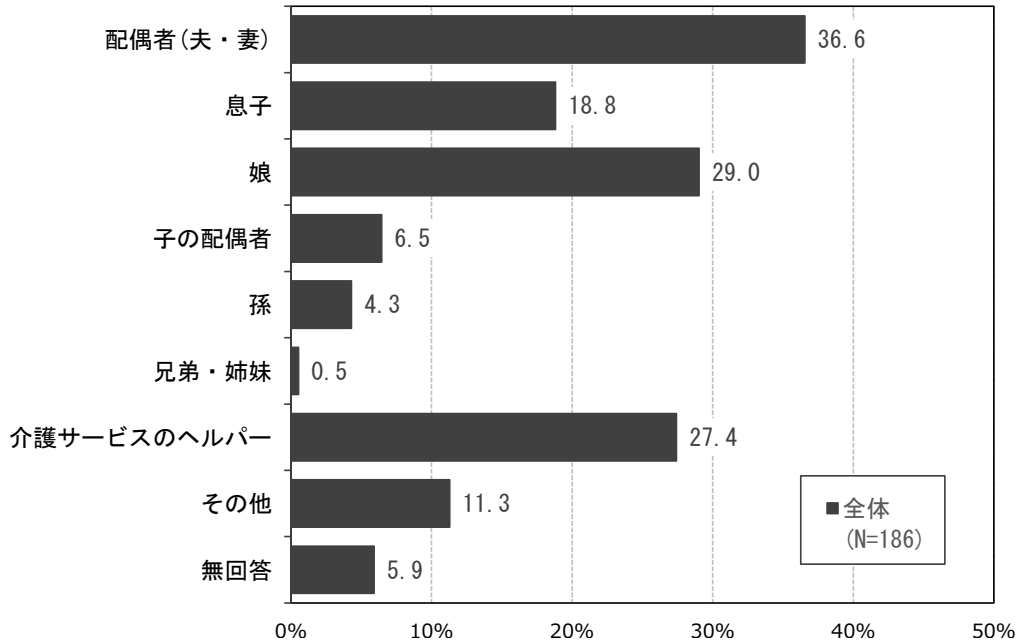
図表14 介護・介助が必要になった主な原因（全体）（複数回答）



10 主な介護者

全体では「配偶者(夫・妻)」の割合が36.6%と最も高くなっている。次いで「娘(29.0%)」、「介護サービスのヘルパー(27.4%)」となっている。

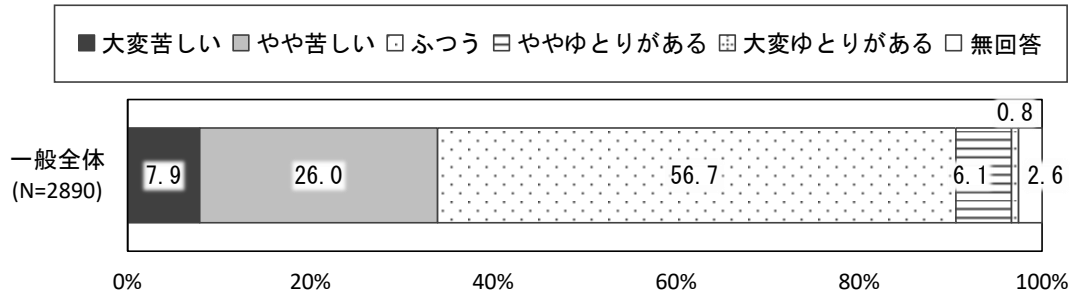
図表15 主な介護者(全体)(複数回答)



11 経済的な状況

全体では「ふつう」の割合が56.7%と最も高くなっている。次いで「やや苦しい(26.0%)」、「大変苦しい(7.9%)」となっている。

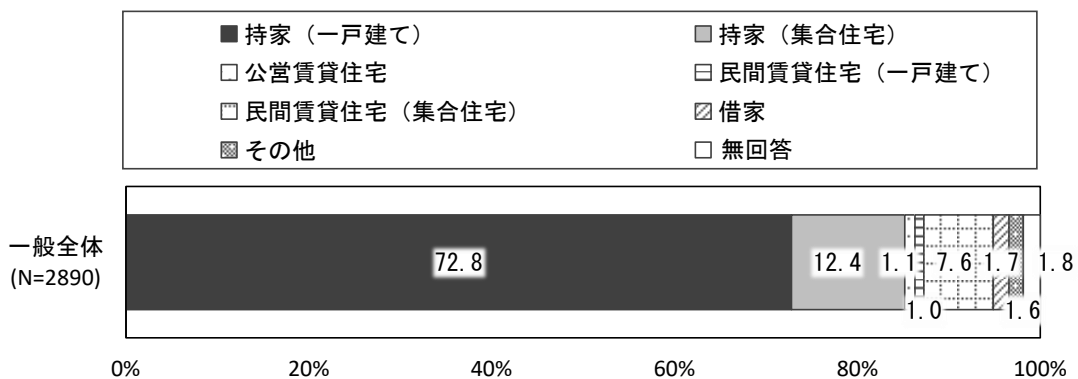
図表16 経済的な状況(全体)



12 住まい

全体では「持家(一戸建て)」の割合が72.8%と最も高くなっている。次いで「持家(集合住宅)(12.4%)」、「民間賃貸住宅(集合住宅)(7.6%)」となっている。

図表17 住まい(全体)



第3章 からだを動かすことについて

1 運動器の機能低下者

(1) リスク判定方法

下記の5つの設問のうち、3問以上該当する選択肢(表の網掛け箇所)が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者と判定される。

問2	設問内容	選択肢
(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(3)	15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(2) リスク者の状況

運動器の機能低下者の割合は15.6%となっている。

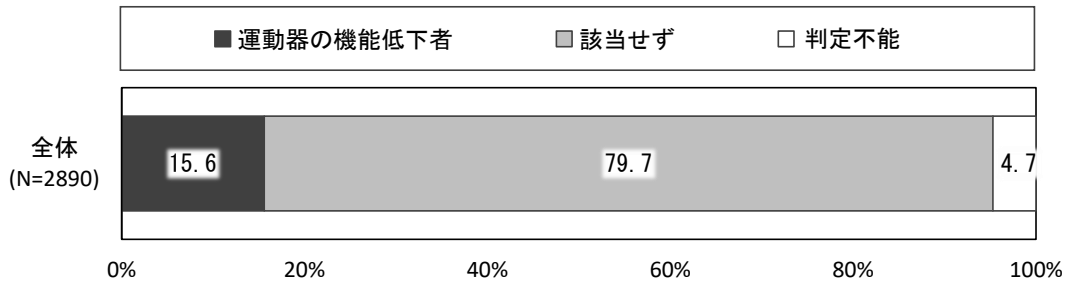
コミュニティ区域別では、二日市東地区が最もリスクありの割合が高く、17.6%となっており、最もリスク者の割合が低い山家地区(10.6%)と比較して7ポイントの差がある。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢階層が高くなるにしたがってリスク者の割合も高くなる傾向にあるが、男性全体(12.1%)と比較して女性全体(18.5%)の方がリスク者の割合が6.4ポイント高くなっている。

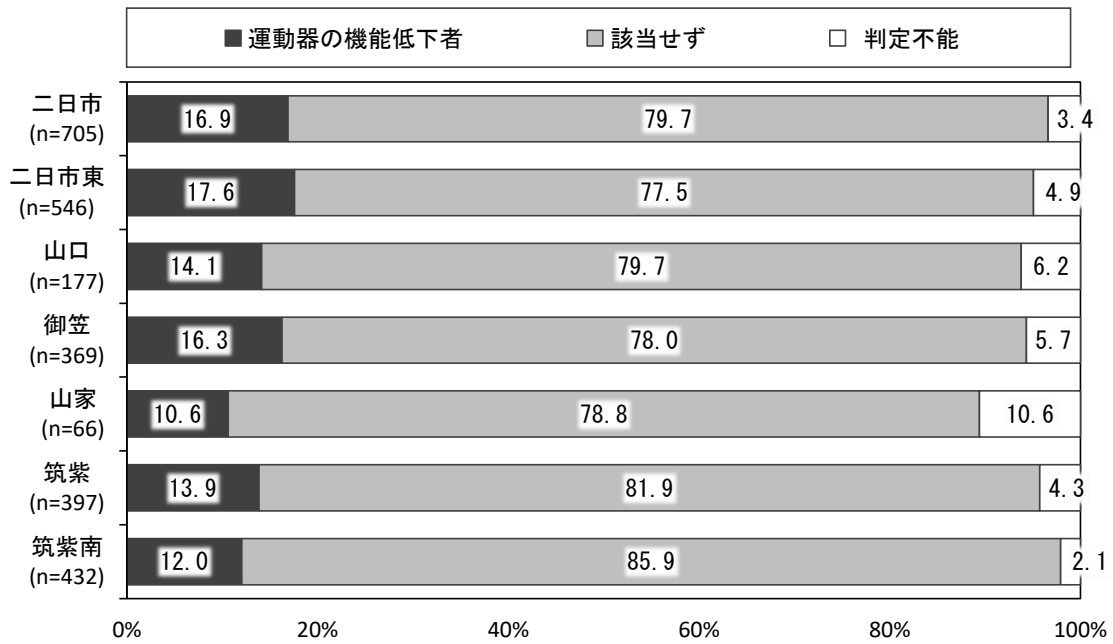
また、要介護状態によってリスク者の割合は大きく異なり、一般高齢者が11.3%であるのに対し、要支援1では65.4%、要支援2では73.1%がリスクありとなっている。

家族構成別では、「息子・娘との2世帯」でリスク者の割合が22.9%と最も高く、次いで、「1人暮らし」(20.4%)、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(12.5%)となった。

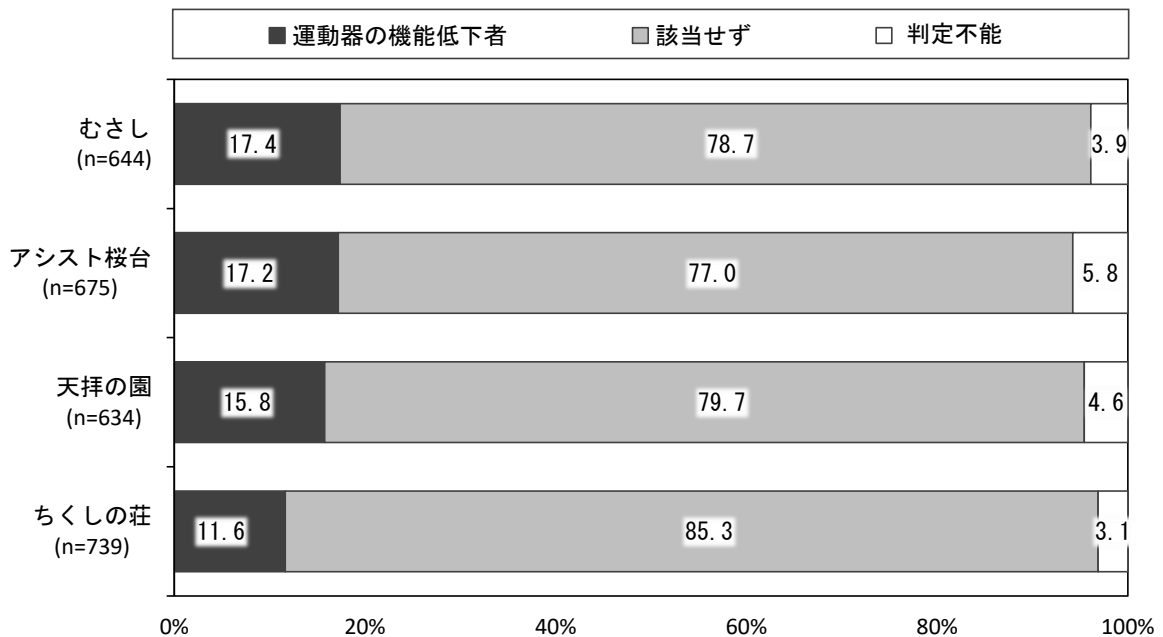
図表18 運動器の機能低下者（全体）



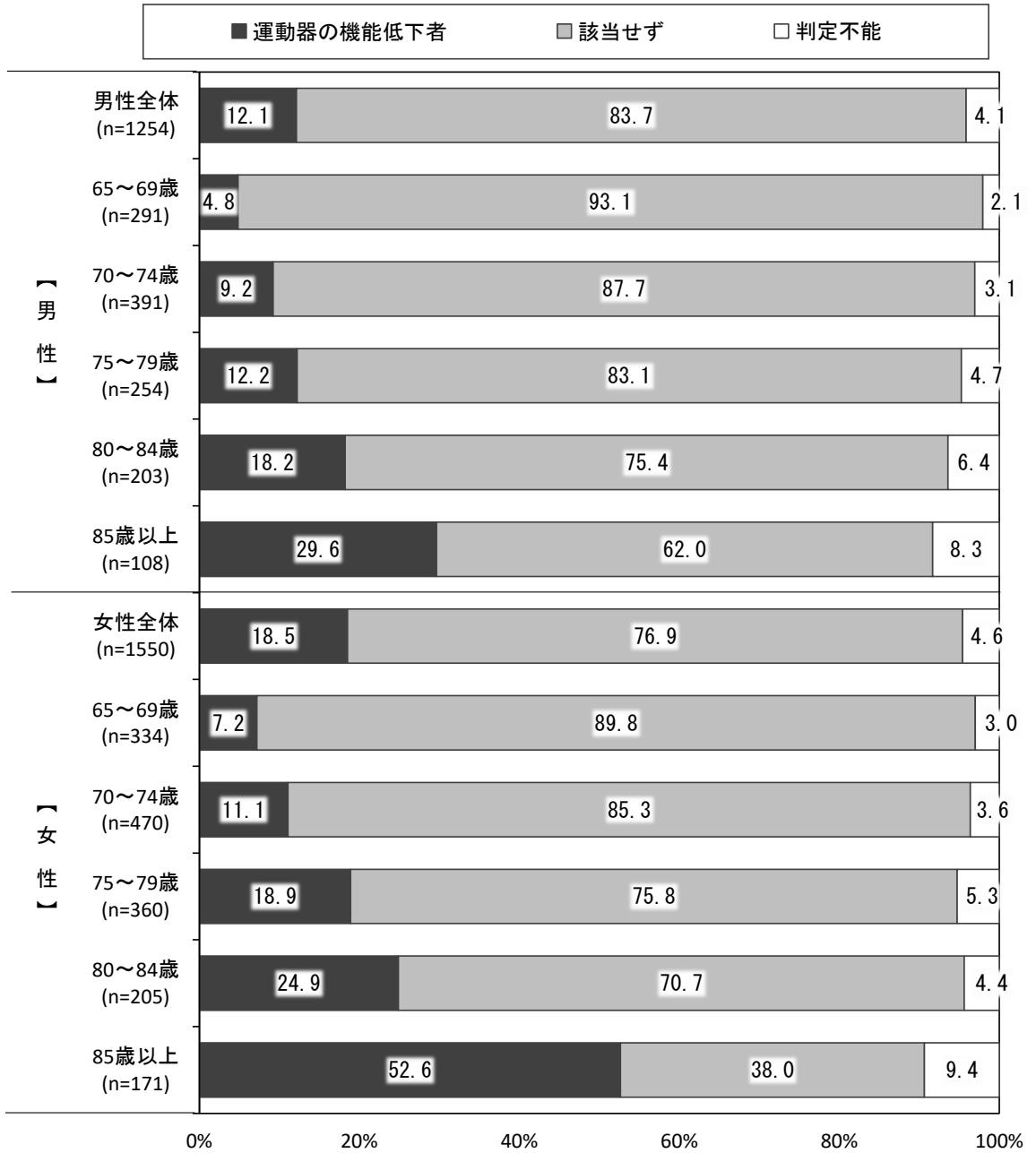
図表19 運動器の機能低下者（コミュニティ区域別）



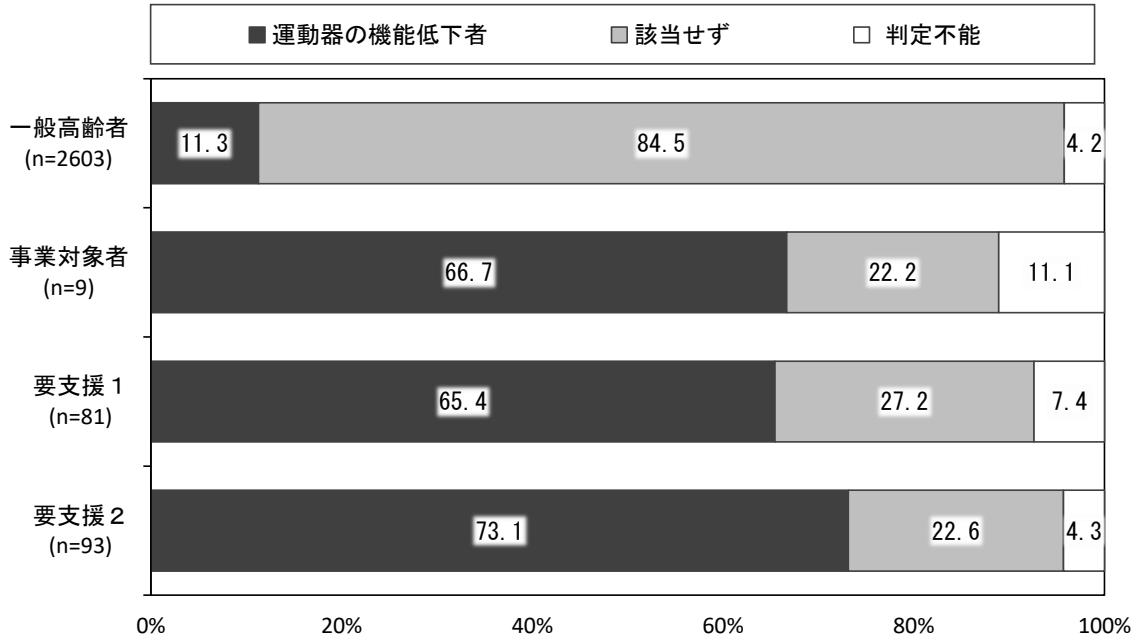
図表20 運動器の機能低下者（包括区分別）



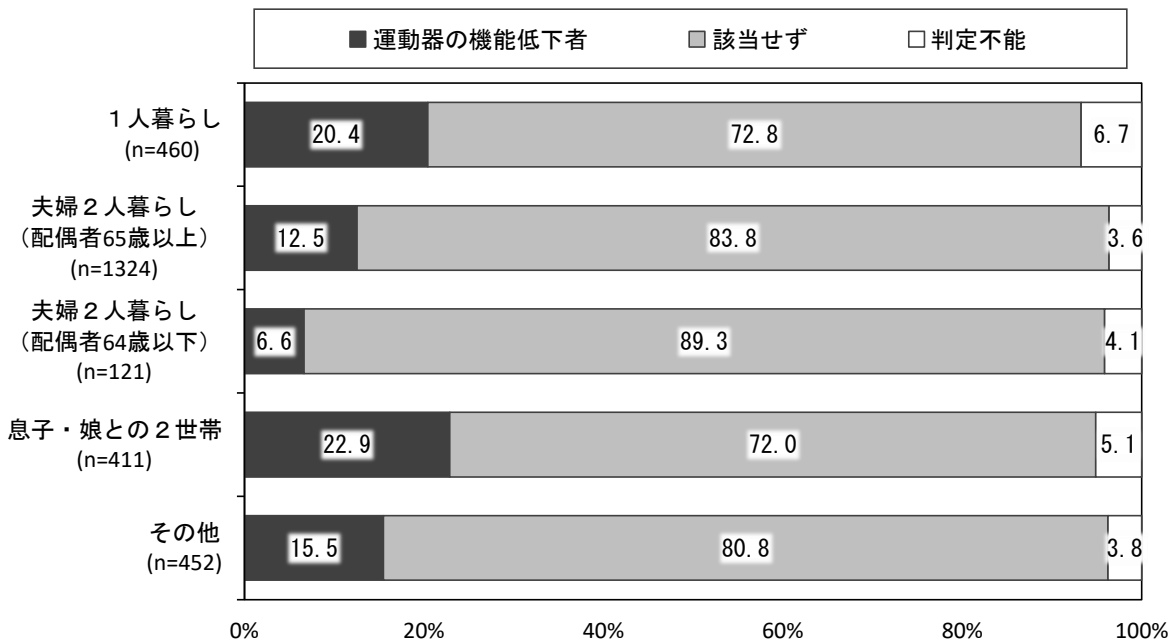
図表21 運動器の機能低下者（性別・年齢別）



図表22 運動器の機能低下者（要介護度別）



図表23 運動器の機能低下者（家族構成別）



2 転倒リスク者

(1) リスク判定方法

問2の(4)で「1. 何度もある」「2. 1度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者と判断する。

問2	設問内容	選択肢
(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(2) リスク者の状況

転倒リスクについてみると、全体の32.8%が転倒リスクありとなった。

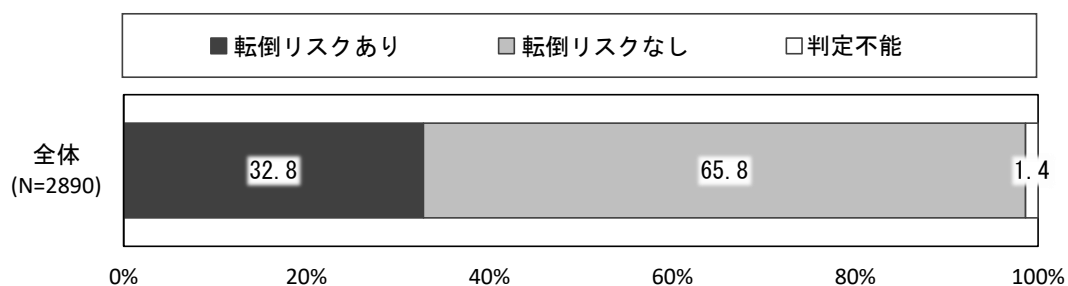
コミュニティ区域別では、山口地区が35.6%と最もリスク者の割合が高く、次いで二日市東地区(35.2%)、二日市地区(34.6%)であった。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢階層が高くなるにしたがってリスク者の割合は高くなっており、男性の85歳以上では55.6%、女性の85歳以上では52.6%がリスクありとなっている。また、男性全体(31.0%)と比較して女性全体(34.3%)の方がリスク者の割合が3.3ポイント高くなっている。

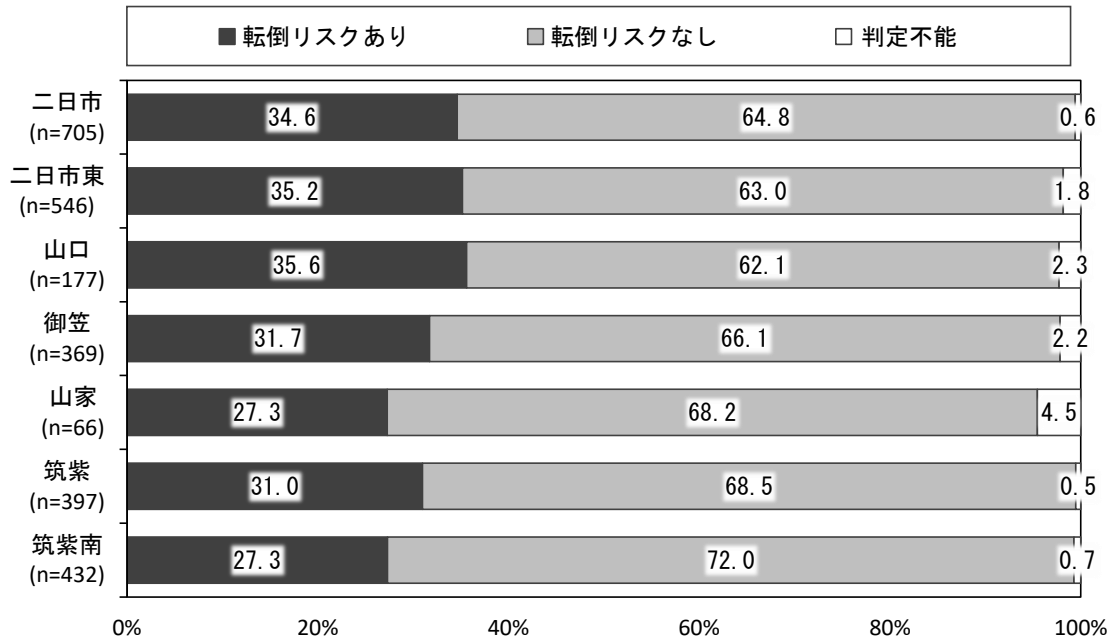
要介護度別にみると、要支援1では60.5%、要支援2では67.7%がリスク者となっており、一般高齢者(30.2%)と比較して高くなっている。

家族構成別にみると、「1人暮らし」で37.4%と最もリスク者の割合が高く、次いで、「息子・娘との2世帯」(36.5%)となっている。

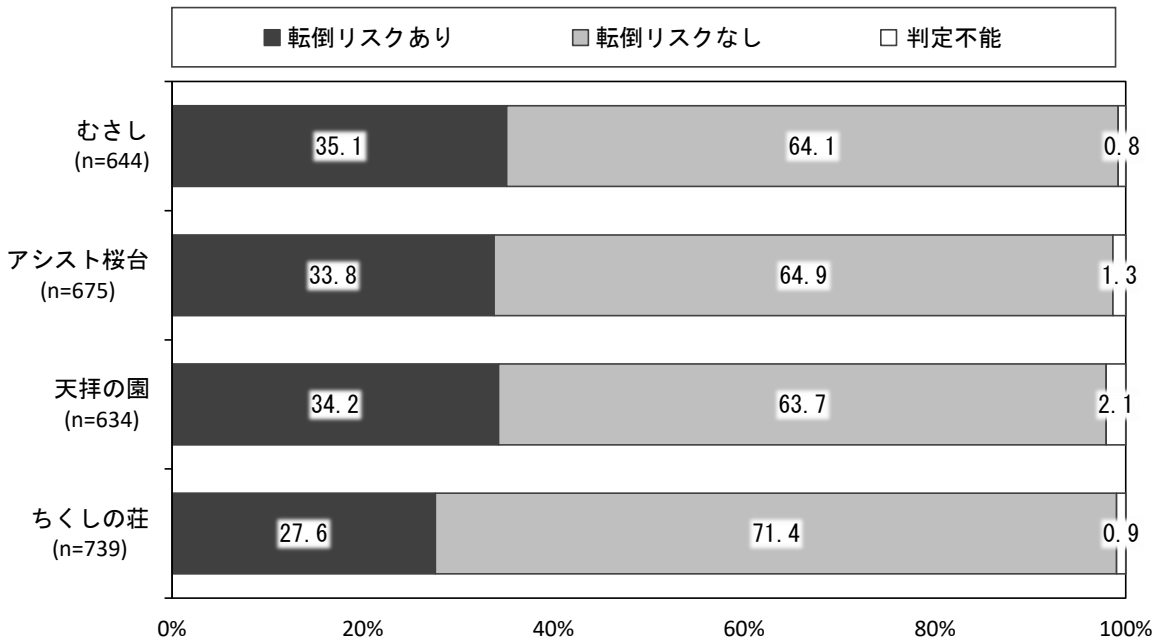
図表24 転倒リスク者（全体）



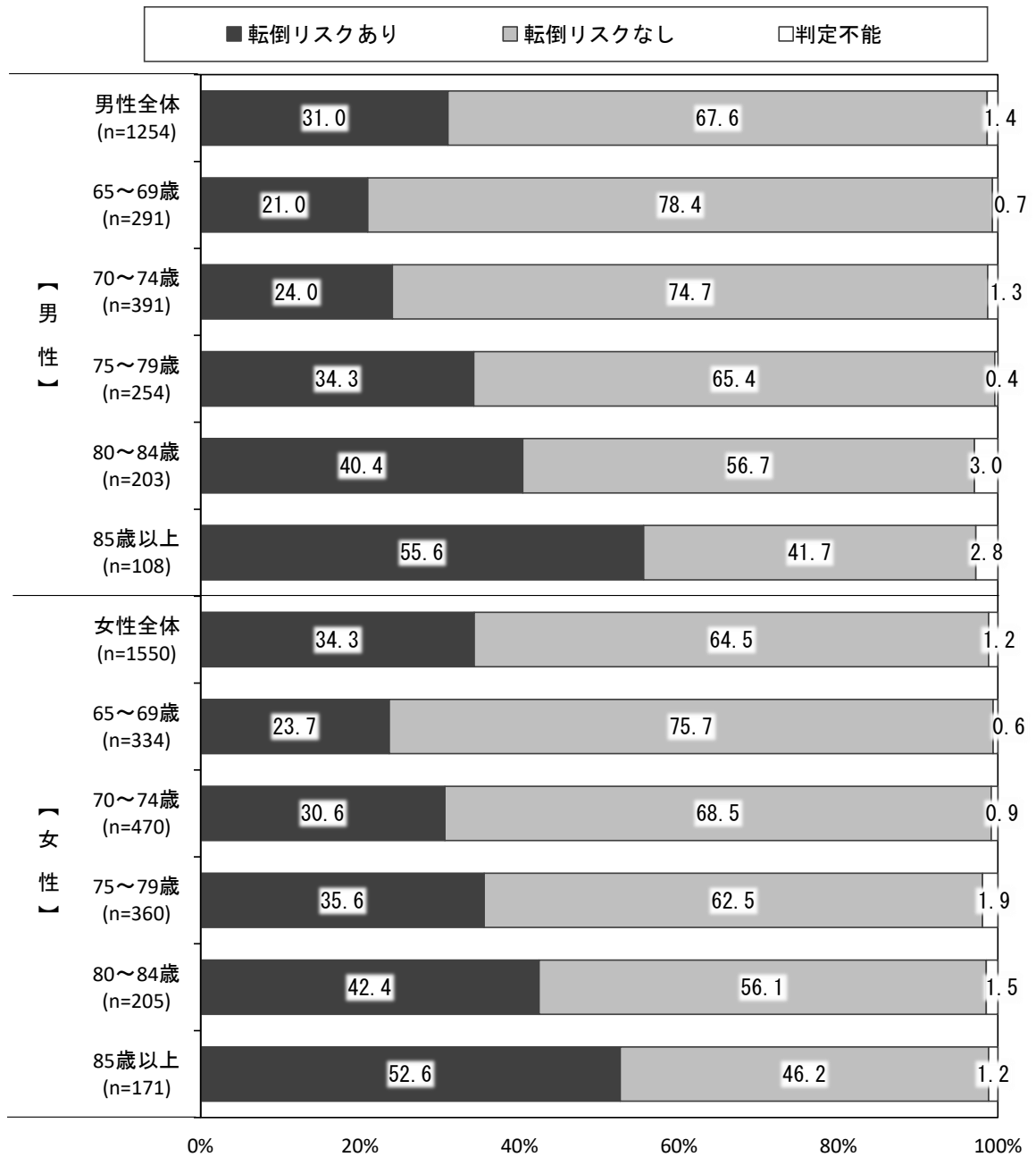
図表25 転倒リスク者（コミュニティ区域別）



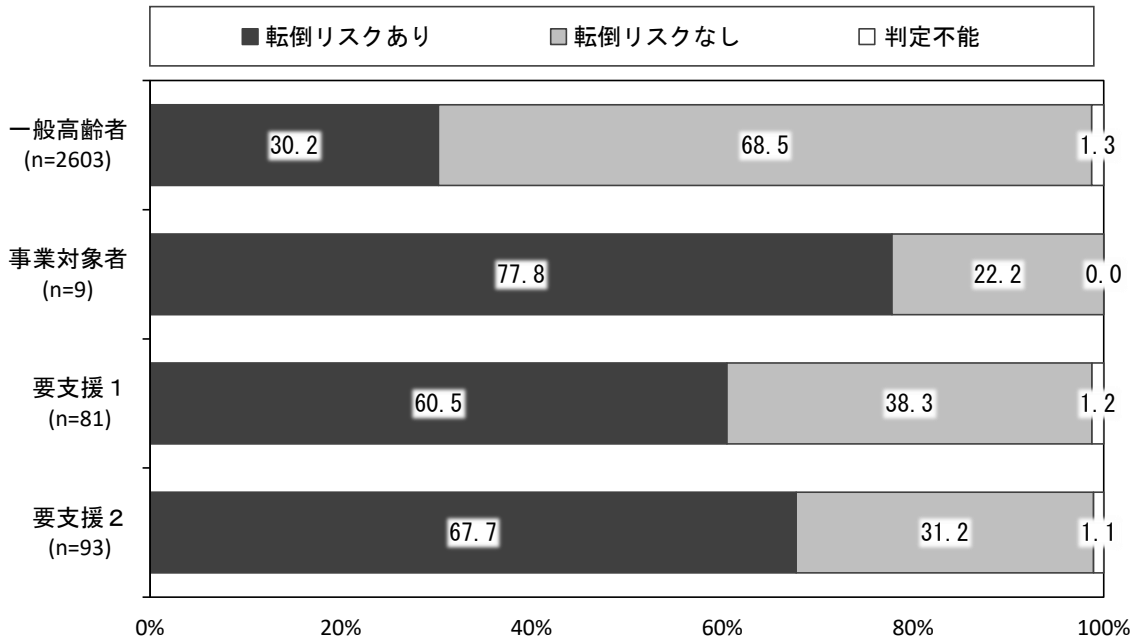
図表26 転倒リスク者（包括区分別）



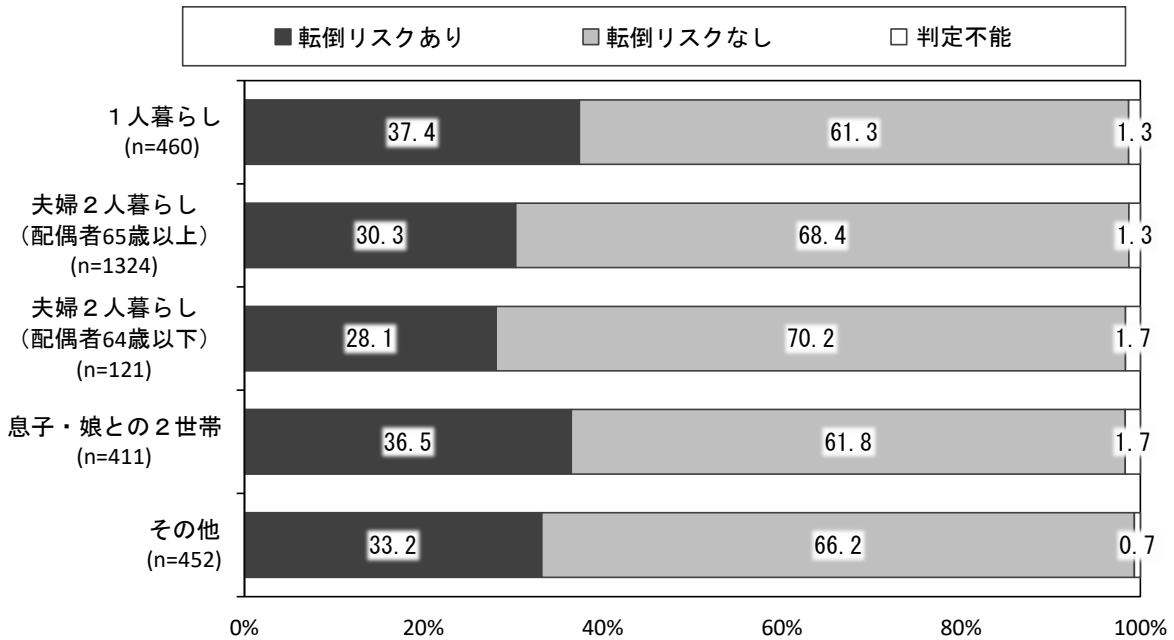
図表27 転倒リスク者（性別・年齢別）



図表28 転倒リスク者（要介護度別）



図表29 転倒リスク者（家族構成別）



3 閉じこもり傾向

(1) リスク判定方法

問2の(6)で「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者と判断する。

問2	設問内容	選択肢
(6)	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

(2) リスク者の状況

閉じこもり傾向についてみると、全体の17.7%がリスク者であった。

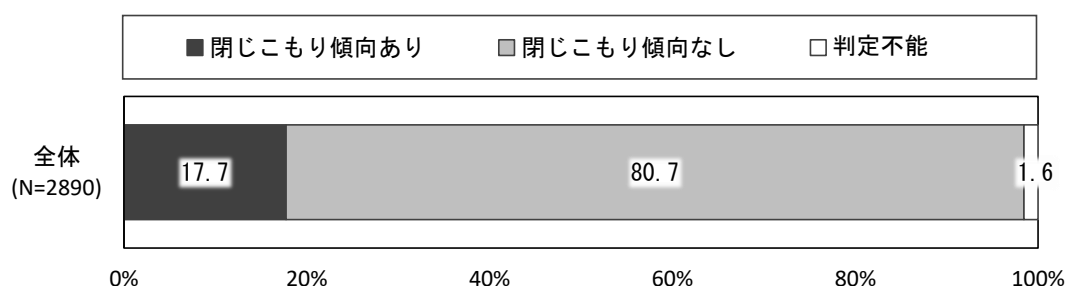
コミュニティ区域別では、御笠地区で22.0%と最もリスク者の割合が高く、次いで山家地区(21.2%)、筑紫地区(18.9%)となっている。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢階層が高くなるにしたがってリスク者の割合が高くなる傾向にあり、男女ともに85歳以上で特にその傾向が顕著である。また、女性全体のリスク者は19.9%と、男性全体(15.2%)と比較して4.7ポイント高い。

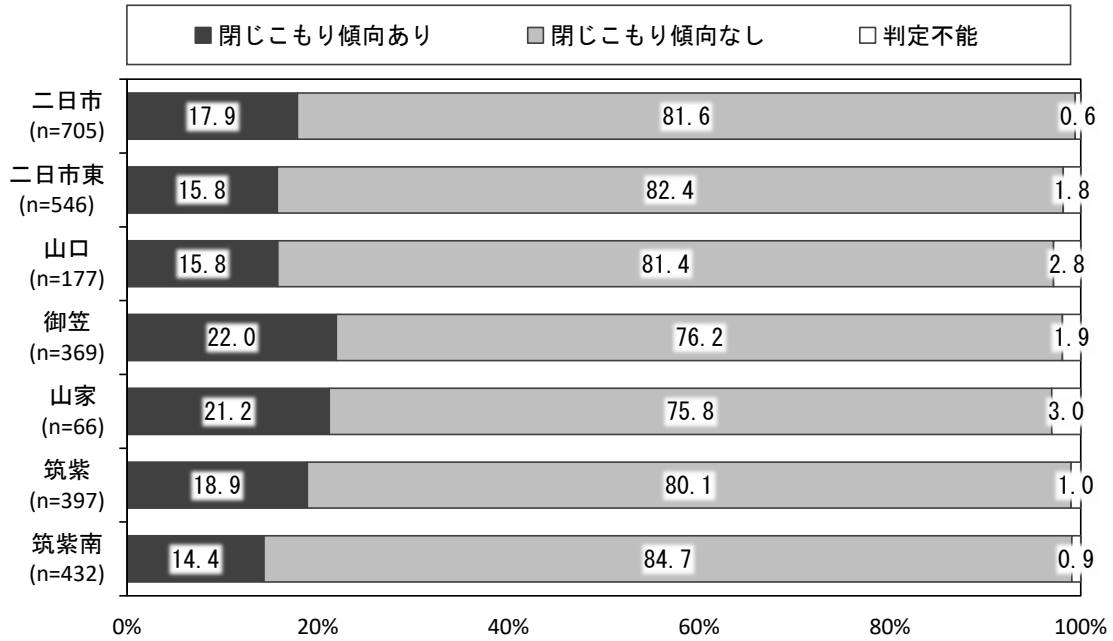
要介護度別にみると、要支援1で50.6%、要支援2で45.2%がリスク者となっており、一般高齢者(15.3%)を大きく上回っている。

家族構成別では、「息子・娘との2世帯」で22.1%と最もリスク者の割合が高く、次いで「1人暮らし」(20.0%)となっている。

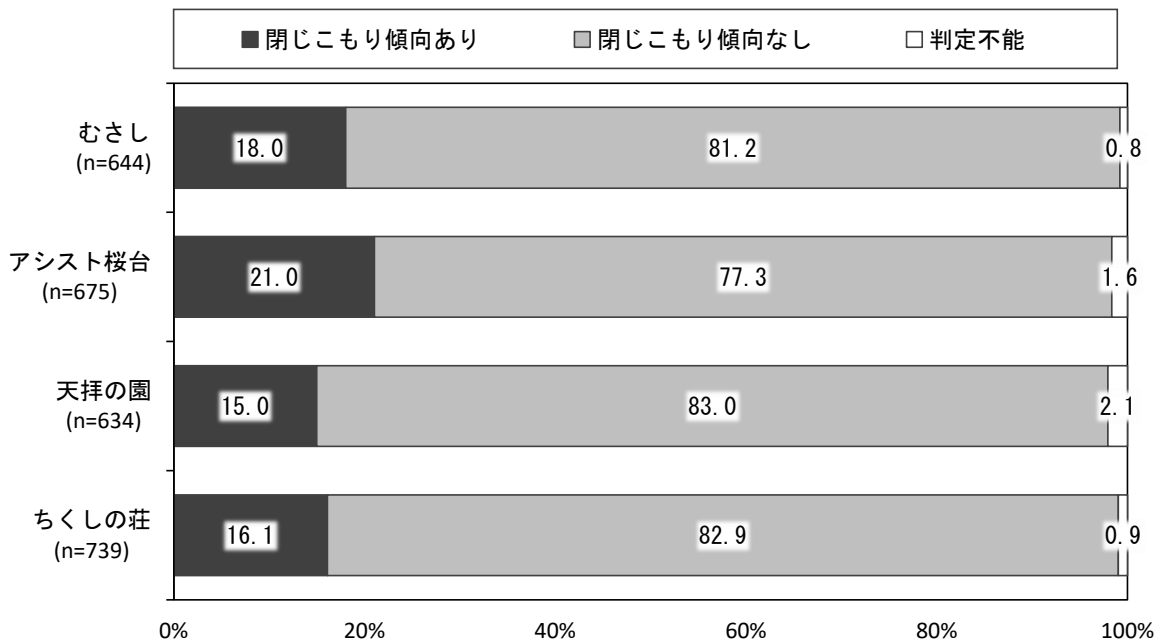
図表30 閉じこもりリスク者（全体）



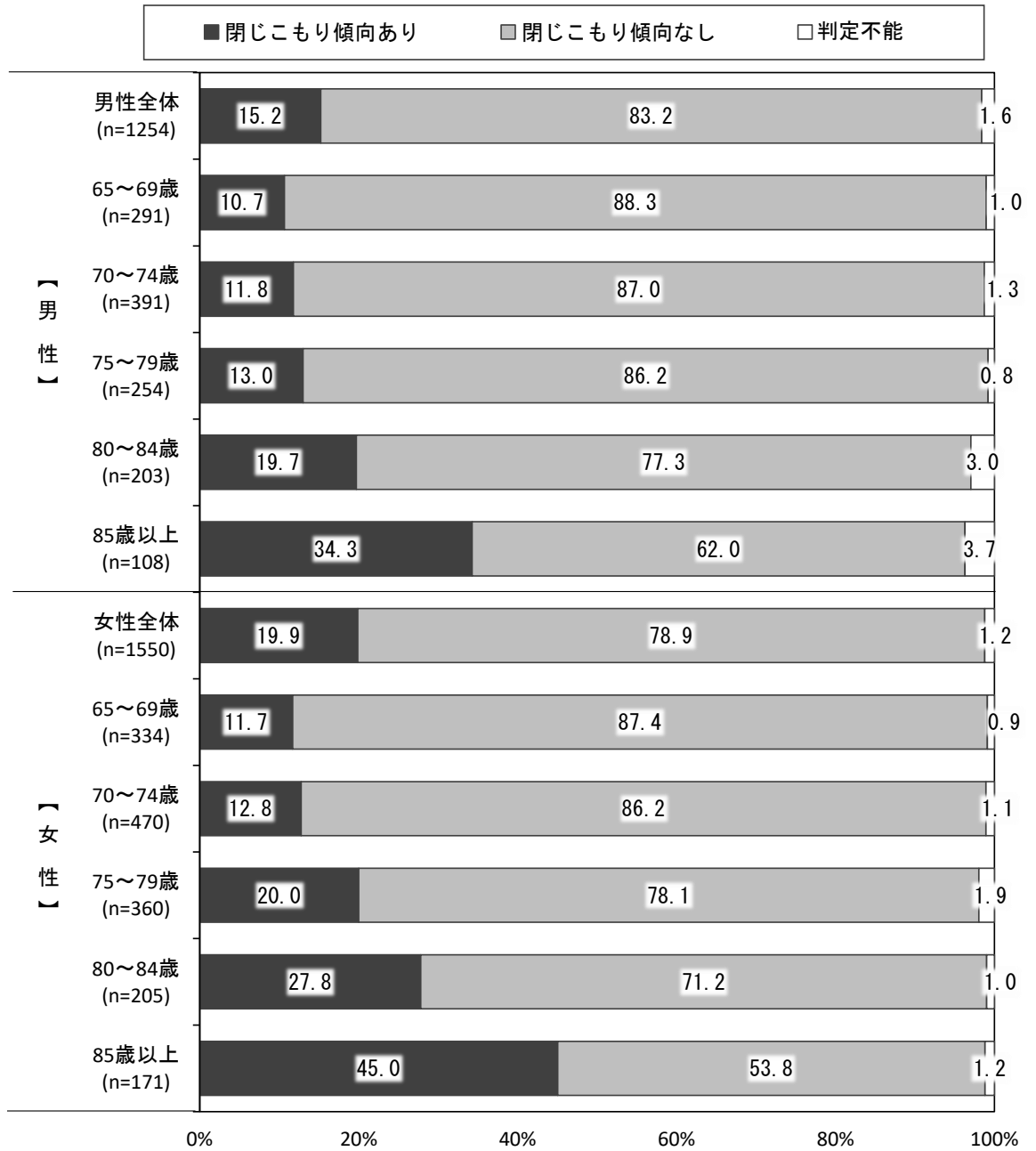
図表31 閉じこもりリスク者（コミュニティ区域別）



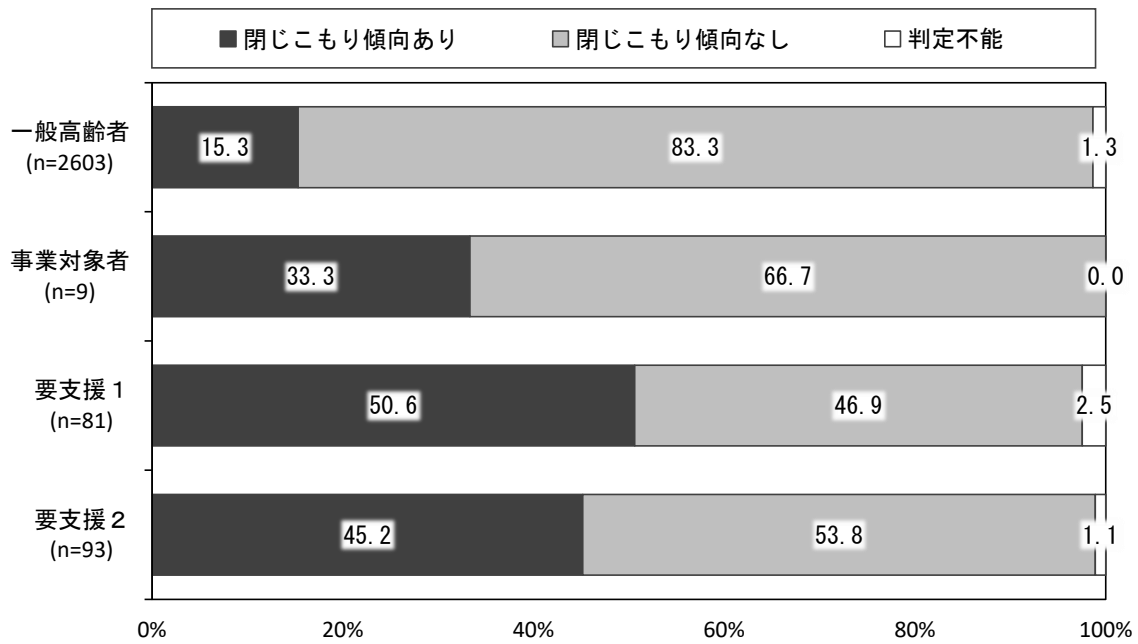
図表32 閉じこもりリスク者（包括区分別）



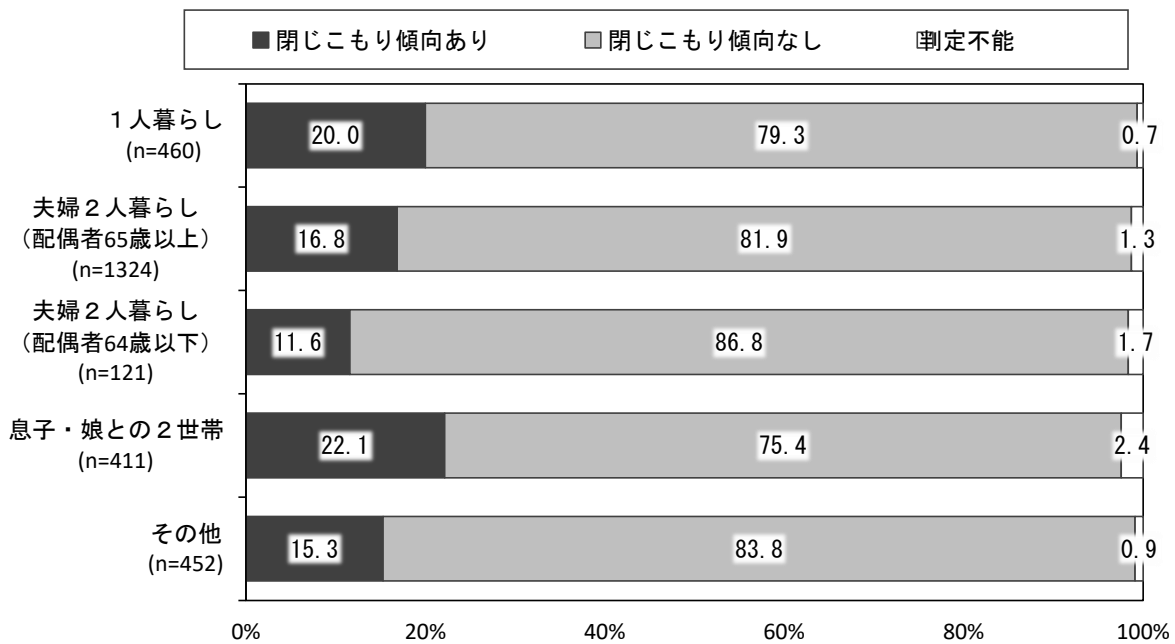
図表33 閉じこもりリスク者（性別・年齢別）



図表34 閉じこもりリスク者（要介護度別）



図表35 閉じこもりリスク者（家族構成別）

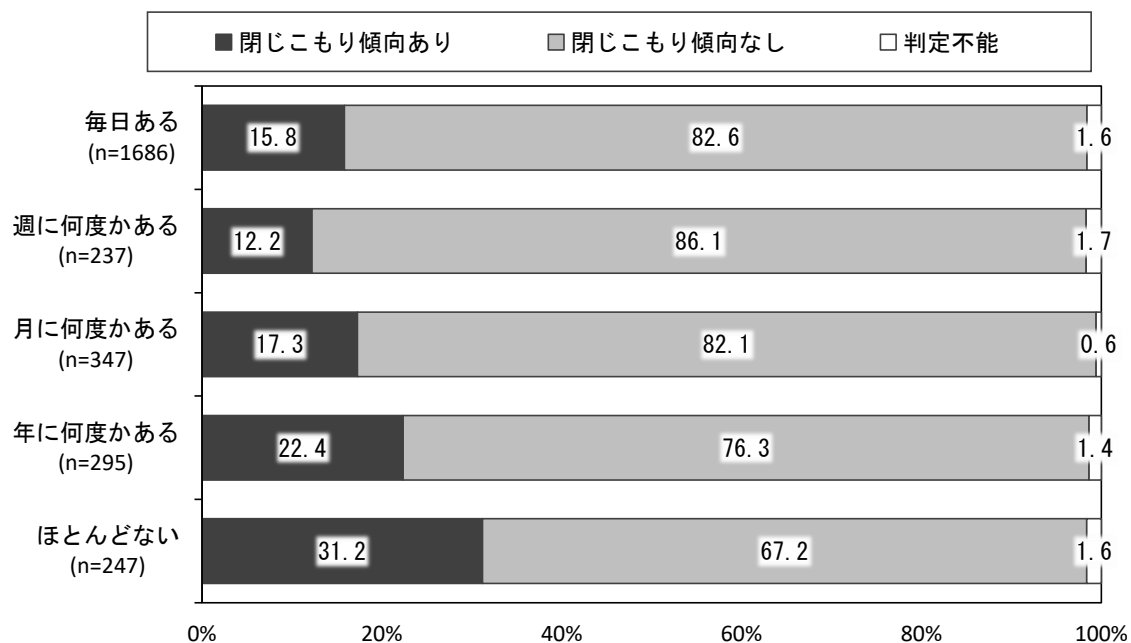


(3) 閉じこもりと孤食の関係

閉じこもり傾向と孤食の関係をみると、閉じこもり傾向にある人の割合は、誰かと食事をともにする機会が「毎日ある」と回答した人で 15.8%であった。一方、「ほとんどない」と回答した人では 31.2%が閉じこもり傾向ありとなっている。

問3	設問内容
(8)	どなたかと食事をともにする機会がありますか

図表36 閉じこもりと孤食の関係



4 各リスクと他設問との関係

(1) 転倒に対する不安

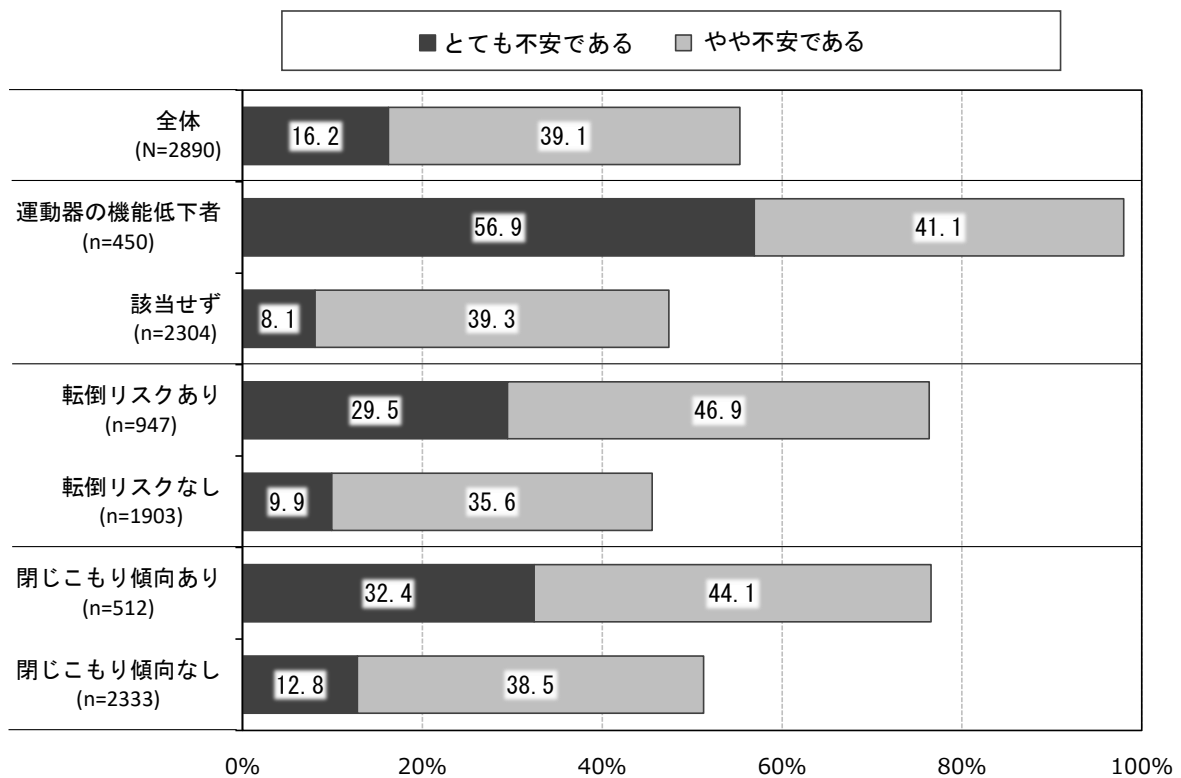
運動器の機能低下者の98.0%が転倒に対して不安を感じているが、これは運動器の機能低下の判定基準に転倒に対する不安についての設問があることに関係する。

一方、転倒リスク者の76.4%が転倒に対する不安を感じているが、これは過去1年間に転倒した経験がある場合は転倒リスク者と判定されることに原因があると考えられる。

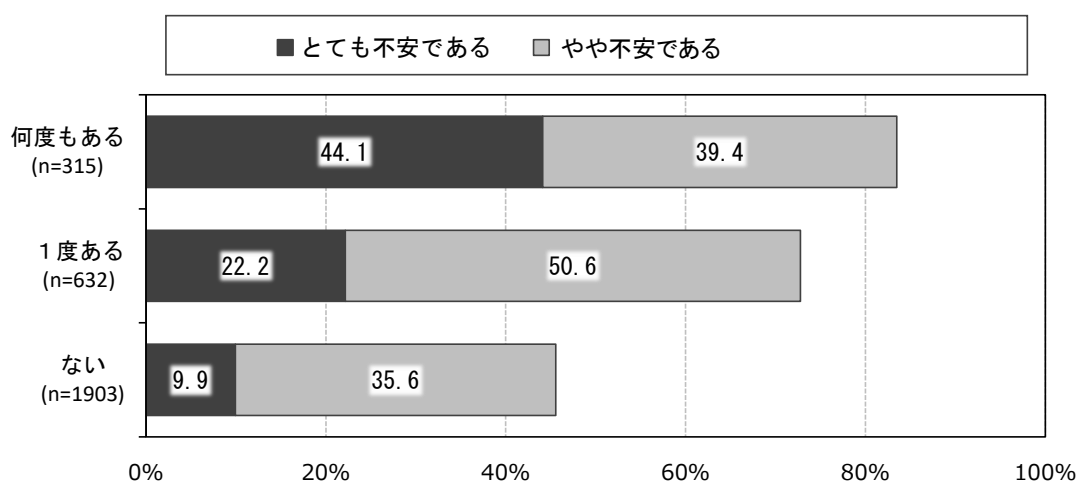
また、何度も転倒した経験があると回答した高齢者に限ると、83.5%が転倒に対して「とても不安」「やや不安」と回答している（図表38）。

問2	設問内容	選択肢
(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

図表37 各リスクと転倒に対する不安の関係



図表38 転倒経験と転倒に対する不安の関係

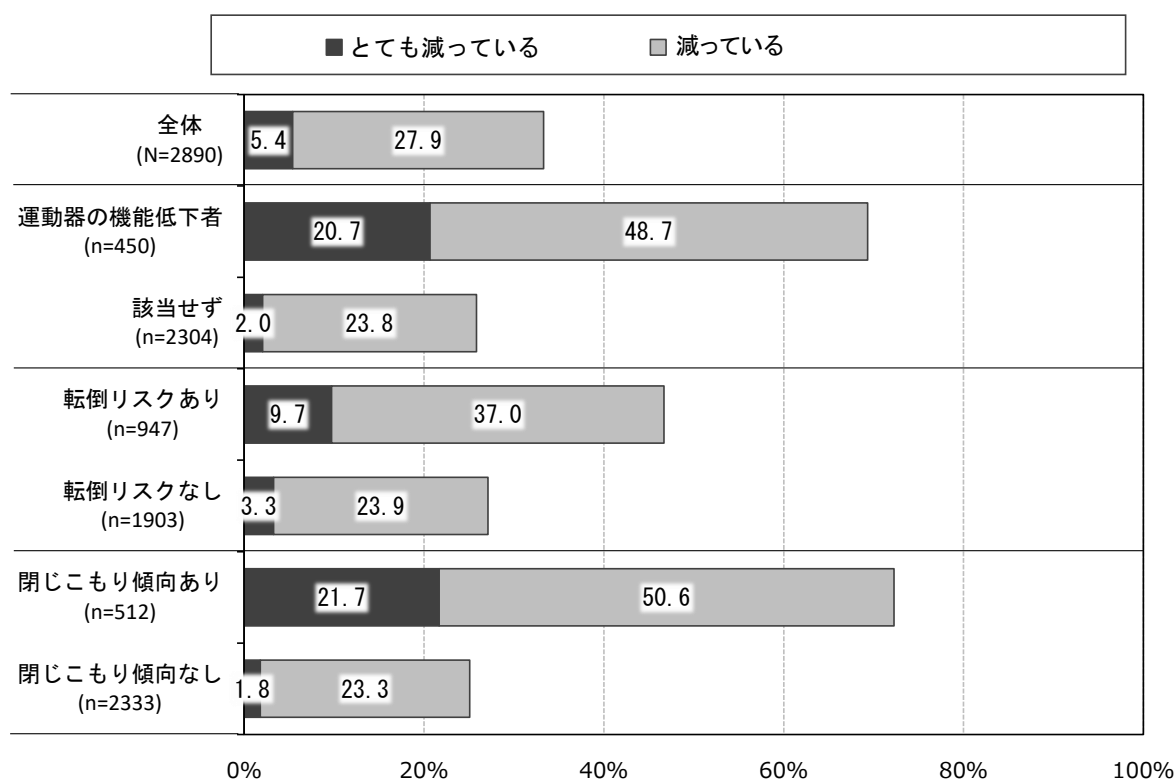


(2) 外出回数の減少

外出機会の減少を問う設問と運動機能、転倒、閉じこもりの各リスクとの関係を見ると、運動器の機能低下者では 69.4%、転倒リスク者では 46.7%、閉じこもり傾向者では 72.3% が昨年と比べて外出の回数が減っていると回答している。

問2	設問内容	選択肢
(7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか。	1. とても減っている 2. 減っている 3. あまり減っていない 4. 減っていない

図表39 各リスクと外出回数減少の関係

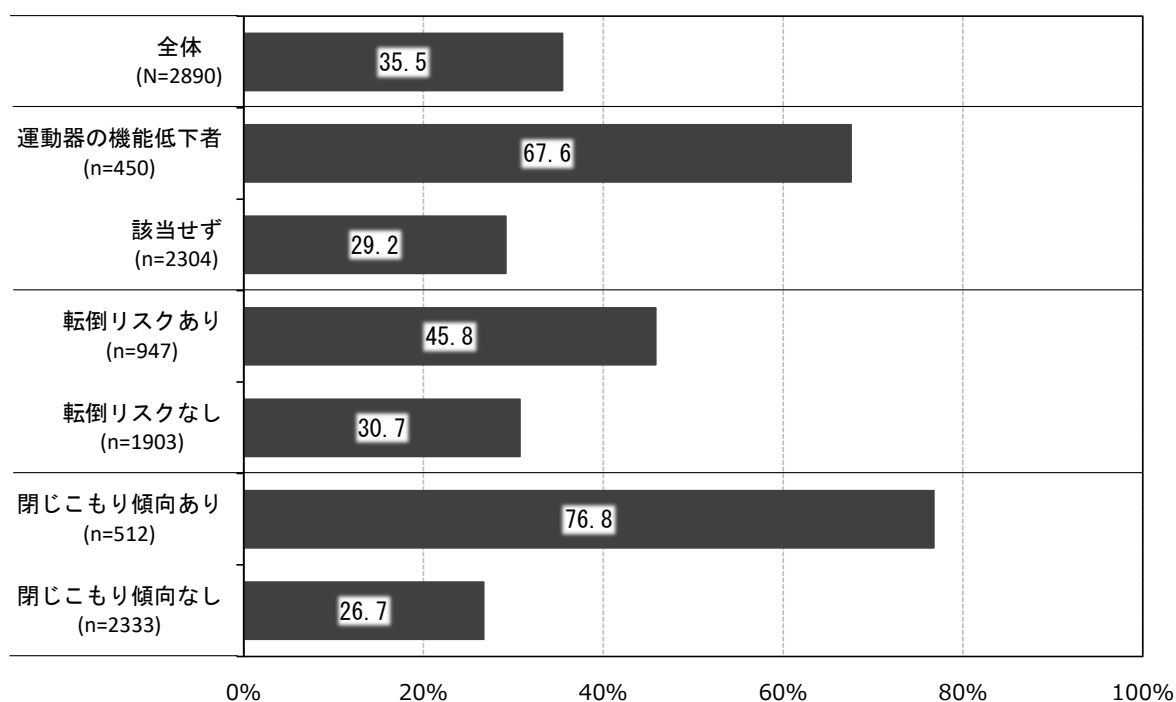


(3) 外出を控えている

外出を控えているかを問う設問と運動機能、転倒、閉じこもりの各リスクとの関係を見ると、運動器の機能低下者では67.6%、転倒リスク者では45.8%、閉じこもり傾向者では76.8%が外出を控えていると回答している。

問 2	設問内容	選択肢
(8)	外出を控えていますか	1. はい 2. いいえ

図表40 各リスクと外出を控えているかの関係



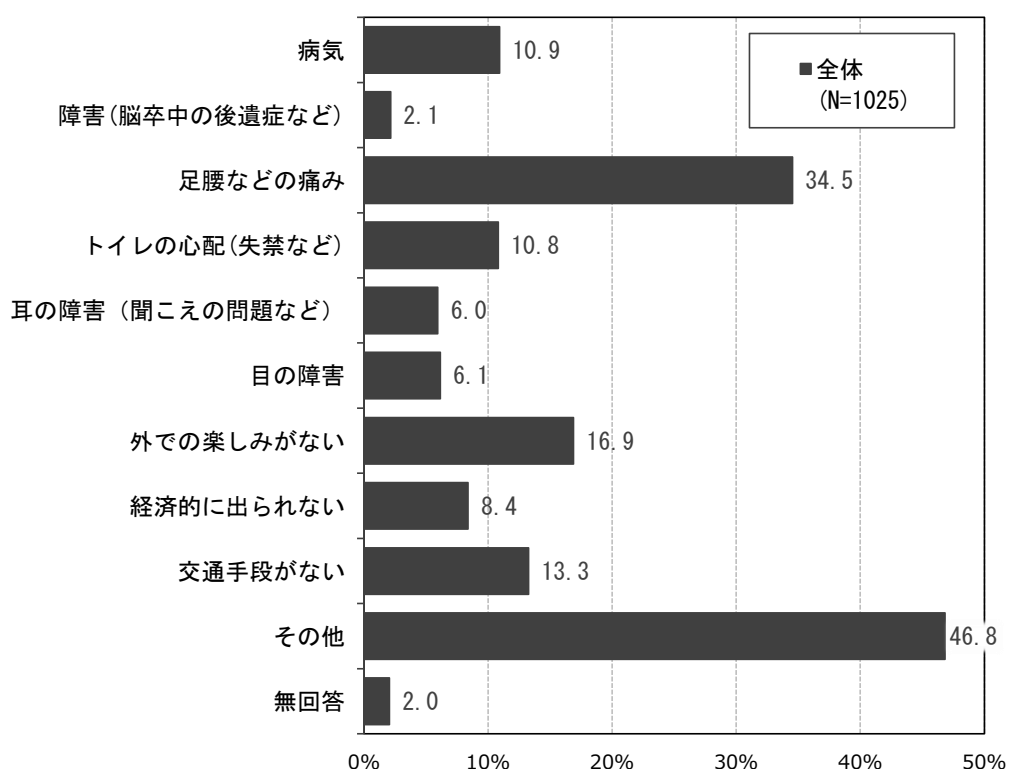
5 その他の体を動かすことに関する設問

問2の(8)で外出を控えていると回答した人にその理由について尋ねたところ、「足腰などの痛み」と回答した人の割合が最も高く、34.5%であった。次いで、「外での楽しみがない」(16.9%)、「交通手段がない」(13.3%)となった。

また、「その他」と回答した480人(46.8%)の自由回答をみると、回答者の82.5%にあたる396人が新型コロナウイルス感染症による外出自粛等の影響であると回答した。

問2	設問内容
(8) ①	【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

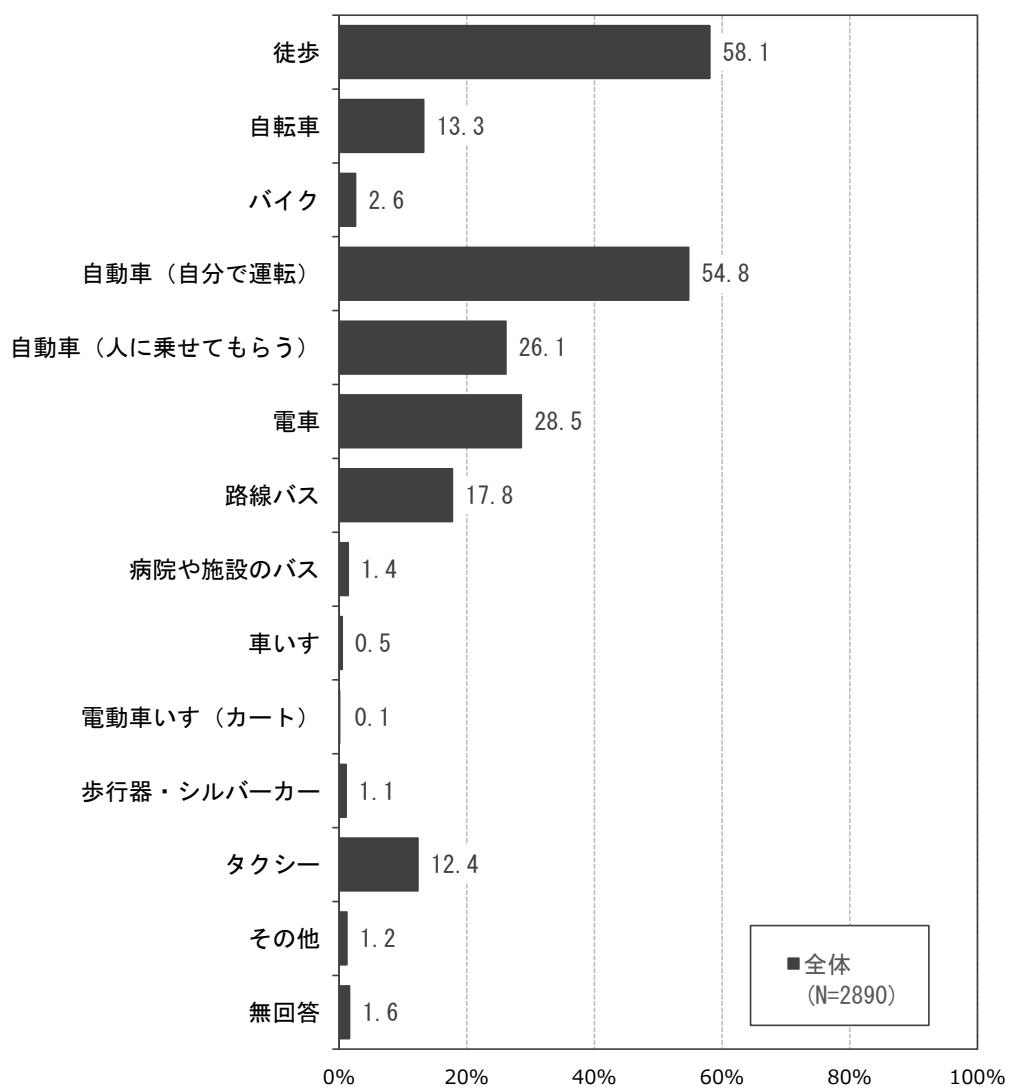
図表41 外出を控えている理由



外出の際の移動手段について尋ねたところ、最も回答者の割合が高かったのは「徒歩」で、58.1%であった。次いで、「自動車（自分で運転）」(54.8%)、「電車」(28.5%)となった。

問2	設問内容
(9)	外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも)

図表42 外出の際の移動手段



第4章 食べることについて

1 低栄養リスク者

(1) リスク判定方法

身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷ {身長（m）×身長（m）}）が18.5以下の場合、低栄養が疑われる高齢者となる。

低栄養状態を確認する場合は国が示す必須項目（身長・体重を問う設問）のみでは不十分であるため、本市では、別途示されたオプション項目（7）を追加して調査した。

（1）、（7）両設問ともに該当した場合は、低栄養状態にある高齢者と判定される。

問3	設問内容	選択肢
(1)	身長・体重	() cm () kg →BMIが18.5以下
(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい 2. いいえ

(2) リスク者の状況

低栄養リスクについてみると、リスク者の割合は全体の1.9%と、他のリスク状況と比較して低い傾向にある。

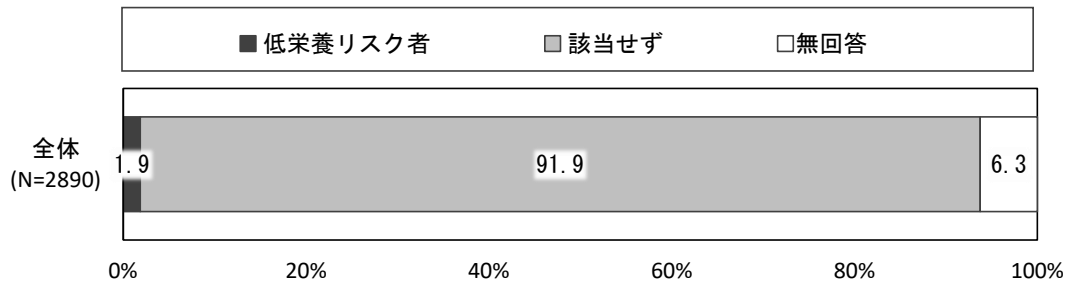
コミュニティ区域別では、御笠地区（3.3%）と山口地区（2.8%）でリスク者の割合が高くなっている。

性別・年齢別にみると、女性全体のリスク者の割合が2.1%となっており、男性全体（1.7%）と比較して高くなっている。また、男女ともに年齢階層が高くなるに従って判定不能の割合が高くなる傾向がみられ、判定不能者の中に潜在的なリスク者が含まれている可能性も考えられる。

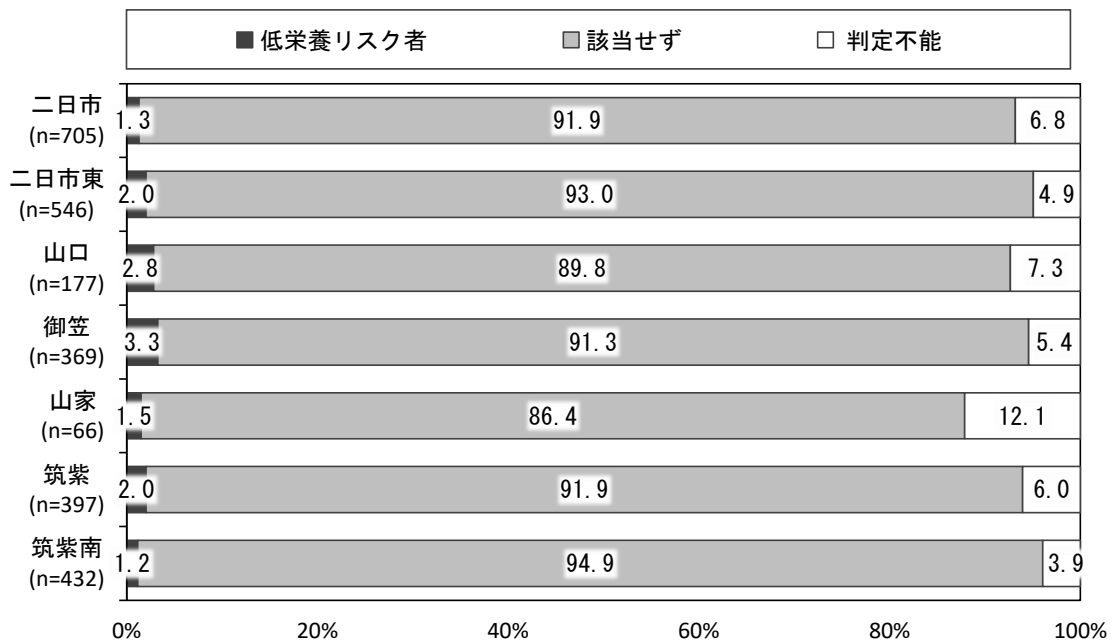
要介護度別にみると、要支援1で3.7%、要支援2で4.3%となっており、一般高齢者（1.7%）と比較して高くなっている。加えて、要支援1、要支援2ともに一般高齢者と比較して判定不能の割合が高くなっていることから、判定不能者の中に潜在的なリスク者が含まれている可能性も考えられる。

家族構成別では、「息子・娘との2世帯」で2.7%と最もリスク者の割合が高く、次いで「1人暮らし」（2.4%）となっている。

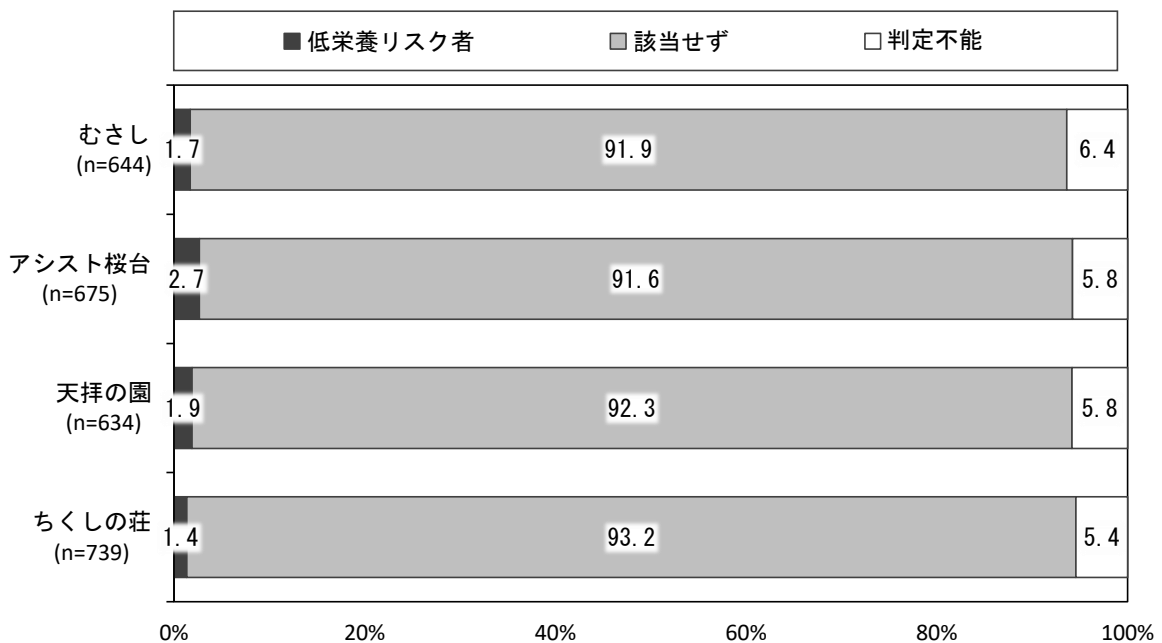
図表43 低栄養リスク者（全体）



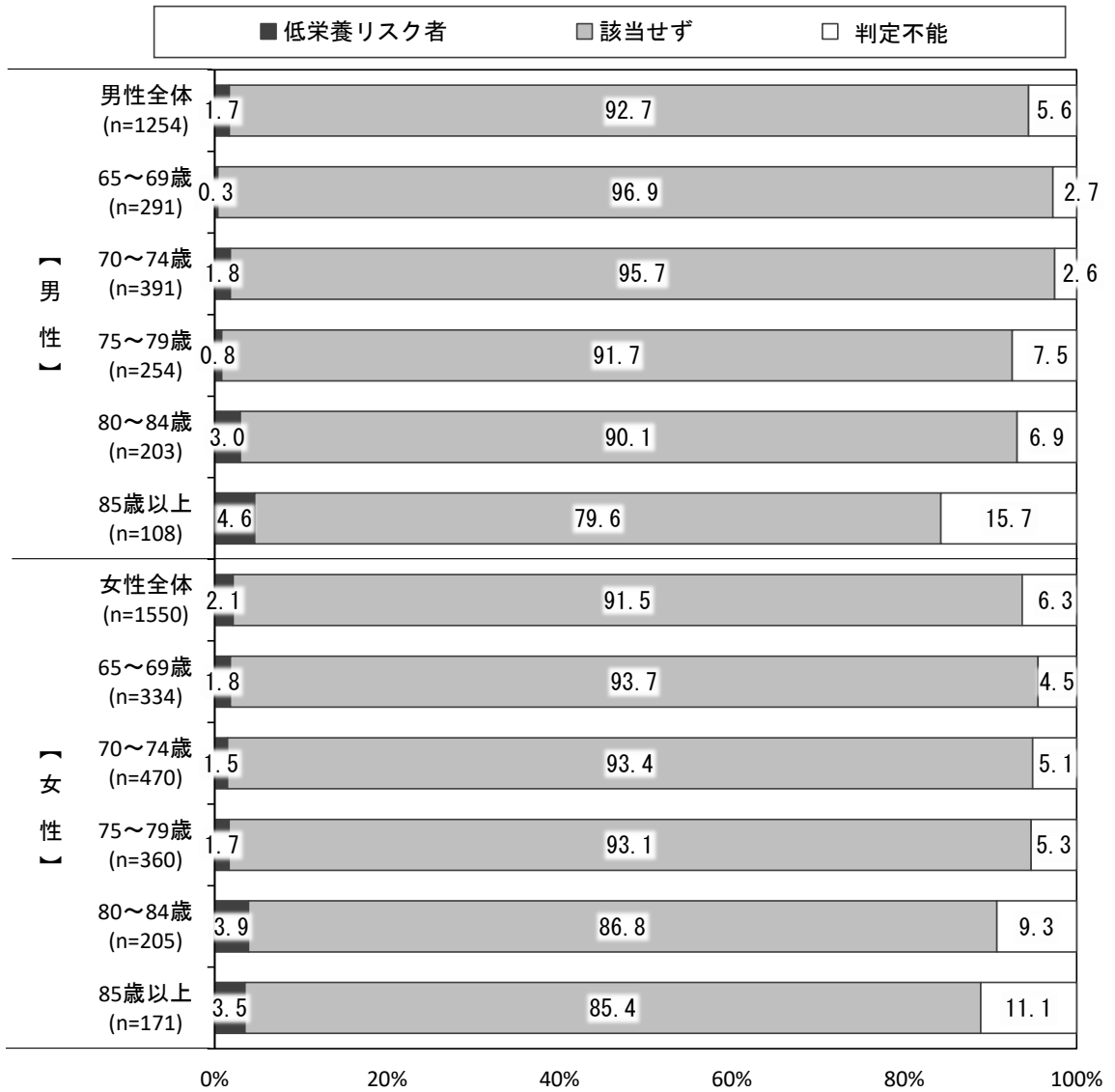
図表44 低栄養リスク者（コミュニティ区域別）



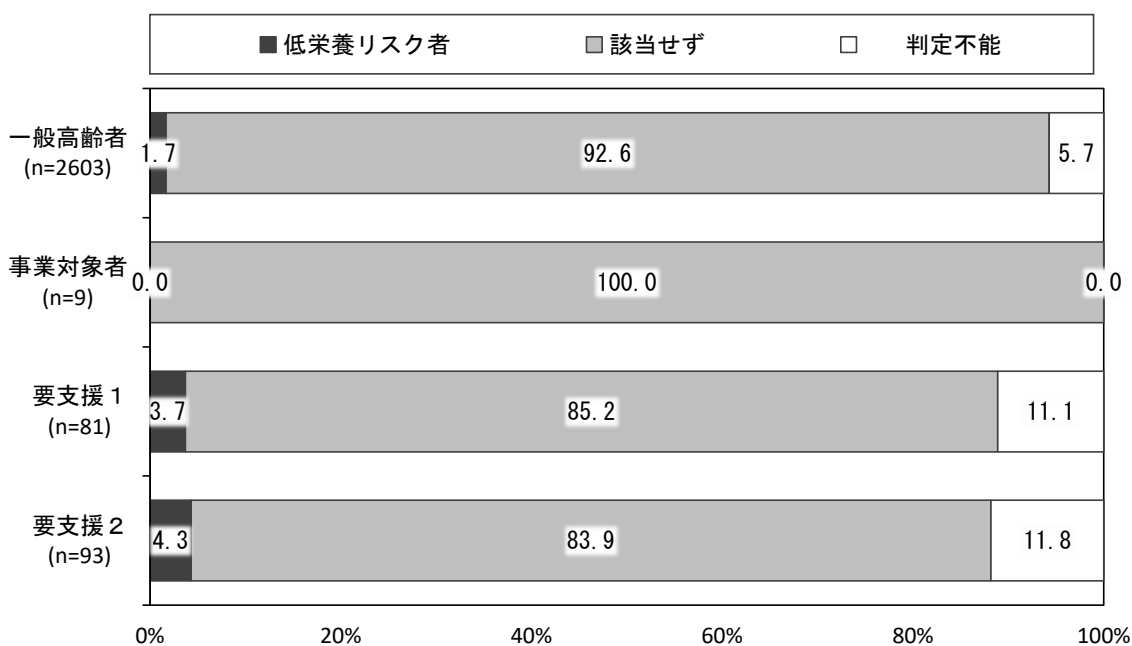
図表45 低栄養リスク者（包括区分別）



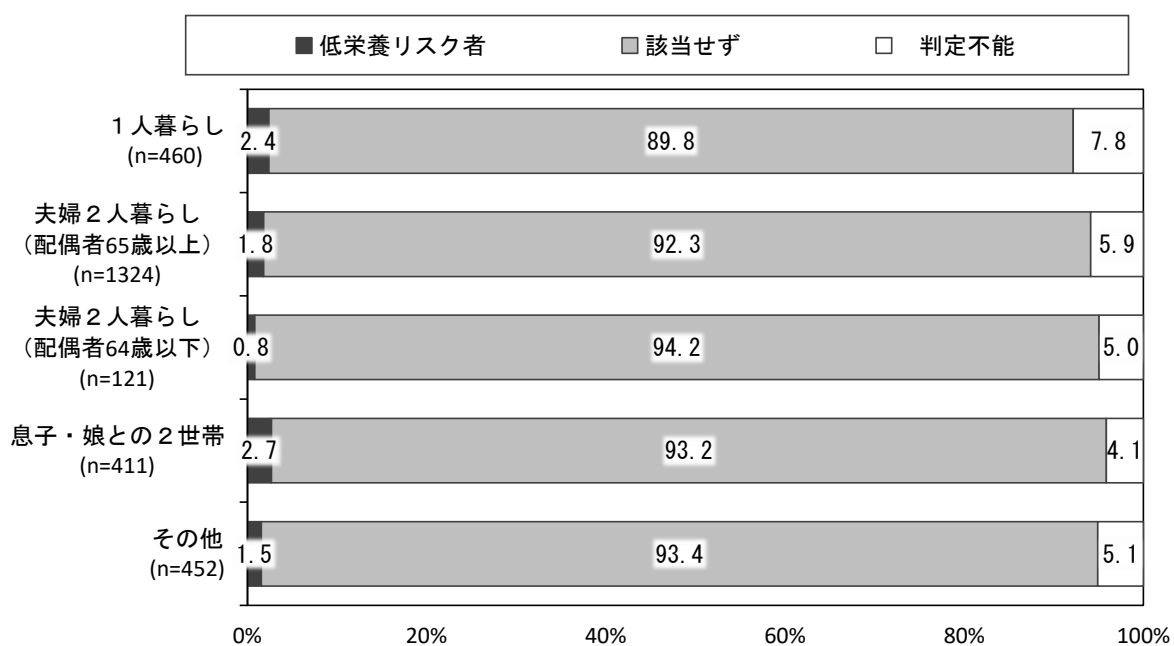
図表46 低栄養リスク者（性別・年齢別）



図表47 低栄養リスク者（要介護度別）



図表48 低栄養リスク者（家族構成別）



2 口腔機能低下者

(1) リスク判定方法

下記「(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」の設問で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者となる。

口腔機能の低下を確認する場合は国が示す必須設問(2)のみでは不十分であるため、本市では、別途示されたオプション項目(3)、(4)を追加して調査を行った。

嚥下機能の低下を把握する「(3) お茶や汁物等でむせることがありますか」、肺炎発症リスクを把握する「(4) 口の渇きが気になりますか」と併せ、(2)～(4)のうち2問に該当した場合は、口腔機能が低下している高齢者と判定される。

問3	設問内容	選択肢
(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 2. いいえ
(4)	口の渇きが気になりますか	1. はい 2. いいえ

(2) リスク者の状況

口腔機能の低下についてみると、全体の26.1%がリスク者であった。

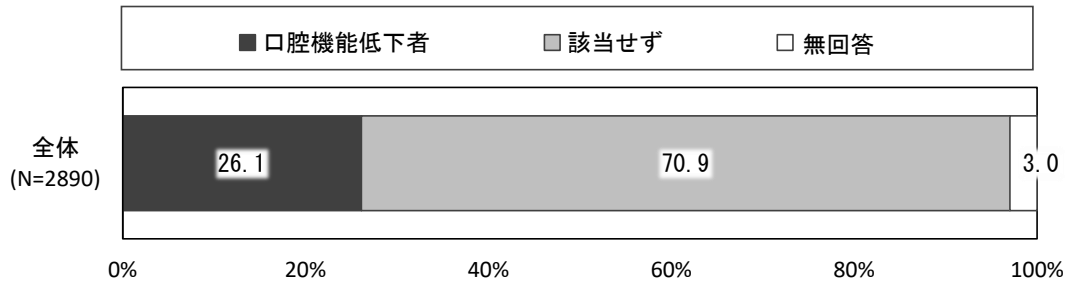
コミュニティ区域別では、二日市東地区で最もリスク者の割合が高く、27.7%であった。次いで、筑紫地区(26.7%)、御笠地区(26.3%)となった。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢階層が高くなるにしたがってリスク者の割合が高くなる傾向にある。女性全体のリスク者の割合は27.7%であるのに対し、男性全体では24.1%と、3.6ポイントの差がある。

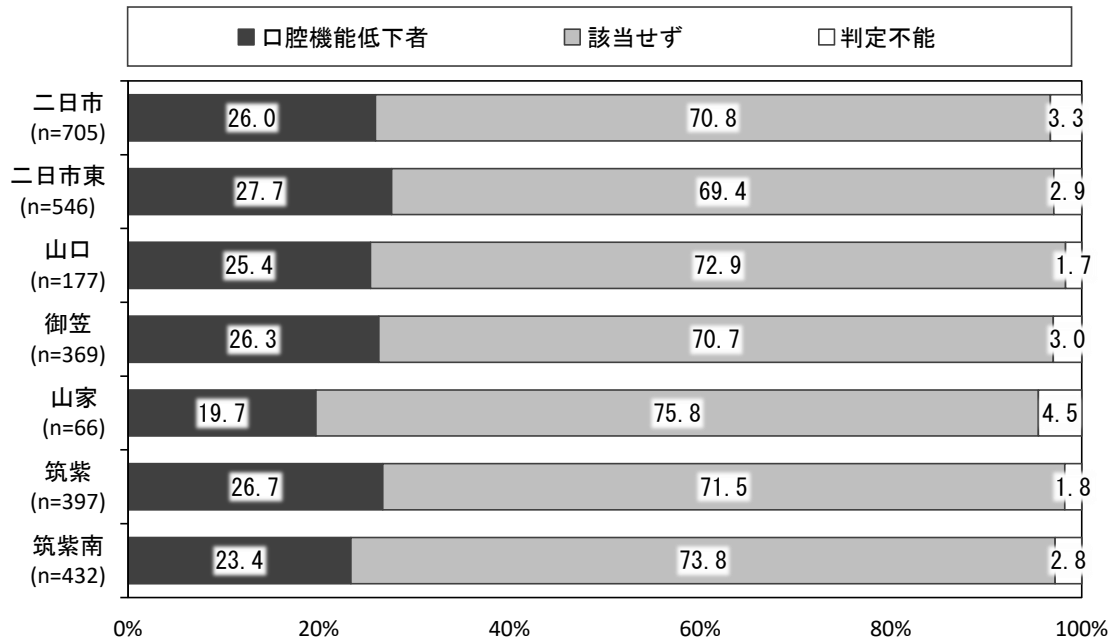
要介護度別にみると、一般高齢者のリスク者割合は23.7%であるのに対し、要支援1では51.9%、要支援2では58.1%と、いずれもリスク者の割合が高くなっている。

家族構成別では、「息子・娘との2世帯」で33.1%と最もリスク者の割合が高く、次いで「1人暮らし」(29.3%)、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(22.2%)となっている。

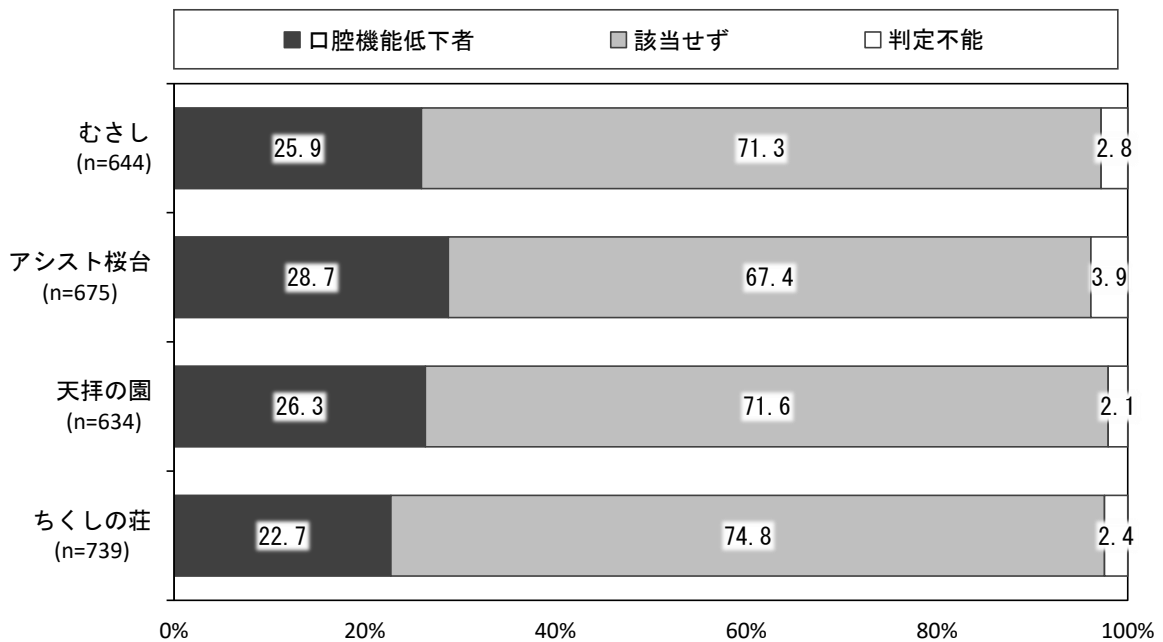
図表49 口腔機能低下者（全体）



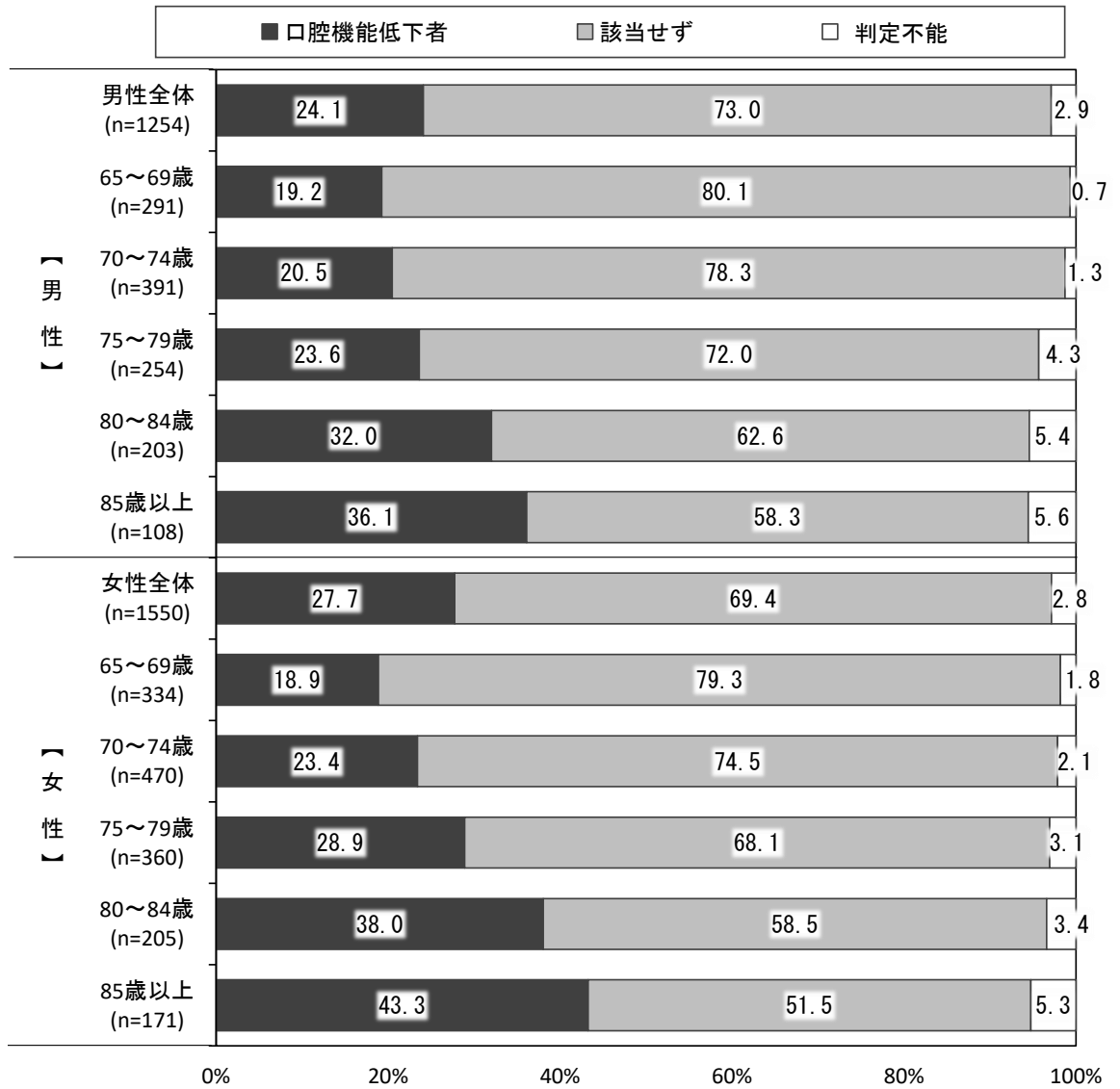
図表50 口腔機能低下者（コミュニティ区域別）



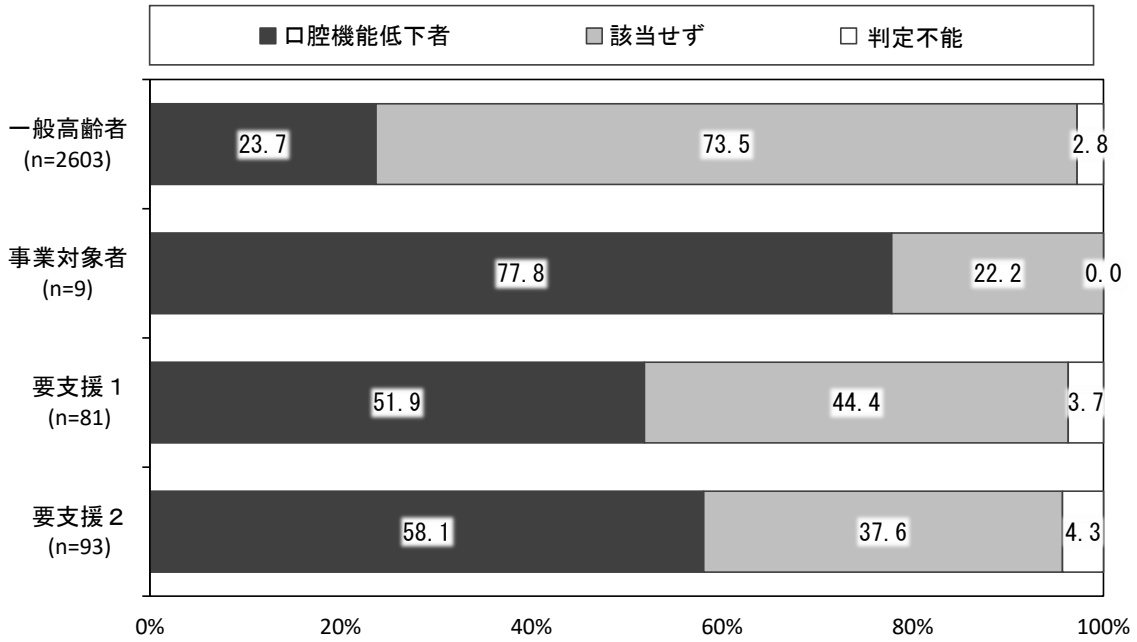
図表51 口腔機能低下者（包括区分別）



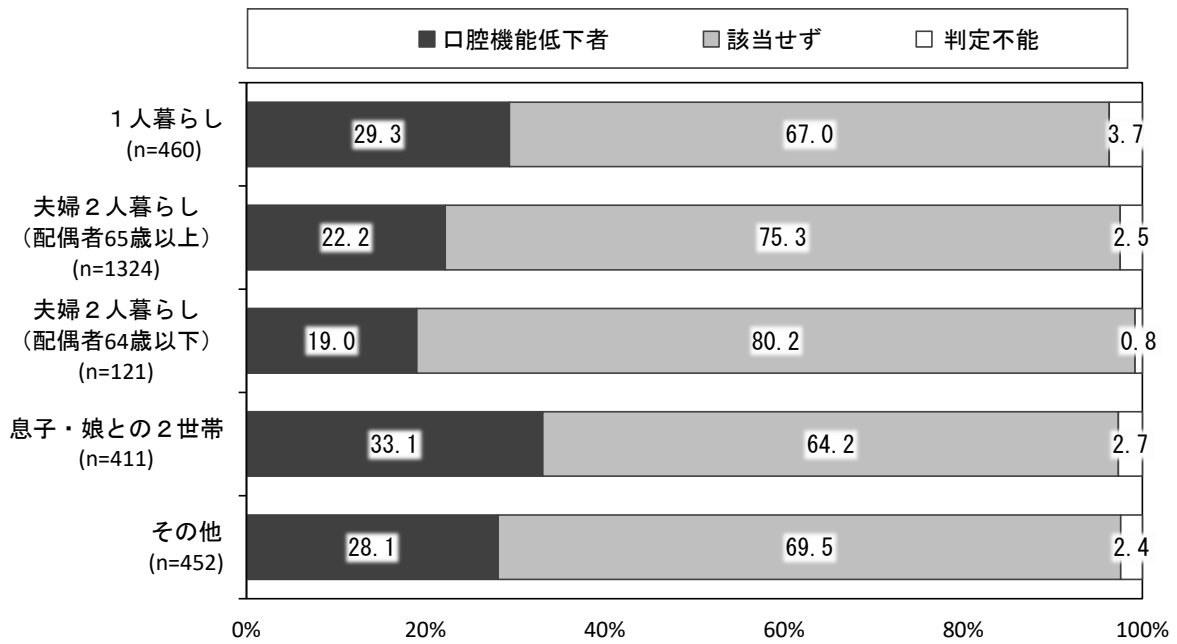
図表52 口腔機能低下者（性別・年齢別）



図表53 口腔機能低下者（要介護度別）



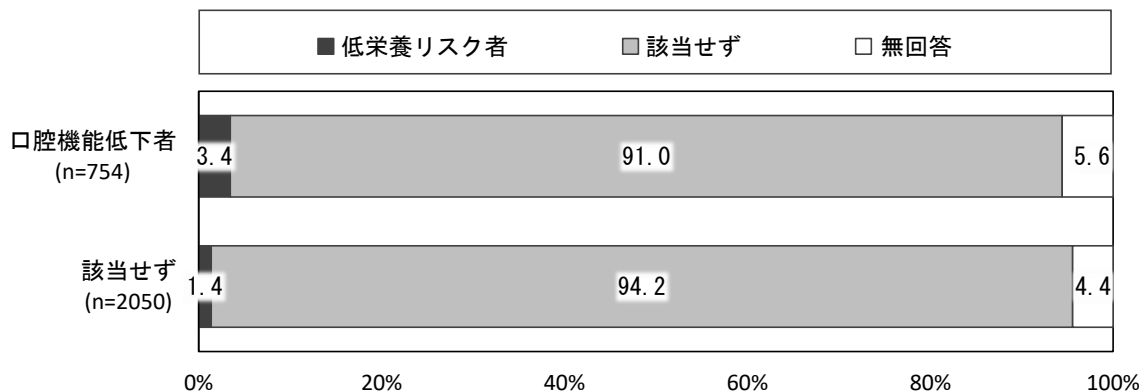
図表54 口腔機能低下者（家族構成別）



(3) 口腔機能の低下と低栄養の関係

口腔機能の低下と低栄養リスクの関係を見ると、口腔機能の低下者のうち、3.4%が低栄養リスク者となり、該当せず（1.4%）を上回っている。

図表55 口腔機能の低下と低栄養の関係

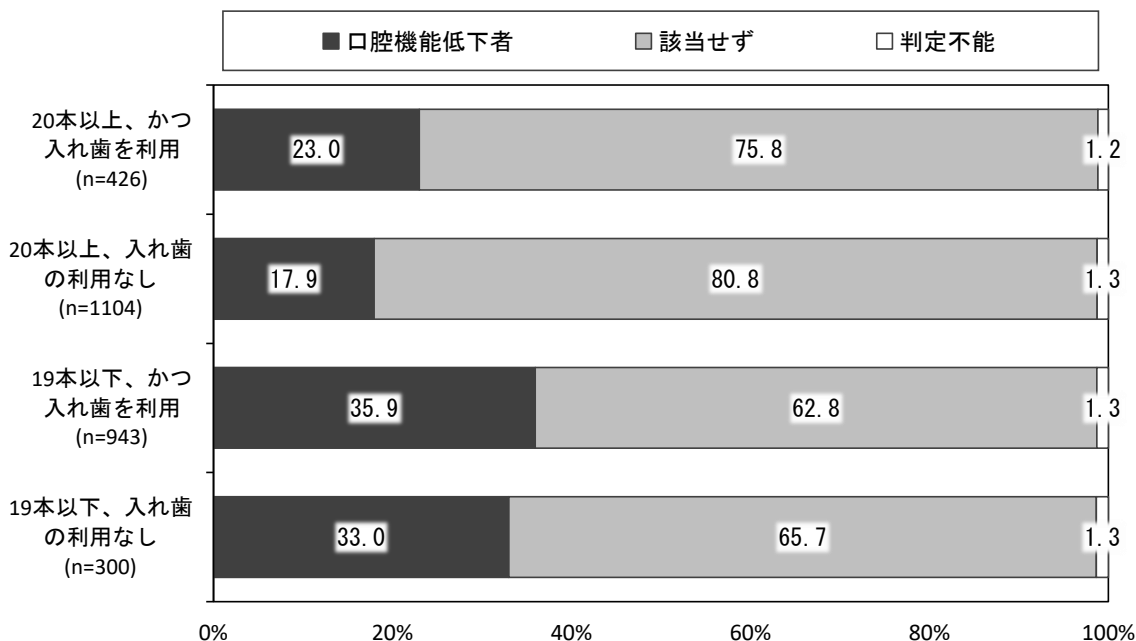


3 口腔機能の低下と義歯の有無の関係

義歯の有無と口腔機能低下リスクの関係を見ると、歯の本数が「19本以下」である場合にリスク者の割合が高くなっている。また、入れ歯を「利用していない」と回答した人の方が、「利用している」と回答した人と比べてリスク者の割合が低い傾向にある。

問3	設問内容	選択肢
(6)	歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください	1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし 3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

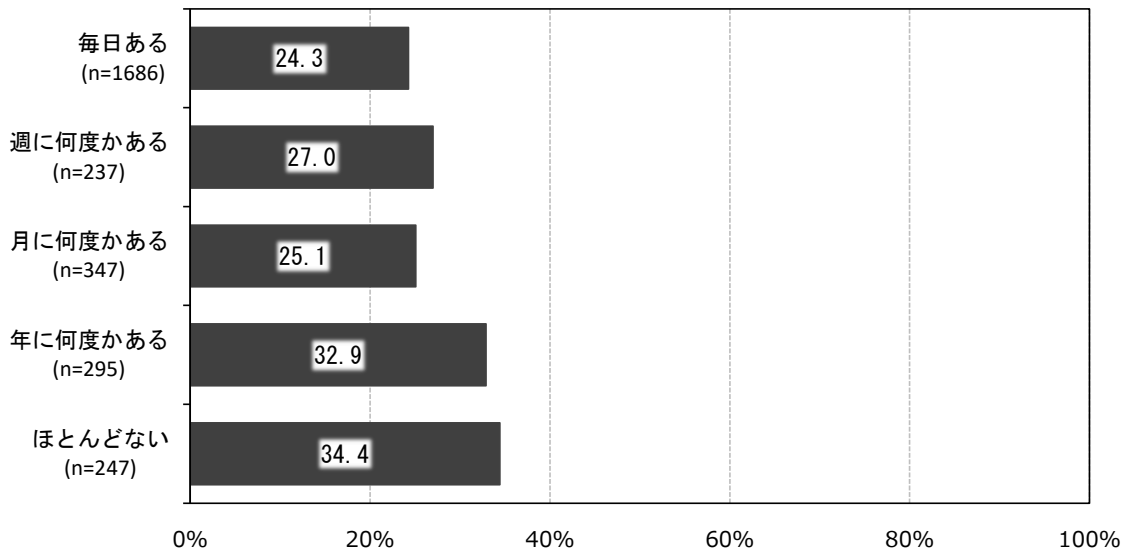
図表56 口腔機能リスクと義歯の有無の関係



4 口腔機能の低下と孤食の関係

誰かと食事を共にする頻度と口腔機能の低下の関係をみると、「毎日ある」と回答した人でリスク者の割合が最も低く、24.3%であった。一方、「ほとんどない」と回答した人ではリスク者の割合が34.4%と、「毎日ある」と回答した人を10.1ポイント上回った。

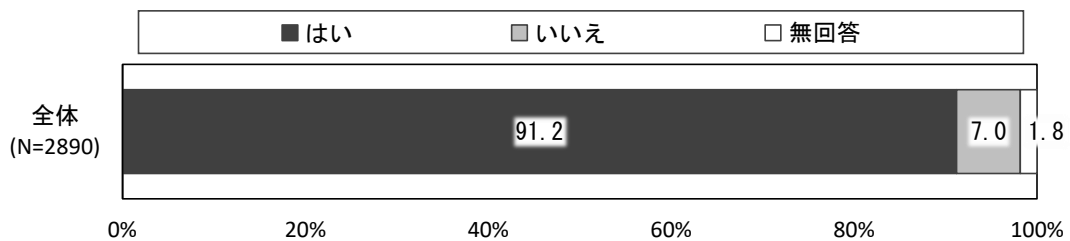
図表57 口腔機能の低下と孤食の関係



5 その他の食べることに関する設問

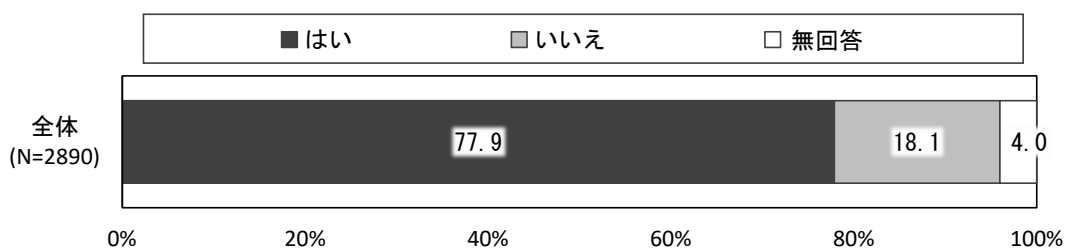
問3	設問内容
(5)	歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか

図表58 歯磨きについて

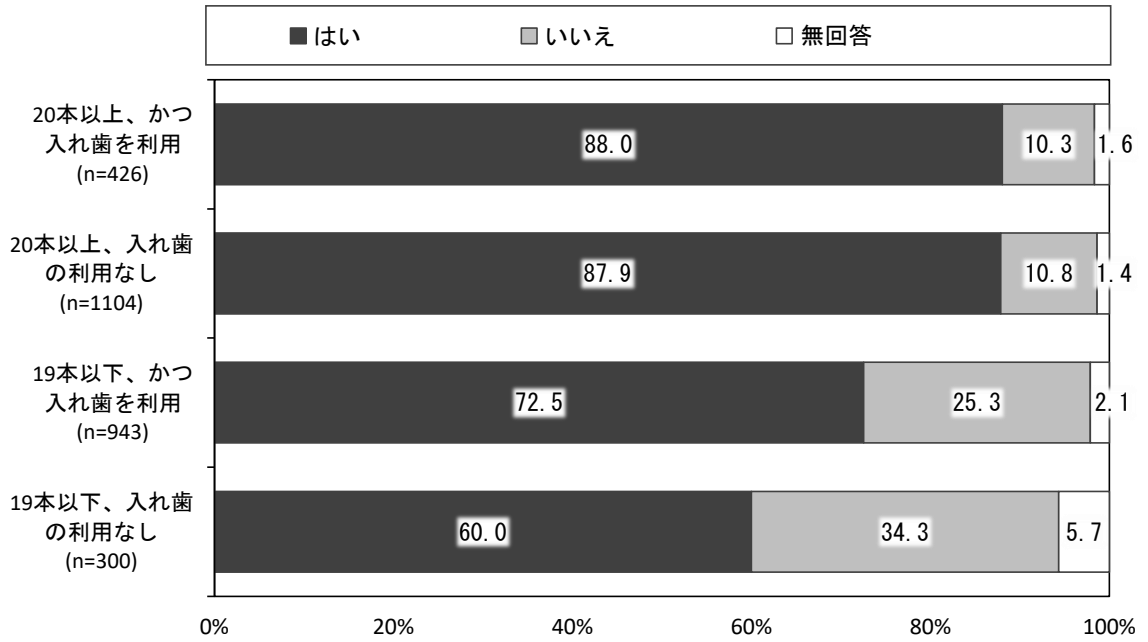


問3	設問内容
(6) ①	噛みあわせは良いですか

図表59 噛みあわせについて

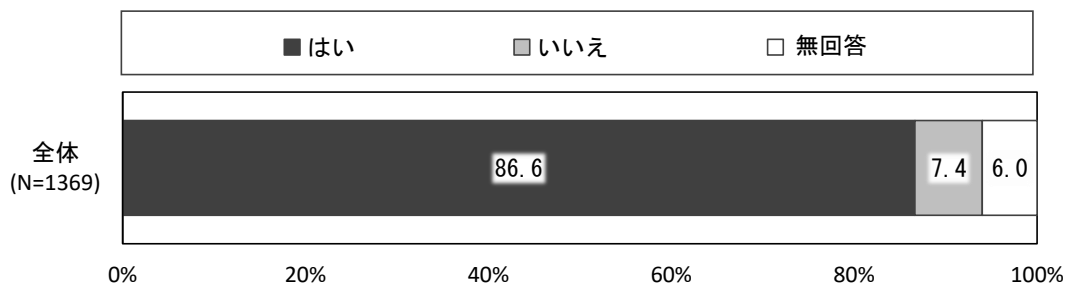


図表60 歯の本数・義歯の有無と噛みあわせの関係



問3	設問内容
(6) ②	【(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】 毎日入れ歯の手入れをしていますか

図表61 入れ歯の手入れについて



第5章 毎日の生活について

1 認知機能低下者

(1) リスク判定方法

問4(1)で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、認知機能の低下がみられる高齢者と判定する。

問4	設問内容	選択肢
(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ

(2) リスク者の状況

認知機能の低下についてみると、全体の38.7%が認知機能低下者となった。

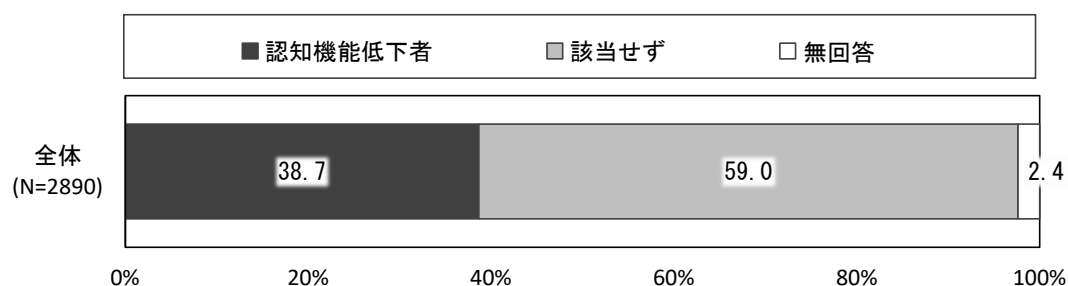
コミュニティ区域別では、山家地区で45.5%とリスク者の割合が最も高く、次いで、山口地区(43.5%)、御笠地区(42.0%)となった。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢階層が高くなるにしたがってリスク者の割合が高くなる傾向にあり、男性の80歳以上でリスク者の割合が4割を超えており、女性では75歳以上で4割を超えている。

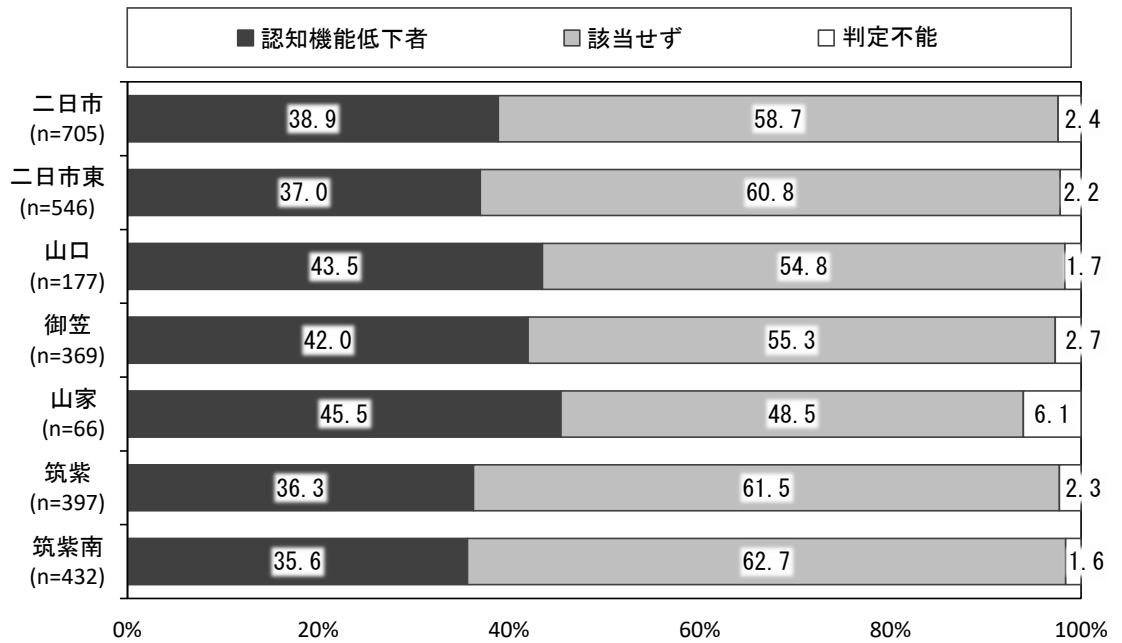
要介護度別にみると、一般高齢者ではリスク者の割合が37.3%であるのに対し、要支援1では51.9%、要支援2では54.8%と高くなっている。

家族構成別では、「1人暮らし」で最もリスク者の割合が高く、42.2%であった。次いで、「息子・娘との2世帯」(39.9%)、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(37.1%)となった。

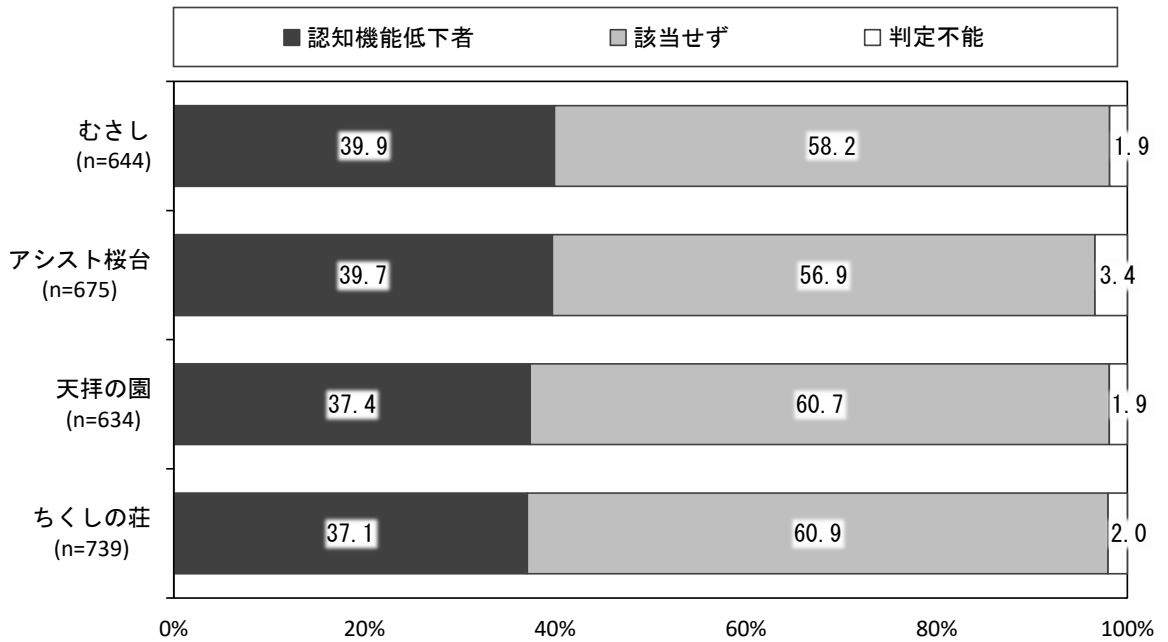
図表62 認知機能低下者（全体）



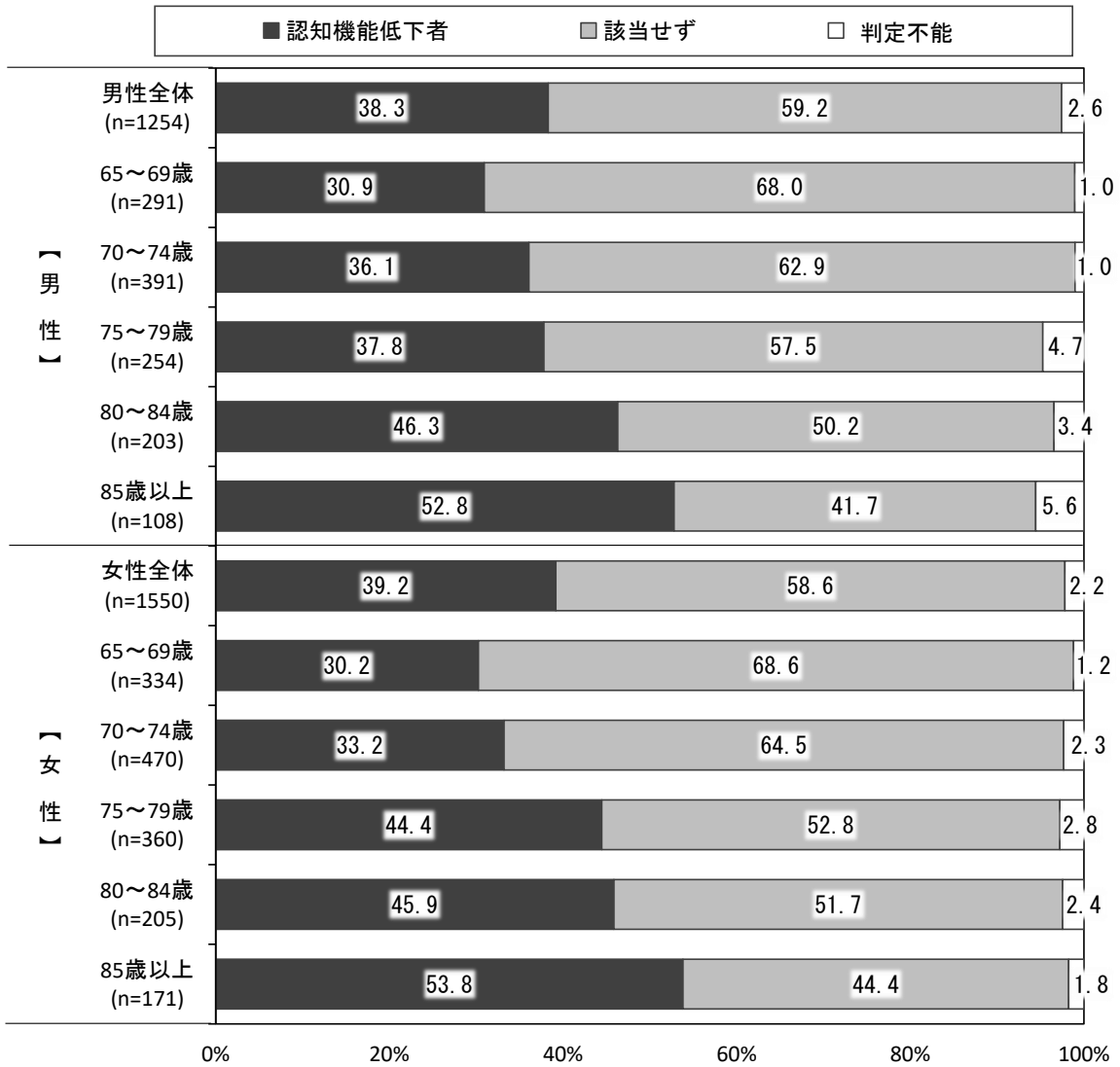
図表63 認知機能低下者（コミュニティ区域別）



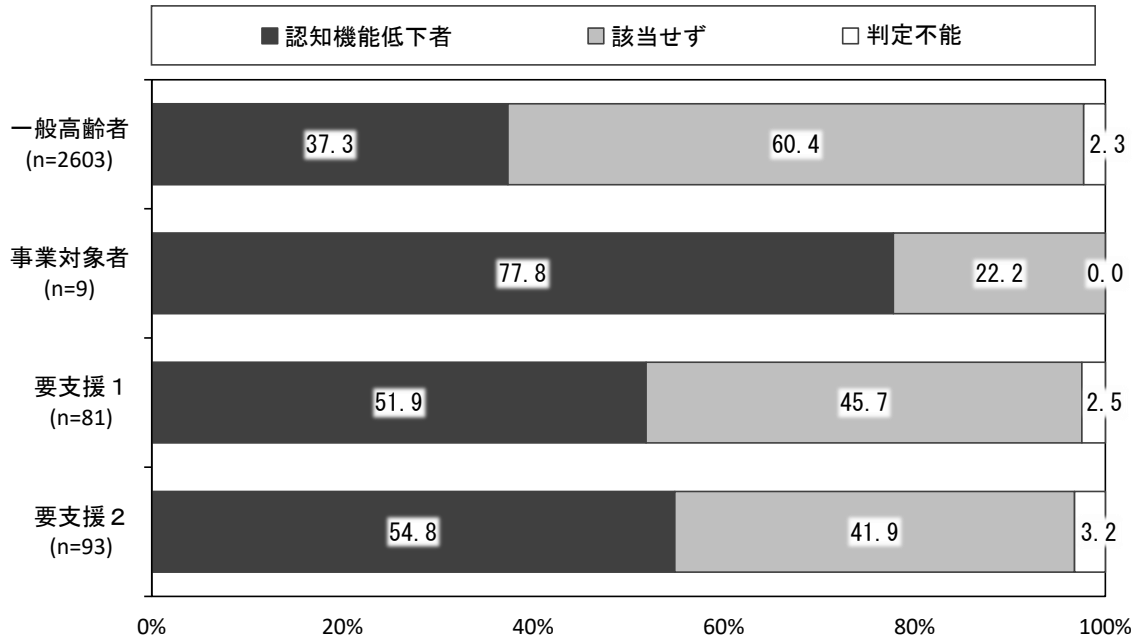
図表64 認知機能低下者（包括区分別）



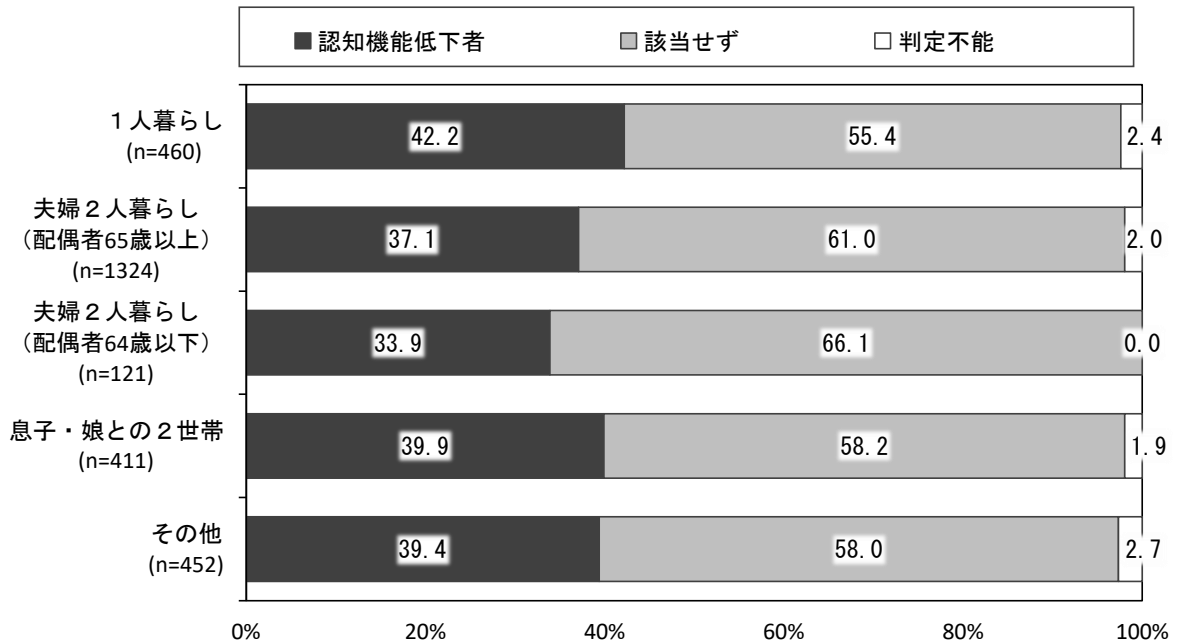
図表65 認知機能低下者（性別・年齢別）



図表66 認知機能低下者（要介護度別）



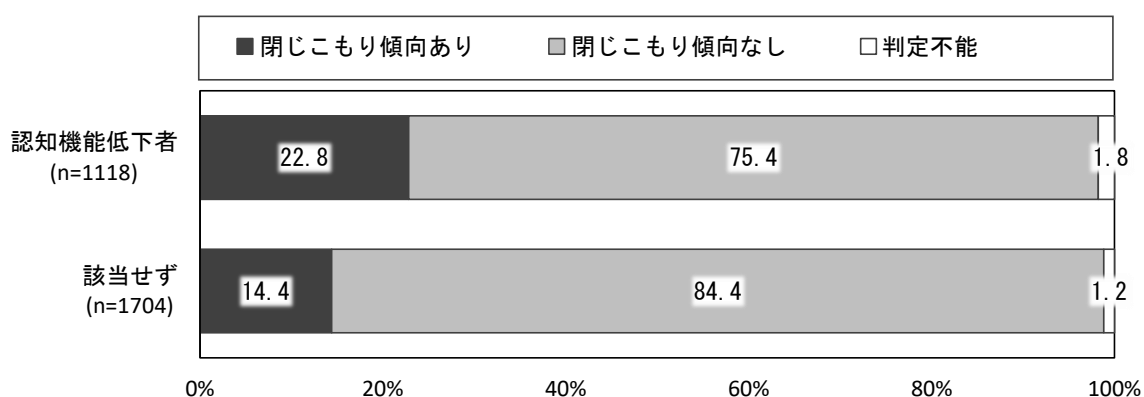
図表67 認知機能低下者（家族構成別）



(3) 認知機能の低下と閉じこもりの関係

認知機能の低下と閉じこもり傾向の関係をみると、認知機能低下者では、閉じこもり傾向ありと判定された人の割合が22.8%となった。一方、認知機能低下者に該当しないと判定された人では、閉じこもり傾向にある人の割合が14.4%となっており、8.4ポイントの差がある。

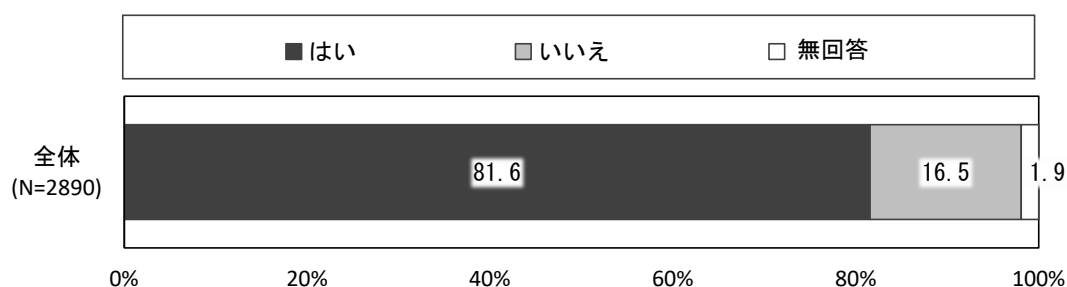
図表68 認知機能の低下と閉じこもりの関係



(4) その他の認知機能に関連する設問

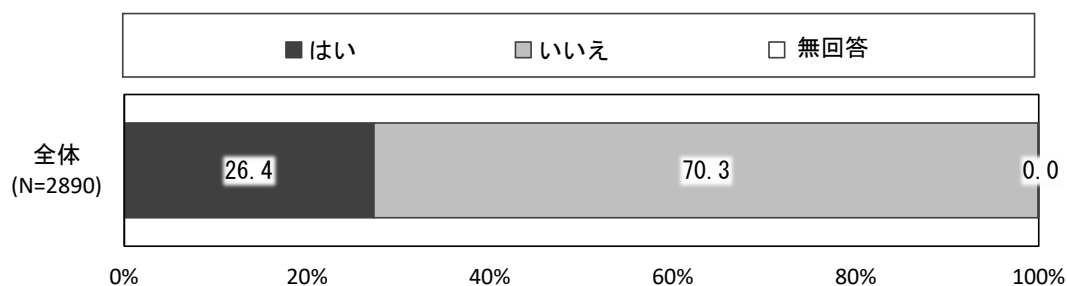
問 4	設問内容
(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

図表69 自ら電話番号を調べて電話をかけることがあるか



問 4	設問内容
(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか

図表70 今日が何月何日かわからない時があるか



2 IADL（手段的日常生活動作）低下者

(1) リスク判定方法

下記設問で、「1. できるし、している」「2. できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点でIADL（手段的日常生活動作）を評価する。

5点を「1. 高い」、4点を「2. やや低い」、3点以下を「3. 低い」とする。ただし、5問中1問以上無回答の場合は判定不能となる。

問4	設問内容	選択肢
(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(6)	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(7)	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(2) リスク者の状況

IADLの状況について、12.6%が「低い」「やや低い」と判定されている。

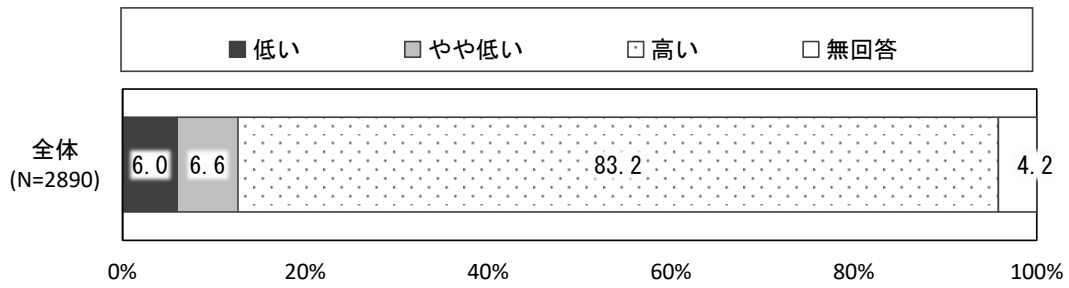
コミュニティ区域別では、御笠地区で最もIADLが「低い」「やや低い」と判定された割合が高く、16.0%であった。次いで、筑紫南地区(13.0%)、二日市地区(12.9%)となった。

性別・年齢別では、年齢階層が高くなるにしたがって「低い」「やや低い」と判定された人の割合が高くなる傾向にある。女性では85歳以上で急激に「低い」「やや低い」と判定された人の割合が高くなる傾向がみられる。また、女性と比較して男性の方が相対的にIADL低下者の割合が高い傾向にある。

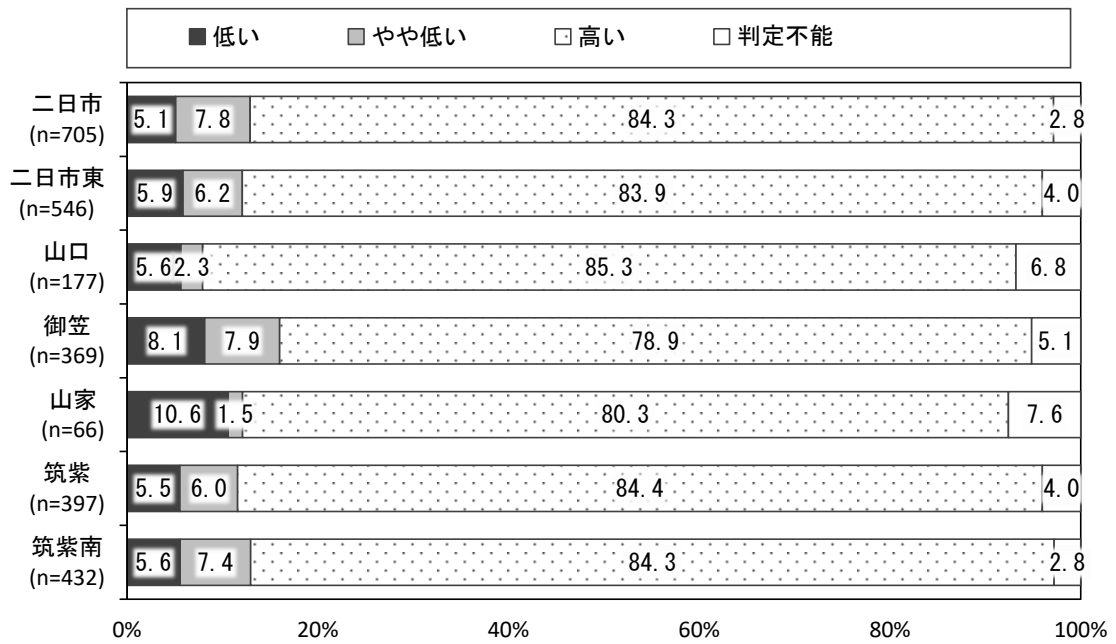
要介護度別では、一般高齢者で「低い」「やや低い」と判定された人の割合が9.1%、要支援2では69.9%となった。

家族構成別にみると、「1人暮らし」で「低い」「やや低い」と判定された人の割合が9.8%と最も低くなっている一方、「息子・娘との2世帯」では17.5%となっており、7.7ポイントの差がある。

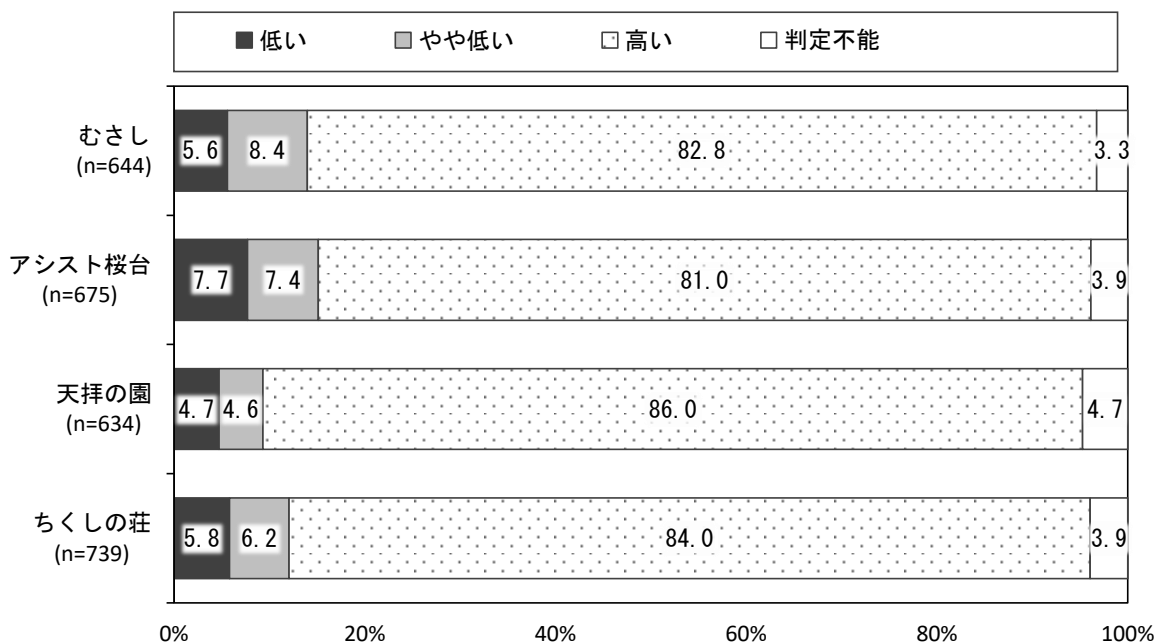
図表71 IADL（手段的日常生活動作）の状況（全体）



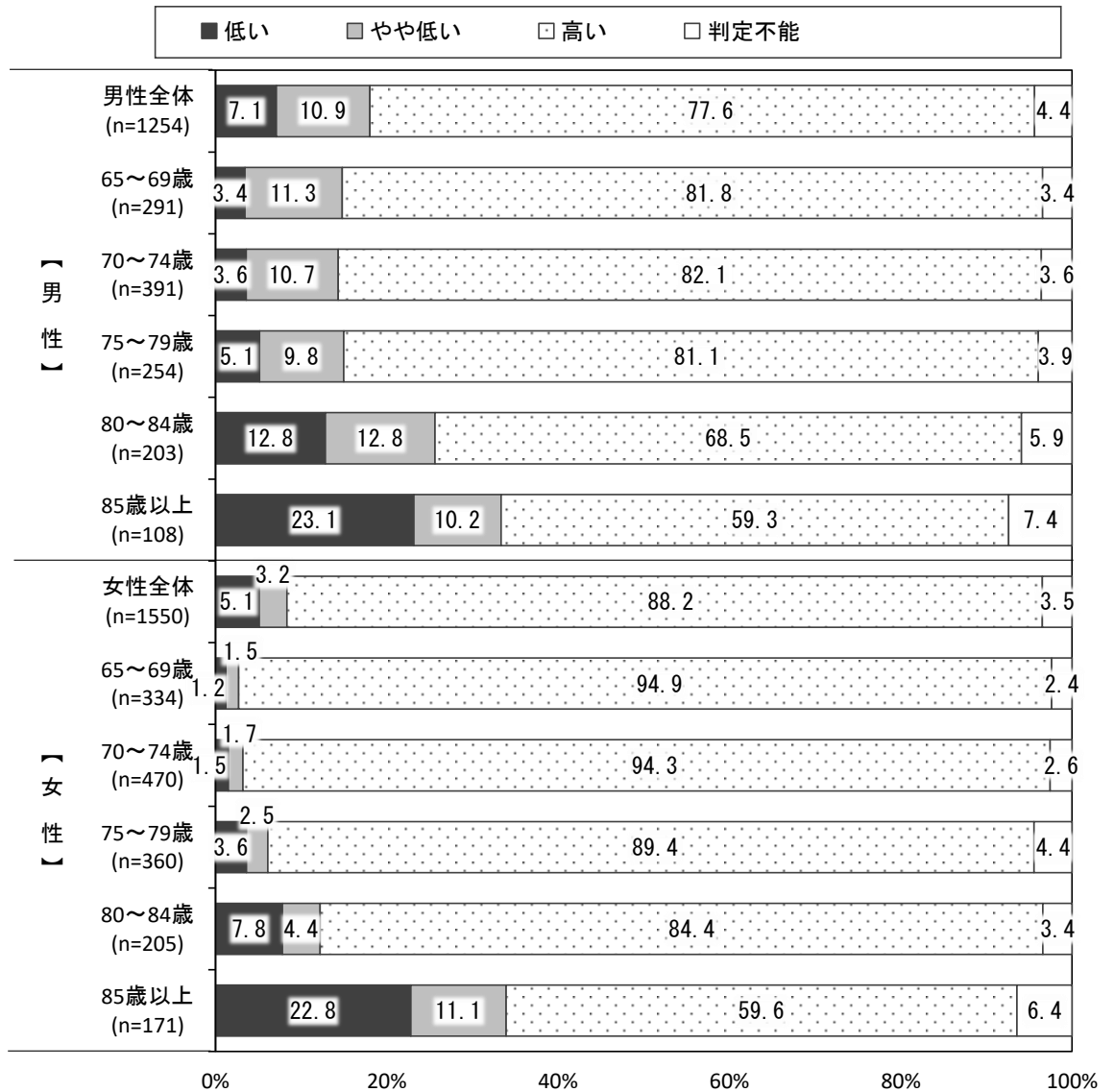
図表72 IADL（手段的日常生活動作）の状況（コミュニティ区域別）



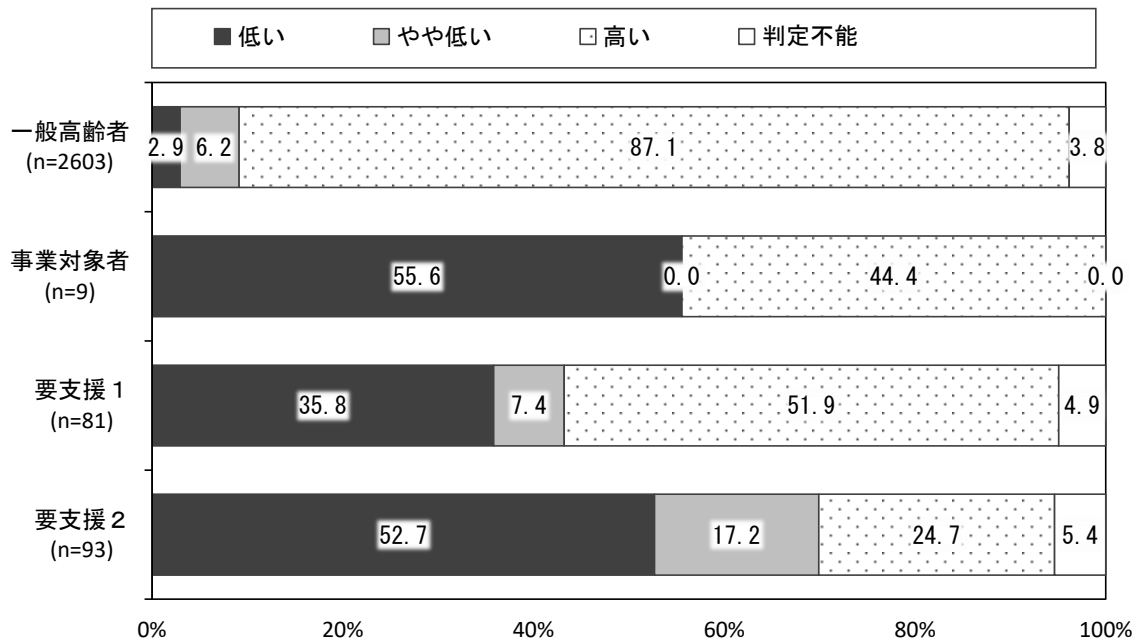
図表73 IADL（手段的日常生活動作）の状況（包括区分別）



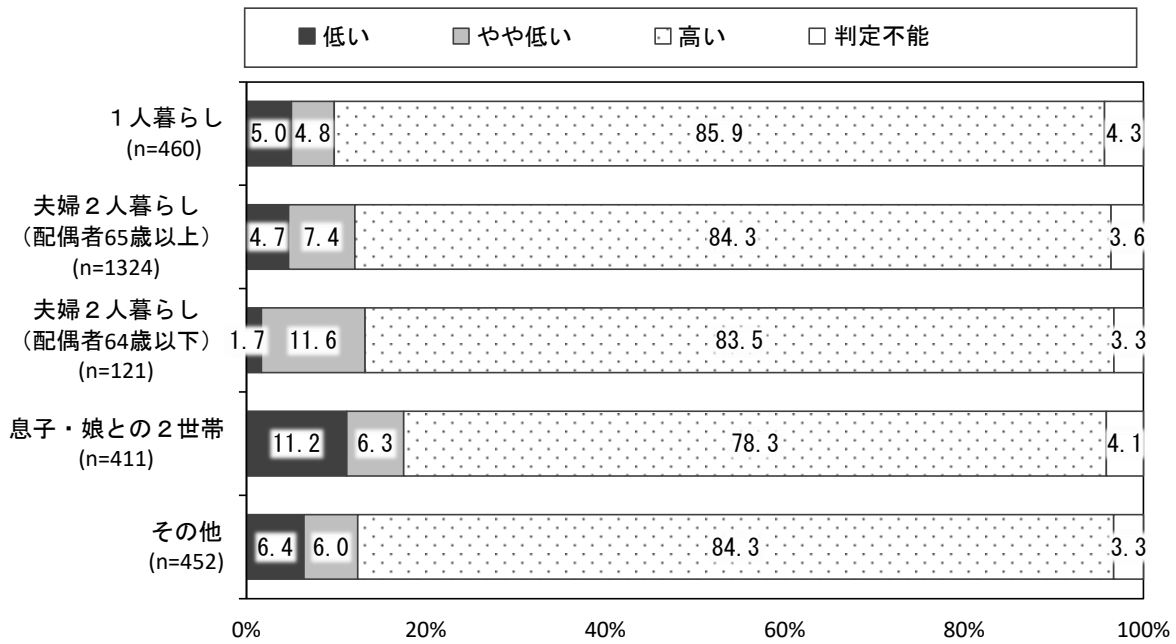
図表74 IADL（手段的日常生活動作）の状況（性別・年齢別）



図表75 IADL（手段的日常生活動作）の状況（要介護度別）



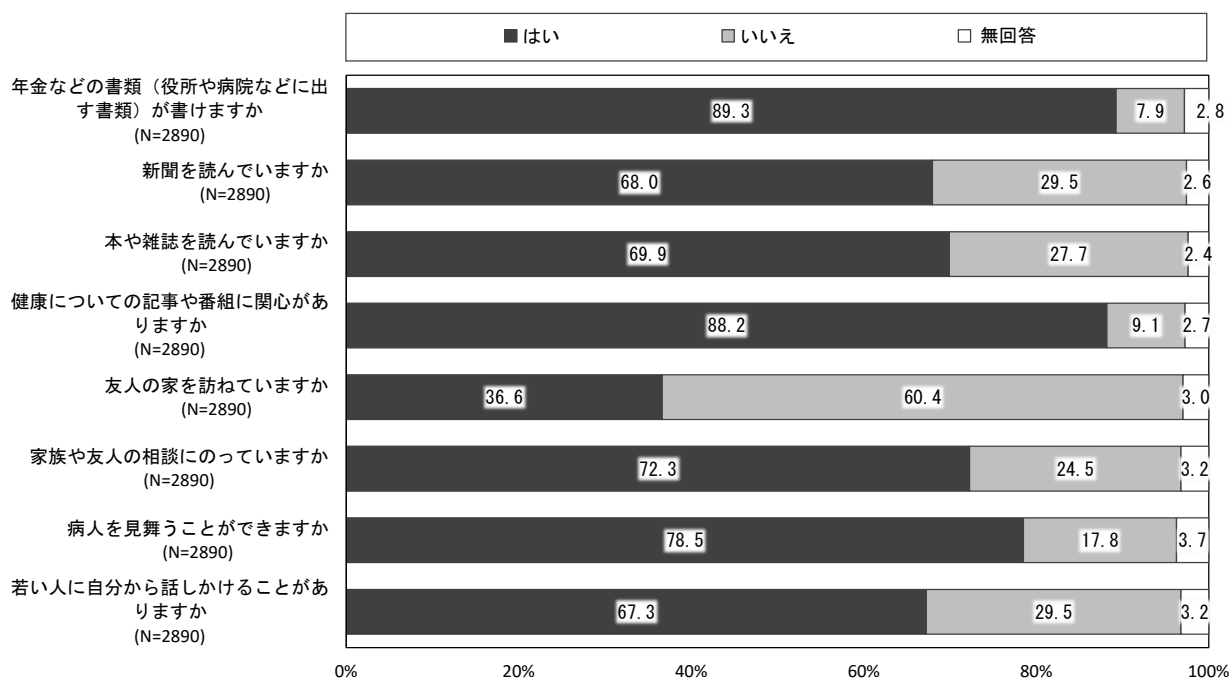
図表76 IADL（手段的日常生活動作）の状況（家族構成別）



3 その他の毎日の生活に関する設問

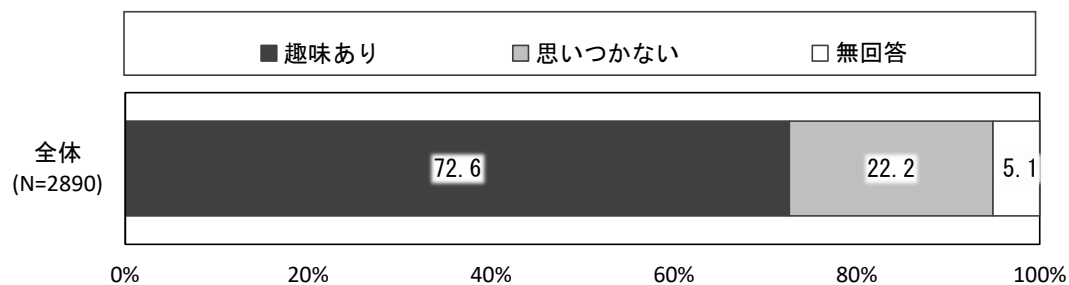
問 4	設問内容
(9)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか
(10)	新聞を読んでいますか
(11)	本や雑誌を読んでいますか
(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか
(13)	友人の家を訪ねていますか
(14)	家族や友人の相談にのっていますか
(15)	病人を見舞うことができますか
(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか

図表77 その他関連設問の状況



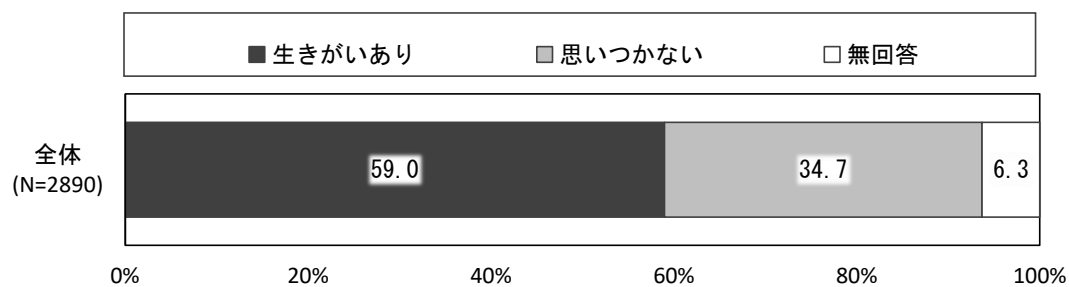
問 4	設問内容
(17)	趣味はありますか

図表78 趣味について



問 4	設問内容
(18)	生きがいがありますか

図表79 生きがいについて



第6章 健康と幸せ

1 うつ傾向

(1) リスク判定方法

下記(3)(4)の設問で、いずれか1つでも「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、うつ傾向の高齢者と判定される。

問7	設問内容	選択肢
(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

(2) リスク者の状況

うつ傾向について、全体の42.6%がリスク者であった。

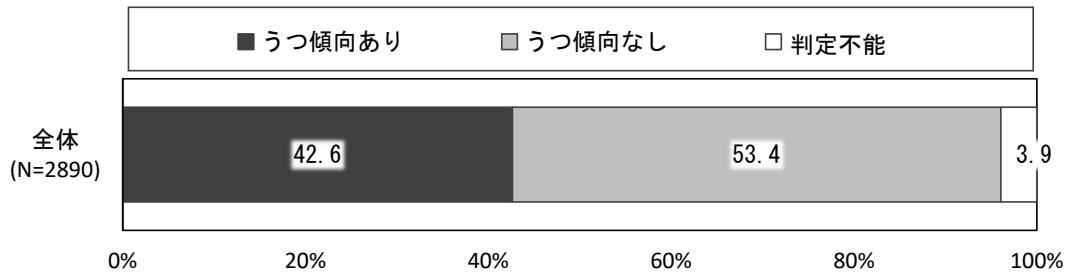
コミュニティ区域別では、山口地区でリスク者の割合が47.5%と最も高くなっている。次いで、山家地区(43.9%)、筑紫地区(43.6%)となった。

年齢別にみると、男性では80～84歳以上で4割を超え、女性では80～84歳以上で5割を超えている。また、女性は男性と比較してリスク者の割合が相対的に高い傾向にあり、80～84歳以上では51.2%がうつ傾向ありとなった。

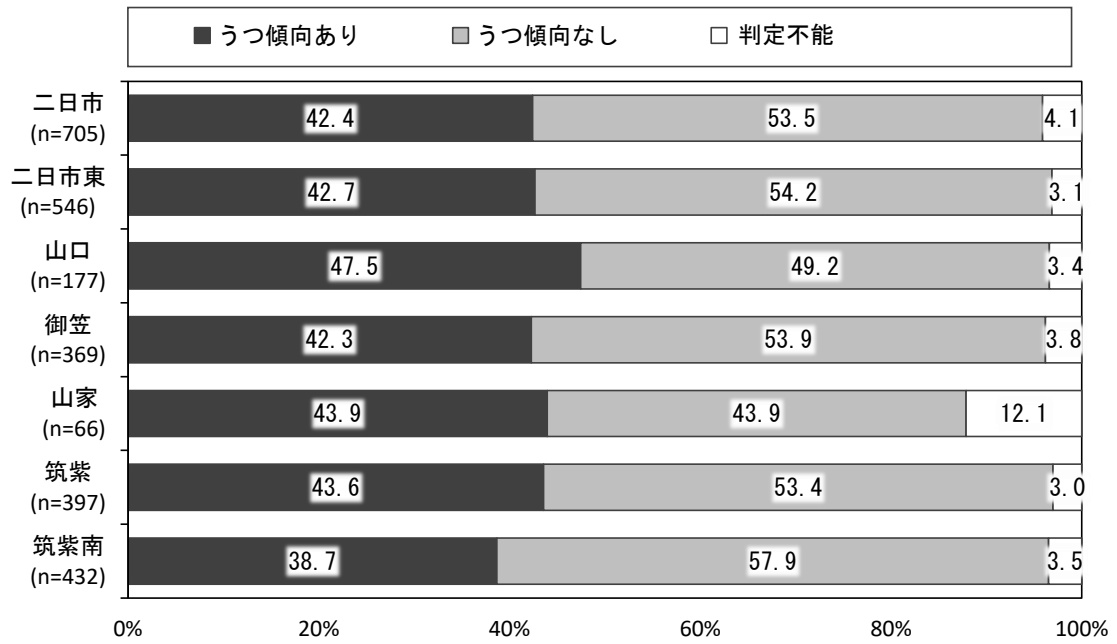
要介護度別では、一般高齢者で41.3%となった一方、要支援1(65.4%)と要支援2(57.0%)ではおよそ6割となった。

家族構成別では、「1人暮らし」で最もリスク者の割合が高く、47.8%であった。次いで、「息子・娘との2世帯」(45.3%)、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(39.4%)となった。

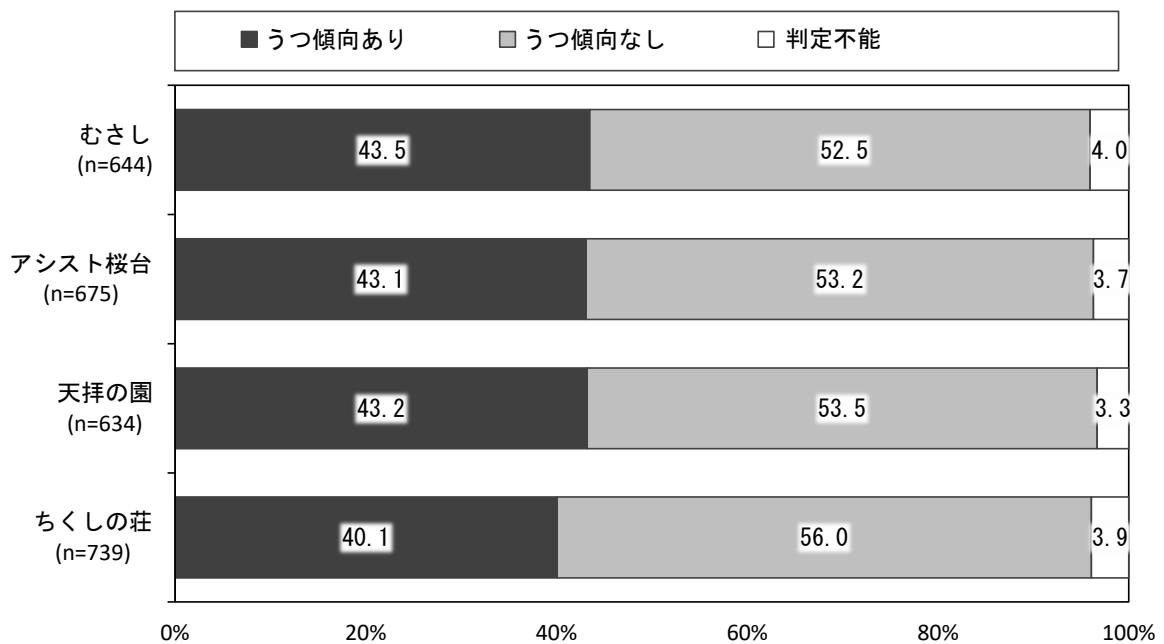
図表80 うつ傾向（全体）



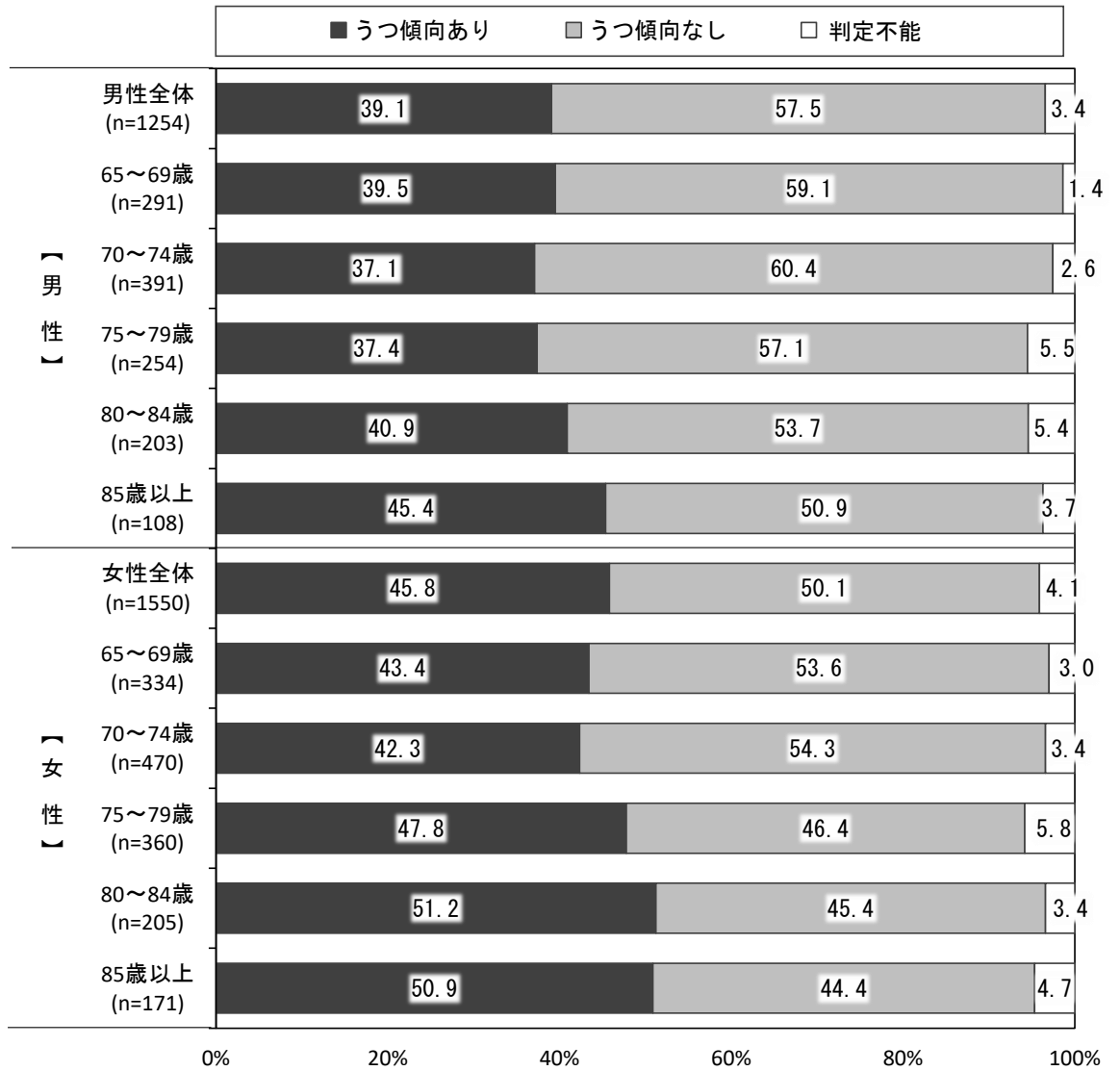
図表81 うつ傾向（コミュニティ区域別）



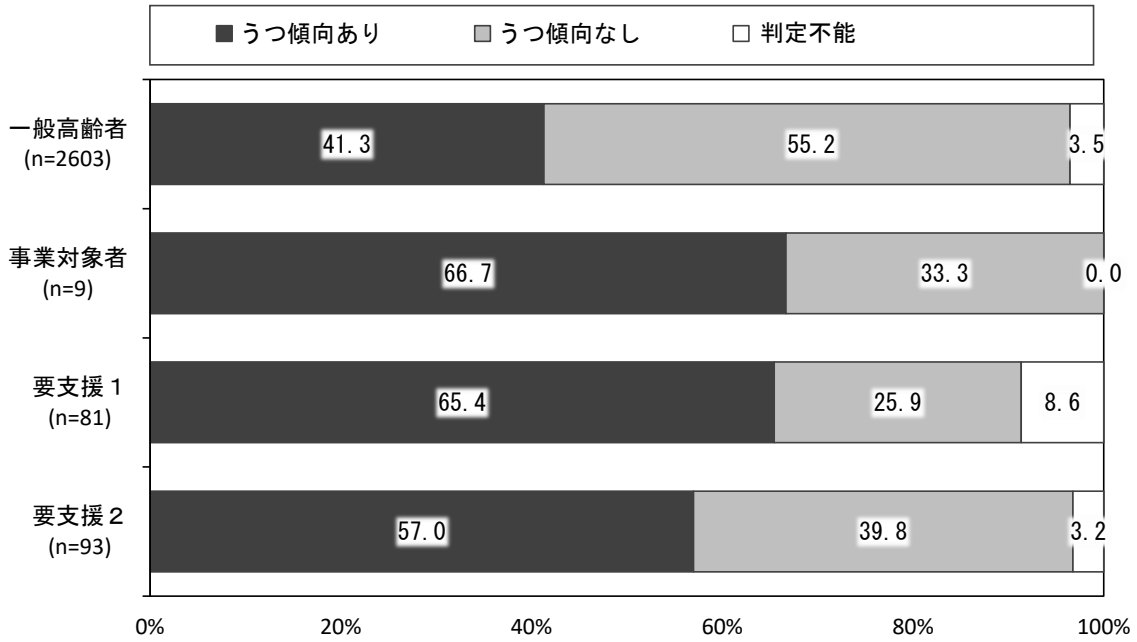
図表82 うつ傾向（包括区分別）



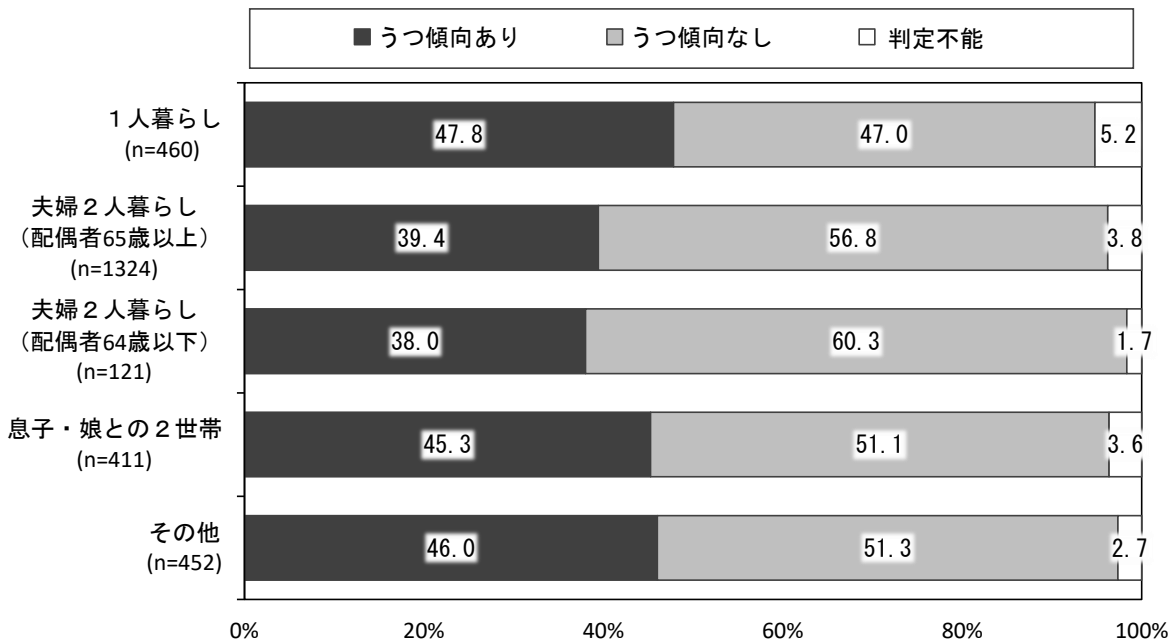
図表83 うつ傾向（性別・年齢別）



図表84 うつ傾向（要介護度別）



図表85 うつ傾向（家族構成別）



2 主観的健康観

主観的健康観と各リスク者との関係を見ると、主観的健康観が高い人ほど、リスク者の割合が低くなる傾向がある。

例えば、うつ傾向のある高齢者の割合は主観的健康観が「よくない」と回答した人で89.5%であるが、主観的健康観が「とてもよい」と回答した人では19.5%となっており、4倍以上の差がみられる。

問7	設問内容	選択肢
(1)	現在のあなたの健康状態はいかがですか	1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

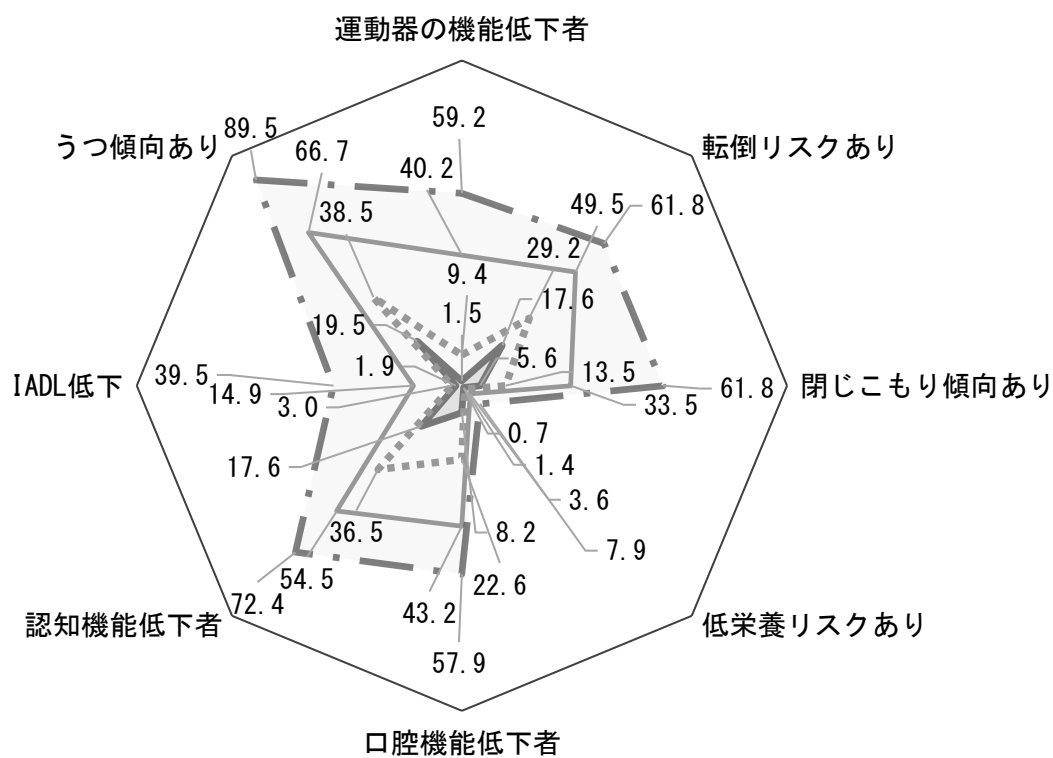
図表86 主観的健康観と各リスクとの関係

とてもよい(n=267)

 まあよい(n=1983)

 あまりよくない(n=505)

 よくない(n=76)



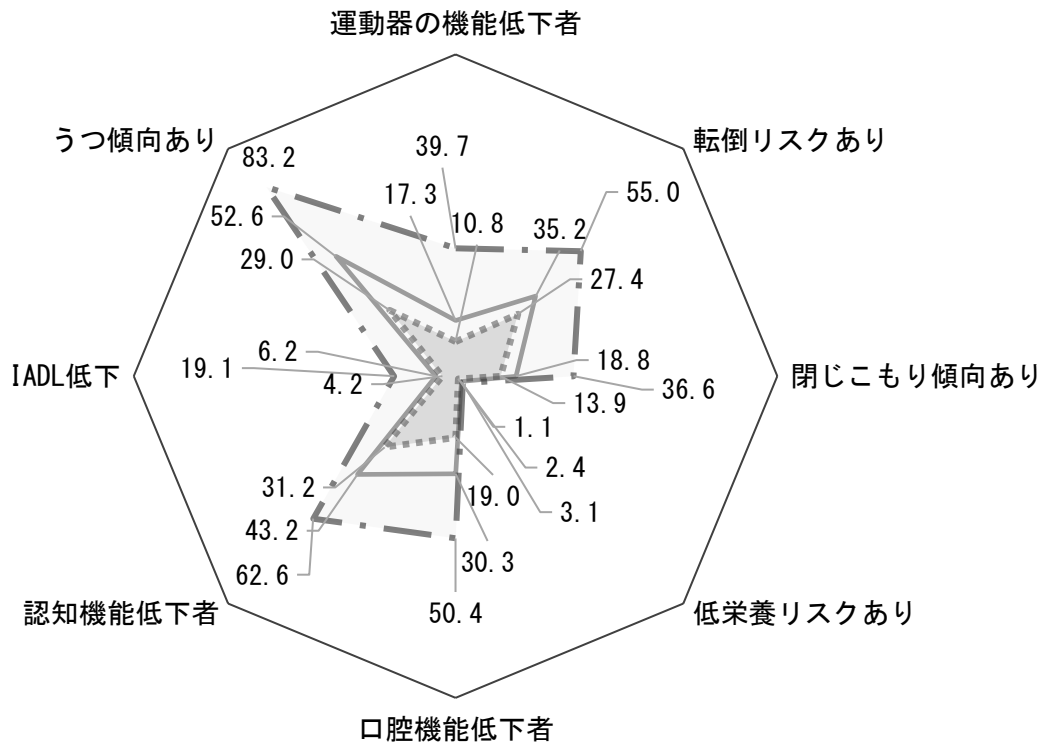
3 主観的幸福感

主観的幸福感と各リスクとの関係をみると幸福度が高いほど各リスク者の割合が低い傾向にあることが分かる。

問7	設問内容
(2)	あなたは、現在どの程度幸せですか (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)
選択肢	
とても不幸	とても幸せ
0点	10点
1点	9点
2点	8点
3点	7点
4点	6点
5点	5点
6点	4点
7点	3点
8点	2点
9点	1点
←	→
低い (0～3点)	高い (8点以上)
←	→
普通 (4～7点)	普通 (4～7点)

図表87 主観的幸福感と各リスクとの関係

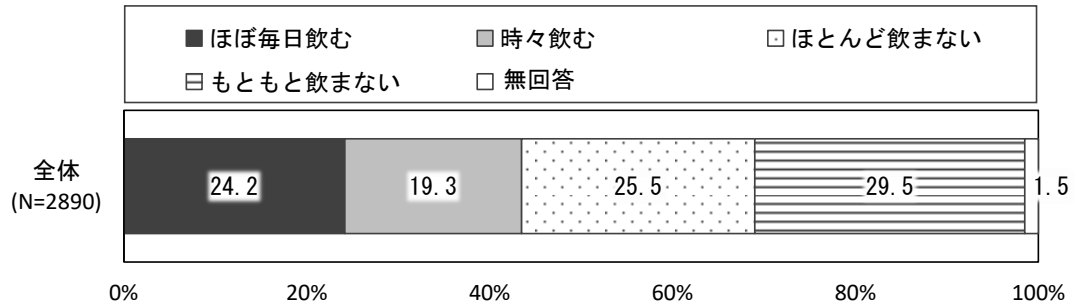
幸福度が低い(n=131)
 幸福度はふつう(n=1359)
 幸福度が高い(n=1319)



4 その他の健康に関する設問

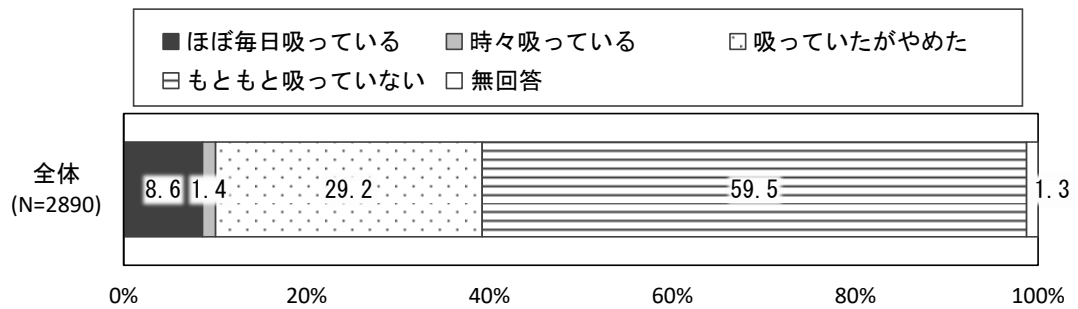
問 7	設問内容
(5)	お酒は飲みますか

図表88 飲酒の有無



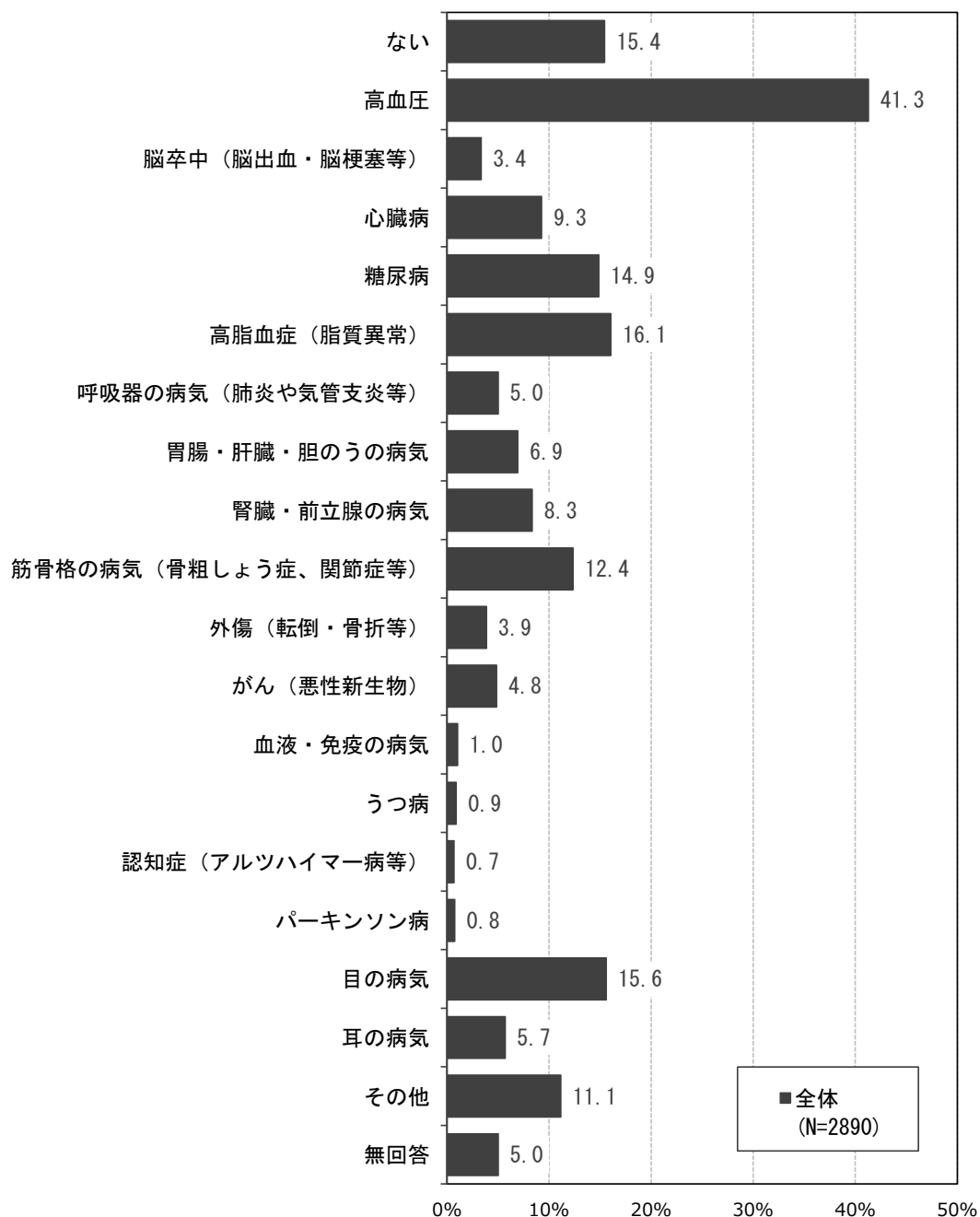
問 7	設問内容
(6)	タバコは吸っていますか

図表89 喫煙の有無



問 7	設問内容
(7)	現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)

図表90 現在治療中もしくは後遺症のある病気



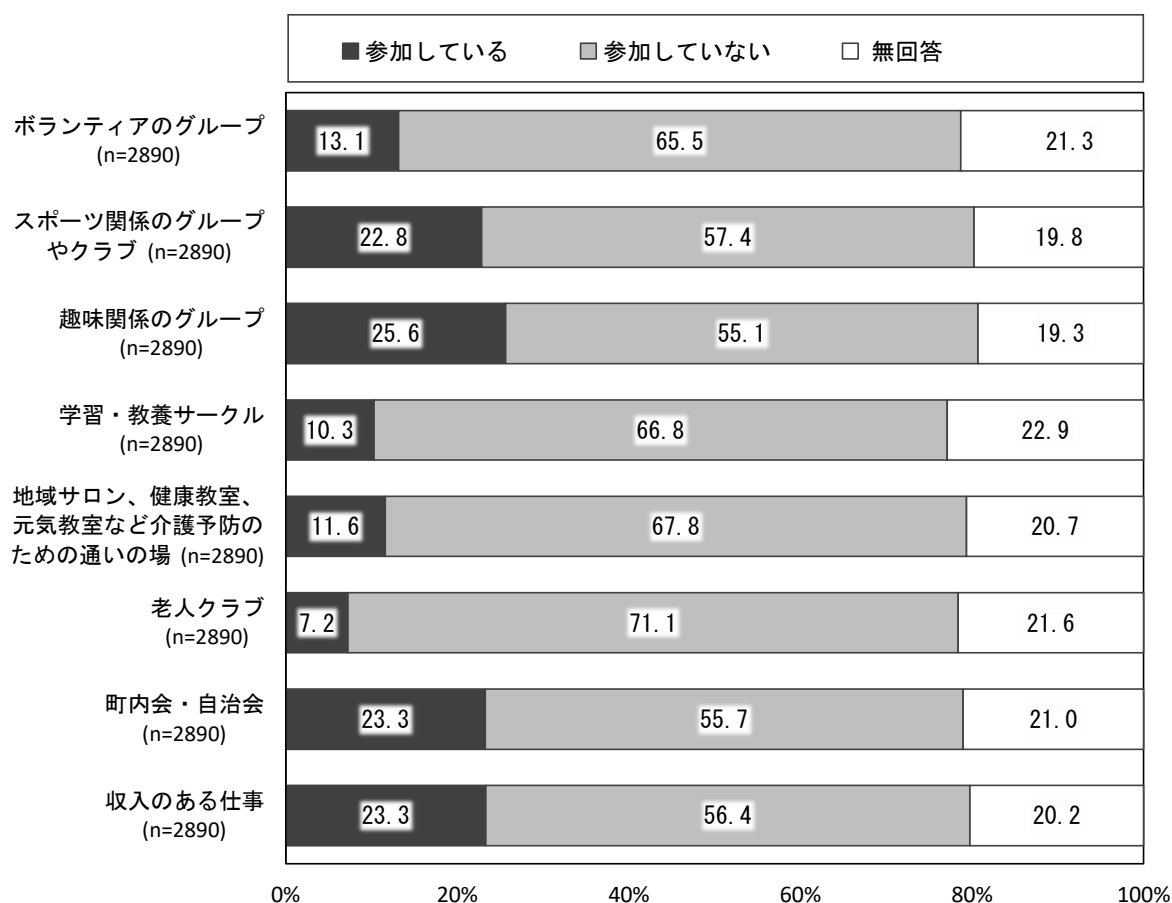
第7章 社会的資源等の把握

1 ボランティア等への参加状況

ボランティア等への参加状況についてみると、参加している人の割合が最も多いのは「趣味関係のグループ」で25.6%であった。次いで、「町内会・自治会」「収入のある仕事」(23.3%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(22.8%)となった。

問5	設問内容	選択肢
(1)	以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか ※それぞれに回答してください	1. 週4回以上
		2. 週2~3回
		3. 週1回
		4. 月1~3回
		5. 年に数回
		6. 参加していない

図表91 ボランティア等への参加状況



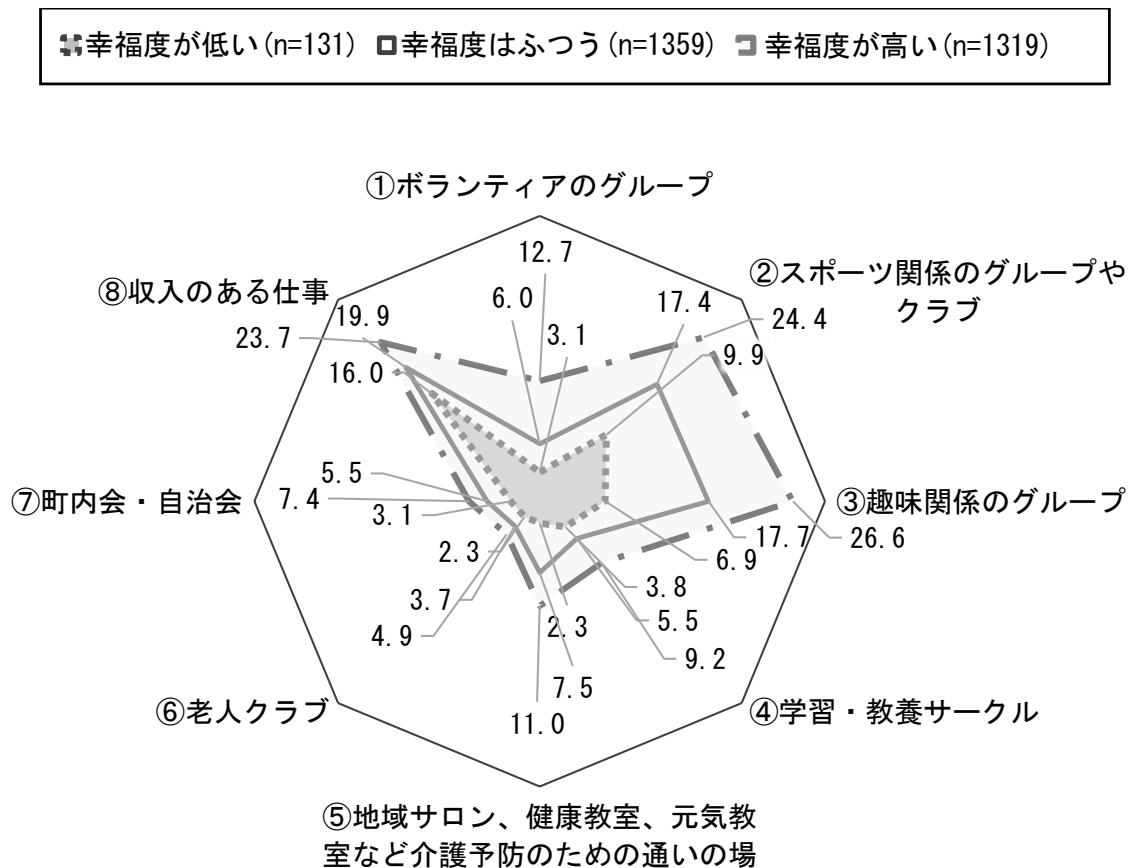
2 ボランティア等への参加と主観的幸福感との関係

①～⑧までの活動について、月1回以上「参加している」と回答した人の主観的幸福感をみると、いずれの活動も主観的幸福感が高い人の方が参加している割合が高いことが分かる。

「①ボランティアのグループ」「②スポーツ関係のグループやクラブ」「③趣味関係のグループ」「④学習・教養サークル」「⑤地域サロン、健康教室、元気教室など介護予防のための通いの場」「⑥老人クラブ」「⑦町内会・自治会」に月1回以上参加している人では、主観的幸福感が低いと回答した人の割合がいずれも10%を下回っている。

このことから、何らかの活動に定期的に参加していることが、主観的幸福感へと影響していることが考えられる。

図表92 主観的幸福感と各活動への参加状況

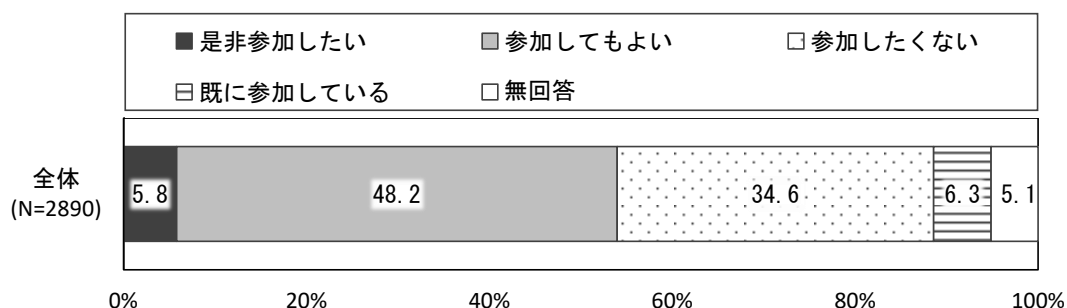


3 地域づくりの場への参加意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、その活動に参加してみたいかと尋ねたところ、参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は 54.0%であった。さらに、企画・運営（お世話役）として「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は 32.8%となっており、3割以上の人々が地域づくりについて自らの手で企画・運営を行いたいと考えていることが分かる。

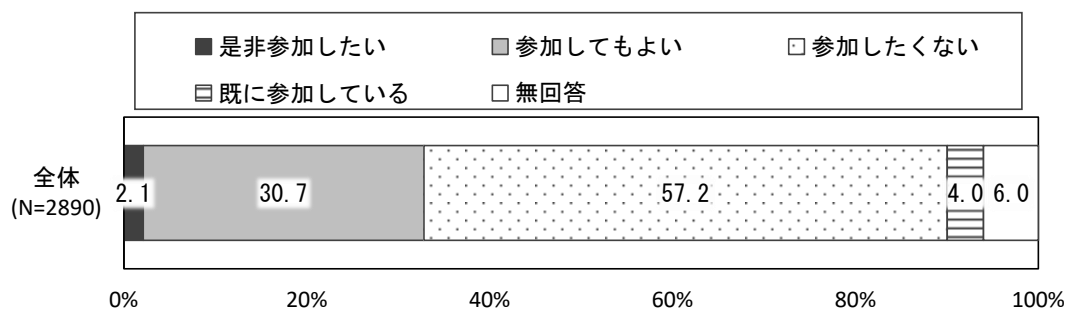
問 5	設問内容
(2)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に <u>参加者として</u> 参加してみたいと思いますか

図表93 地域作りの場への参加意向（参加者）



問 5	設問内容
(3)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に <u>企画・運営（お世話役）として</u> 参加してみたいと思いますか

図表94 地域作りの場への参加意向（お世話役）



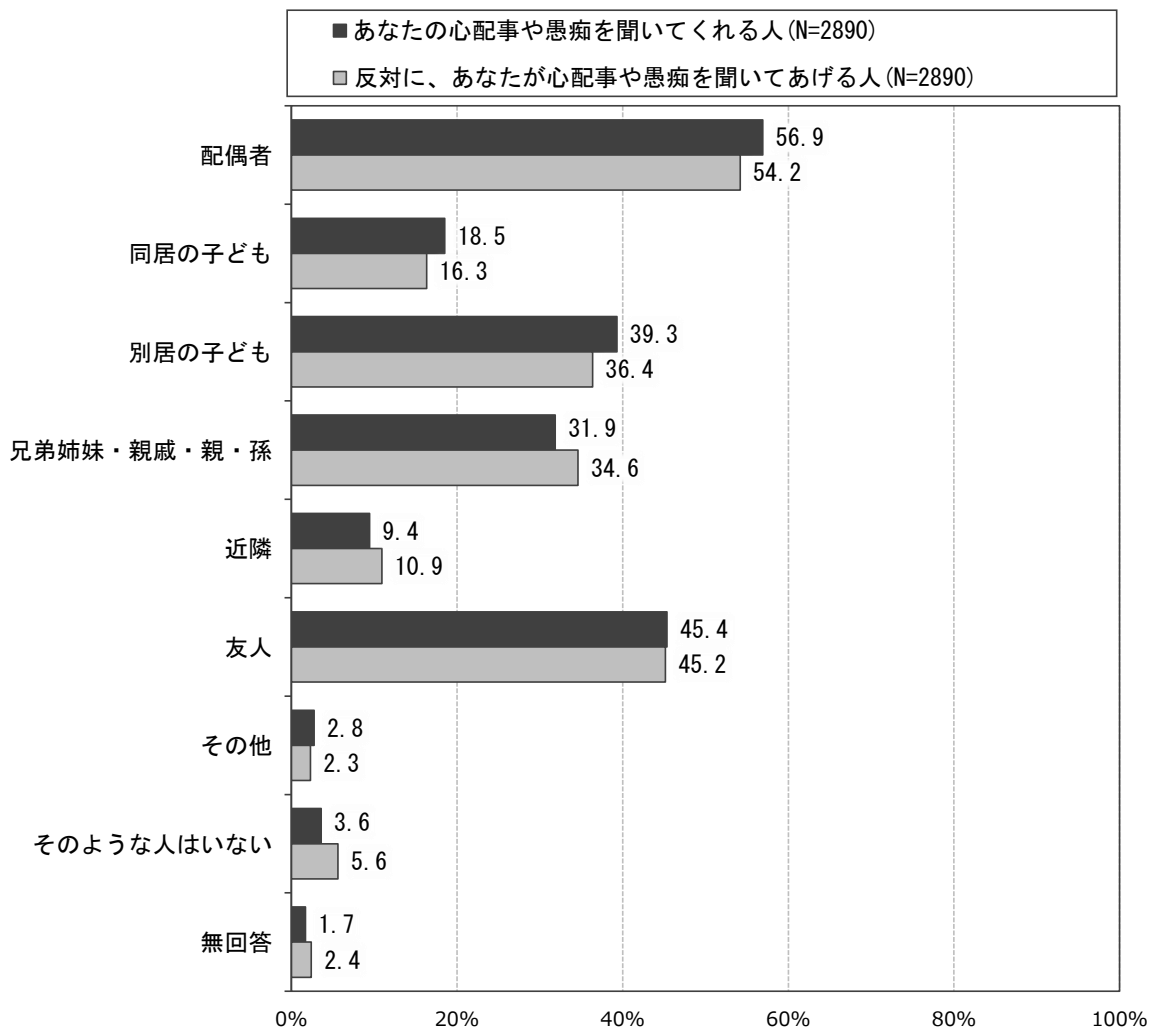
4 助け合いの状況

心配事や愚痴を聞いてくれる人について尋ねたところ、56.9%の人が「配偶者」と回答した。次いで、「友人」(45.4%)、「別居の子ども」(39.3%)となった。

反対に心配事や愚痴を聞いてあげる人について尋ねたところ、最も多かった回答は「配偶者」で54.2%となった。次いで、「友人」(45.2%)、「別居の子ども」(36.4%)であった。

問6	設問内容
(1)	あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人(いくつでも)
(2)	反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人(いくつでも)

図表95 愚痴や心配事について

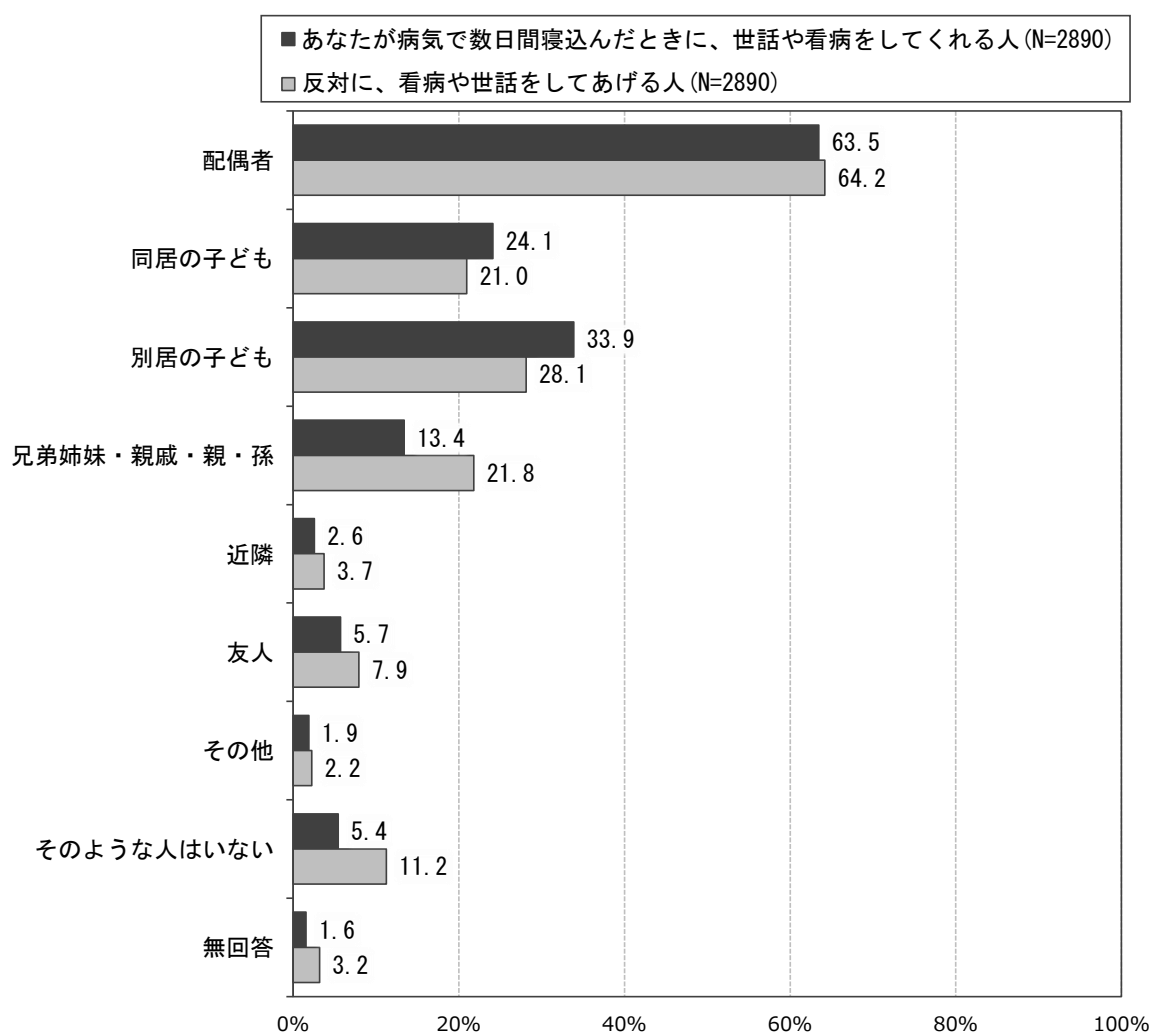


病気等で寝込んだ時に世話や看病をしてくれる人について尋ねたところ、「配偶者」と回答した人が 63.5%と最も多く、次いで、「別居の子ども」(33.9%)、「同居の子ども」(24.1%)となった。

反対に、看病や世話をしてあげる人について尋ねたところ、最も多かった回答は「配偶者」で 64.2%、次いで、「別居の子ども」(28.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(21.8%)となった。

問 6	設問内容
(3)	あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (いくつでも)
(4)	反対に、看病や世話をしてあげる人 (いくつでも)

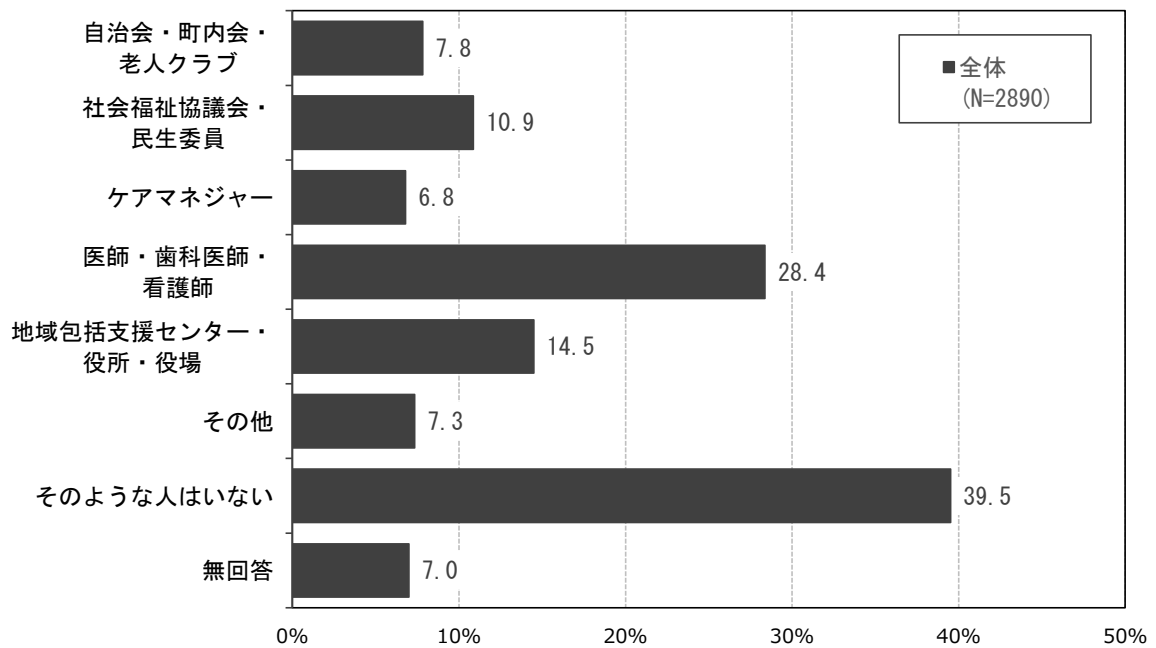
図表96 病気で寝込んだときの世話



家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手について尋ねたところ、「医師・歯科医師・看護師」と回答した人が最も多く、28.4%となった。次いで、「地域包括支援センター・役所・役場」(14.5%)、「社会福祉協議会・民生委員」(10.9%)となった。一方、「そのような人はいない」と回答した人は39.5%であった。

問 6	設問内容
(5)	家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (いくつでも)

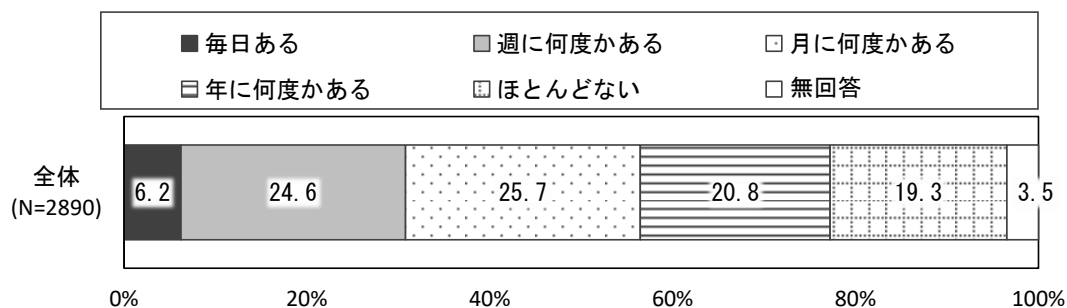
図表97 家族や友人・知人以外で相談できる人（場所）



5 交友関係について

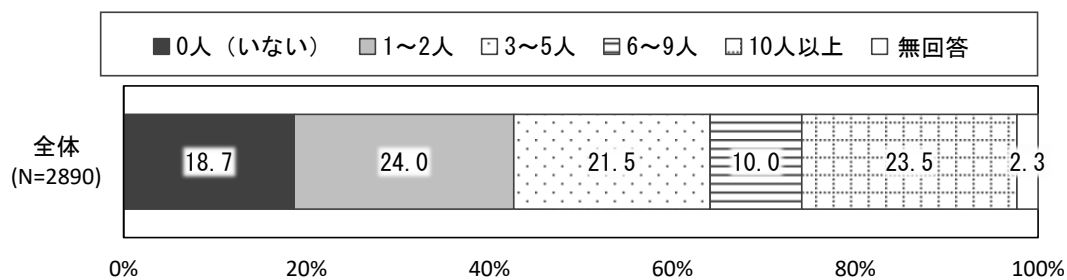
問 6	設問内容
(6)	友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

図表98 友人・知人と会う頻度



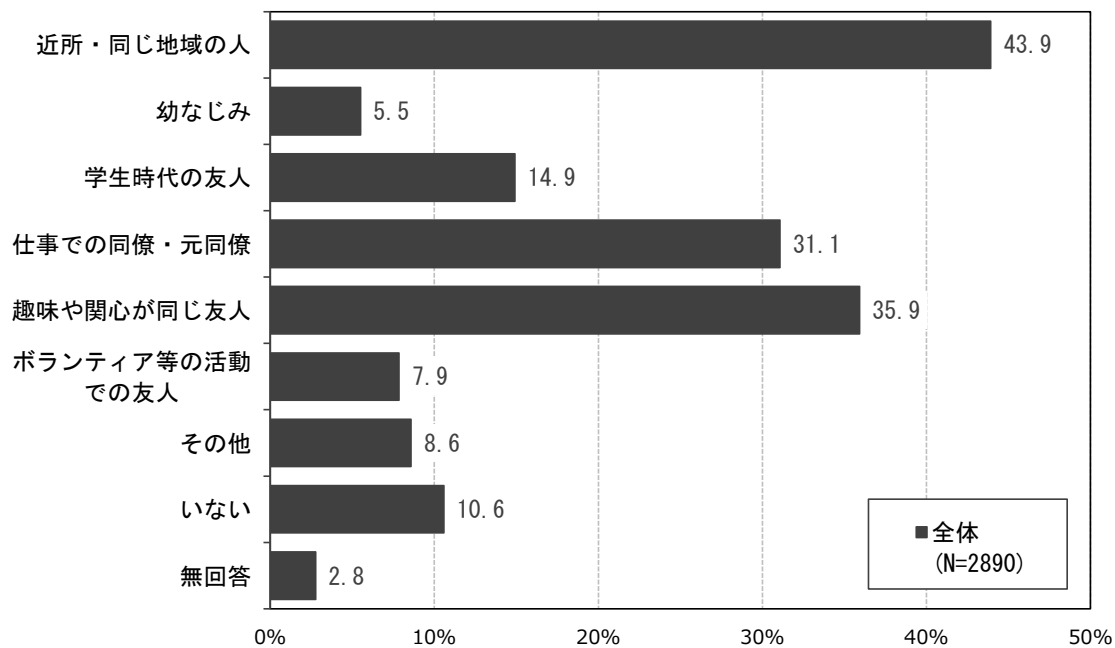
問 6	設問内容
(7)	この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします

図表99 過去1か月間にあった友人・知人の数



問 6	設問内容
(8)	よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (いくつでも)

図表100 よく会う友人・知人との関係

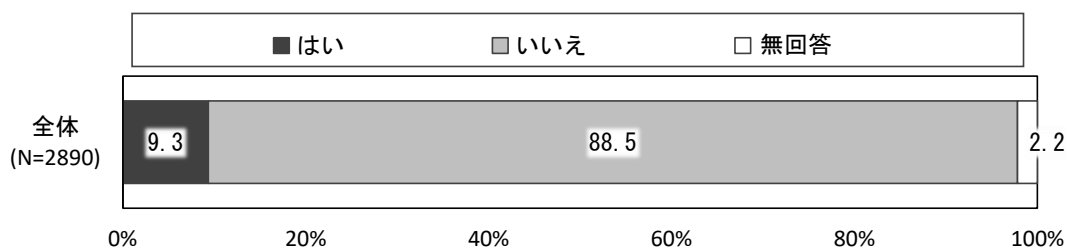


第8章 認知症に関する相談窓口について

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかを尋ねたところ、「はい」と回答した人は9.3%、「いいえ」と回答した人は88.5%であった。

問8	設問内容
(1)	認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

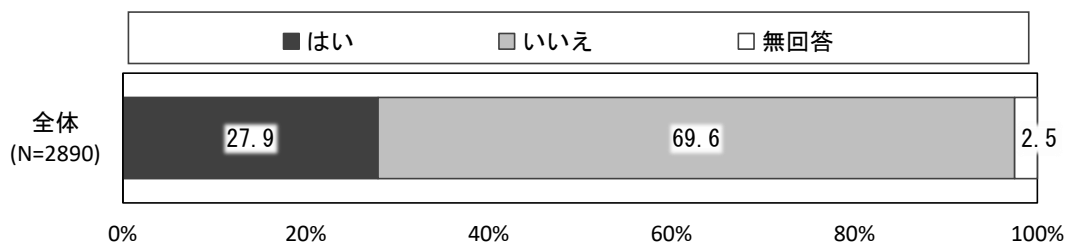
図表101 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるか



認知症に関する相談窓口を知っているかを尋ねたところ、「はい」と回答した人は27.9%、「いいえ」と回答した人は69.6%であった。

問8	設問内容
(2)	認知症に関する相談窓口を知っていますか

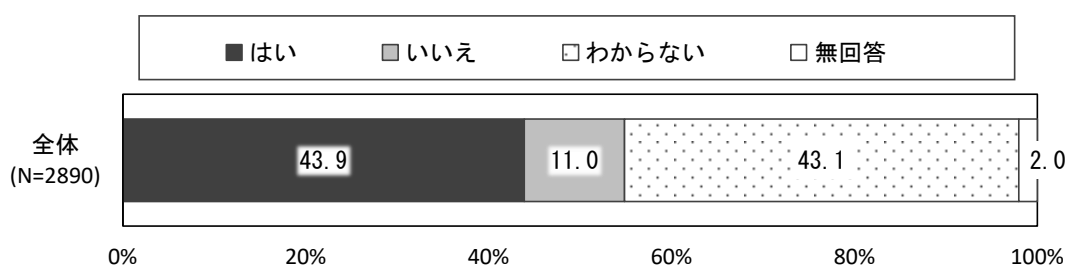
図表102 認知症に関する相談窓口の認知度



認知症になったら、周りの人に助けをもらいながら自宅での生活を続けたいかを尋ねたところ、「はい」と回答した人は43.9%、「わからない」と回答した人は43.1%、「いいえ」と回答した人は11.0%であった。

問8	設問内容
(3)	自分が認知症になったら、周りの人に助けをもらいながら自宅での生活を続けたいですか

図表103 自分が認知症になっても自宅での生活を続けたいか



第9章 独自設問からみる筑紫野市の現状

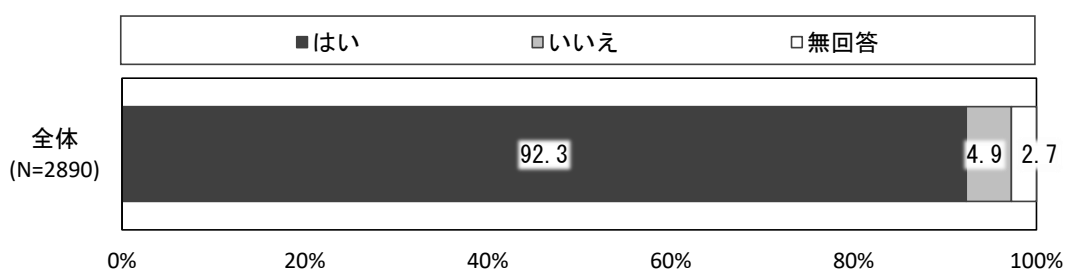
1 高齢者の移動について

自宅から公民館まで自分で行くことができるかを尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合は92.3%、「いいえ」と回答した人は4.9%であった。

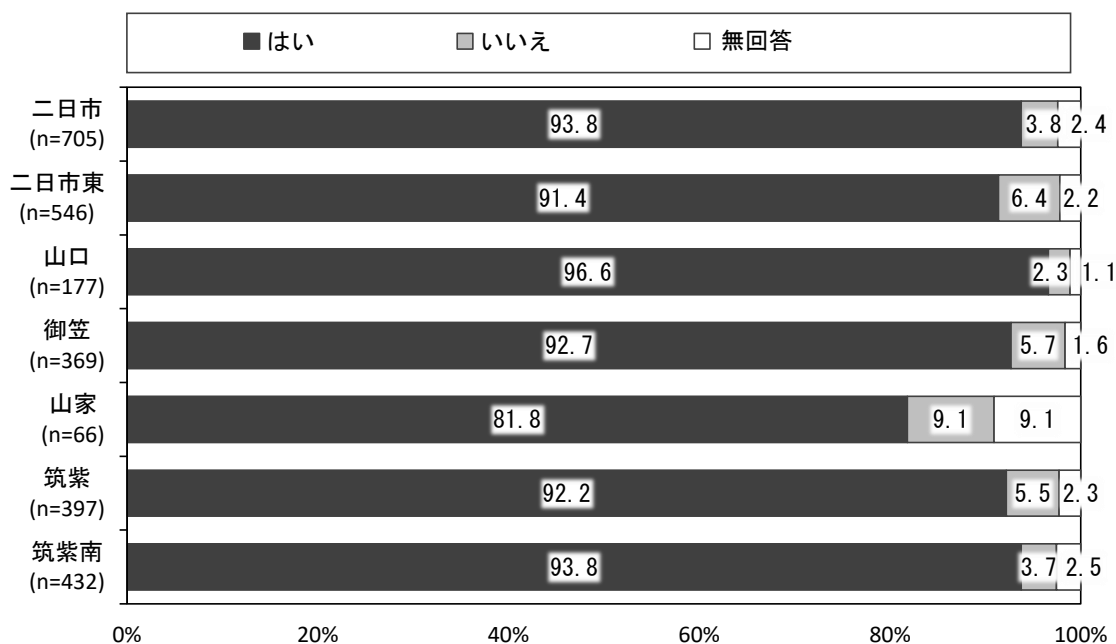
コミュニティ区域別にみると、「はい」と回答した人の割合が山家地区は81.8%となっており、他の地区と比較して最も低くなっている。

問9	設問内容
(1)	あなたの住まいから、ご自身で公民館まで行くことはできますか（徒歩・自家用車など交通手段は問いません）

図表104 移動について（全体）



図表105 移動について（コミュニティ区域別）

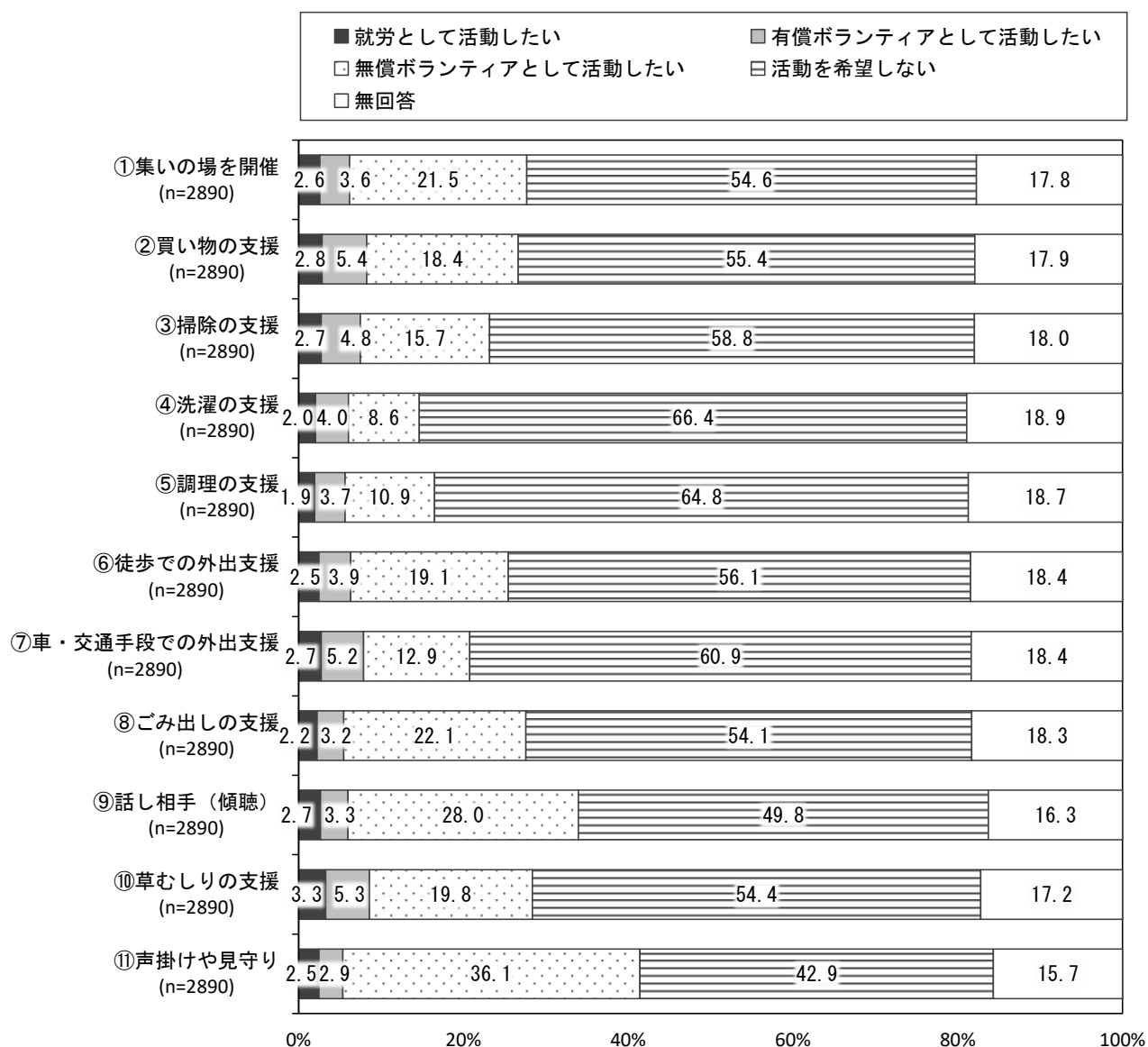


2 地域活動について

地域での支えあい活動に、支える側として活動する場合、どのような関わり方を希望するか尋ねると、すべての活動において「活動を希望しない」と回答した人が最も多かった。次いで、「無償ボランティアとして活動したい」、「有償ボランティアとして活動したい」となった。

問9	設問内容
(2)	地域での支えあい活動が求められています、あなたが支える側として活動する場合どのような関わり方を希望しますか ※ ① - ⑪それぞれに回答してください

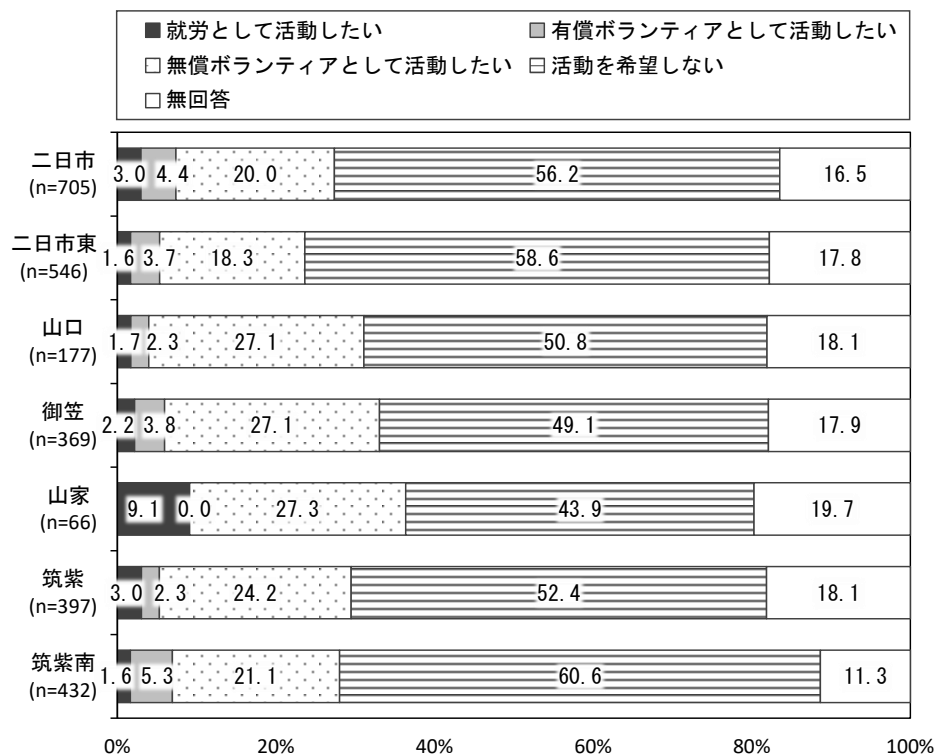
図表106 地域での支え合い活動について（支える側として希望する活動）



①集いの場の開催について、コミュニティ区域別でみると『活動したい』（「就労として活動したい」「有償ボランティアとして活動したい」「無償ボランティアとして活動したい」の合計）と回答した人の割合が山家地区は36.4%となっており、他の地区と比較して最も高い。

図表107 地域での支え合い活動について（支える側として希望する活動）

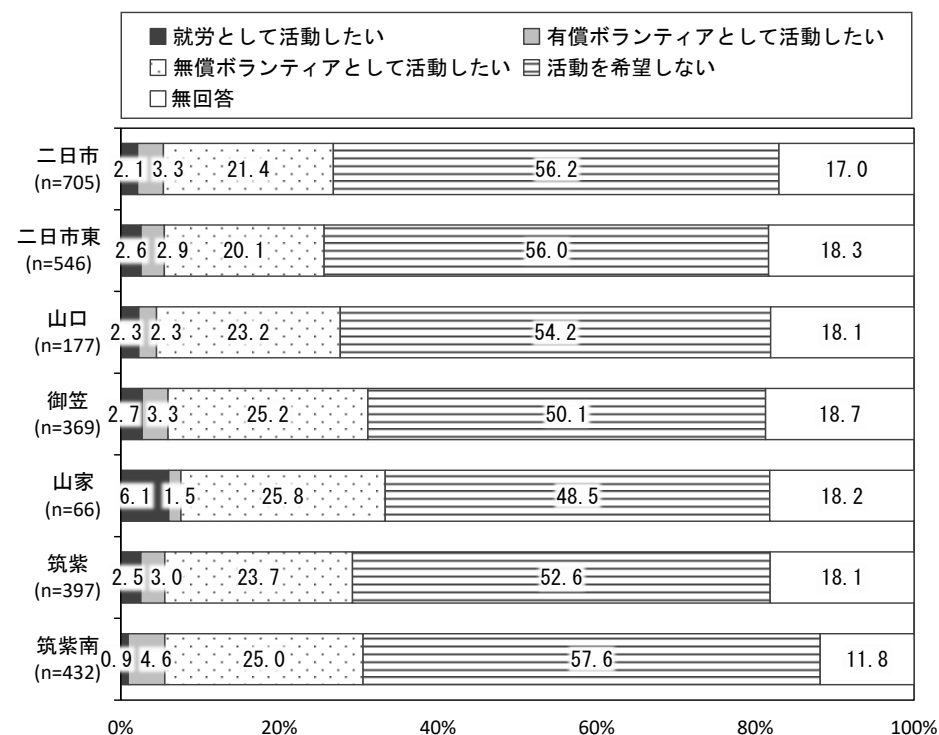
①集いの場を開催（コミュニティ区域別）



⑧ごみ出しの支援について、コミュニティ区域別でみると『活動したい』と回答した人の割合が山家地区は33.4%となっており、他の地区と比較して最も高い。

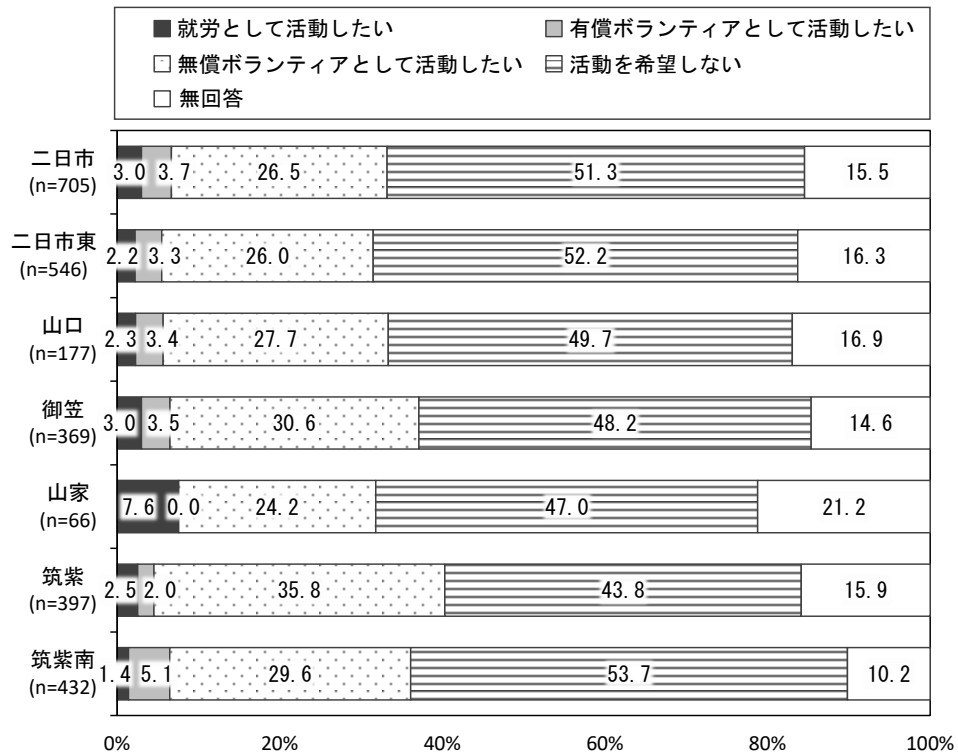
図表108 地域での支え合い活動について（支える側として希望する活動）

⑧ごみ出しの支援（コミュニティ区域別）



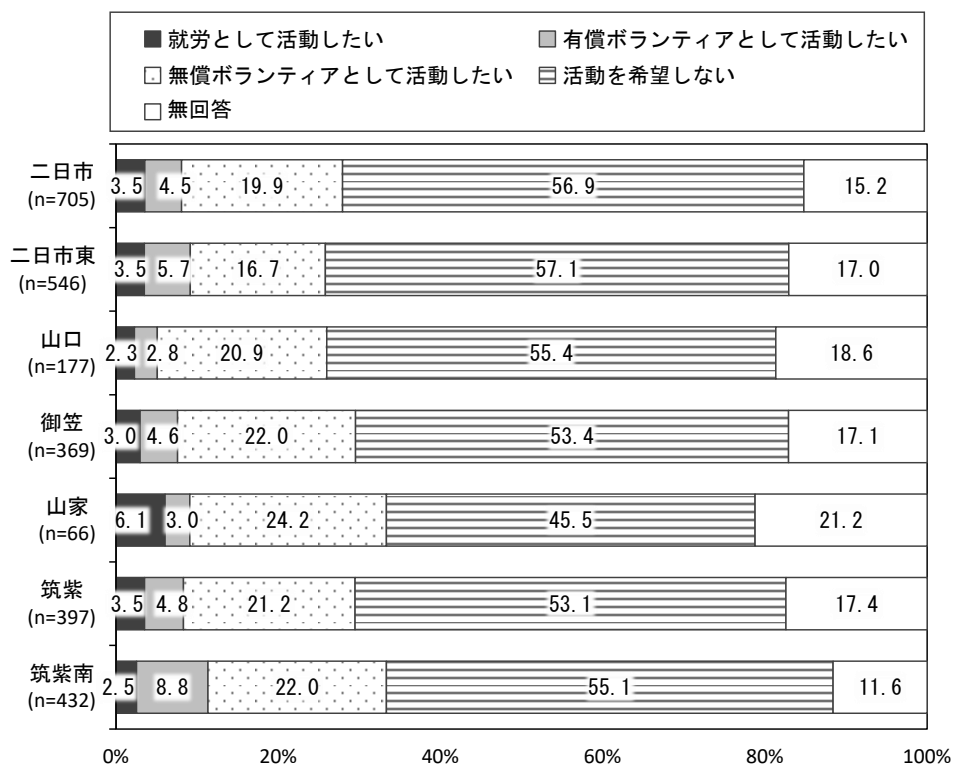
⑨話し相手（傾聴）について、コミュニティ区域別でみると『活動したい』と回答した人の割合が筑紫地区は40.3%となっており、他の地区と比較して最も高い。

図表109 地域での支え合い活動について（支える側として希望する活動）
⑨話し相手（傾聴）（コミュニティ区域別）



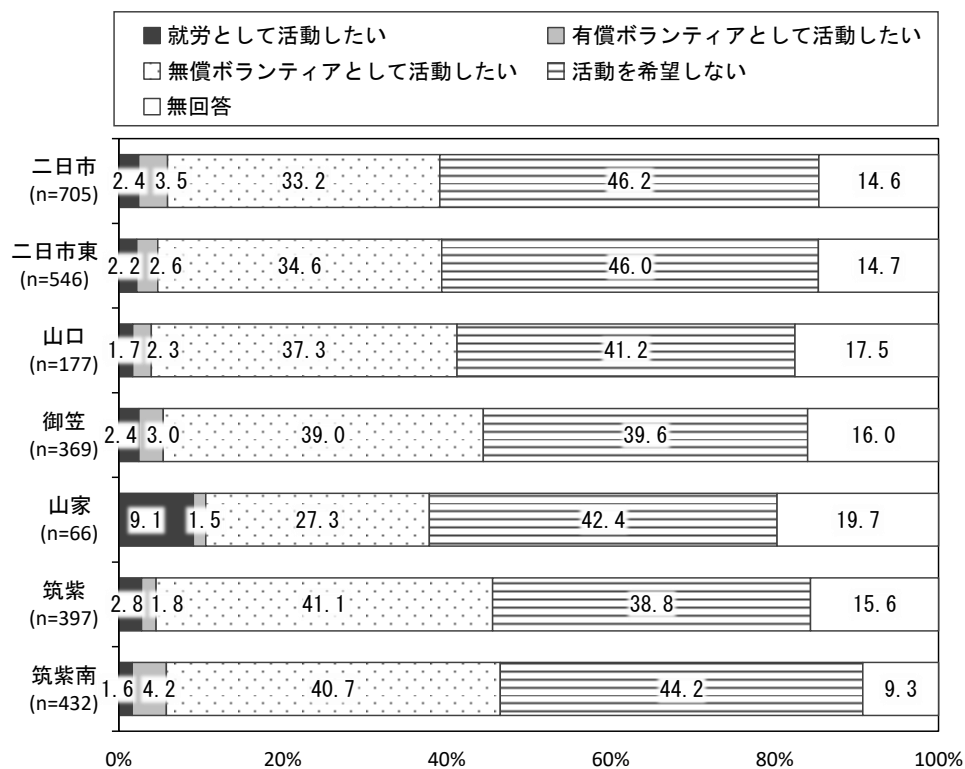
⑩草むしりの支援について、コミュニティ区域別でみると『活動したい』と回答した人の割合が山家地区と筑紫南地区は33.3%となっており、他の地区と比較して最も高い。

図表110 地域での支え合い活動について（支える側として希望する活動）
⑩草むしりの支援（コミュニティ区域別）



⑪声掛けや見守りについて、コミュニティ区域別でみると『活動したい』と回答した人の割合が筑紫南地区は46.5%となっており、他の地区と比較して最も高い。

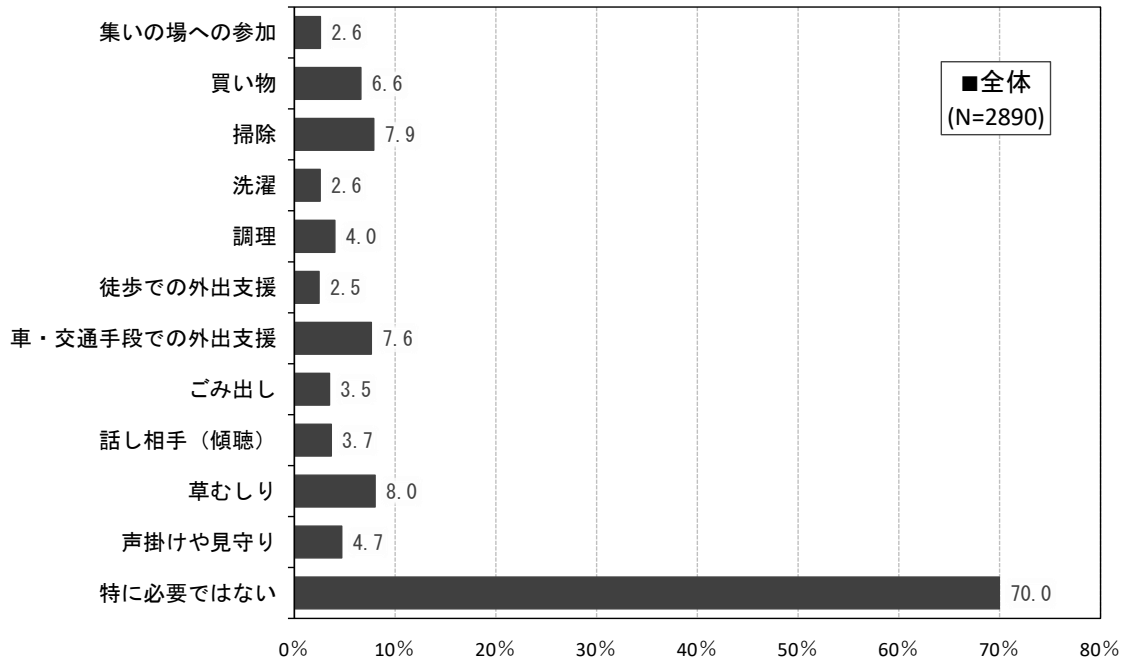
図表111 地域での支え合い活動について（支える側として希望する活動）
⑪声掛けや見守り（コミュニティ区域別）



普段の生活でしてほしい手助けについて尋ねると、「草むしり」と回答した人が8.0%と最も多く、次いで、「掃除」(7.9%)、「車・交通手段での外出支援」(7.6%)となった。

問9	設問内容
(3)	あなたは普段の生活で、どのような手助けをしてほしいとおもっていますか (いくつでも)

図表112 手助けについて

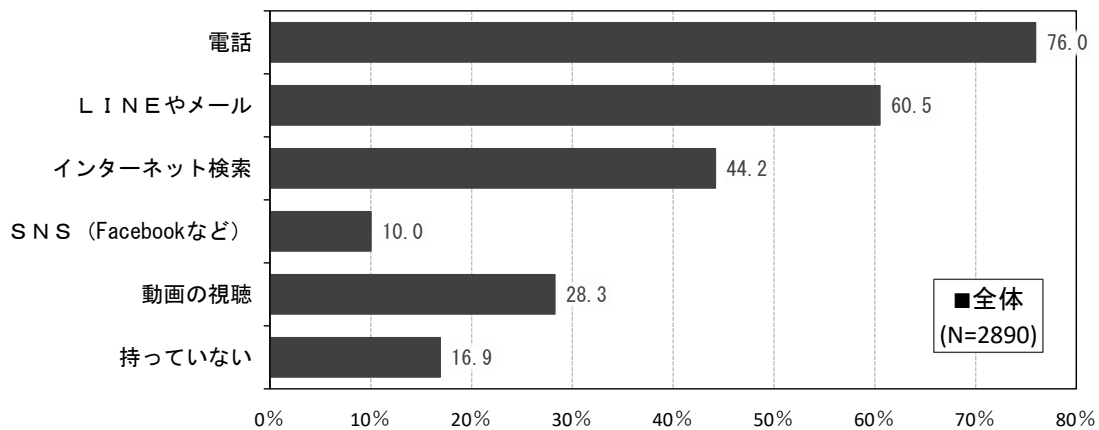


3 これからの施策に関することについて

スマートフォンで行っていることについて、「電話」と回答した人が76.0%と最も多く、次いで、「LINEやメール」(60.5%)、「インターネット検索」(44.2%)となった。

問9	設問内容
(4)	あなたがスマートフォンで行っていることを下記の中から選んで下さい (いくつでも)

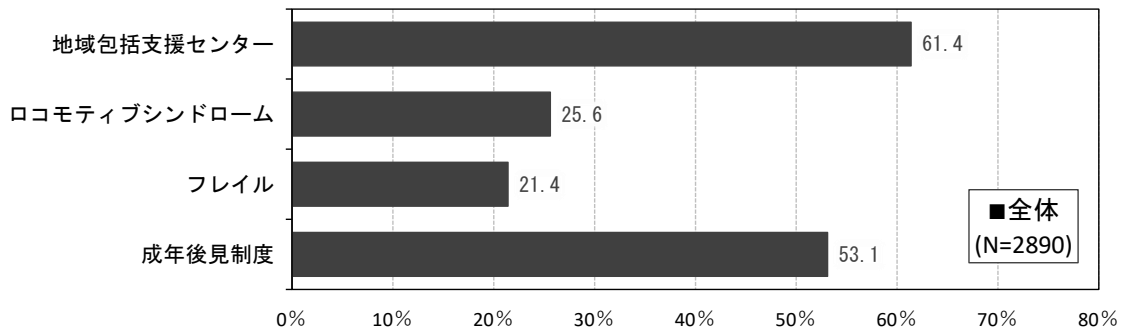
図表113 スマートフォンで行っていること



制度や言葉の認知度について尋ねたところ、過半数が「地域包括支援センター」と「成年後見制度」について知っているとして回答した。一方、「ロコモティブシンドローム」と「フレイル」は2割程度となった。

問9	設問内容
(5)	次にあげるような制度や言葉の中で、どれを知っていますか (いくつでも)

図表114 制度や言葉の認知度

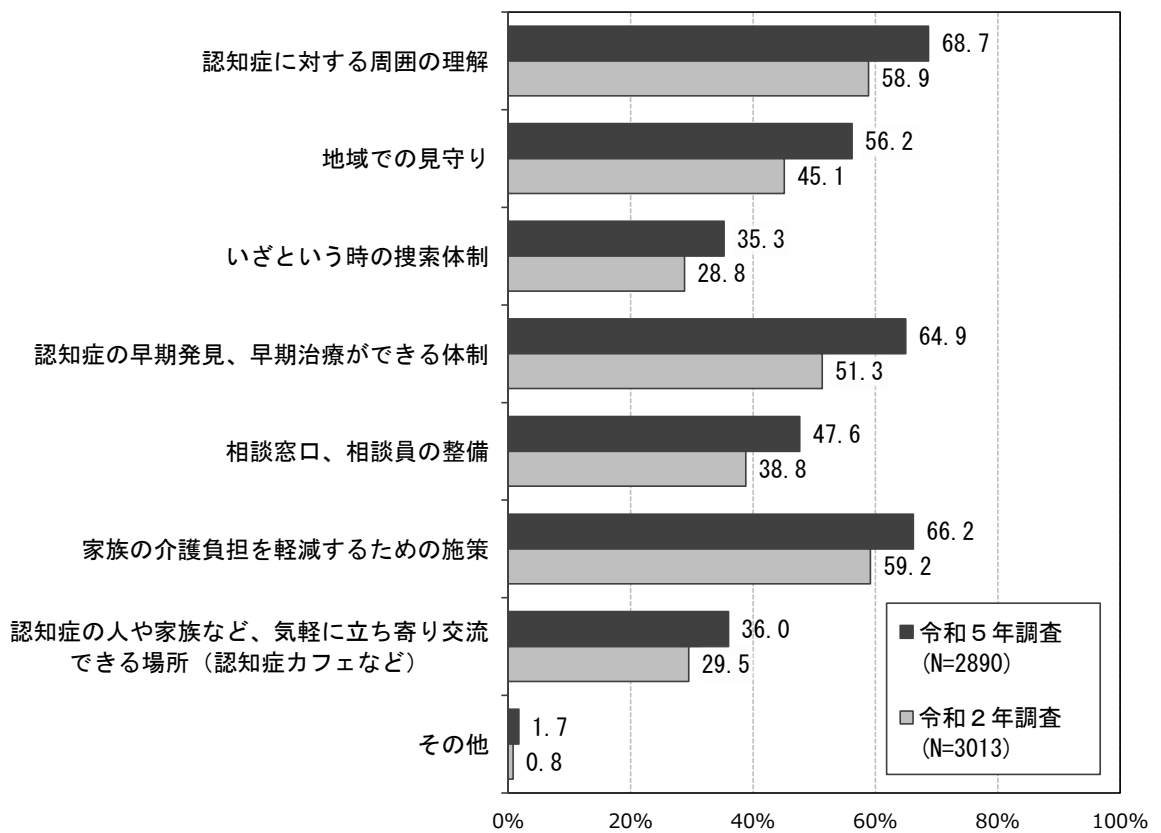


認知症の人が安心して生活できるために、必要だと思うことについて、「認知症に対する周囲の理解」と回答した人が 68.7%と最も多く、次いで、「家族の介護負担を軽減するための施策」(66.2%)、「認知症の早期発見、早期治療ができる体制」(64.9%)となった。

また、全項目において前回調査より増加しているが、特に「認知症の早期発見、早期治療ができる体制」は 13.6 ポイント増加している。

問9	設問内容
(6)	認知症の人が安心して生活できるために、必要だと思われるものをあげてください (いくつでも)

図表115 認知症の人が安心して生活できるために、必要なもの

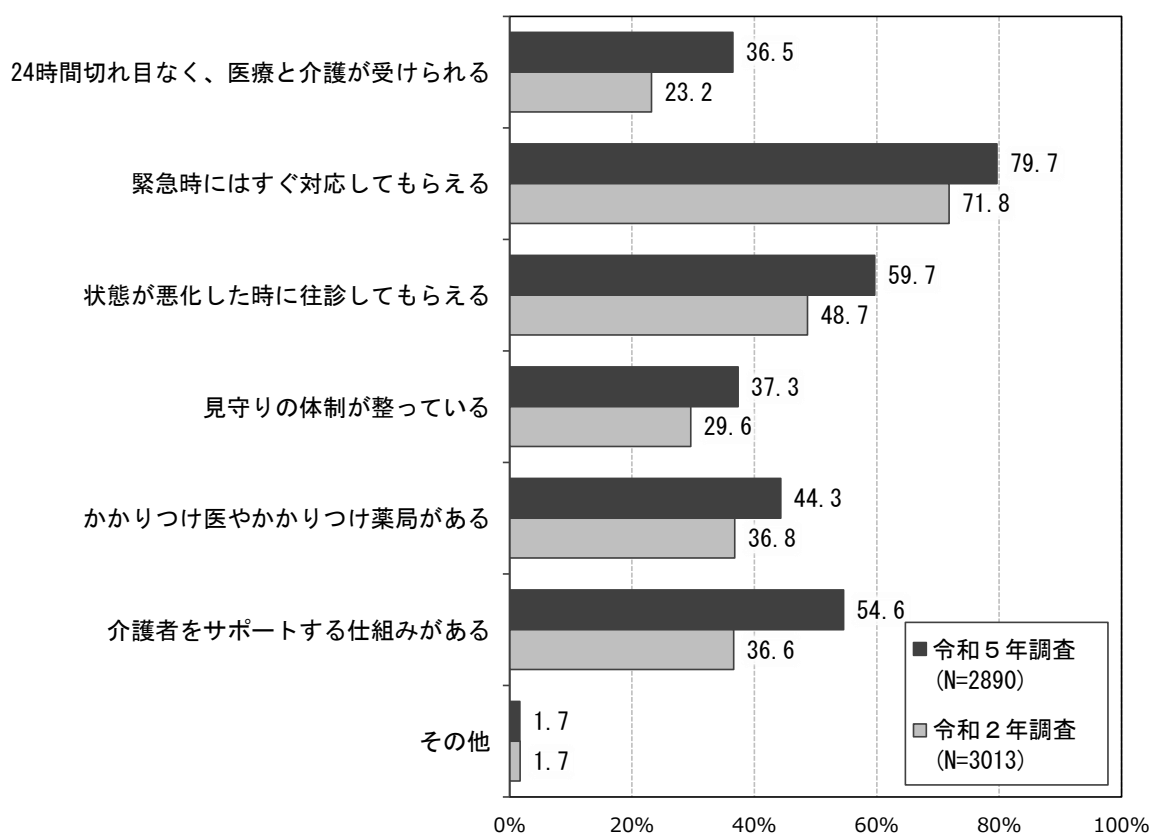


介護が必要になっても、できるだけ自宅で暮らすために、必要だと思うサービスについて尋ねたところ、「緊急時にすぐに対応してもらえる」と回答した人の割合が最も高く、79.7%であった。次いで、「状態が悪化した時に往診してもらえる」(59.7%)、「介護者をサポートする仕組みがある」(54.6%)となった。

また、全項目において前回調査と比較して増加しているが、特に「介護者をサポートする仕組みがある」は18.0ポイント増加している。

問9	設問内容
(7)	介護が必要になっても、できるだけ自宅で暮らすために、どんなサービスがあればよいと思いますか(いくつでも)

図表116 自宅で過ごすために必要だと思うサービス

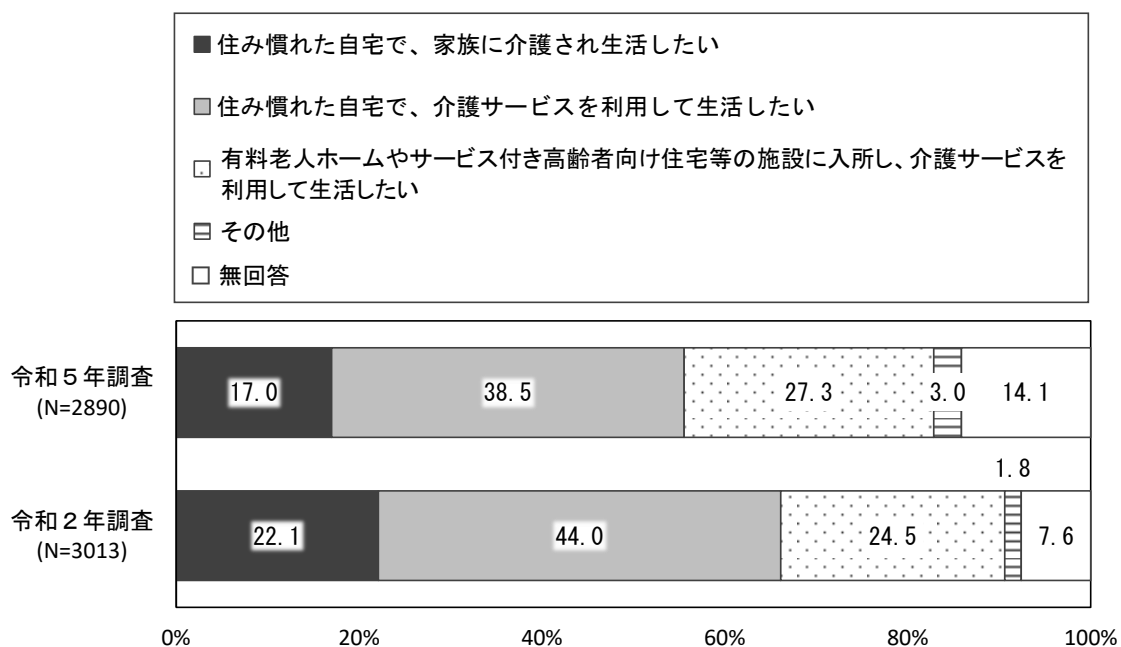


将来介護が必要になった時、どこで生活したいと思うかを尋ねたところ、「住み慣れた自宅で、介護サービスを利用して生活したい」と回答した人の割合が最も高く、38.5%であった。次いで、「有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等の施設に入所し、介護サービスを利用して生活したい」(27.3%)、「住み慣れた自宅で、家族に介護され生活したい」(17.0%)となった。

また、前回調査と比較して「住み慣れた自宅で、家族に介護され生活したい」は5.1ポイント減少、「住み慣れた自宅で、介護サービスを利用して生活したい」は5.5ポイント減少となった。

問9	設問内容
(8)	将来介護が必要になった時、どこで生活したいと思いますか

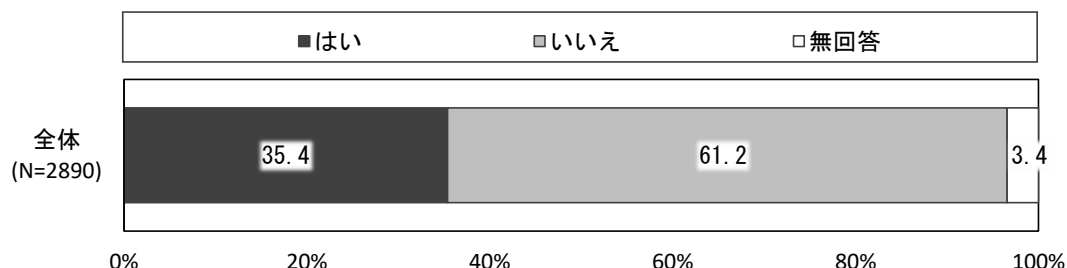
図表117 将来介護が必要になった時に生活したい場所



人生の最期の迎え方について、家族と話し合った経験があるかを尋ねたところ、「はい」と回答した人の割合は35.4%、「いいえ」と回答した人の割合は61.2%となった。

問9	設問内容
(9)	人生の最期の迎え方について、家族と話し合った経験がありますか

図表118 人生の最期の迎え方について家族と話し合った経験

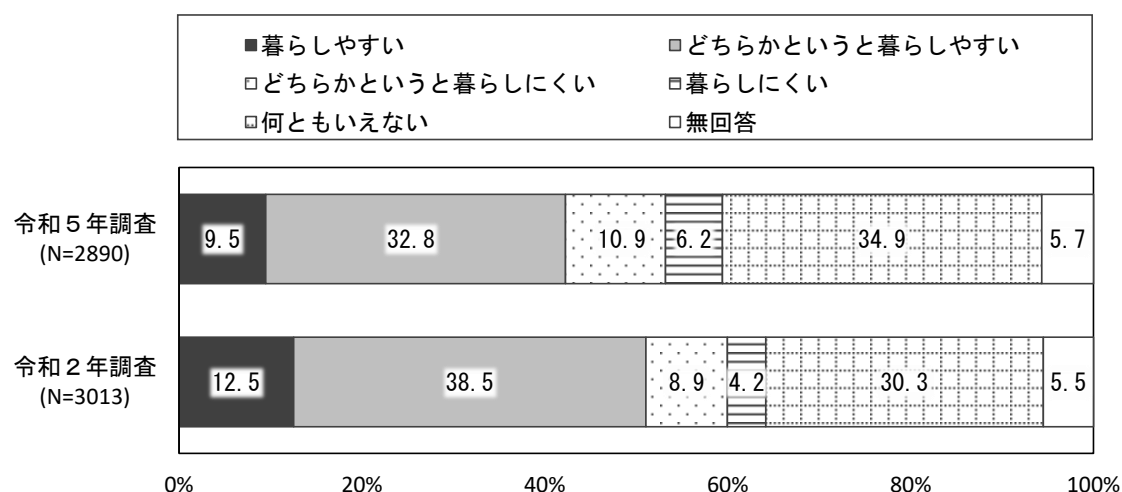


筑紫野市は高齢者が暮らしやすいまちだと思えるか尋ねたところ、「暮らしやすい」「どちらかという暮らしやすい」と回答した人の割合は42.3%となり、令和2年の調査時(51.0%)と比較して8.7ポイント減少した。

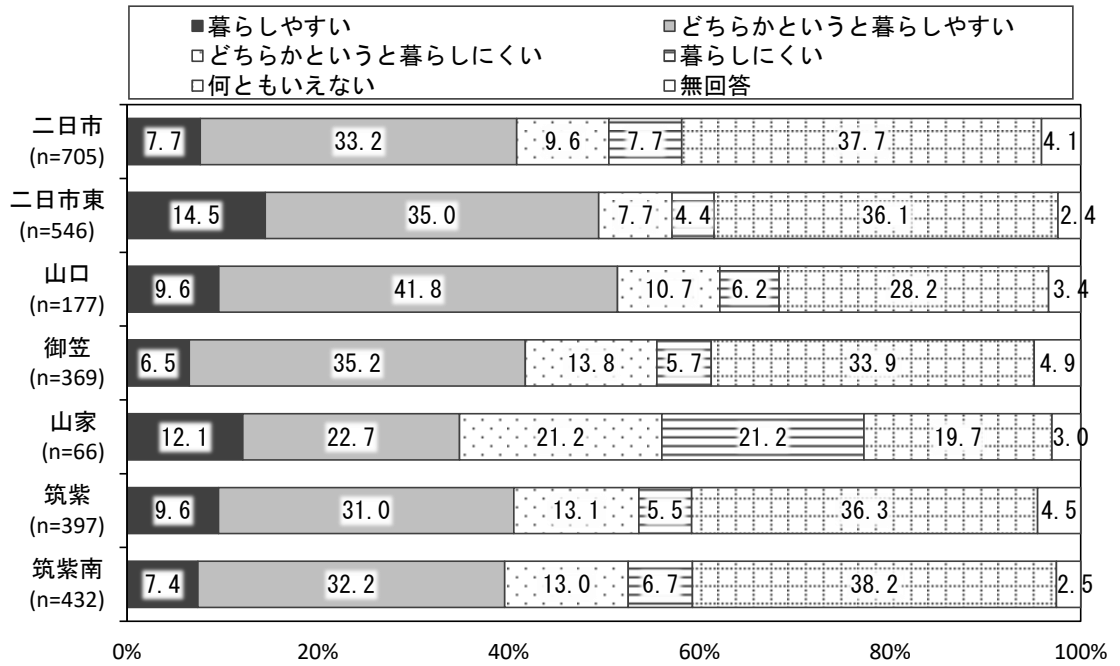
また、コミュニティ区域別では、「暮らしやすい」「どちらかという暮らしやすい」と回答した人の割合が最も高い区域は、山口地区で51.4%、次いで二日市東地区(49.5%)となっている。

問9	設問内容
(10)	筑紫野市は高齢者が暮らしやすいまちだと思いますか

図表119 生活のしやすさについて



図表120 生活のしやすさについて（コミュニティ区域別）



在宅介護実態調査

第1章 調査の概要

1 調査の設計

調査内容	国が示した「在宅介護実態調査票」に基づき作成
調査対象者	筑紫野市の介護保険被保険者のうち、要介護認定を受けている65歳以上の高齢者
抽出方法	無作為抽出
配布・回収方法	郵送による配布・回収
調査の期間	令和5年1月27日～令和5年2月15日

2 回収の結果

調査対象者	有効回収数	有効回収率
1,000人	621人	62.1%

3 報告書の見方

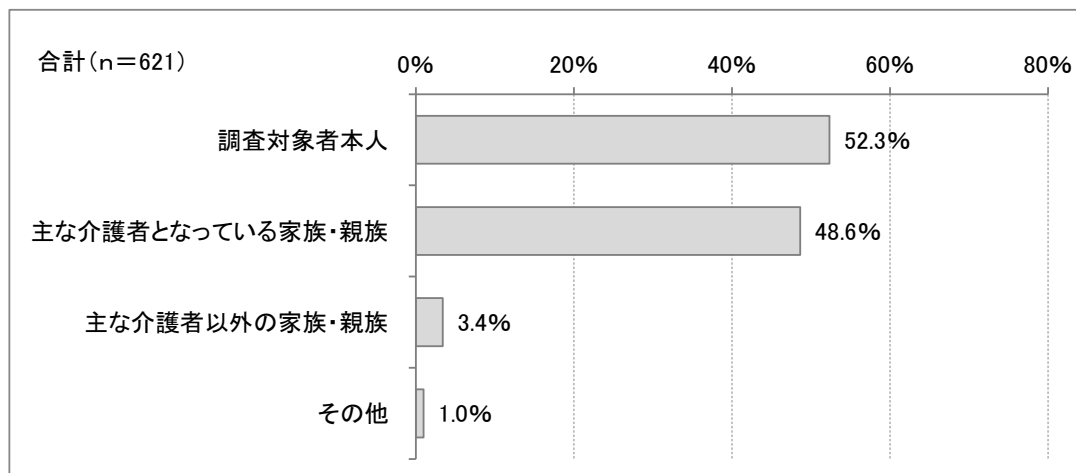
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示す。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。
- 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには「0.0」と表記している。
- 図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示す。

第2章 基本調査項目（A票）

1 調査票の回答者

「調査対象者本人」の割合が最も高く 52.3%となっている。次いで、「主な介護者となっている家族・親族（48.6%）」、「主な介護者以外の家族・親族（3.4%）」となっている。

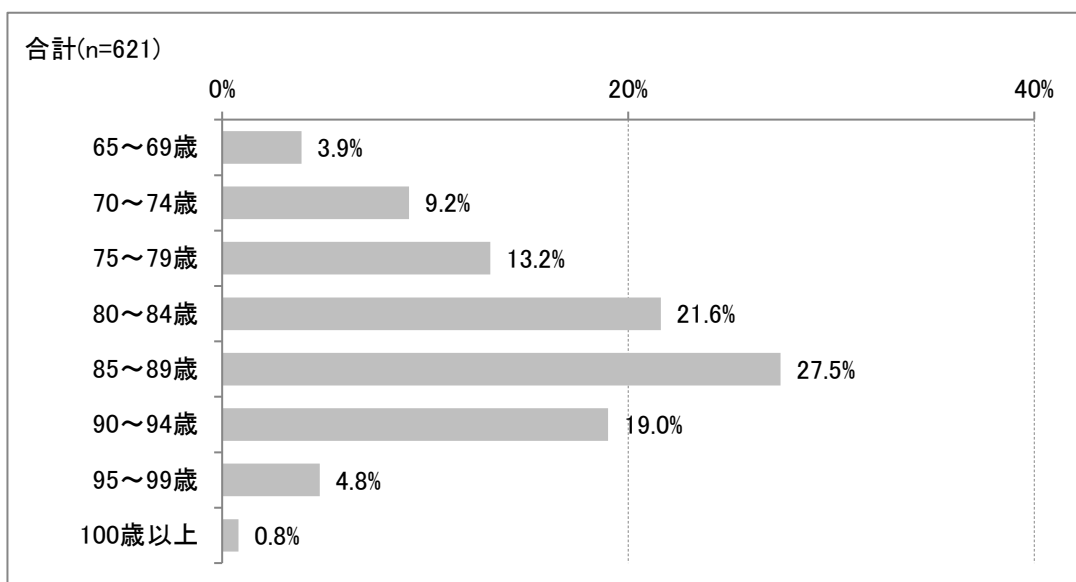
図表 1-1 調査票の回答者（複数回答）



2 年齢

「85～89歳」の割合が最も高く 27.5%となっている。次いで、「80～84歳（21.6%）」、「90～94歳（19.0%）」となっている。

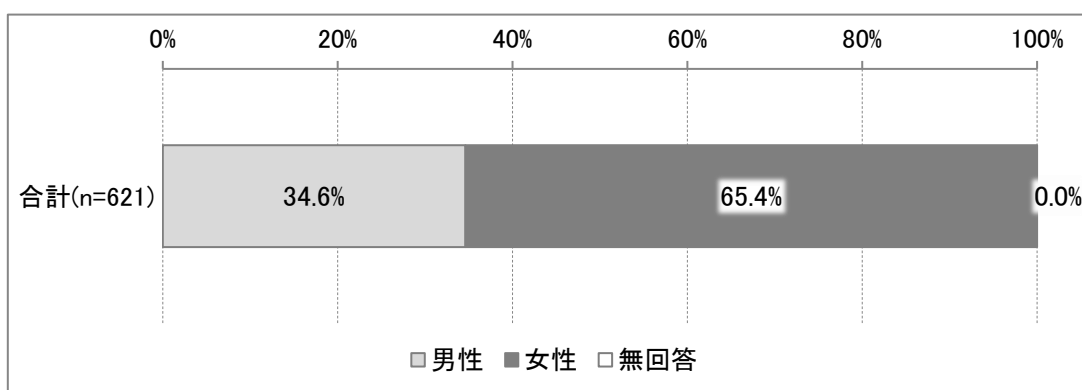
図表 1-2 調査対象者の年齢



3 性別

「女性」の割合が65.4%、「男性」の割合が34.6%となっている。

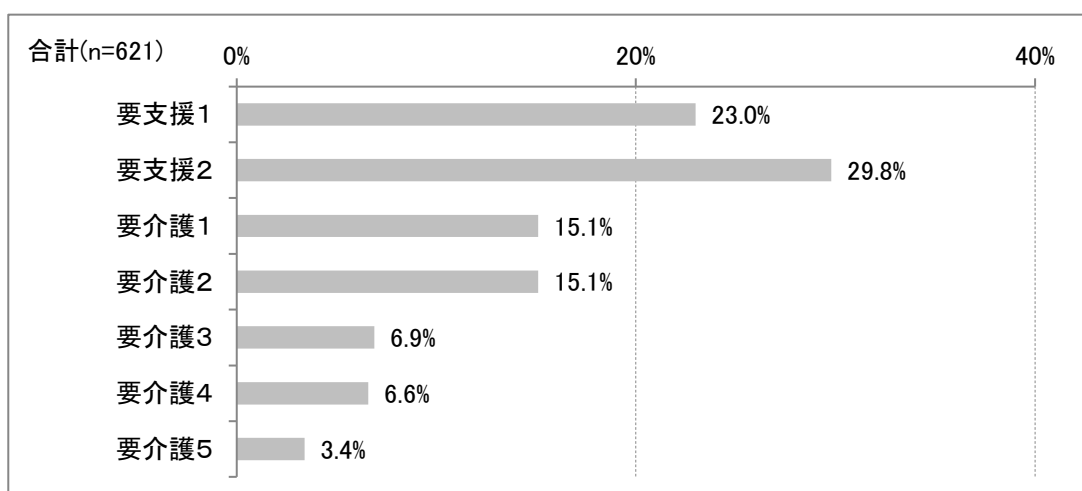
図表 1-3 性別



4 要介護度

「要支援2」の割合が最も高く29.8%となっている。次いで、「要支援1 (23.0%)」、「要介護1 (15.1%)」、「要介護2 (15.1%)」となっている。

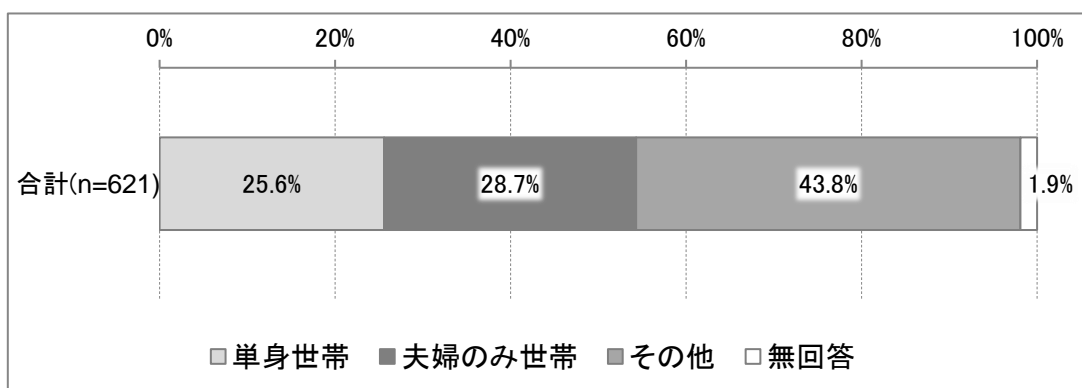
図表 1-4 要介護度



5 世帯類型

「その他」の割合が最も高く43.8%となっている。次いで、「夫婦のみ世帯 (28.7%)」、「単身世帯 (25.6%)」となっている。

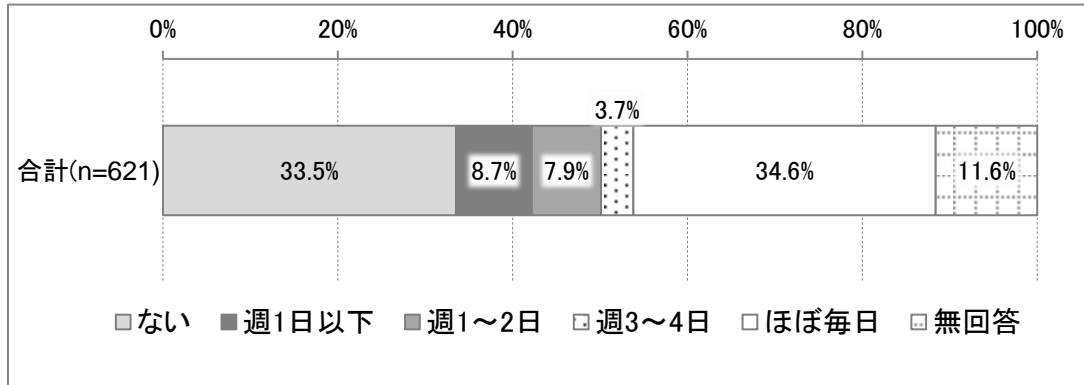
図表 1-5 世帯類型



6 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 34.6%となっている。次いで、「ない (33.5%)」、「週1日以下 (8.7%)」となっている。

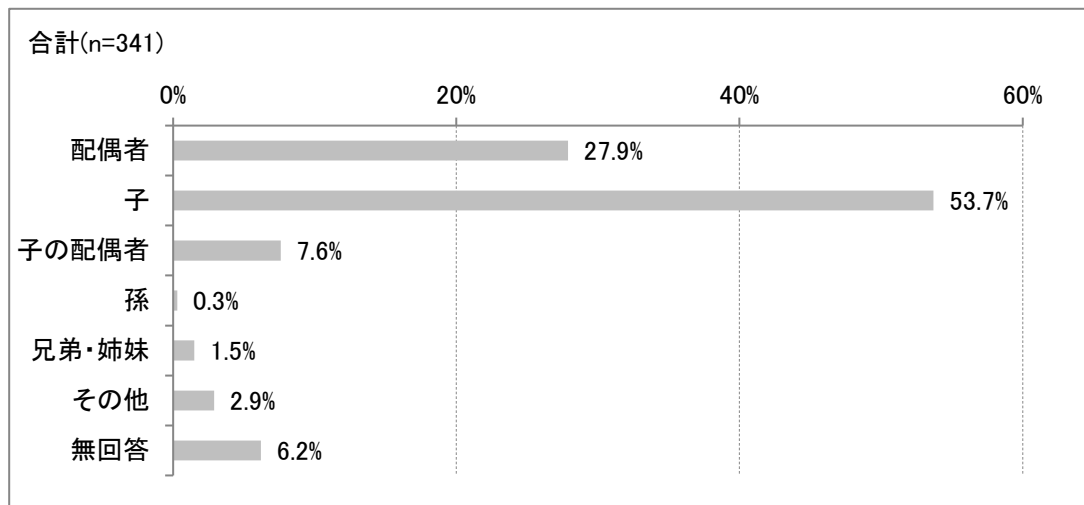
図表 1-6 家族等による介護の頻度



7 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 53.7%となっている。次いで、「配偶者 (27.9%)」、「子の配偶者 (7.6%)」となっている。

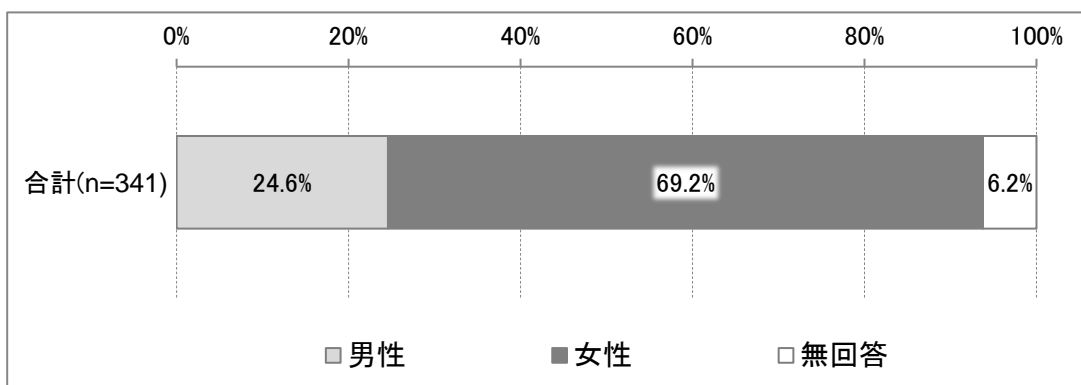
図表 1-7 ★主な介護者の本人との関係



8 主な介護者の性別

「女性」の割合が 69.2%、「男性」の割合が 24.6%となっている。

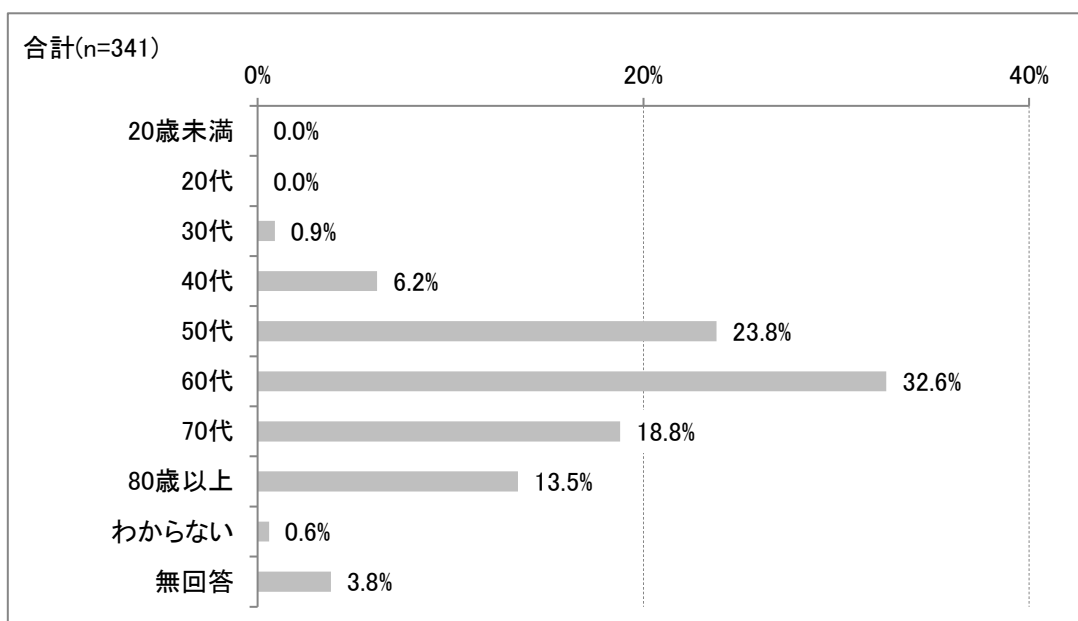
図表 1-8 主な介護者の性別



9 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く 32.6%となっている。次いで、「50代(23.8%)」、「70代(18.8%)」となっている。

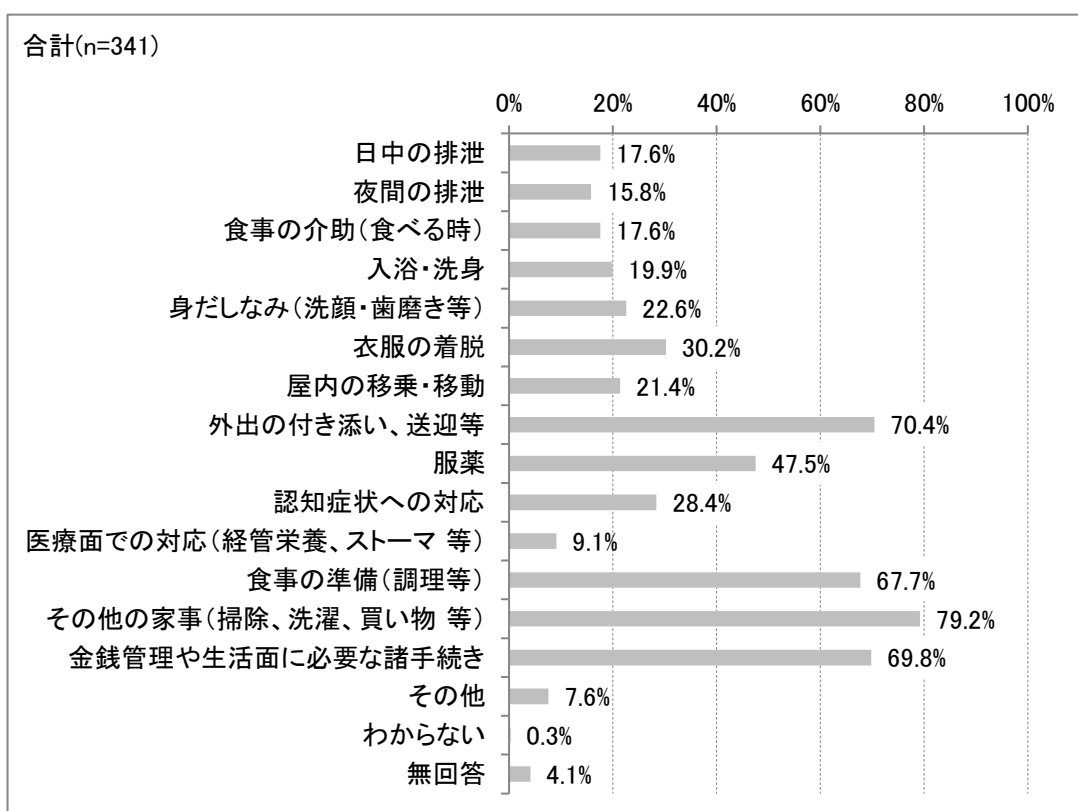
図表 1-9 主な介護者の年齢



10 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 79.2%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等（70.4%)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（69.8%)」となっている。

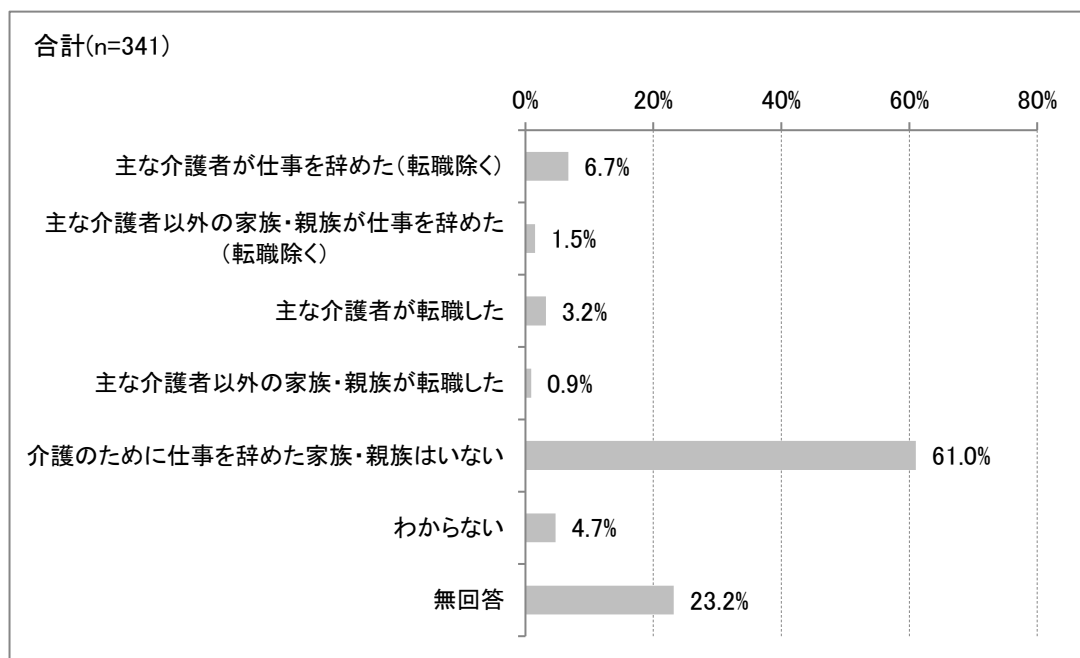
図表 1-10 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



11 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 61.0%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（6.7%）」、「わからない（4.7%）」、「主な介護者が転職した（3.2%）」となっている。

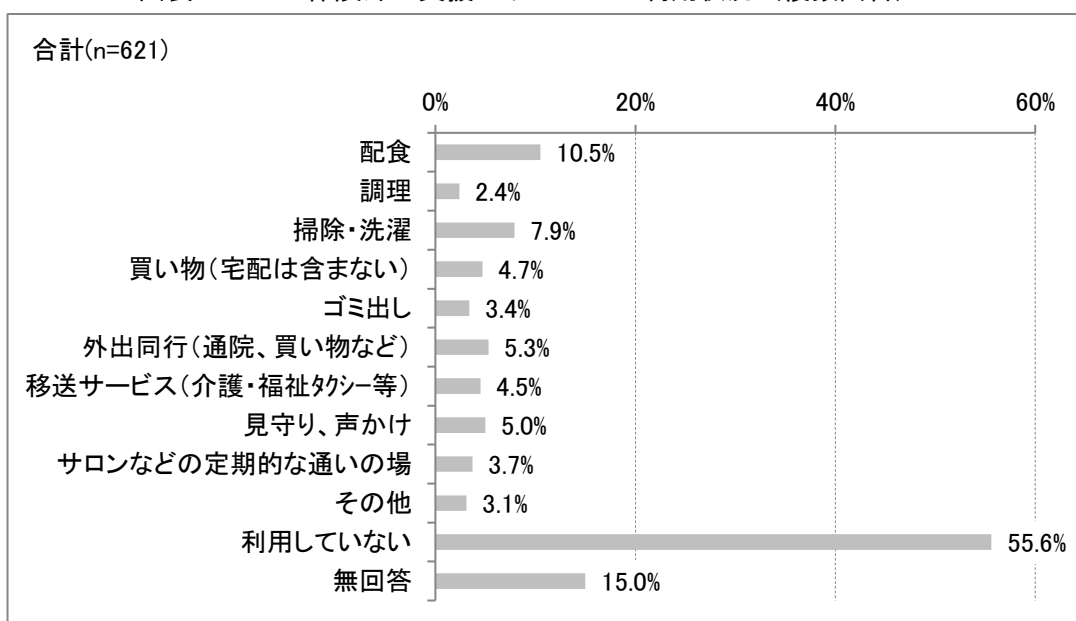
図表 1-11 介護のための離職の有無（複数回答）



12 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 55.6%となっている。次いで、「配食（10.5%）」、「掃除・洗濯（7.9%）」となっている。

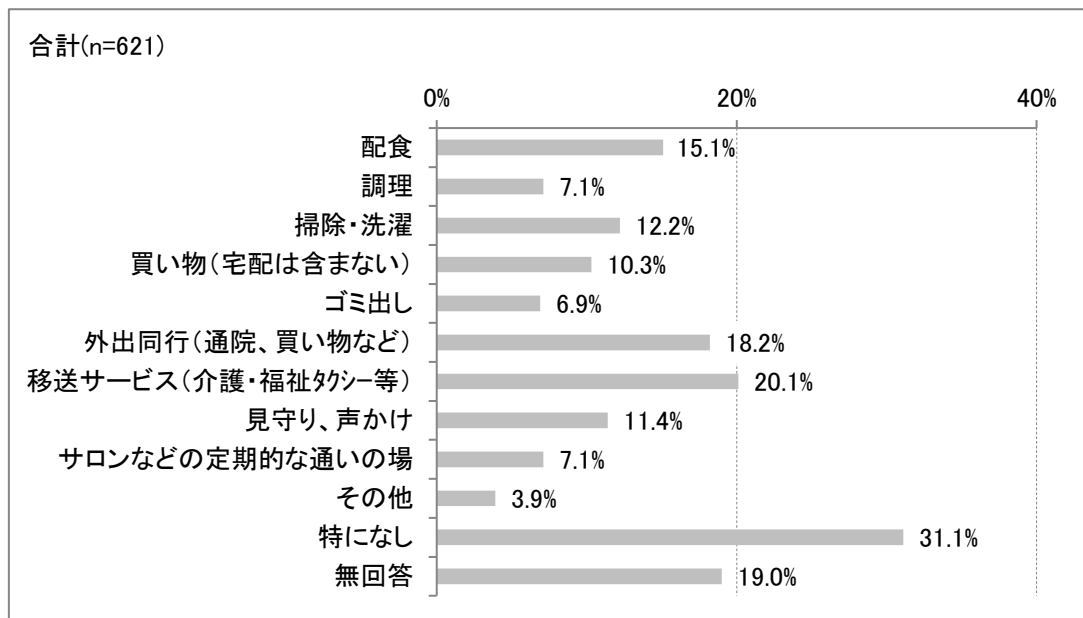
図表 1-12 保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



13 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 31.1%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（20.1%）」、「外出同行（通院、買い物など）（18.2%）」となっている。

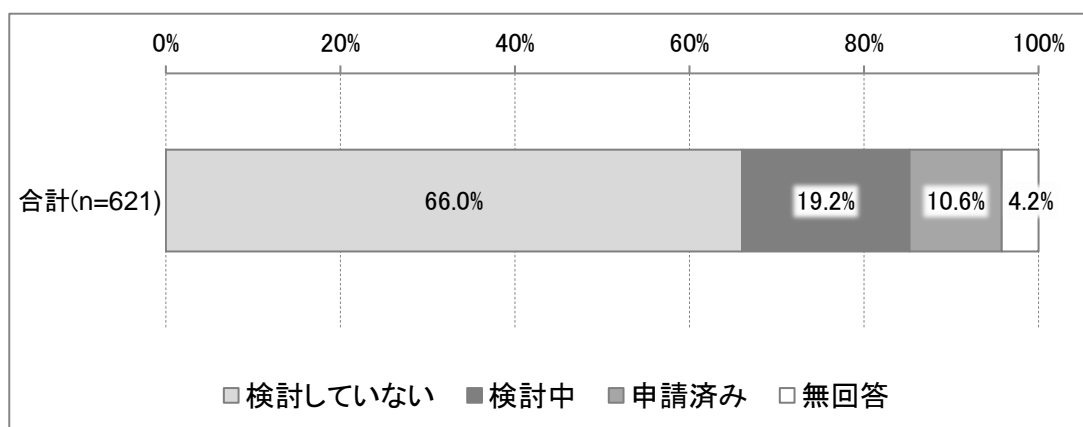
図表 1-13 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



14 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 66.0%となっている。次いで、「検討中（19.2%）」、「申請済み（10.6%）」となっている。

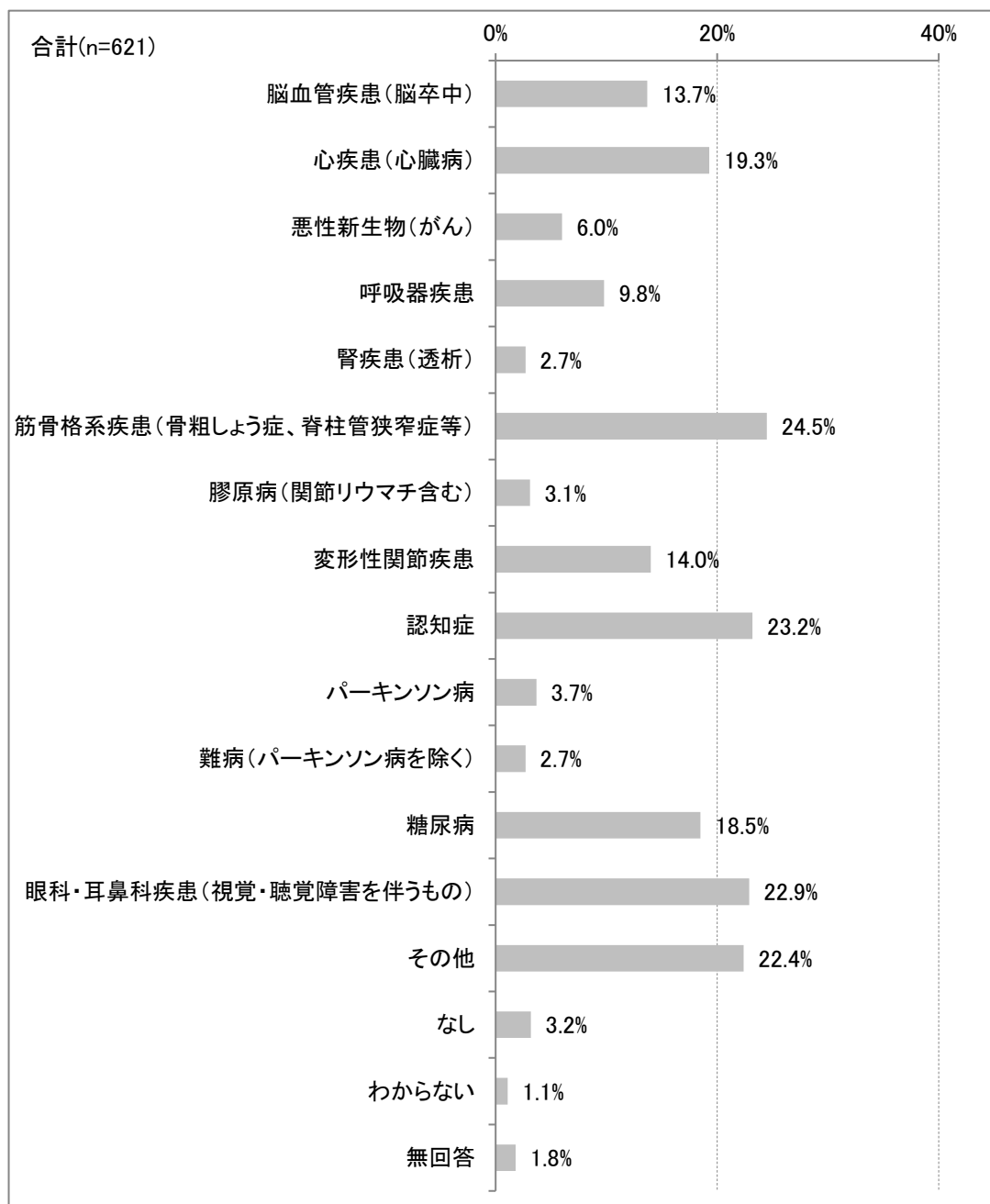
図表 1-14 施設等検討の状況



15 本人が抱えている傷病

「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」の割合が最も高く 24.5%となっている。次いで、「認知症（23.2%）」、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）（22.9%）」となっている。

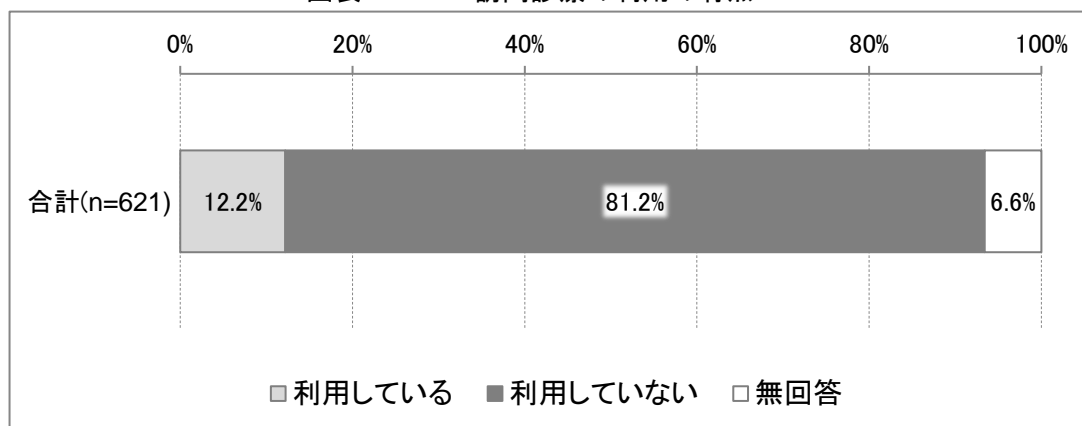
図表 1-15 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



16 訪問診療の利用の有無

「利用している」の割合が12.2%、「利用していない」の割合が81.2%となっている。

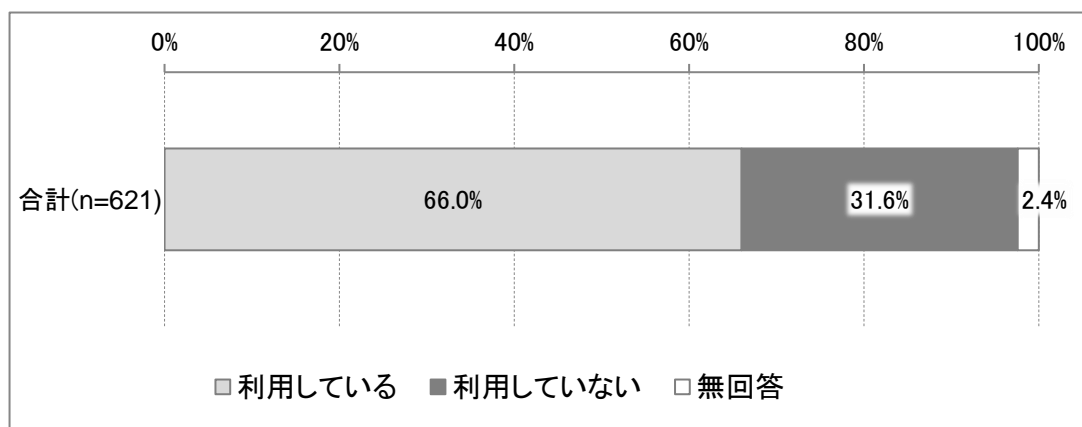
図表 1-16 訪問診療の利用の有無



17 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が66.0%、「利用していない」の割合が31.6%となっている。

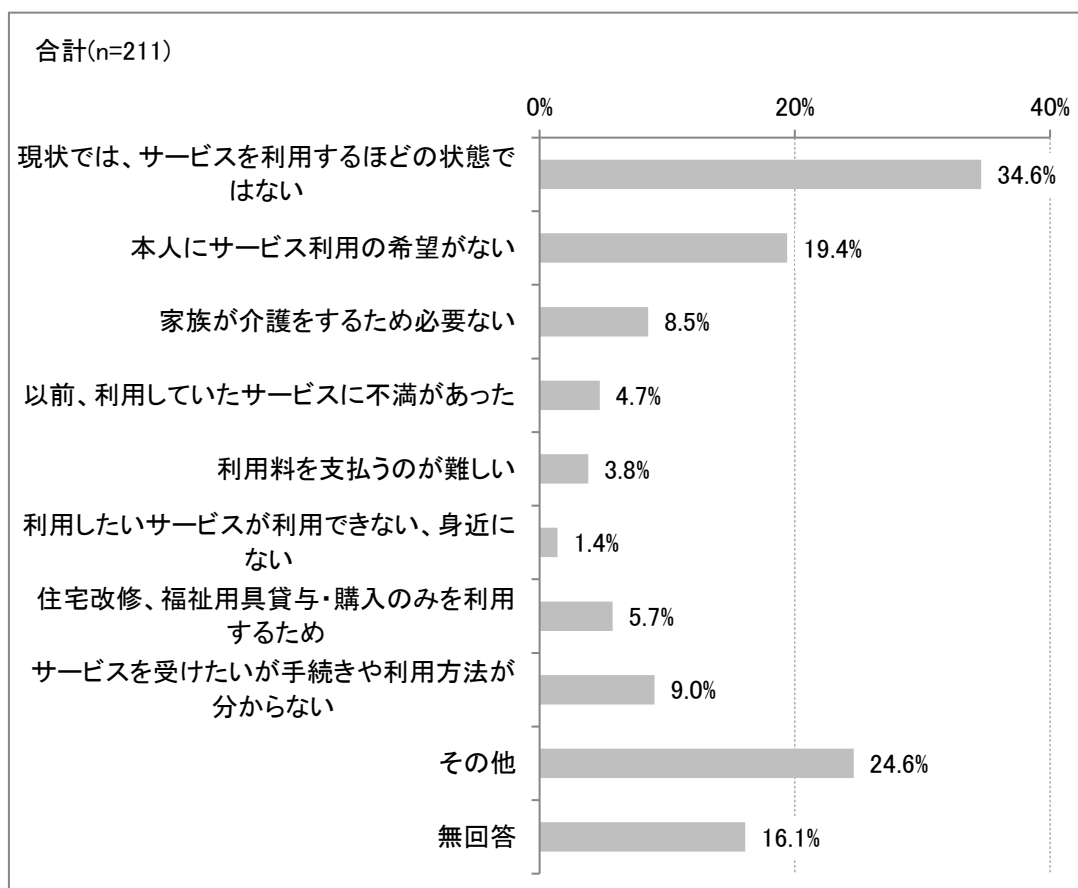
図表 1-17 介護保険サービスの利用の有無



18 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く 34.6%となっている。次いで、「その他 (24.6%)」、「本人にサービス利用の希望がない (19.4%)」となっている。

図表 1-18 ★介護保険サービスの未利用の理由 (複数回答)

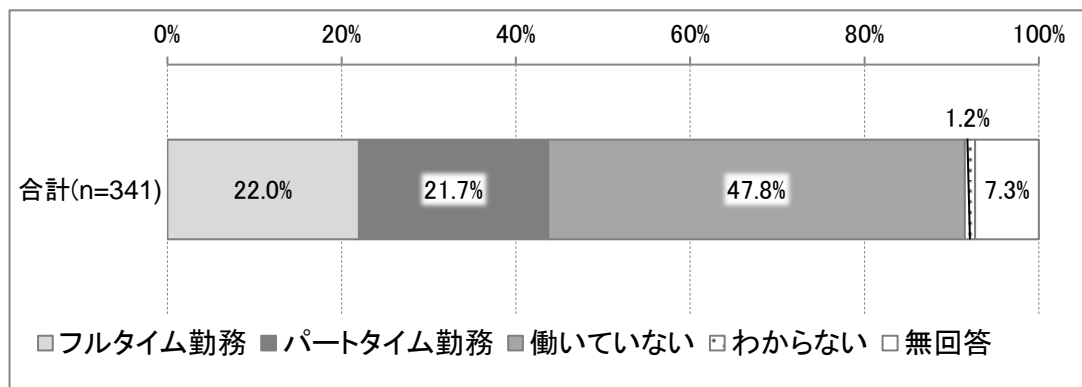


第3章 主な介護者様用の調査項目（B票）

1 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 47.8%となっている。次いで、「フルタイム勤務 (22.0%)」、「パートタイム勤務 (21.7%)」となっている。

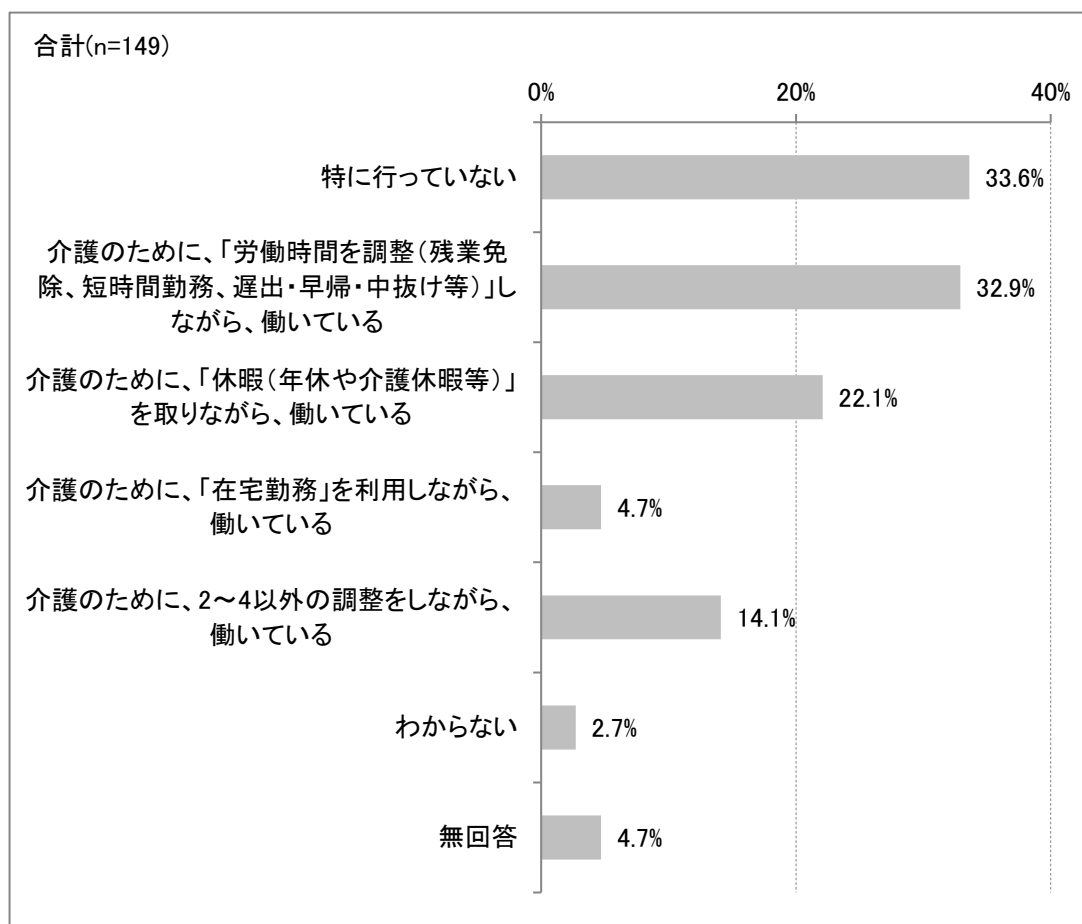
図表 2-1 主な介護者の勤務形態



2 主な介護者の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く 33.6%となっている。次いで、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている (32.9%)」、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている (22.1%)」となっている。

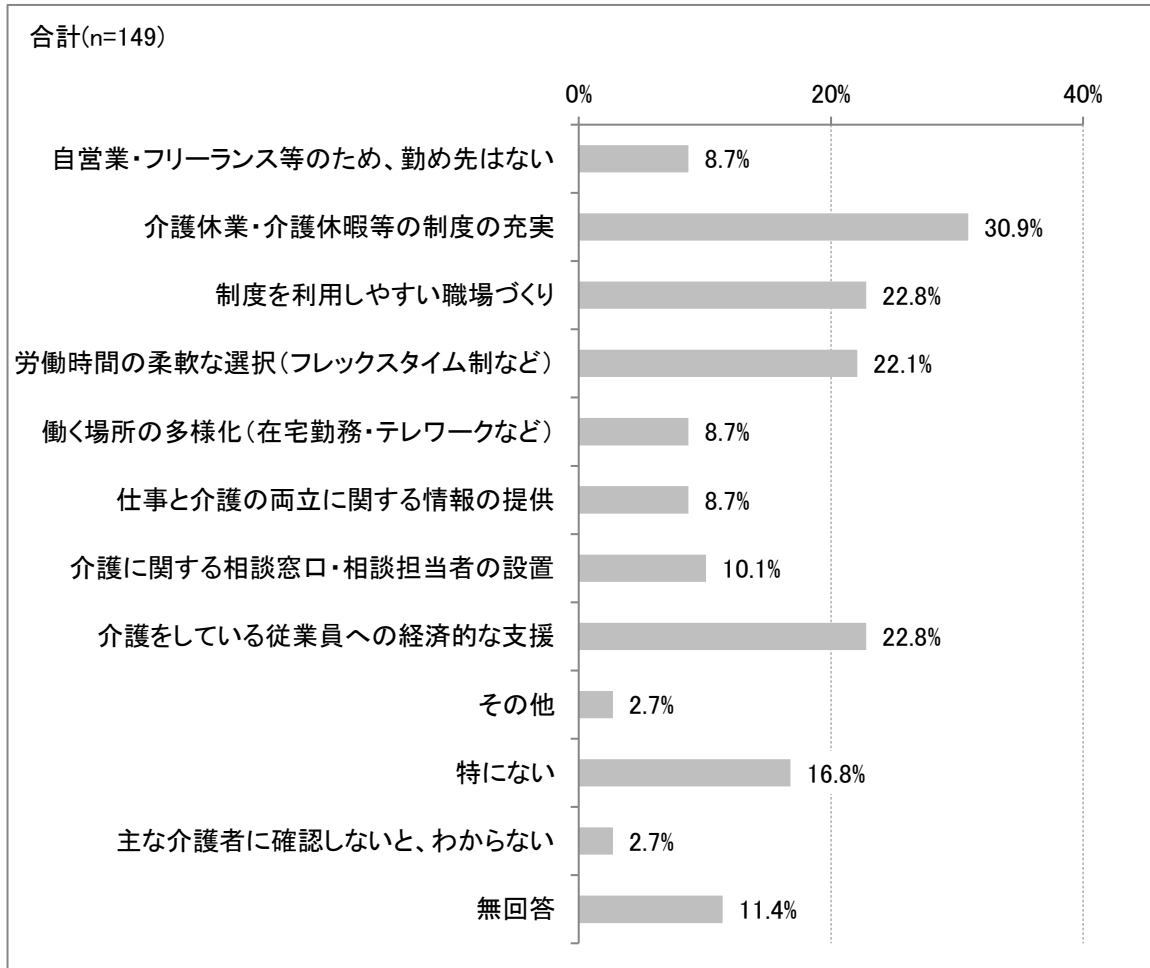
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く 30.9%となっている。次いで、「制度を利用しやすい職場づくり (22.8%)」、「介護をしている従業員への経済的な支援 (22.8%)」、「労働時間の柔軟な選択 (フレックスタイム制など) (22.1%)」となっている。

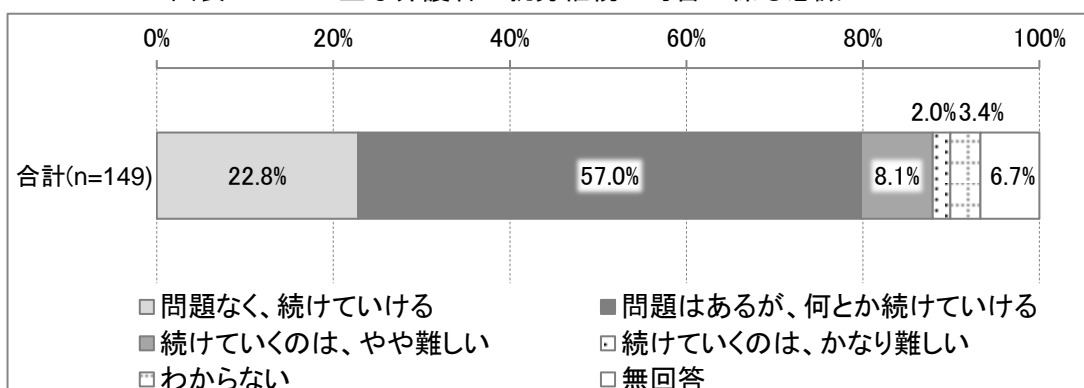
図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援 (複数回答)



4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 57.0%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (22.8%)」、「続けていくのは、やや難しい (8.1%)」となっている。

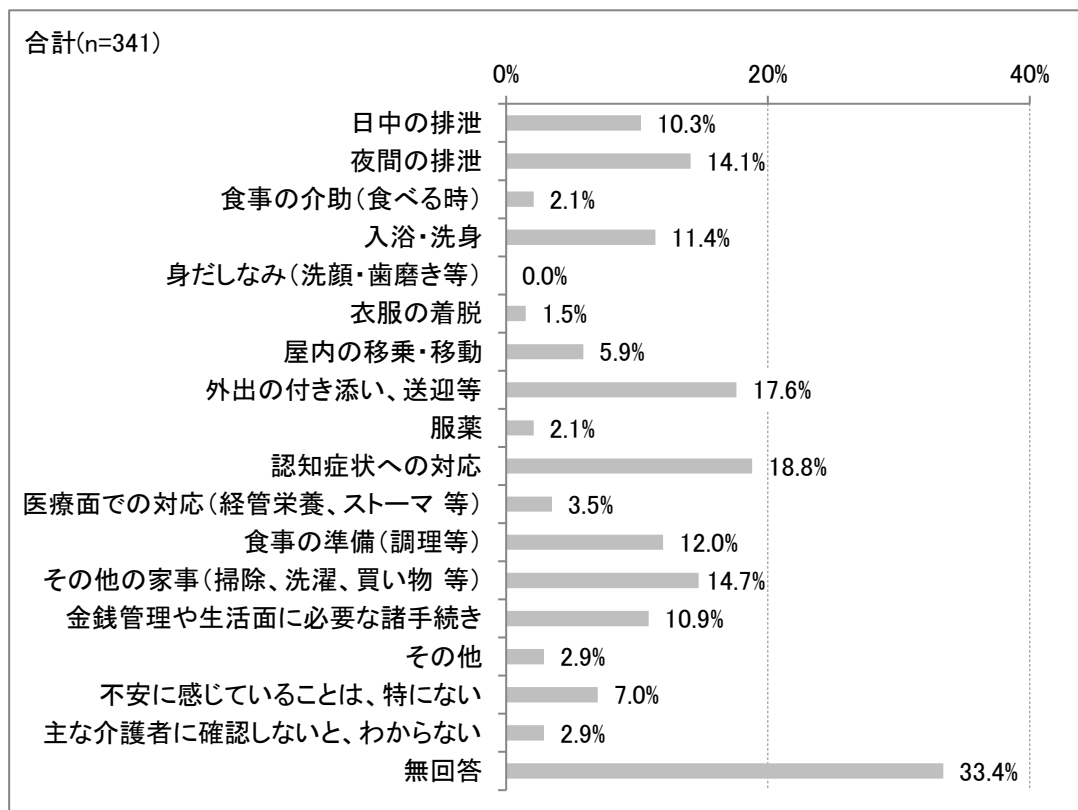
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識



5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」の割合が最も高く 18.8%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等 (17.6%)」、「その他の家事 (掃除、洗濯、買い物 等) (14.7%)」となっている。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 (複数回答)



第4章 介護保険事業計画の策定に向けた検討資料

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

(1) 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っている。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計を行った。

(2) 集計結果と着目すべきポイント

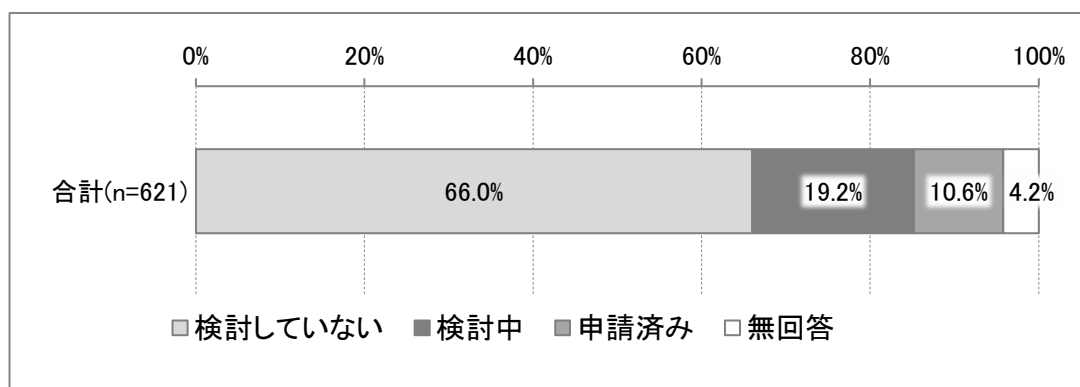
① 基礎集計

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っている。(図表3-1～図表3-3)
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認すること。

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く66.0%となっている。次いで、「検討中(19.2%)」、「申請済み(10.6%)」となっている。

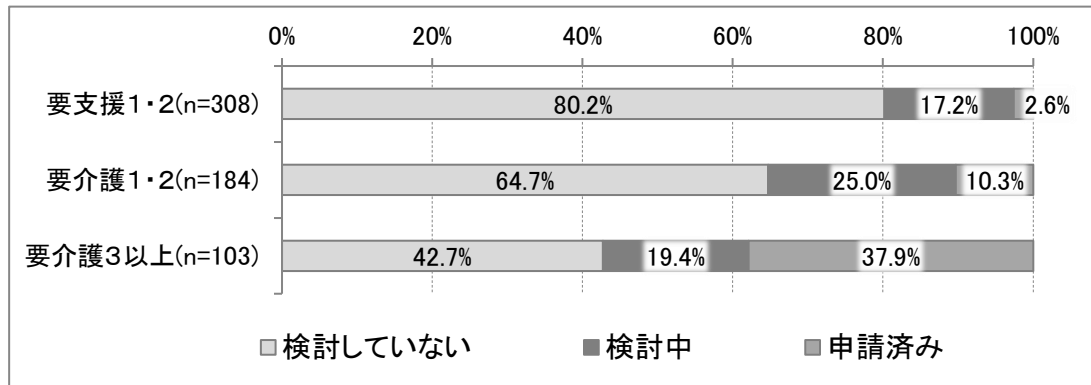
図表3-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が80.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が17.2%、「申請済み」が2.6%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が64.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が10.3%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が42.7%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が37.9%、「検討中」が19.4%となっている。

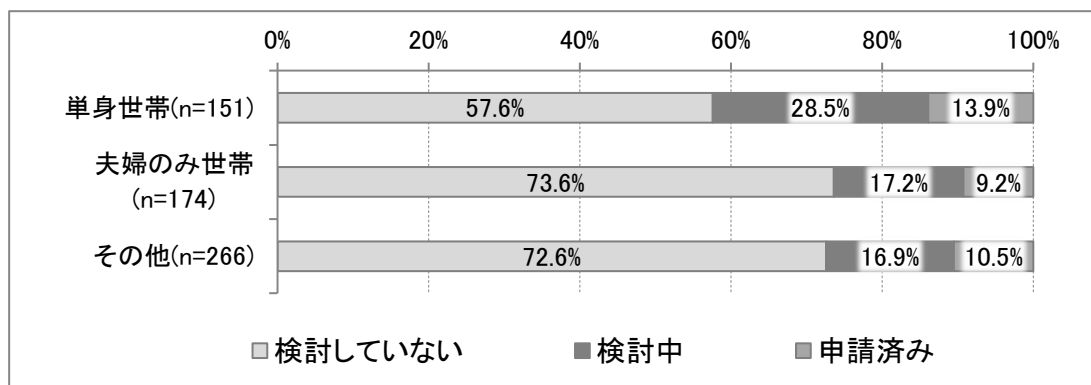
図表3-2 要介護度別・施設等検討の状況



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が57.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.5%、「申請済み」が13.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が73.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が17.2%、「申請済み」が9.2%となっている。「その他」では「検討していない」が72.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.9%、「申請済み」が10.5%となっている。

図表3-3 世帯類型別・施設等検討の状況



② 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしている。(図表3-4、図表3-5)
- ここでの「主な介護者が不安に感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等」のことである。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていない。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安に感じる介護等を把握することができる。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に注目することで、在宅限界点に大きな影響を与えられられる「主な介護者が不安に感じる介護」を推測することも可能になる。

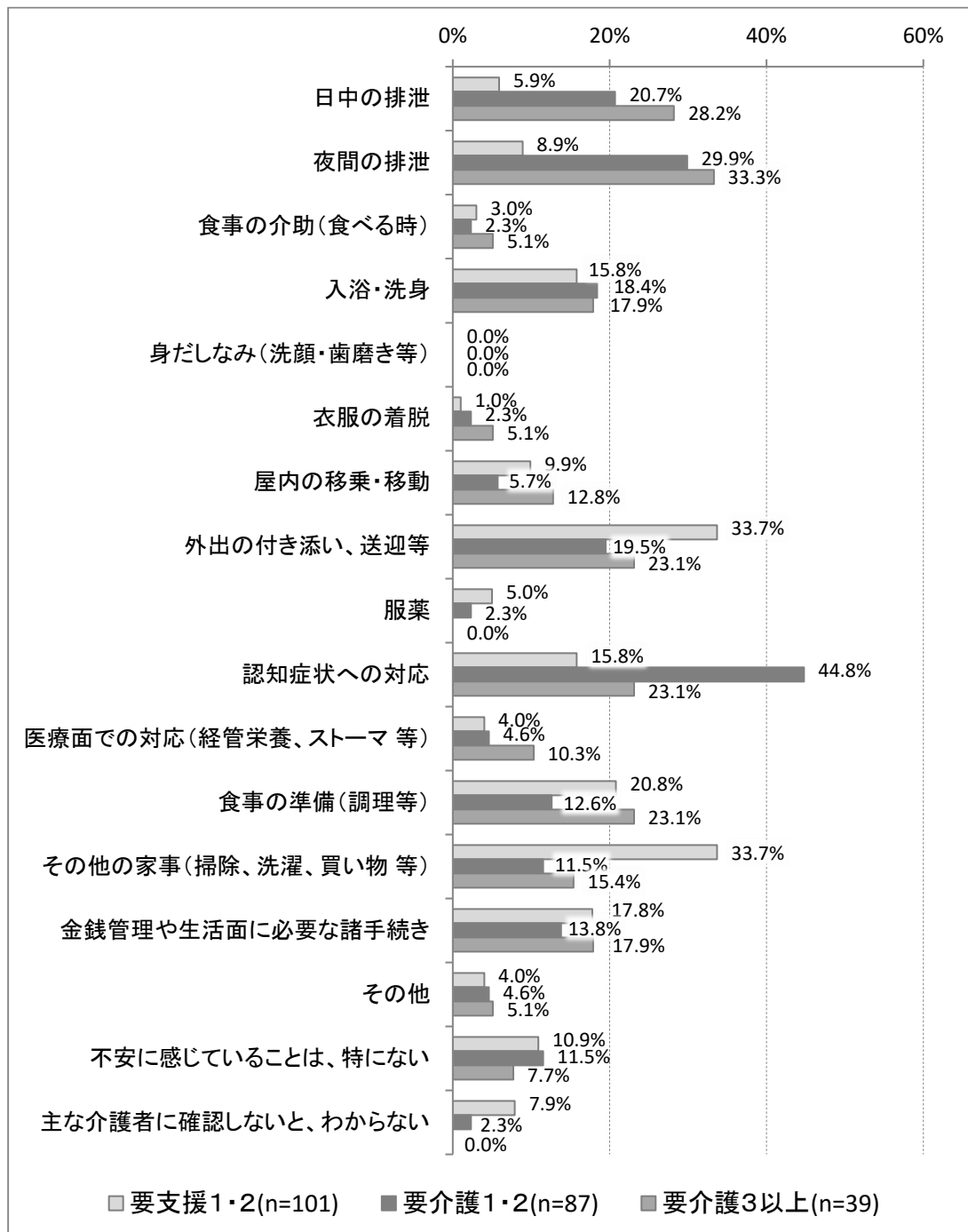
【留意事項】

- なお、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられる。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられる。
- そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要である。

【要介護度別・主な介護者が不安に感じる介護】

主な介護者が不安に感じる介護を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が33.7%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が20.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が17.8%となっている。「要介護1・2」では「認知症状への対応」が44.8%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が29.9%、「日中の排泄」が20.7%となっている。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が33.3%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が28.2%、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が23.1%となっている。

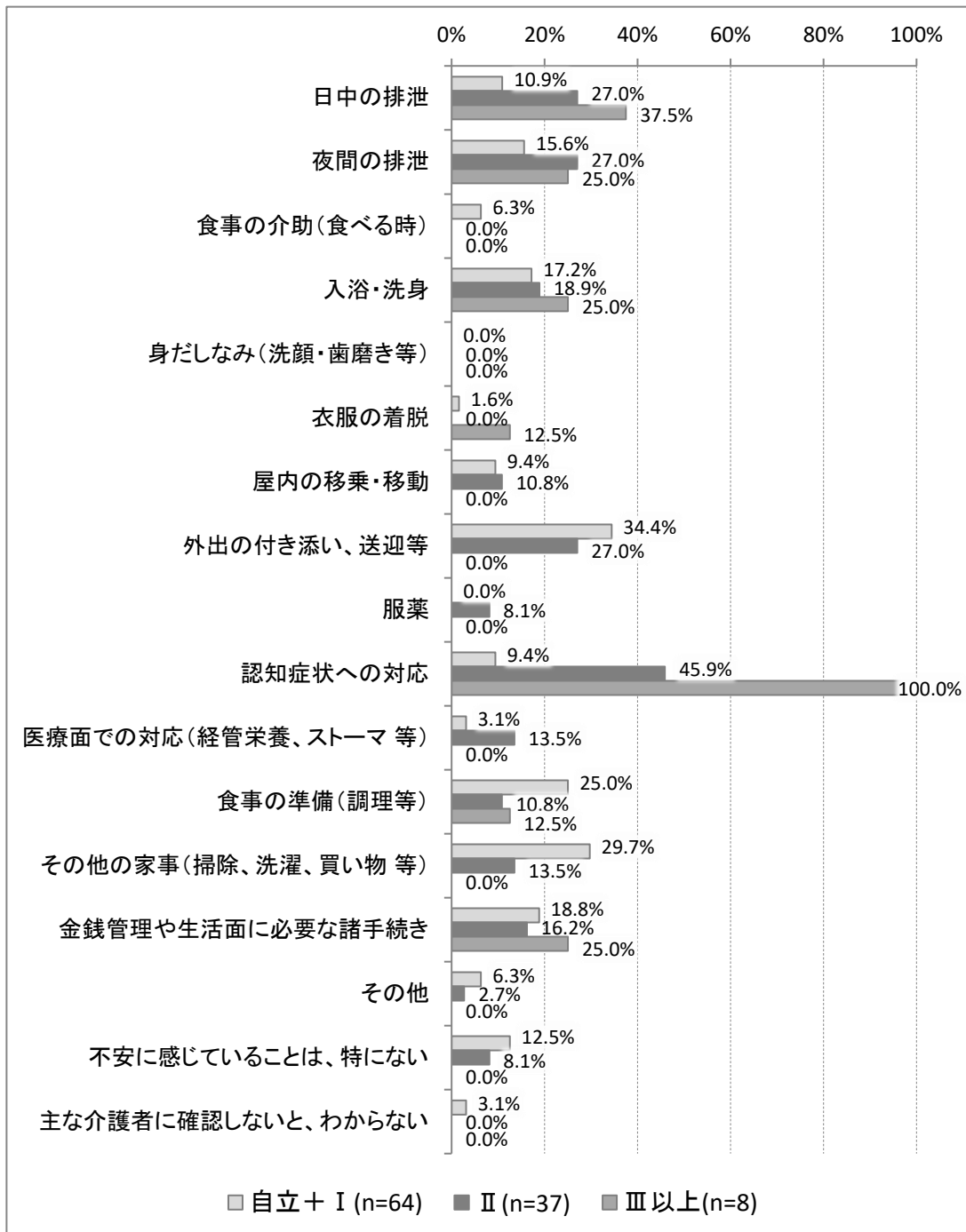
図表3-4 要介護度別・主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



【認知症自立度別・主な介護者が不安に感じる介護】

主な介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が34.4%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が29.7%、「食事の準備（調理等）」が25.0%となっている。「Ⅱ」では「認知症状への対応」が45.9%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が27.0%、「入浴・洗身」が18.9%となっている。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が100.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が37.5%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が25.0%となっている。

図表3-5 認知症自立度別・主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っている。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析している。
- さらに、「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っている。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討している。

(2) 集計結果と着目すべきポイント

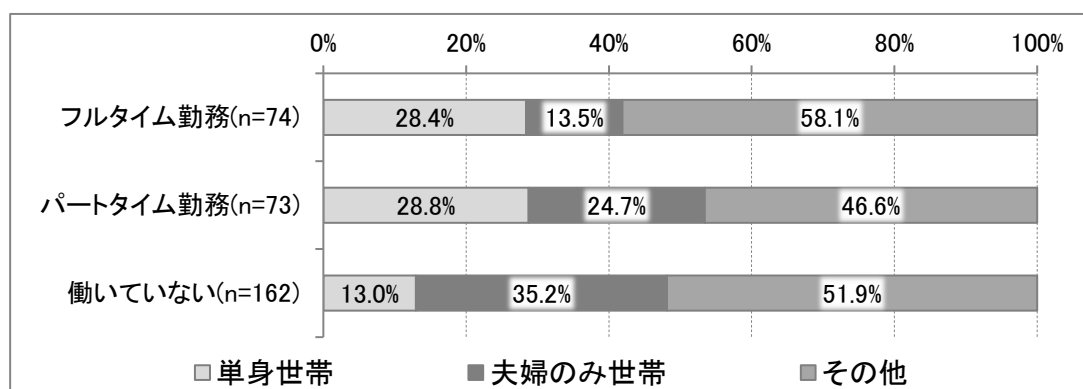
① 基礎集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っている。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認すること。

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が 58.1%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が 28.4%、「夫婦のみ世帯」が 13.5%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が 46.6%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が 28.8%、「夫婦のみ世帯」が 24.7%となっている。「働いていない」では「その他」が 51.9%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が 35.2%、「単身世帯」が 13.0%となっている。

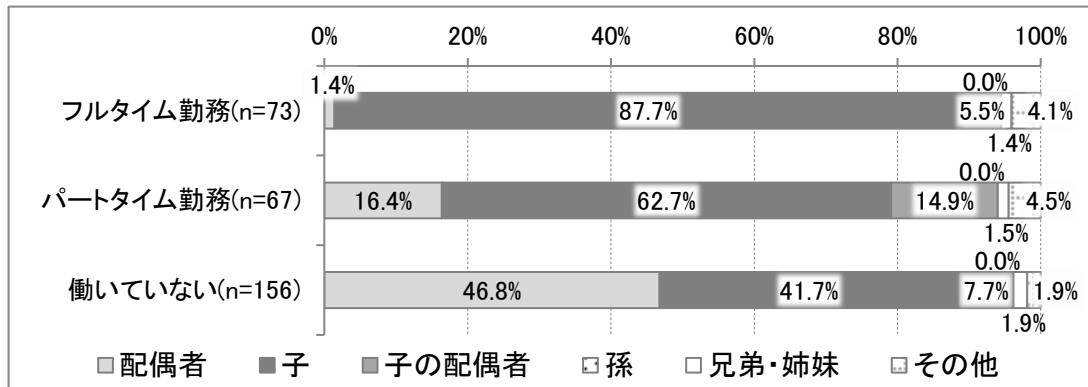
図表 4-1 就労状況別・世帯類型



【就労状況別・主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が 87.7%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が 5.5%、「その他」が 4.1%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が 62.7%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が 16.4%、「子の配偶者」が 14.9%となっている。「働いていない」では「配偶者」が 46.8%と最も割合が高く、次いで「子」が 41.7%、「子の配偶者」が 7.7%となっている。

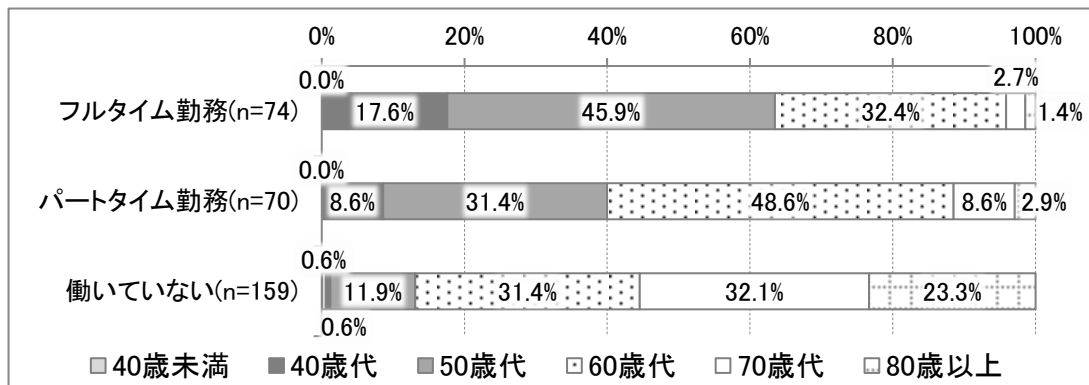
図表 4-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が 45.9%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が 32.4%、「40歳代」が 17.6%となっている。「パートタイム勤務」では「60歳代」が 48.6%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が 31.4%、「40歳代」が 8.6%となっている。「働いていない」では「70歳代」が 32.1%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が 31.4%、「80歳以上」が 23.3%となっている。

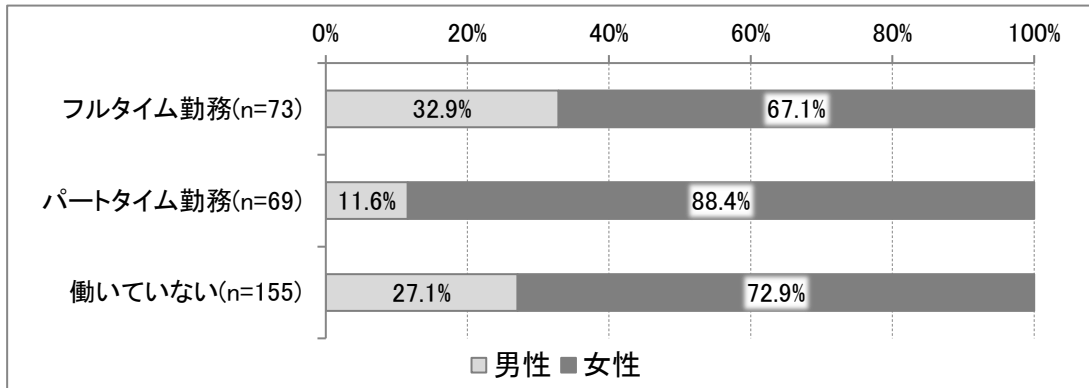
図表 4-3 就労状況別・主な介護者の年齢



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「女性」が67.1%、「男性」が32.9%となっている。「パートタイム勤務」では「女性」が88.4%、「男性」が11.6%となっている。「働いていない」では「女性」が72.9%、「男性」が27.1%となっている。

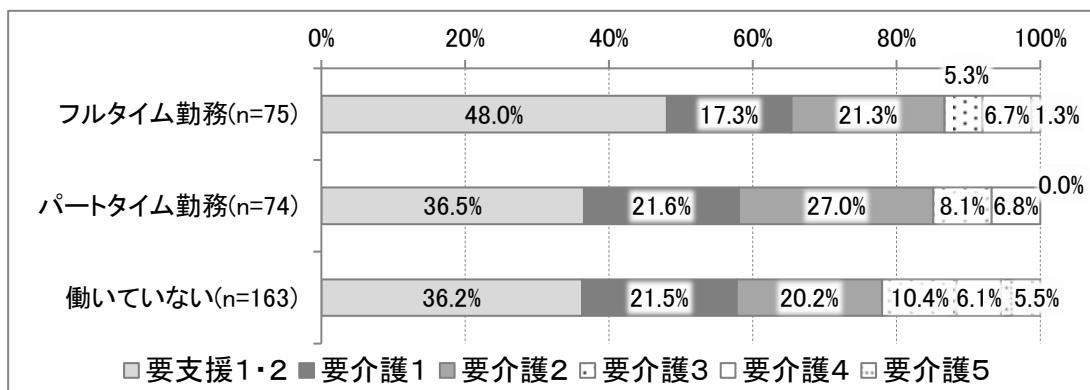
図表4-4 就労状況別・主な介護者の性別



【就労状況別・要介護度】

要介護度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要支援1・2」が48.0%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が21.3%、「要介護1」が17.3%となっている。「パートタイム勤務」では「要支援1・2」が36.5%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が27.0%、「要介護1」が21.6%となっている。「働いていない」では「要支援1・2」が36.2%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が21.5%、「要介護2」が20.2%となっている。

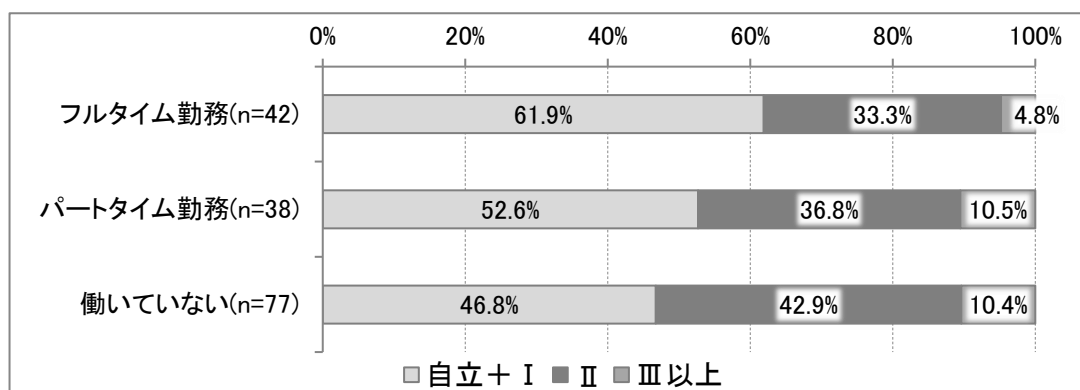
図表4-5 就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が61.9%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が33.3%、「Ⅲ以上」が4.8%となっている。「パートタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が52.6%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が36.8%、「Ⅲ以上」が10.5%となっている。「働いていない」では「自立+Ⅰ」が46.8%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が42.9%、「Ⅲ以上」が10.4%となっている。

図表4-6 就労状況別・認知症自立度



② 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

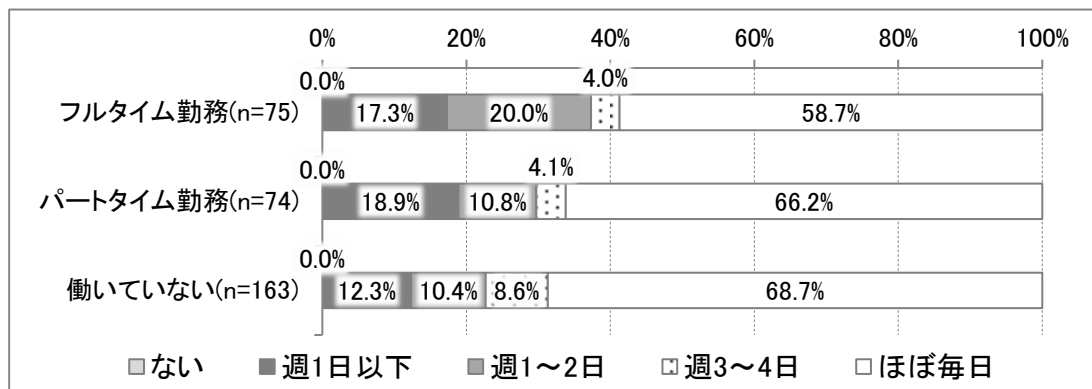
【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしている。(図表4-8、図表4-9)
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられる。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っている。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができる。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目している。(図表4-10、図表4-11)

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が58.7%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が20.0%、「週1日以下」が17.3%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が66.2%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が18.9%、「週1～2日」が10.8%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が68.7%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が12.3%、「週1～2日」が10.4%となっている。

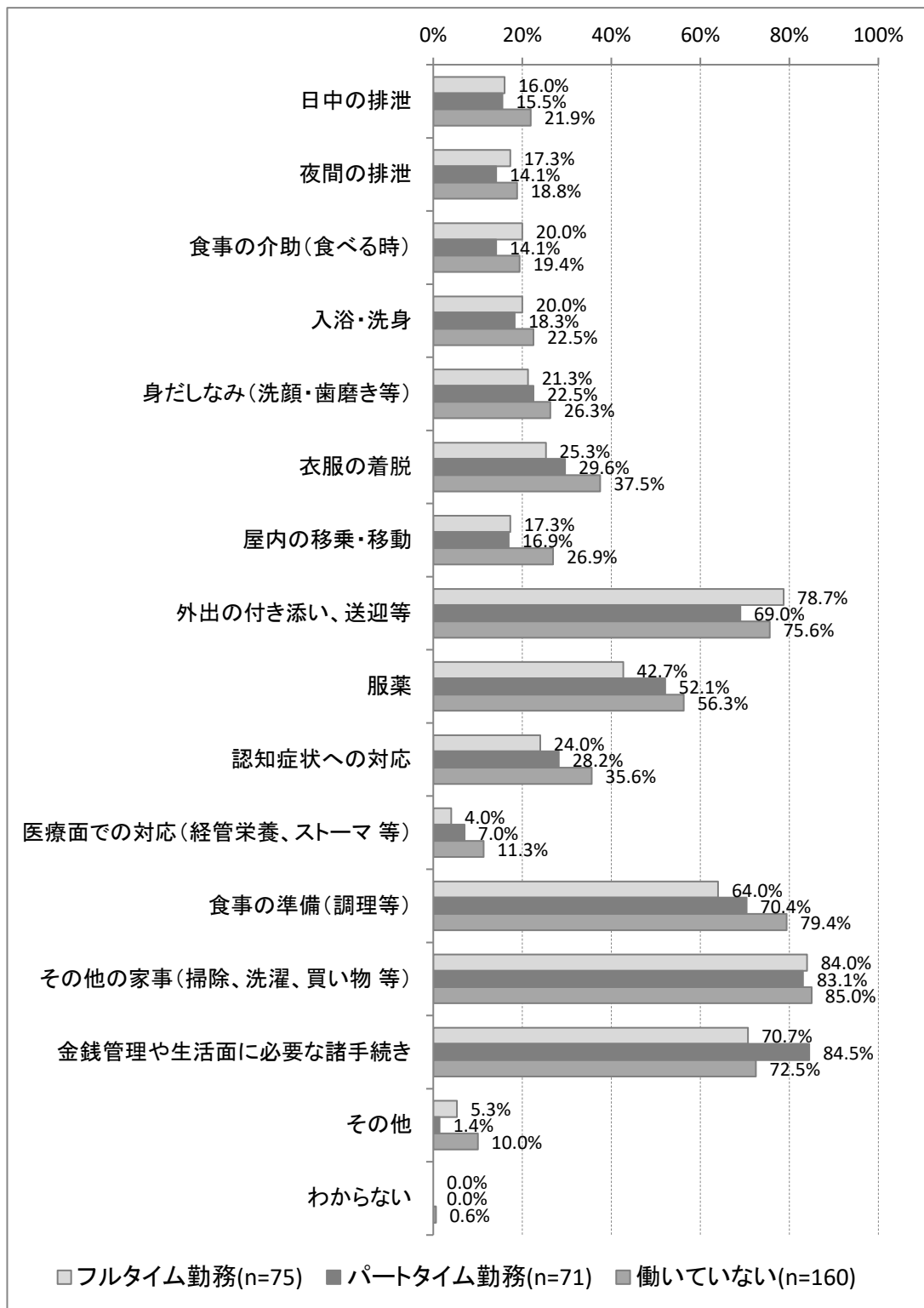
図表4-7 就労状況別・家族等による介護の頻度



【就労状況別・主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が84.0%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が78.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が70.7%となっている。「パートタイム勤務」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が84.5%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が83.1%、「食事の準備（調理等）」が70.4%となっている。「働いていない」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が85.0%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が79.4%、「外出の付き添い、送迎等」が75.6%となっている。

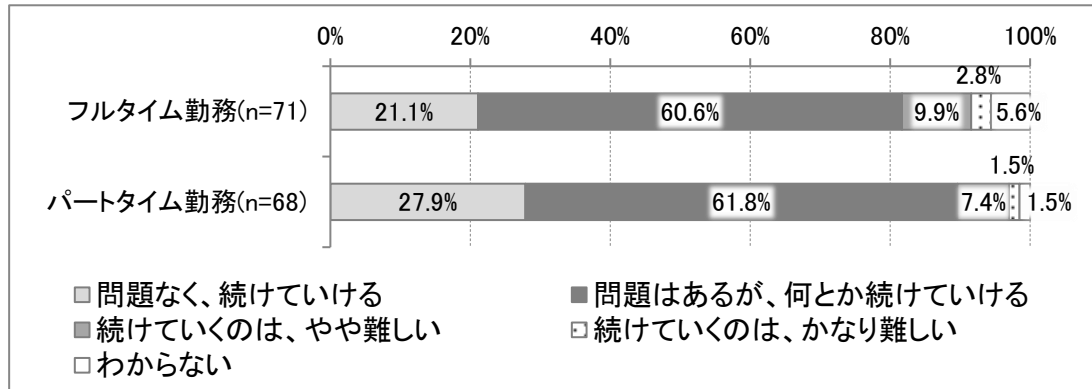
図表4-8 就労状況別・★主な介護者が行っている介護（複数回答）



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.6%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が21.1%、「続けていくのは、やや難しい」が9.9%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が61.8%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が27.9%、「続けていくのは、やや難しい」が7.4%となっている。

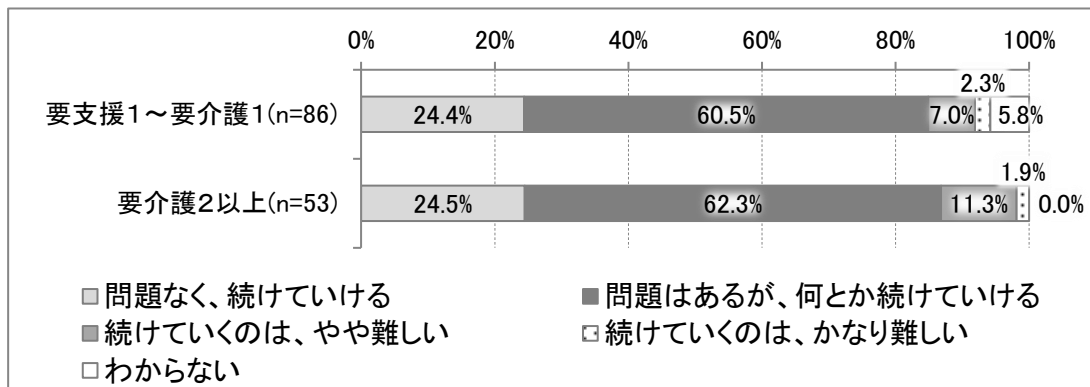
図表 4-9 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を要介護度別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.5%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が24.4%、「続けていくのは、やや難しい」が7.0%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が62.3%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が24.5%、「続けていくのは、やや難しい」が11.3%となっている。

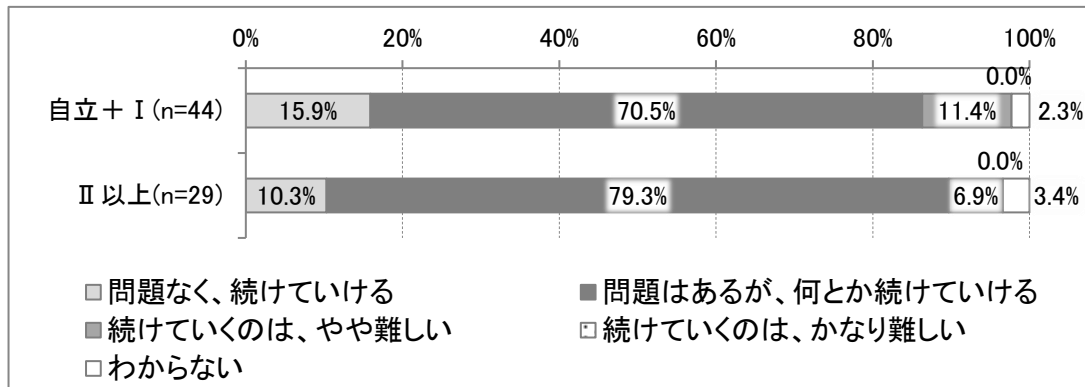
図表 4-10 要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 70.5%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 15.9%、「続けていくのは、やや難しい」が 11.4%となっている。「II以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 79.3%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 10.3%、「続けていくのは、やや難しい」が 6.9%となっている。

図表 4-11 認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



③ 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

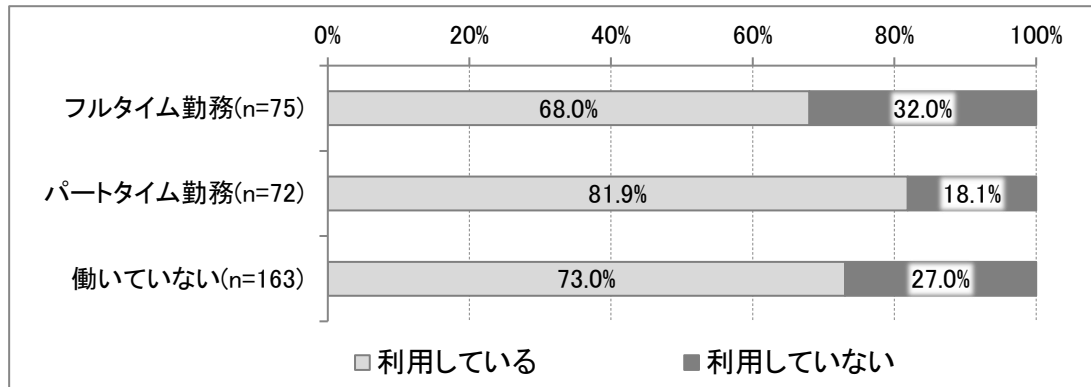
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしている。(図表 4-12~図表 4-15)
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができる。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができる。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないことになる。(図表 4-13、図表 4-14)。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができる。

【就労状況別・介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が68.0%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が32.0%となっている。「パートタイム勤務」では「利用している」が81.9%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が18.1%となっている。「働いていない」では「利用している」が73.0%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が27.0%となっている。

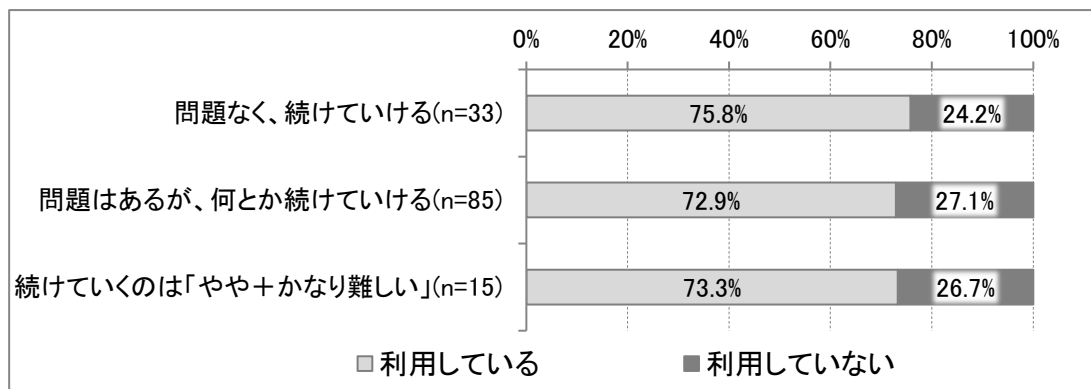
図表 4-12 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無



【就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が75.8%、「利用していない」が24.2%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が72.9%、「利用していない」が27.1%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「利用している」が73.3%、「利用していない」が26.7%となっている。

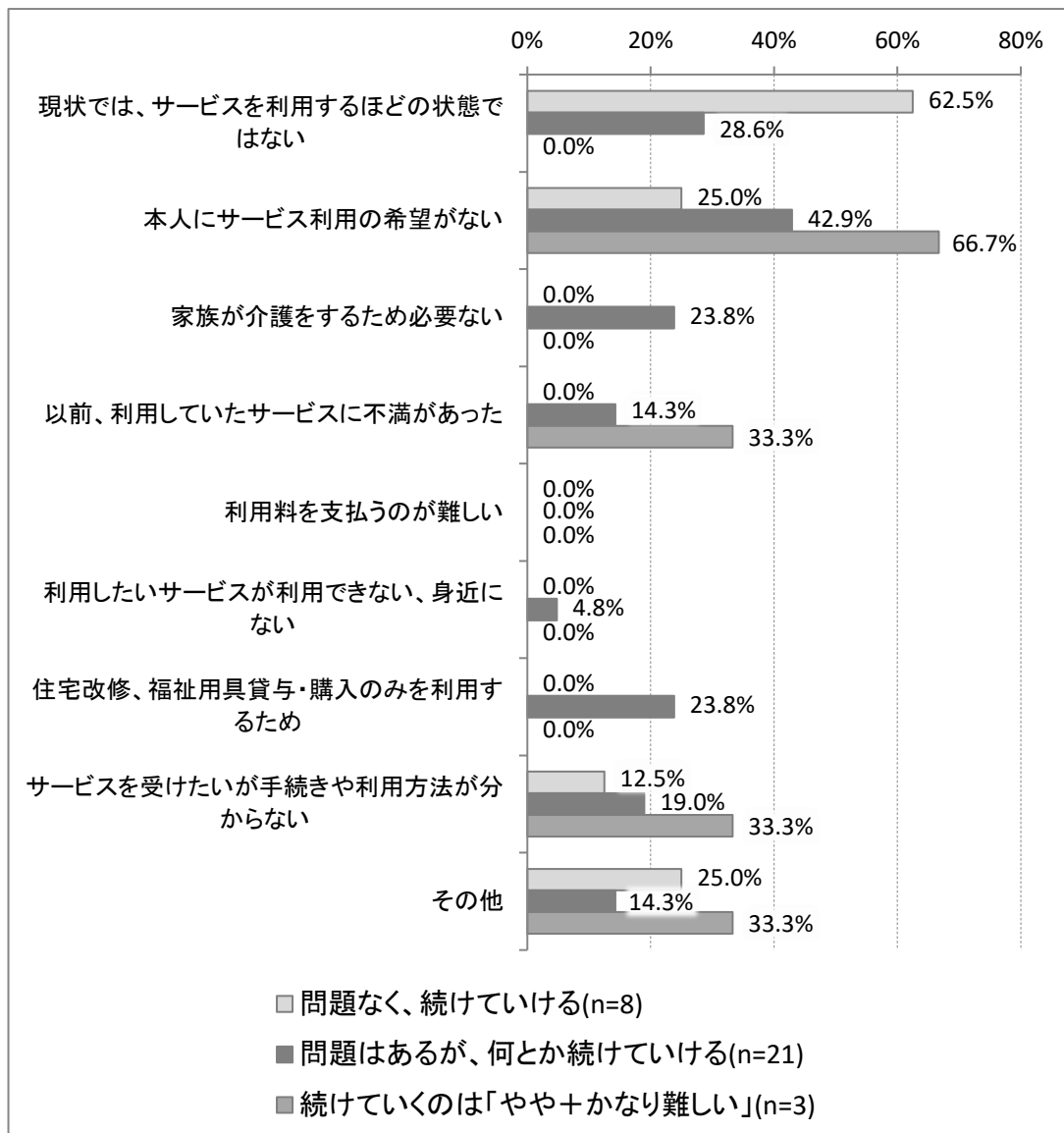
図表 4-13 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【就労継続見込み別・サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が62.5%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が25.0%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が12.5%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「本人にサービス利用の希望がない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が28.6%、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が23.8%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「本人にサービス利用の希望がない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「以前、利用していたサービスに不満があった」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が33.3%となっている。

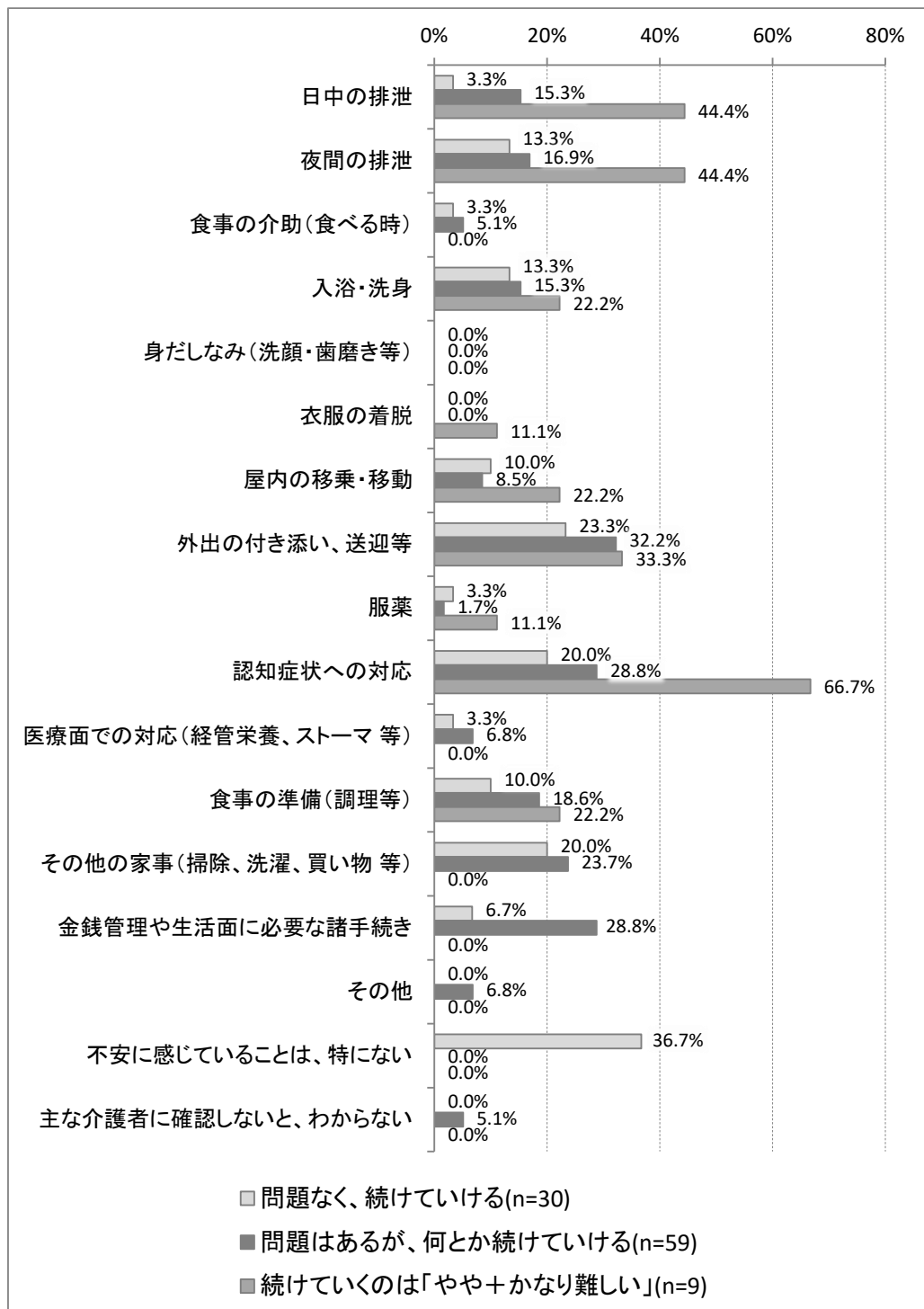
図表4-14 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由
(フルタイム勤務+パート勤務) (複数回答)



【就労継続見込み別・介護者が不安を感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者が不安を感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「不安を感じていることは、特にない」が 36.7%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 23.3%、「認知症状への対応」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が 20.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「外出の付き添い、送迎等」が 32.2%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 28.8%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が 23.7%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「認知症状への対応」が 66.7%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」が 44.4%、「外出の付き添い、送迎等」が 33.3%となっている。

図表 4-15 就労継続見込み別・介護者が不安を感じる介護
(フルタイム勤務+パート勤務) (複数回答)



④ 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしている。(図表4-16～図表4-19)
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができる。
- また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができる。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としている。
- さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目している。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性と、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができる。

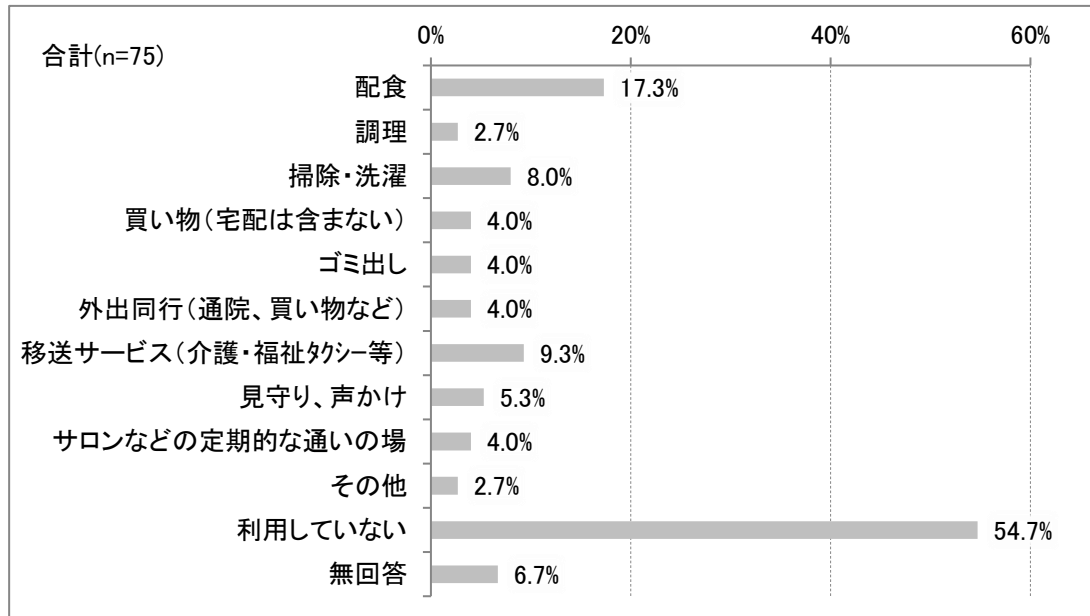
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではない。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要である。
- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性がある。

【利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)】

「利用していない」の割合が最も高く 54.7%となっている。次いで、「配食 (17.3%)」、「移送サービス (介護・福祉タクシー等) (9.3%)」となっている。

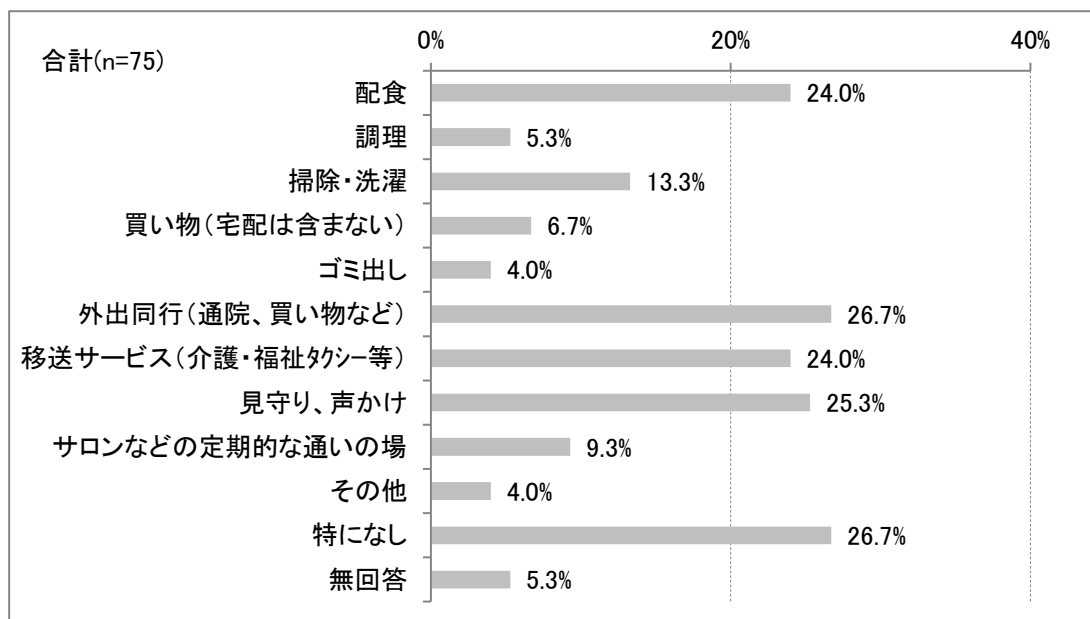
図表 4-16-1 ★利用している保険外の支援・サービス (フルタイム勤務) (複数回答)



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)】

「外出同行 (通院、買い物など)」、「特になし」の割合が高く、それぞれ 26.7%となっている。次いで、「見守り、声かけ (25.3%)」、「配食 (24.0%)」、「移送サービス (介護・福祉タクシー等) (24.0%)」となっている。

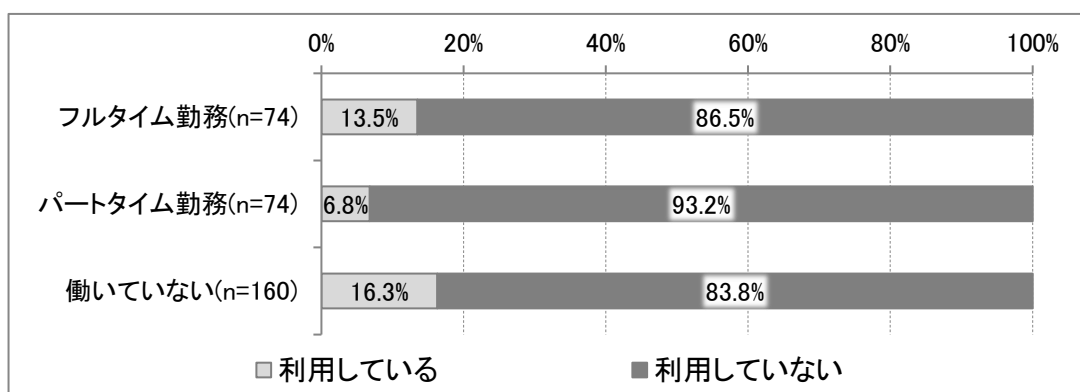
図表 4-16-2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス (フルタイム勤務) (複数回答)



【就労状況別・訪問診療の利用の有無】

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が 86.5%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 13.5%となっている。「パートタイム勤務」では「利用していない」が 93.2%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 6.8%となっている。「働いていない」では「利用していない」が 83.8%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 16.3%となっている。

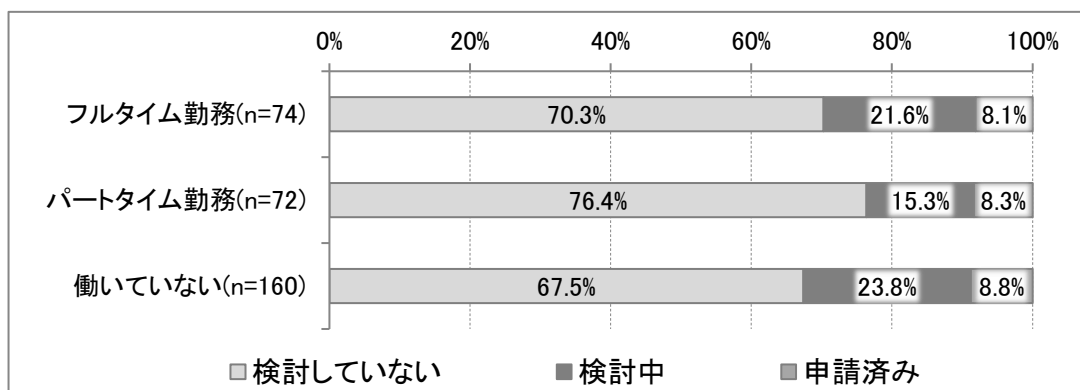
図表 4-17 就労状況別・★訪問診療の利用の有無



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が 70.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 21.6%、「申請済み」が 8.1%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が 76.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 15.3%、「申請済み」が 8.3%となっている。「働いていない」では「検討していない」が 67.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が 23.8%、「申請済み」が 8.8%となっている。

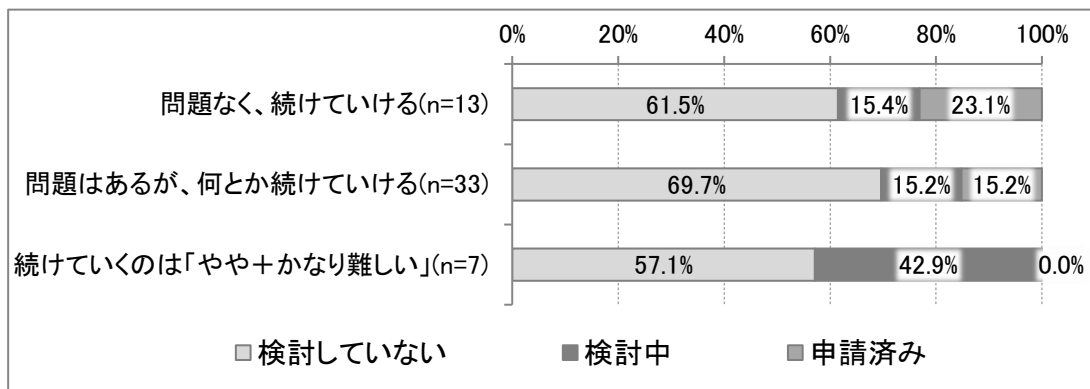
図表 4-18 就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が61.5%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が23.1%、「検討中」が15.4%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が69.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が15.2%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「検討していない」が57.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が42.9%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表4-19 就労継続見込み別・施設等検討の状況
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



⑤ 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

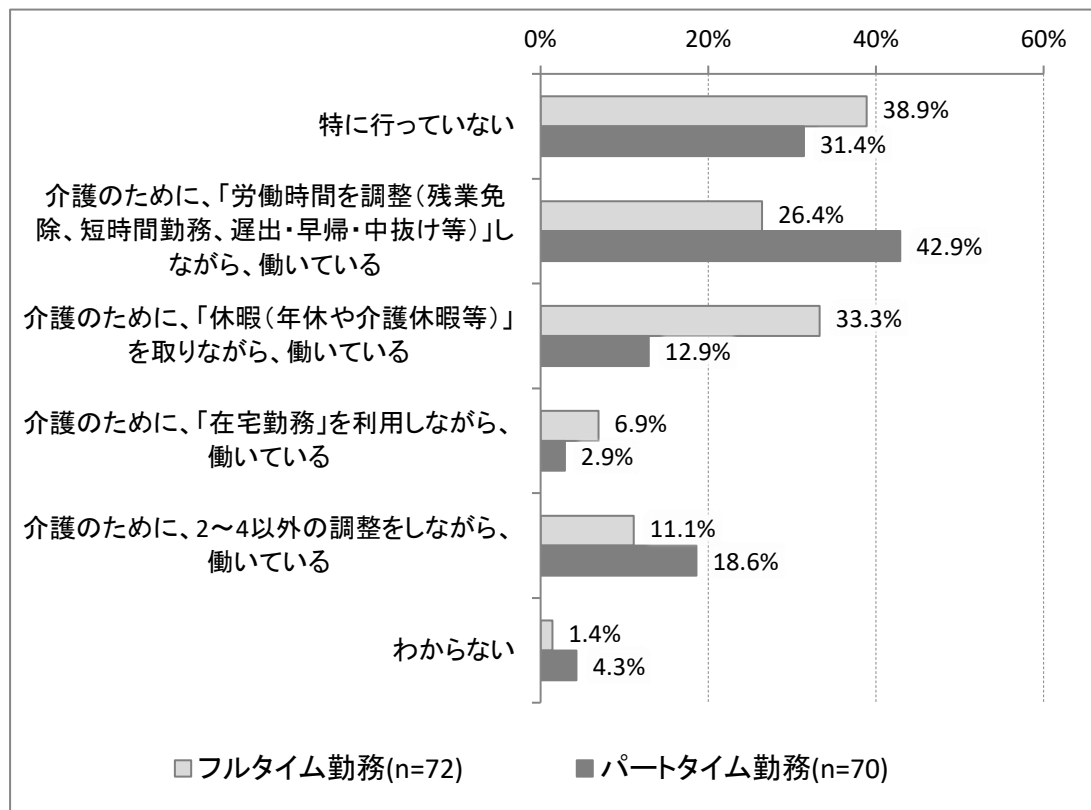
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしている。(図表4-20～図表4-23)
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしている。
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられる。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要である。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が 38.9%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が 33.3%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 26.4%となっている。「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 42.9%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が 31.4%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が 18.6%となっている。

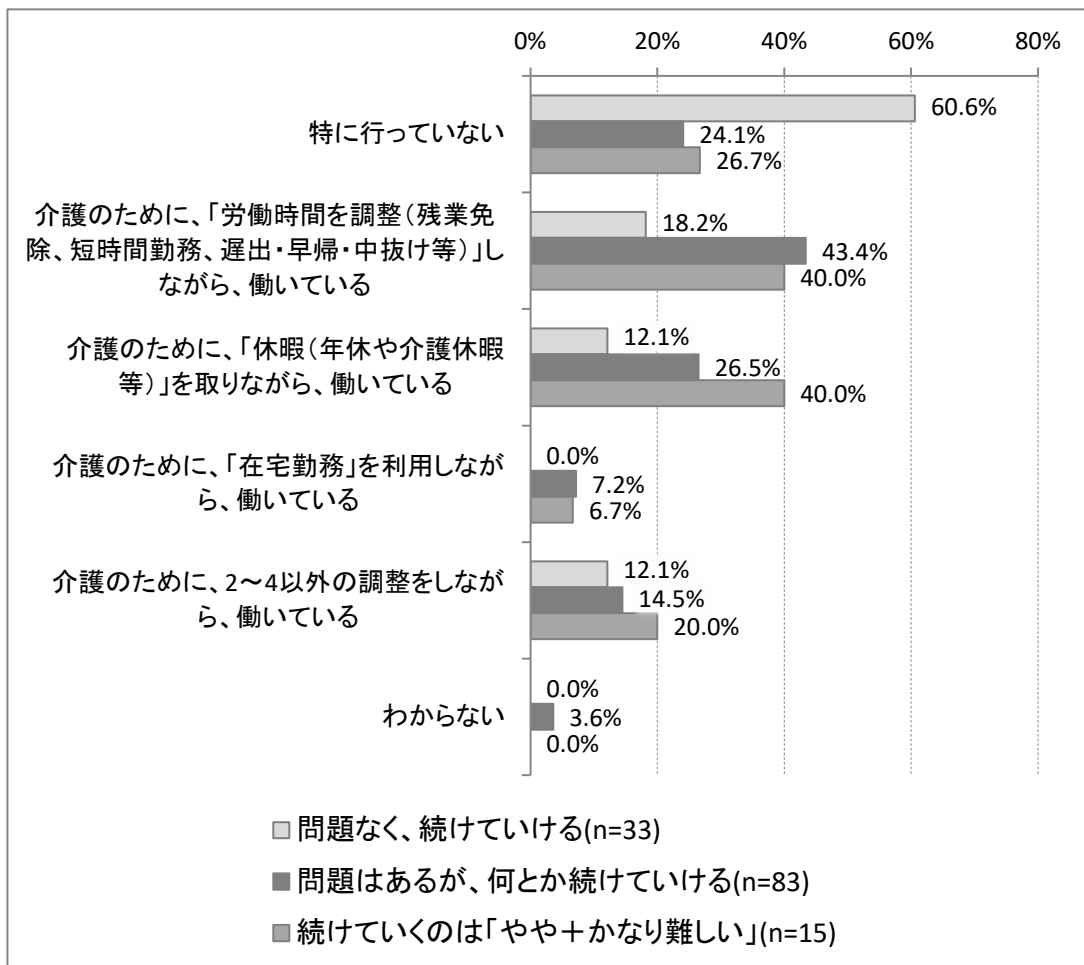
図表 4-20 就労状況別・介護のための働き方の調整（複数回答）



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が60.6%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が18.2%、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」、「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が12.1%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が43.4%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が26.5%、「特に行っていない」が24.1%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が40.0%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が26.7%、「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が20.0%となっている。

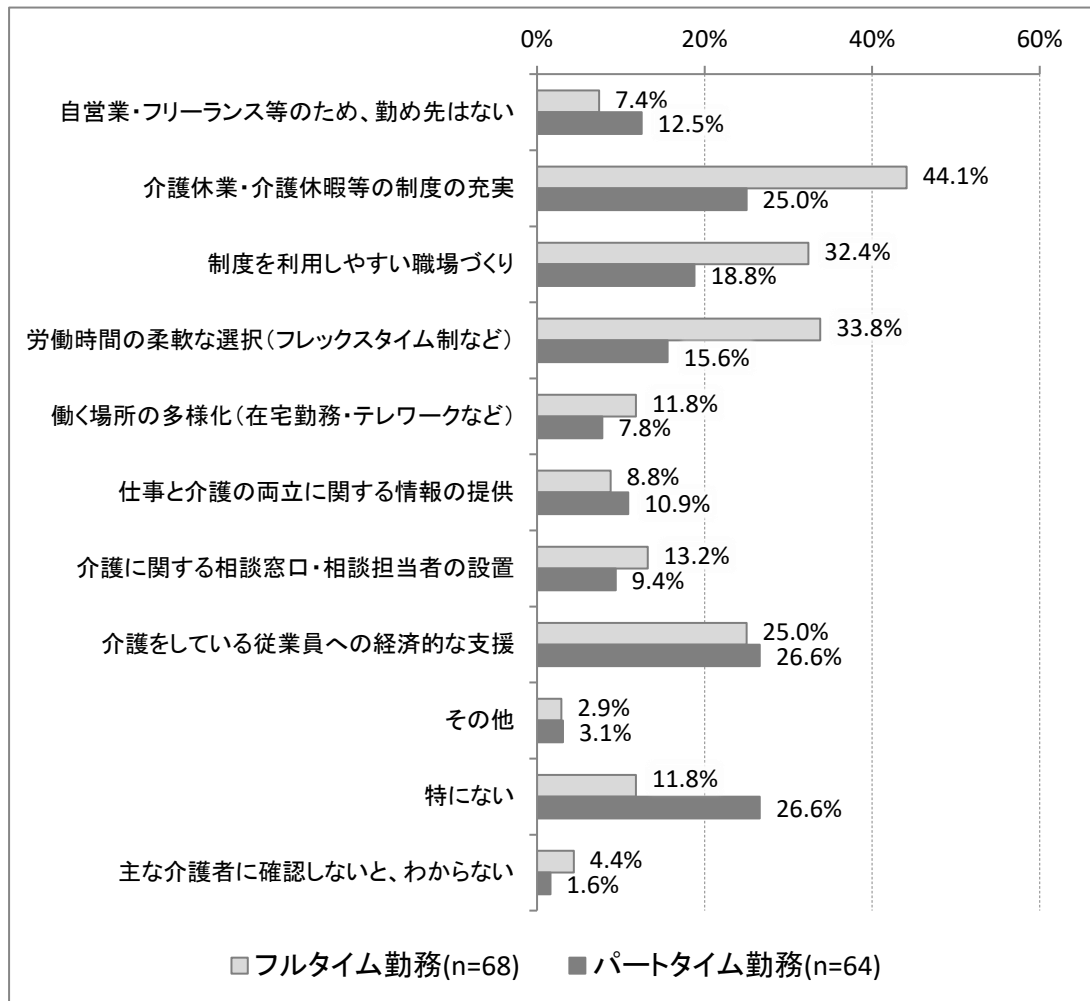
図表4-21 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)(複数回答)



【就労状況別・効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が44.1%と最も割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が33.8%、「制度を利用しやすい職場づくり」が32.4%となっている。「パートタイム勤務」では「介護をしている従業員への経済的な支援」、「特にない」が26.6%と最も割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が25.0%、「制度を利用しやすい職場づくり」が18.8%となっている。

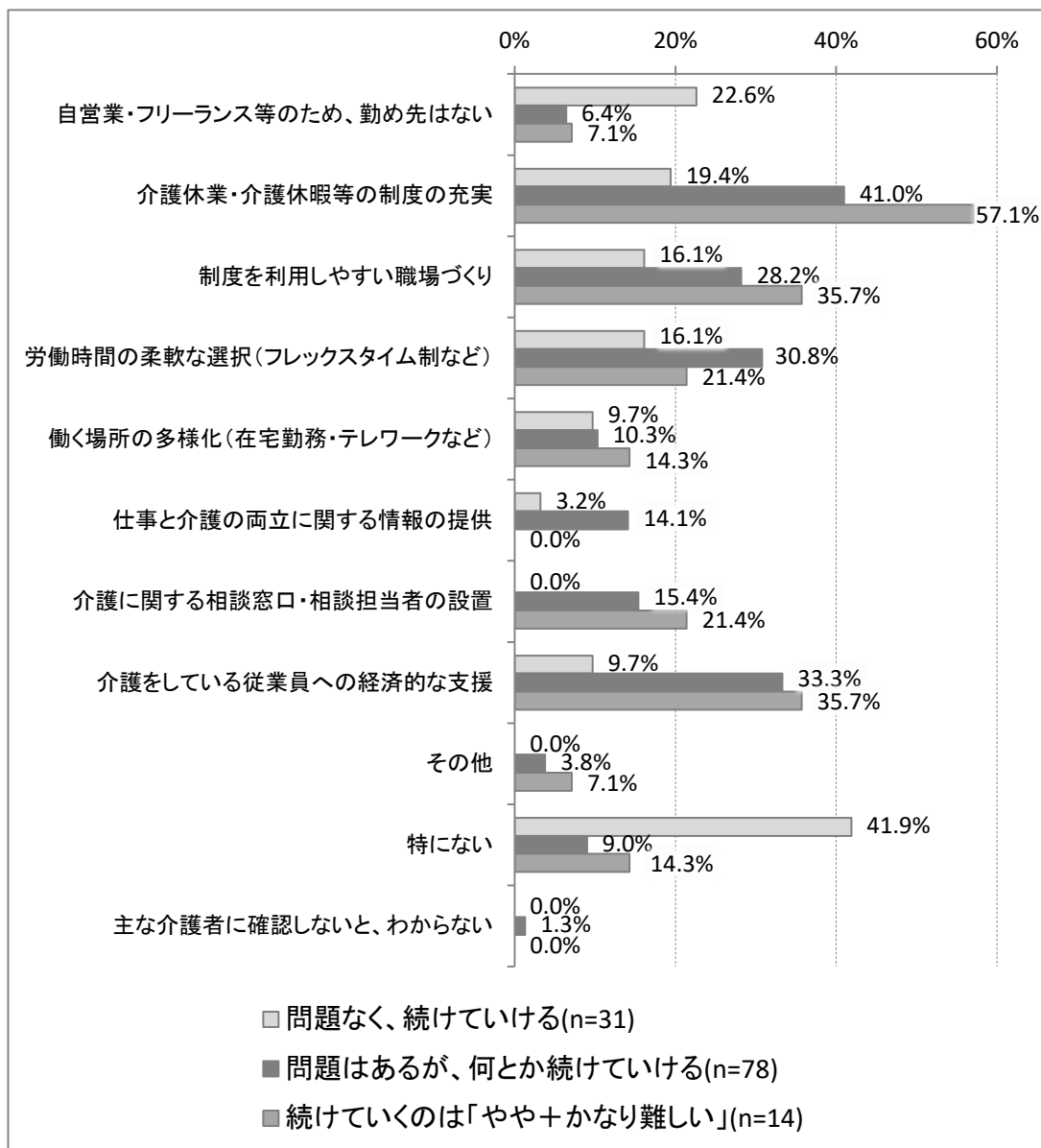
図表 4-22 就労状況別・★効果的な勤め先からの支援（複数回答）



【就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が41.9%と最も割合が高く、次いで「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が22.6%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が19.4%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が41.0%と最も割合が高く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が33.3%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が30.8%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が57.1%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が35.7%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が35.7%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」、「介護に関する相談窓口・相談担当者」が21.4%となっている。

図表4-23 就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)(複数回答)



3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

(1) 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っている。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられる。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行う。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していない。

(2) 集計結果と着目すべきポイント

① 基礎集計

【着目すべきポイント】

- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしている。（図表5-1、図表5-2）
- 例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられる。
- さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができる。

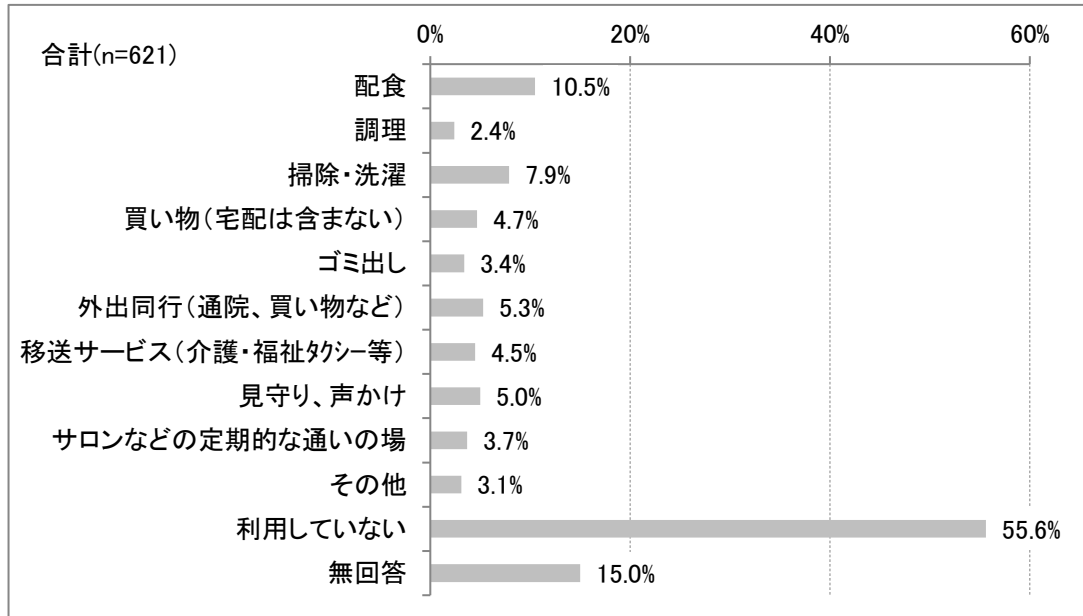
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではない。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要である。

【保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く 55.6%となっている。次いで、「配食（10.5%）」、「掃除・洗濯（7.9%）」となっている。

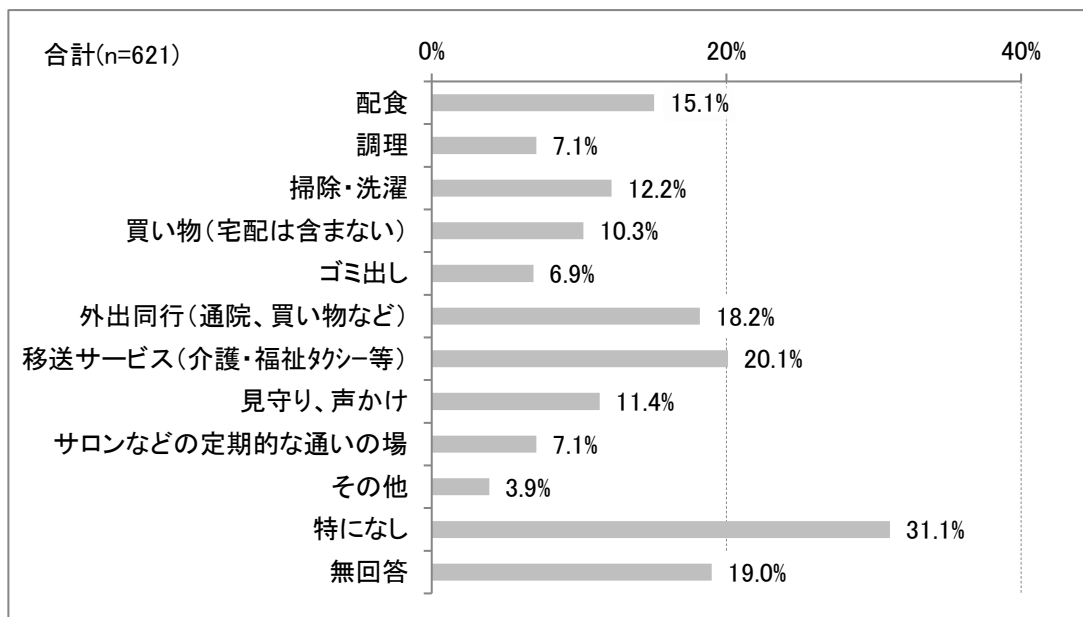
図表 5-1 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「特になし」の割合が最も高く 31.1%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（20.1%）」、「外出同行（通院、買い物など）（18.2%）」となっている。

図表 5-2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



② 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【着目すべきポイント】

- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしている。(図表5-3、図表5-4)
- 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくことも考えられる。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられる。

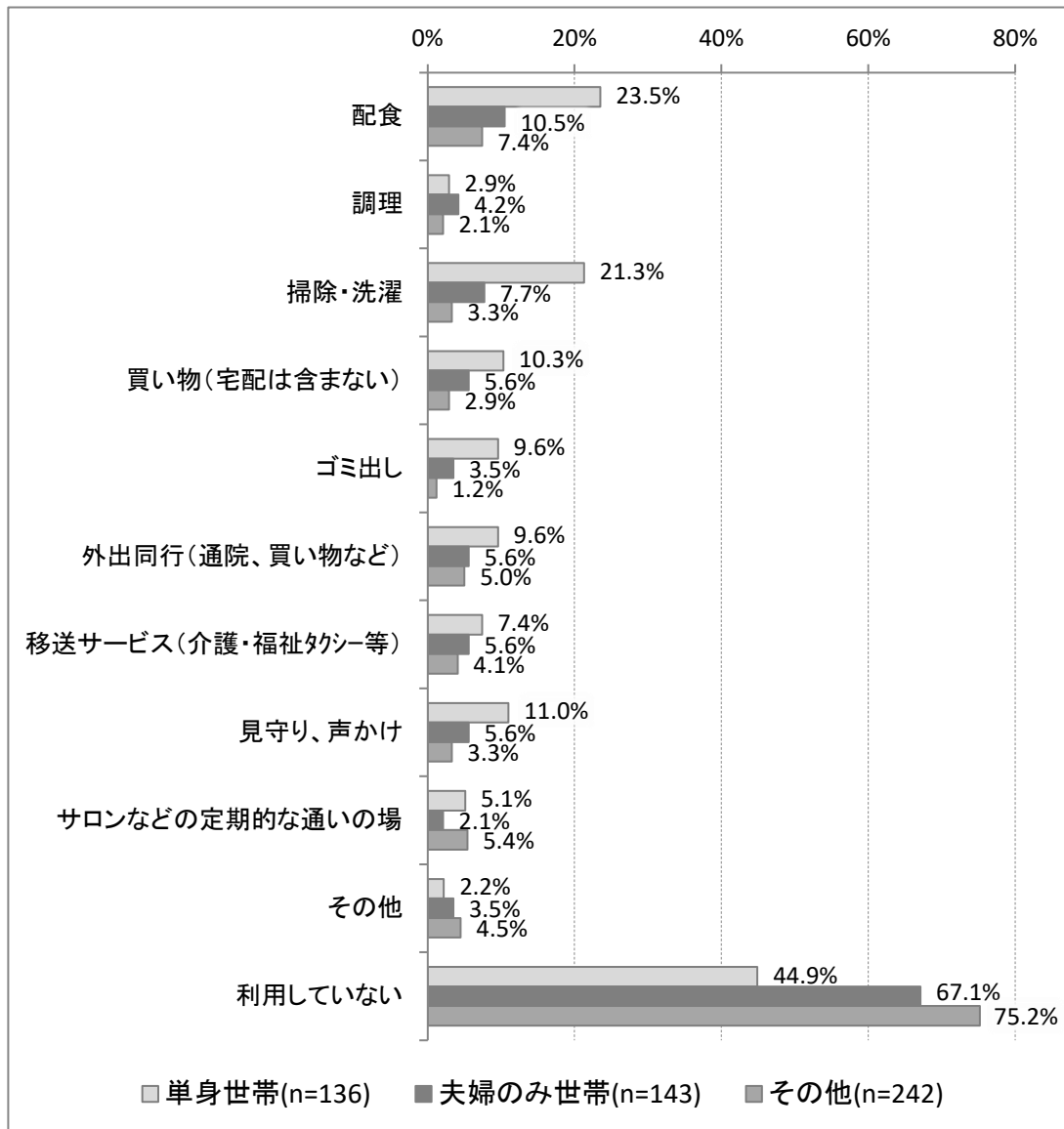
【留意事項】

- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性がある。
- 「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、特に「複数の支援・サービスを比較して、より優先順位の高い支援・サービスを明らかにする」といった視点でみることが重要である。

【世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が44.9%と最も割合が高く、次いで「配食」が23.5%、「掃除・洗濯」が21.3%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が67.1%と最も割合が高く、次いで「配食」が10.5%、「掃除・洗濯」が7.7%となっている。「その他」では「利用していない」が75.2%と最も割合が高く、次いで「配食」が7.4%、「サロンなどの定期的な通いの場」が5.4%となっている。

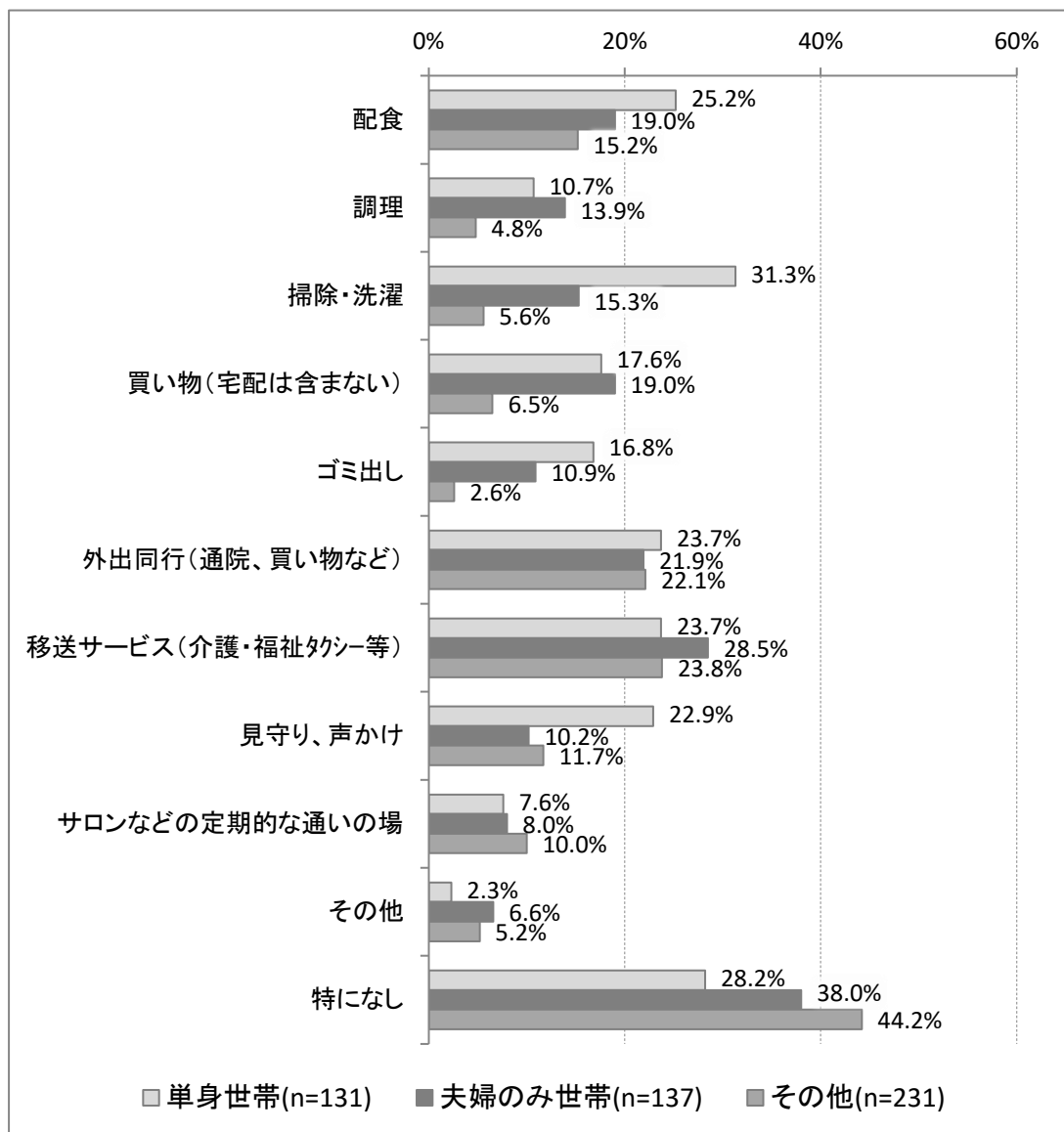
図表5-3 世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「掃除・洗濯」が31.3%と最も割合が高く、次いで「特になし」が28.2%、「配食」が25.2%となっている。「夫婦のみ世帯」では「特になし」が38.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が28.5%、「外出同行（通院、買い物など）」が21.9%となっている。「その他」では「特になし」が44.2%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が22.1%となっている。

図表5-4 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



③ 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

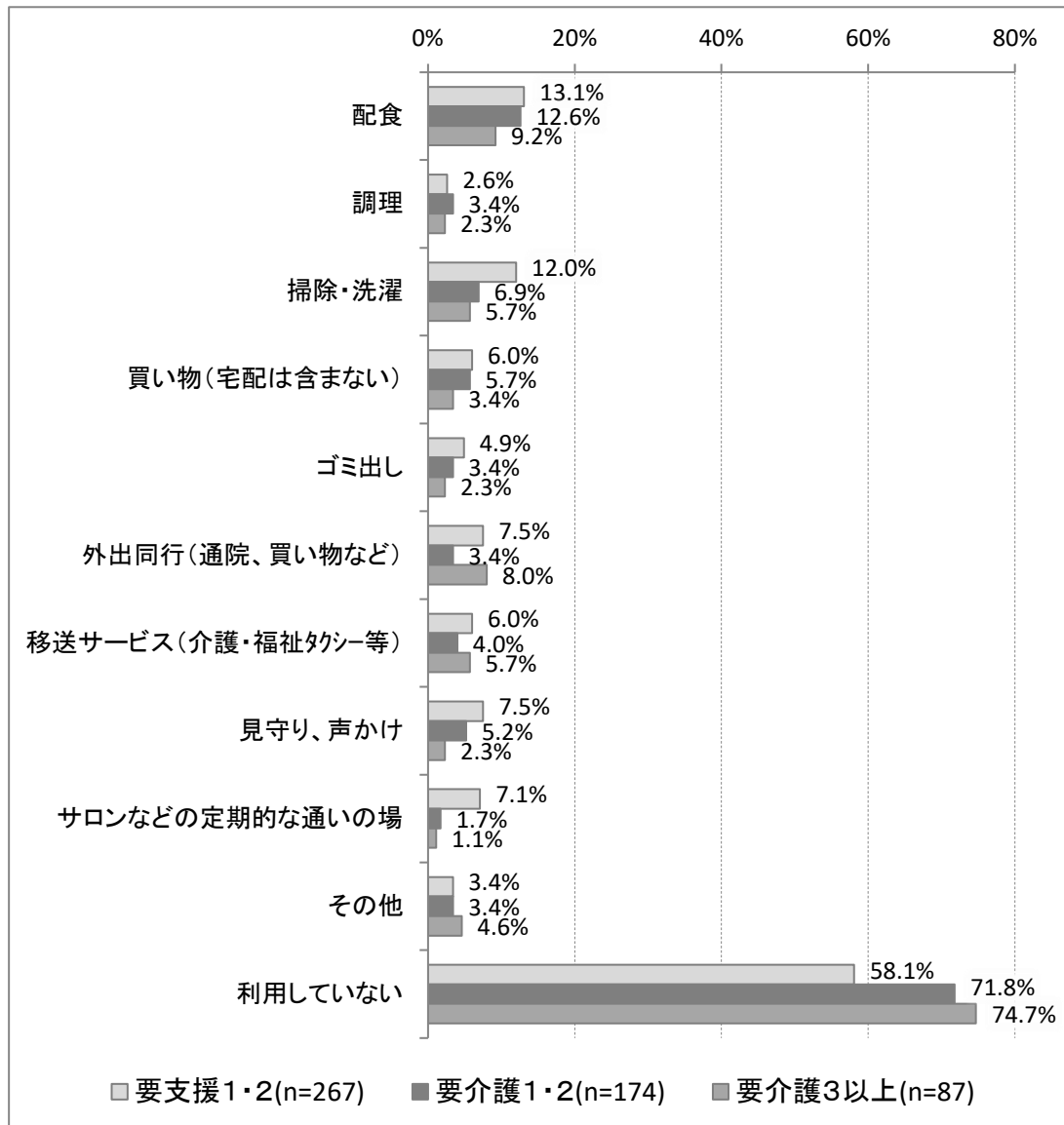
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしている。(図表5-5～図表5-8)
- 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられる。
- 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができる。

【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が58.1%と最も割合が高く、次いで「配食」が13.1%、「掃除・洗濯」が12.0%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が71.8%と最も割合が高く、次いで「配食」が12.6%、「掃除・洗濯」が6.9%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が74.7%と最も割合が高く、次いで「配食」が9.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が8.0%となっている。

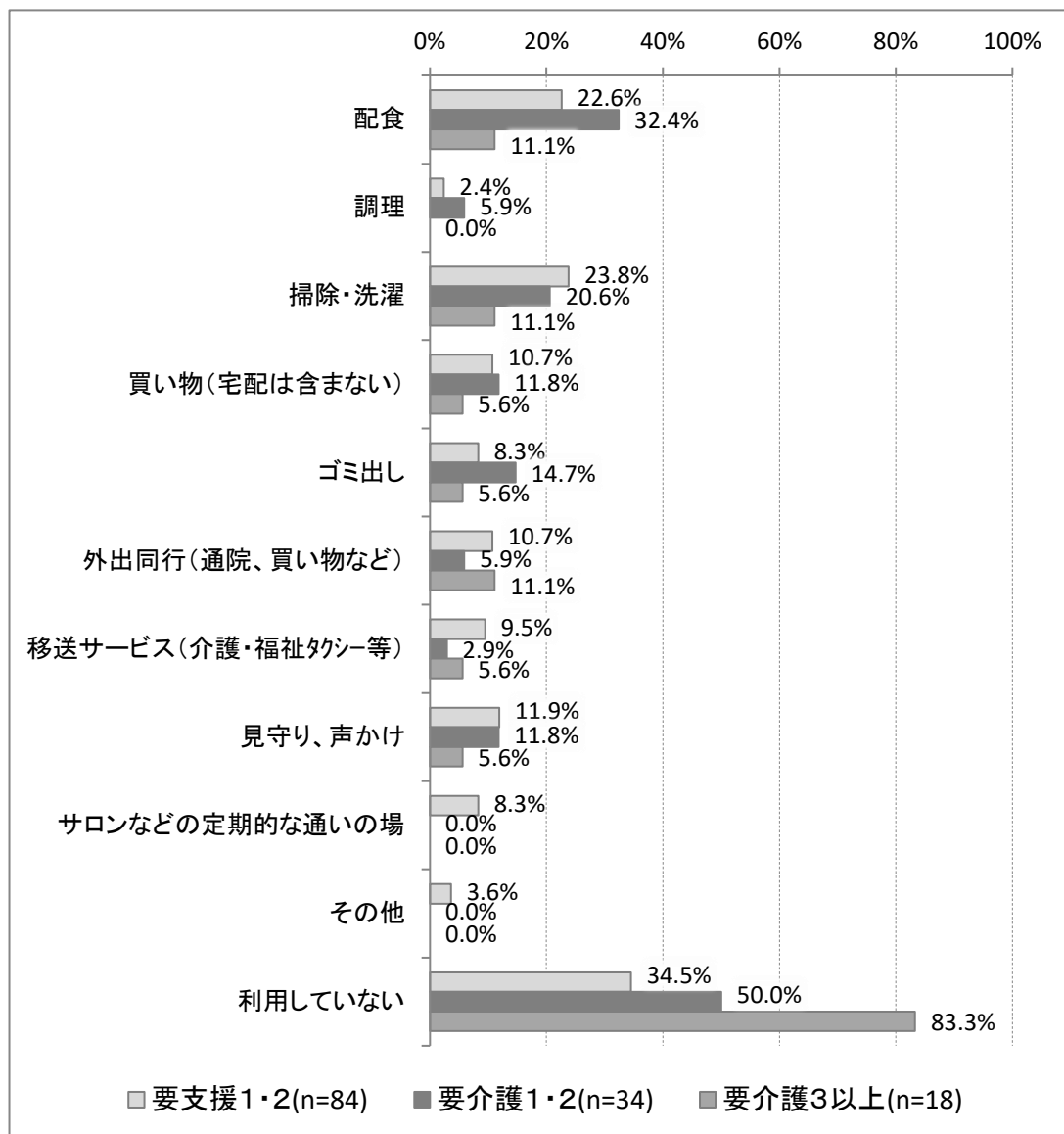
図表5-5 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が34.5%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が23.8%、「配食」が22.6%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が32.4%、「掃除・洗濯」が20.6%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が83.3%と最も割合が高く、次いで「配食」、「掃除・洗濯」、「外出同行(通院、買い物など)」が11.1%、「買い物(宅配は含まない)」、「ゴミ出し」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「見守り、声かけ」が5.6%となっている。

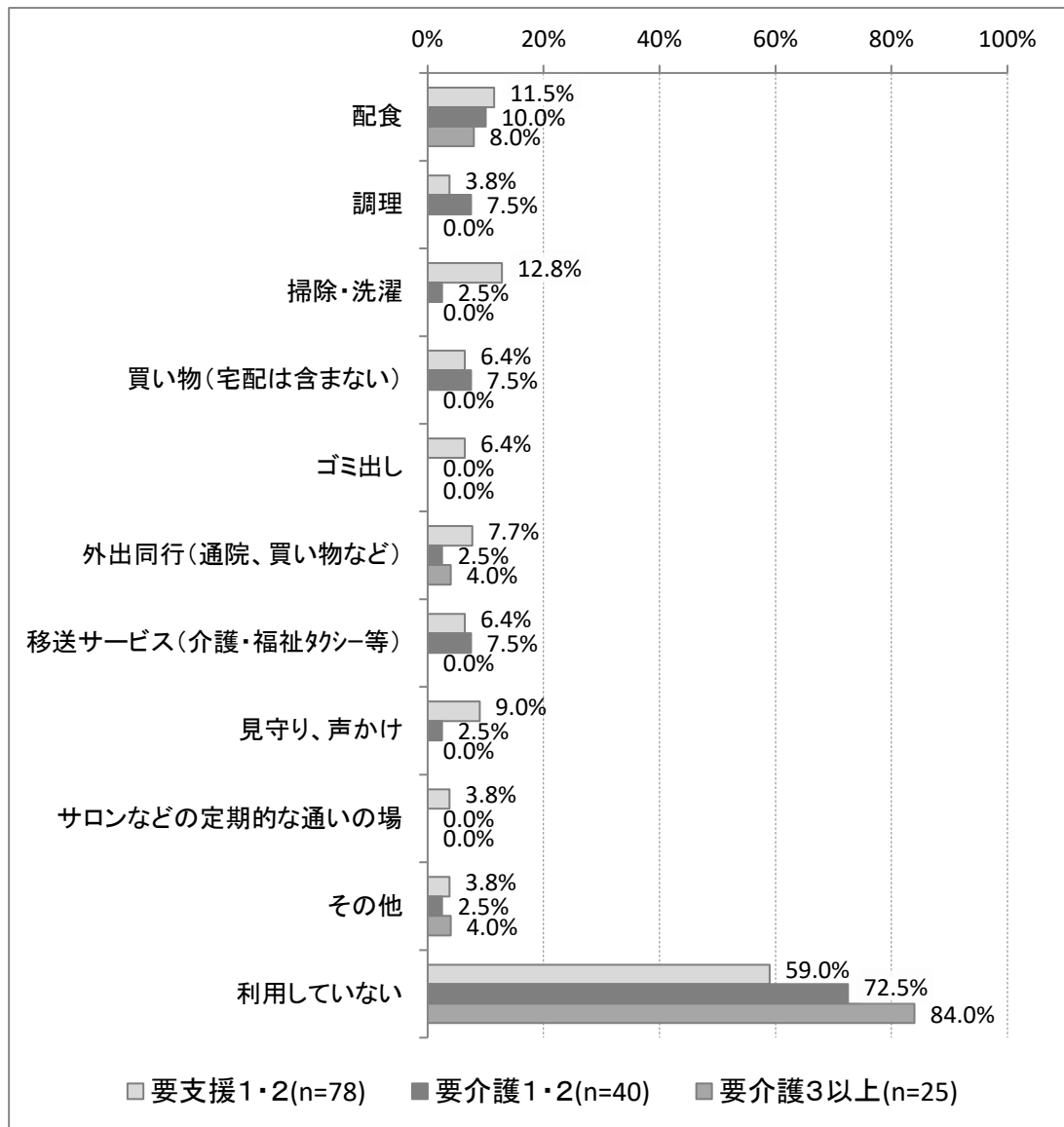
図表5-6 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)(複数回答)



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が59.0%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が12.8%、「配食」が11.5%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が72.5%と最も割合が高く、次いで「配食」が10.0%、「調理」、「買い物(宅配は含まない)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が7.5%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が84.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が8.0%、「外出同行(通院、買い物など)」、「その他」が4.0%となっている。

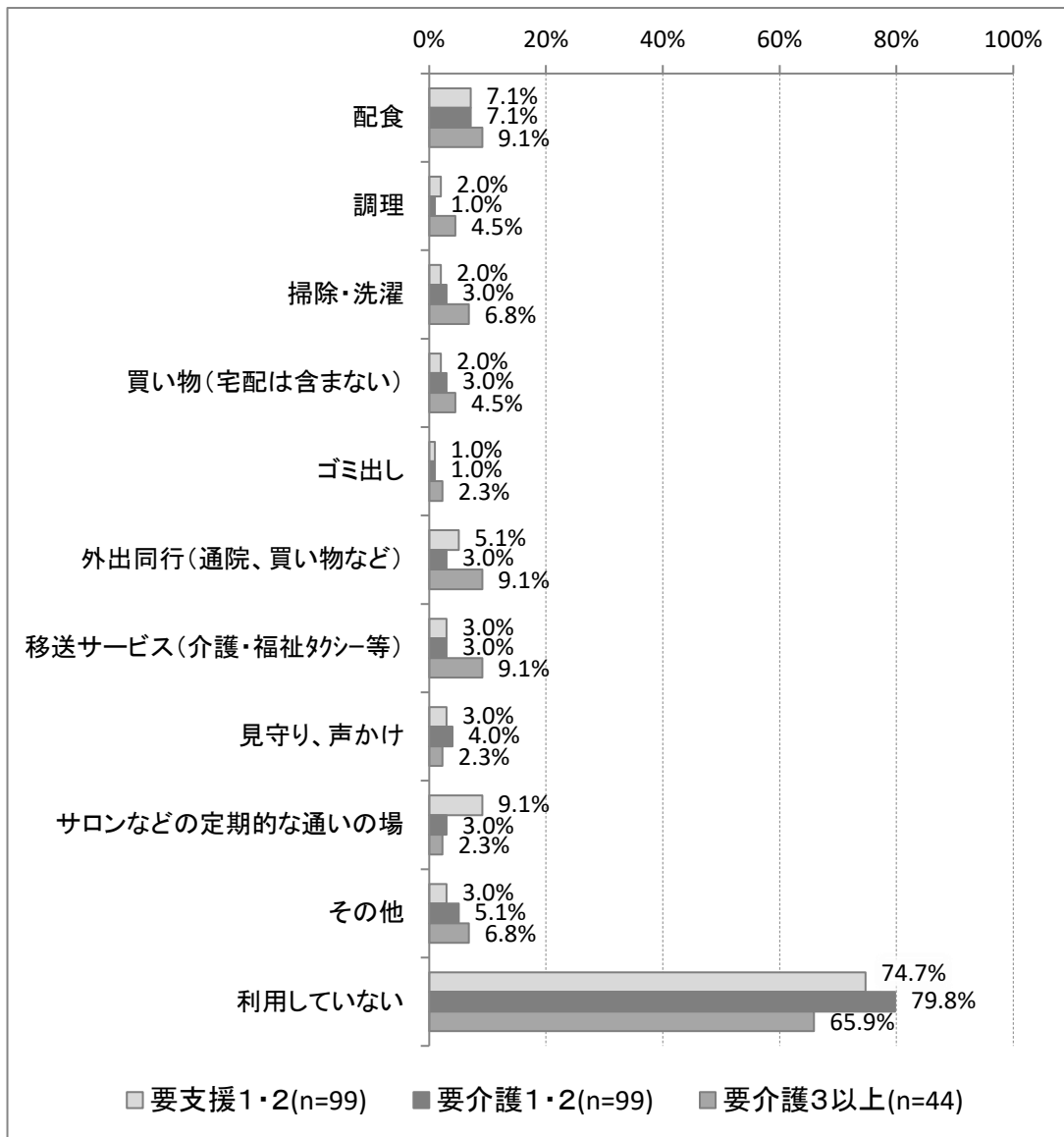
図表5-7 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)(複数回答)



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が74.7%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が9.1%、「配食」が7.1%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が79.8%と最も割合が高く、次いで「配食」が7.1%、「その他」が5.1%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が65.9%と最も割合が高く、次いで「配食」、「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「掃除・洗濯」、「その他」が9.1%となっている。

図表5-8 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)(複数回答)



④ 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

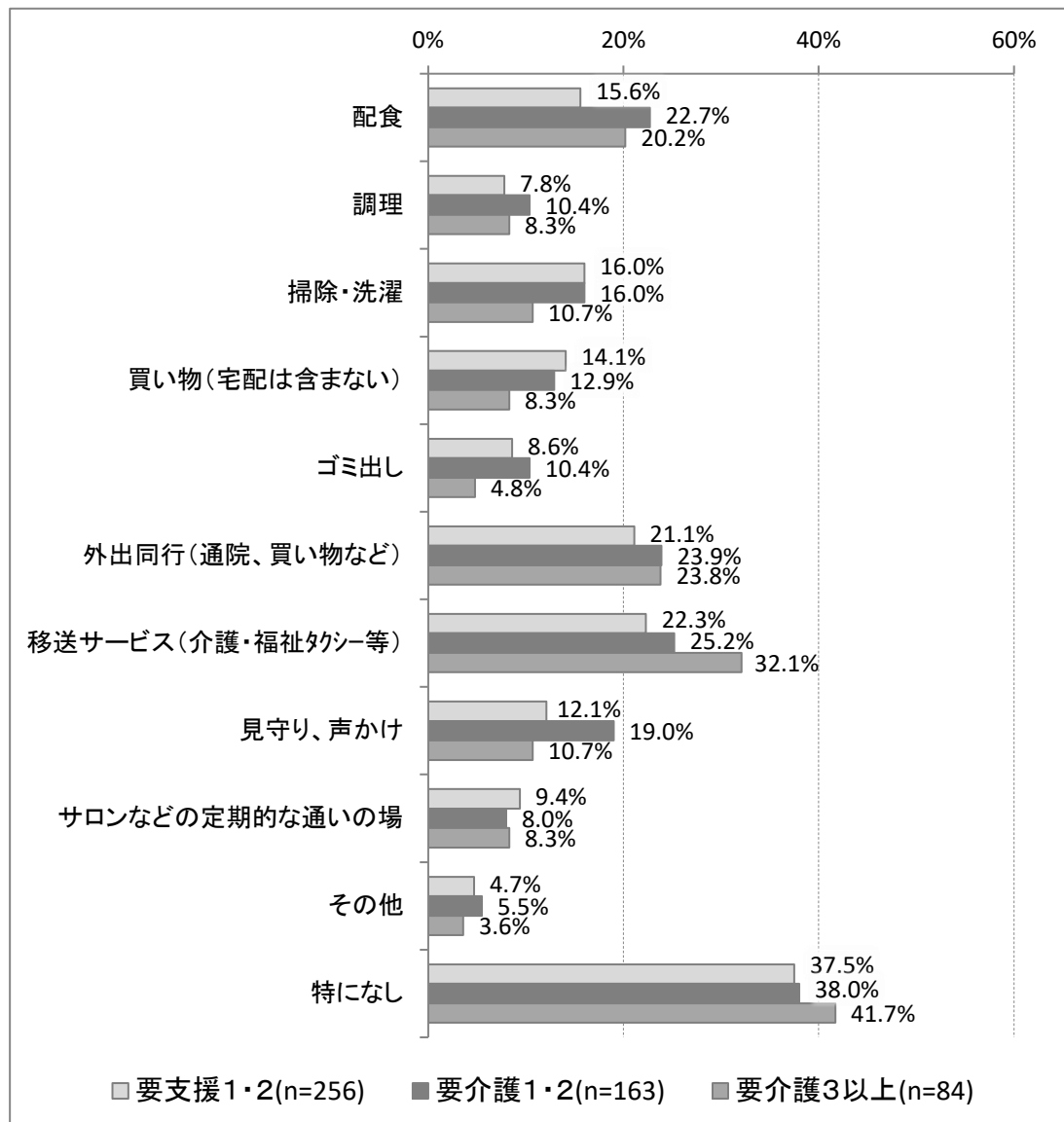
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしている。(図表5-9～図表5-12)
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していくことが必要である。

【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が37.5%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が22.3%、「外出同行(通院、買い物など)」が21.1%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が38.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が25.2%、「外出同行(通院、買い物など)」が23.9%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が41.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が32.1%、「外出同行(通院、買い物など)」が23.8%となっている。

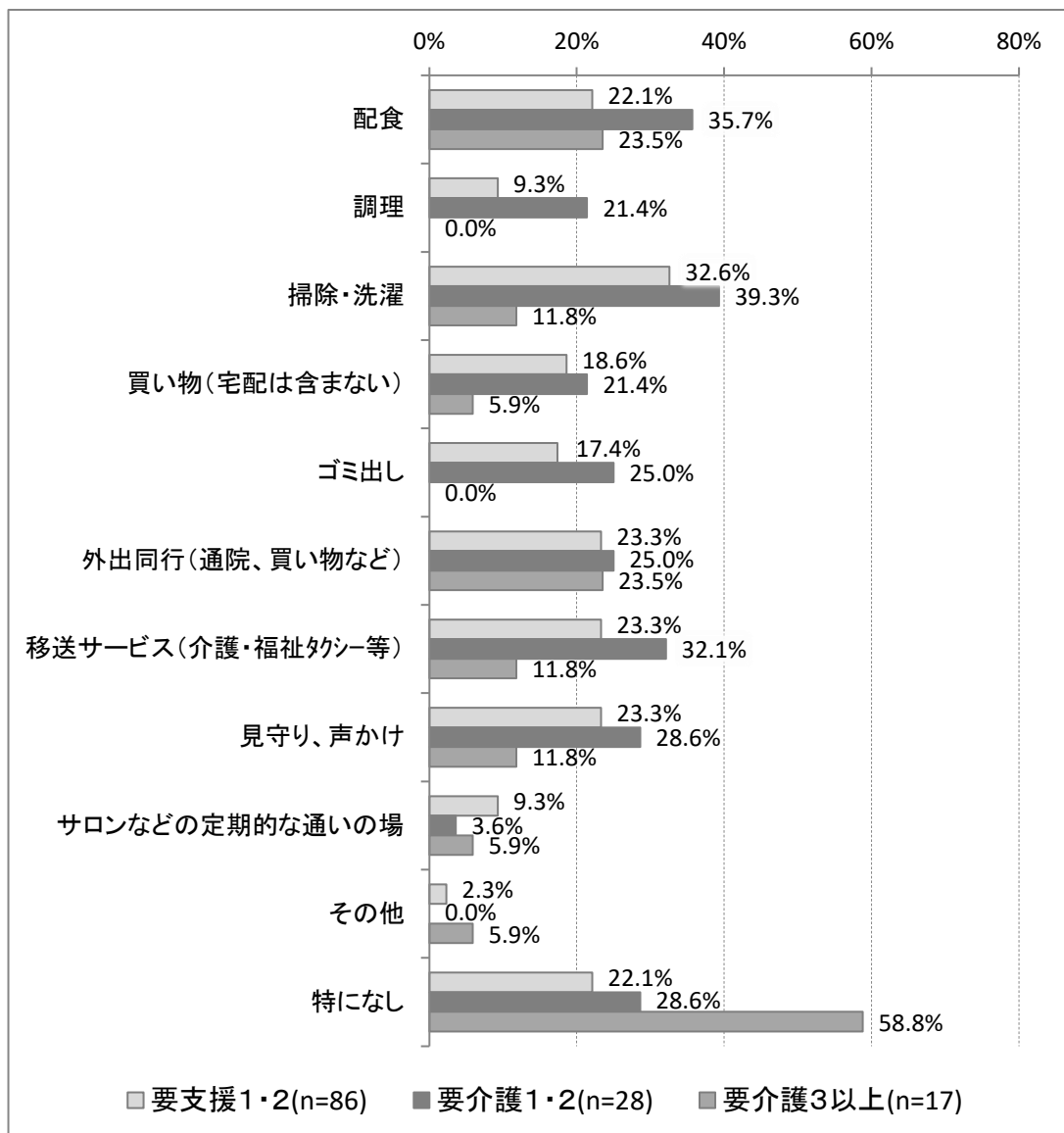
図表5-9 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(複数回答)



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「掃除・洗濯」が32.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「見守り、声かけ」が23.3%、「配食」、「特になし」が22.1%となっている。「要介護1・2」では「掃除・洗濯」が39.3%と最も割合が高く、次いで「配食」が35.7%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が32.1%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が58.8%と最も割合が高く、次いで「配食」、「外出同行(通院、買い物など)」が23.5%、「掃除・洗濯」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「見守り、声かけ」が11.8%となっている。

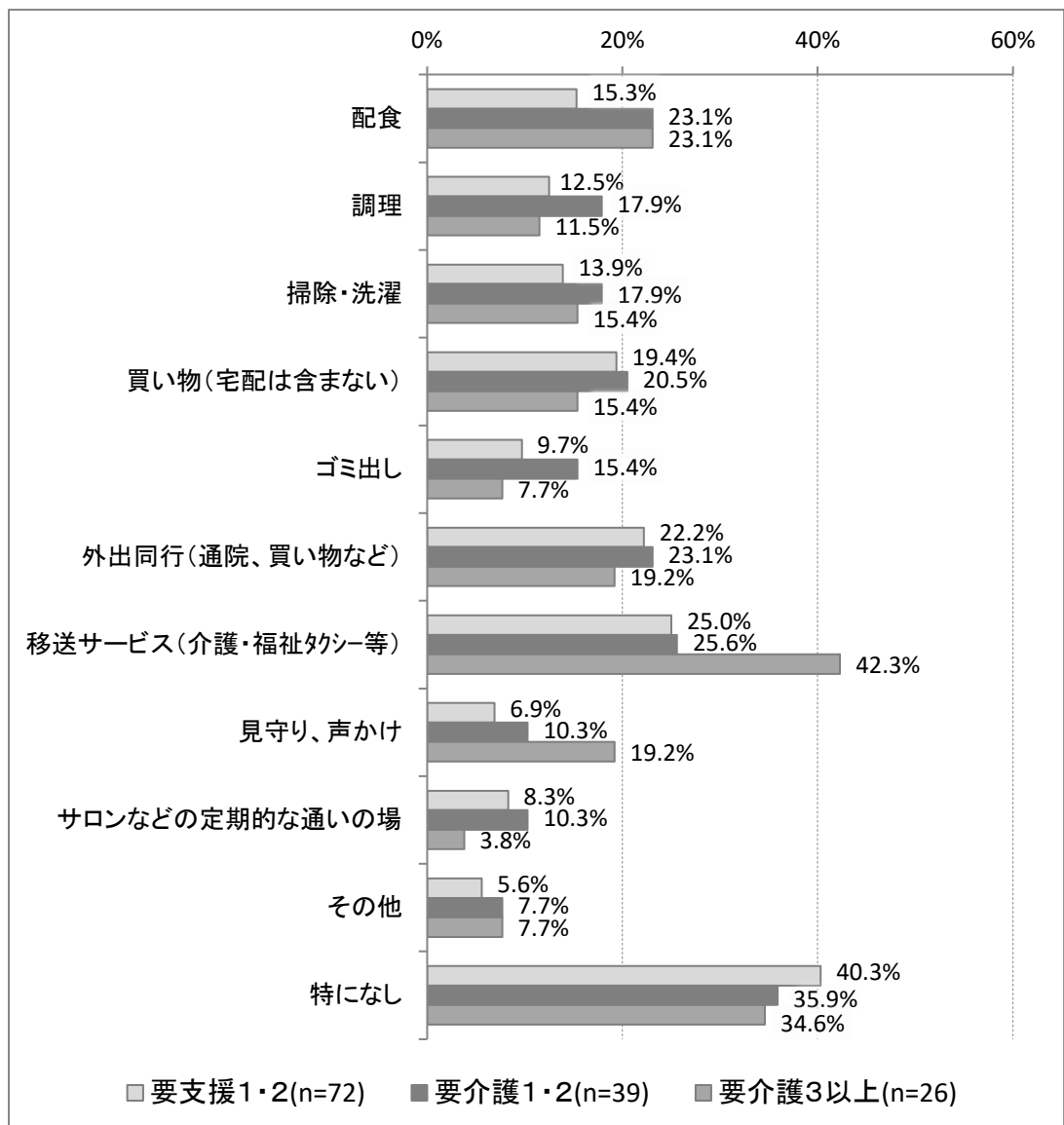
図表5-10 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)(複数回答)



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が40.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が25.0%、「外出同行(通院、買い物など)」が22.2%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が35.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が25.6%、「配食」、「外出同行(通院、買い物など)」が23.1%となっている。「要介護3以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が42.3%と最も割合が高く、次いで「特になし」が34.6%、「配食」が23.1%となっている。

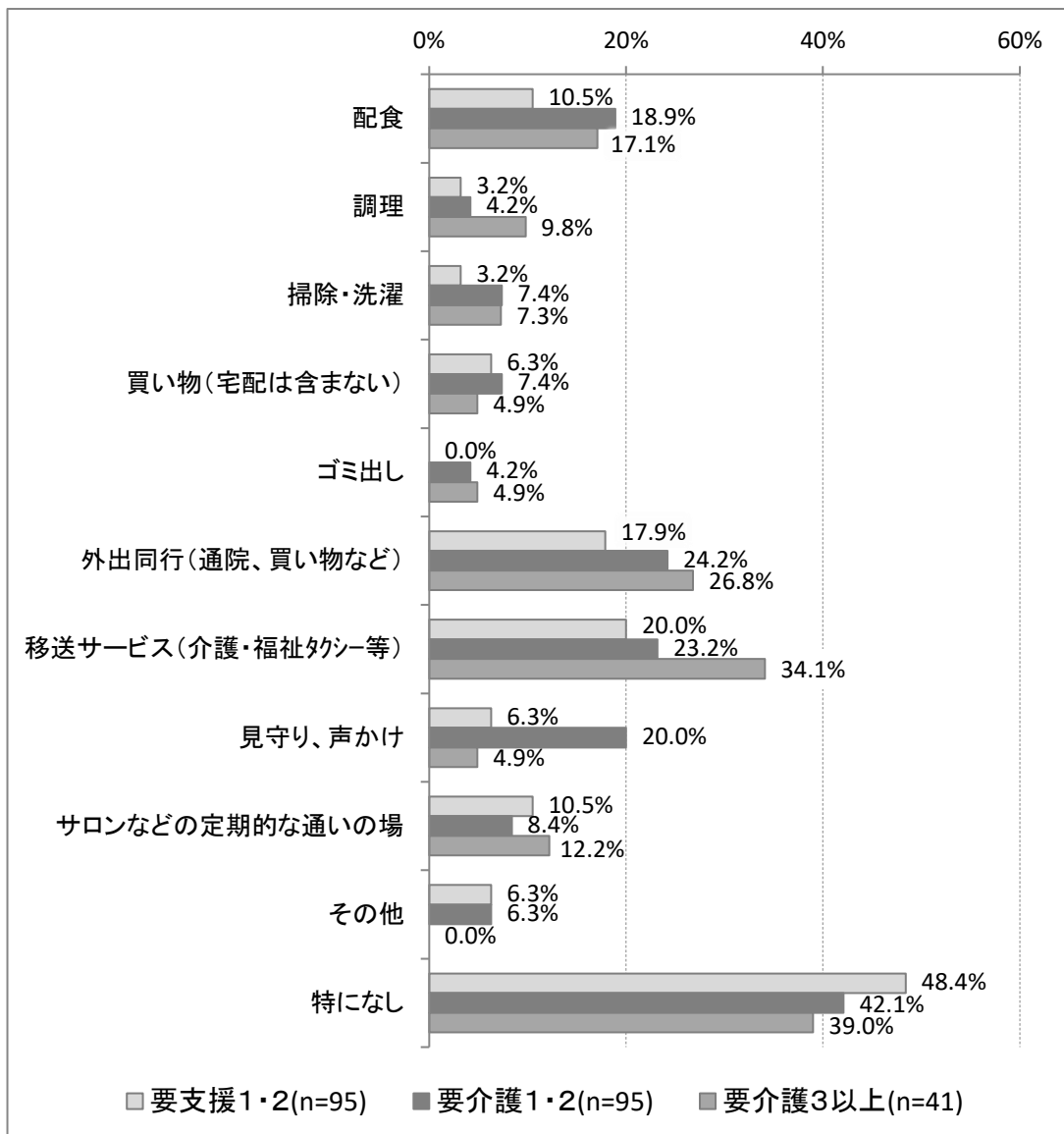
図表5-11 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)(複数回答)



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が48.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が20.0%、「外出同行(通院、買い物など)」が17.9%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が42.1%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が24.2%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が23.2%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が39.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が34.1%、「外出同行(通院、買い物など)」が26.8%となっている。

図表5-12 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス
(その他世帯)(複数回答)



4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っている。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「施設等検討の状況」などの分析を行う。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なるので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となる。

(2) 集計結果と着目すべきポイント

① 基礎集計

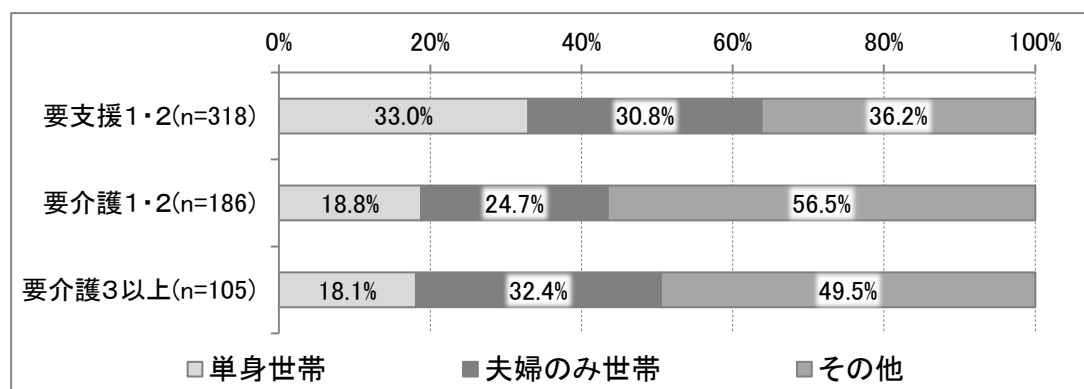
【着目すべきポイント】

- 「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計している。(図表6-1、図表6-2)
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認すること。

【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「その他」が36.2%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が33.0%、「夫婦のみ世帯」が30.8%となっている。「要介護1・2」では「その他」が56.5%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が24.7%、「単身世帯」が18.8%となっている。「要介護3以上」では「その他」が49.5%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が32.4%、「単身世帯」が18.1%となっている。

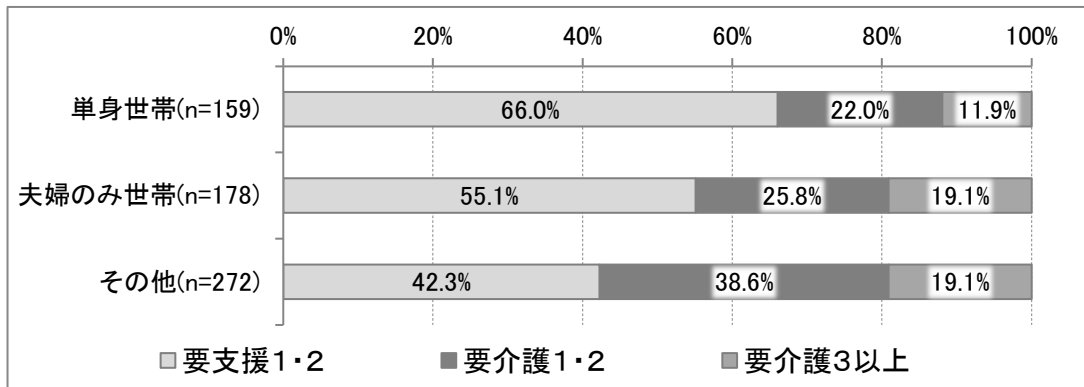
図表6-1 要介護度別・世帯類型



【世帯類型別・要介護度】

要介護度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要支援1・2」が66.0%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が22.0%、「要介護3以上」が11.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「要支援1・2」が55.1%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が25.8%、「要介護3以上」が19.1%となっている。「その他」では「要支援1・2」が42.3%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が38.6%、「要介護3以上」が19.1%となっている。

図表6-2 世帯類型別・要介護度



② 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

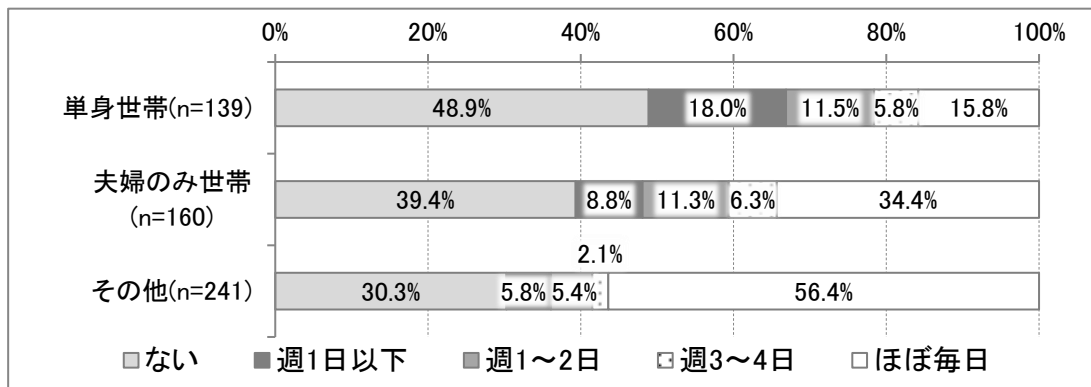
【着目すべきポイント】

- 図表6-3では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計している。また、図表6-4～図表6-6では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計している。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられる。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状について確認すること。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ない」が48.9%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が18.0%、「ほぼ毎日」が15.8%となっている。「夫婦のみ世帯」では「ない」が39.4%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が34.4%、「週1～2日」が11.3%となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が56.4%と最も割合が高く、次いで「ない」が30.3%、「週1日以下」が5.8%となっている。

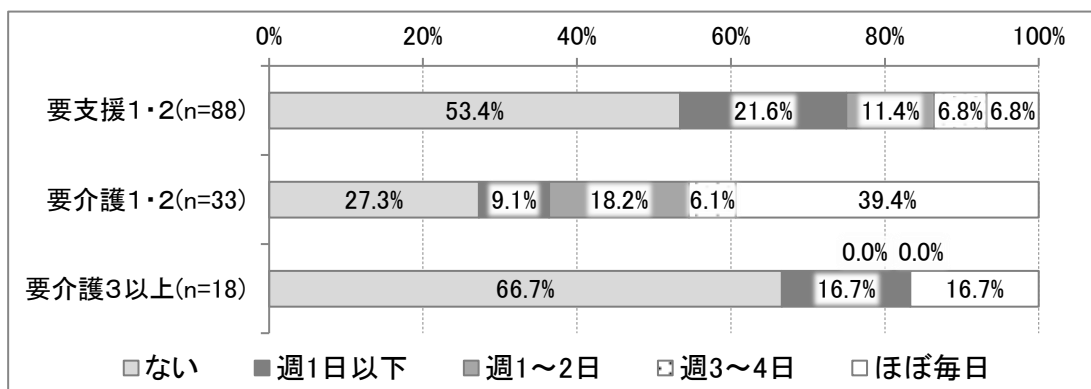
図表6-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度



【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「ない」が53.4%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が21.6%、「週1～2日」が11.4%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が39.4%と最も割合が高く、次いで「ない」が27.3%、「週1～2日」が18.2%となっている。「要介護3以上」では「ない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」、「ほぼ毎日」が16.7%となっている。

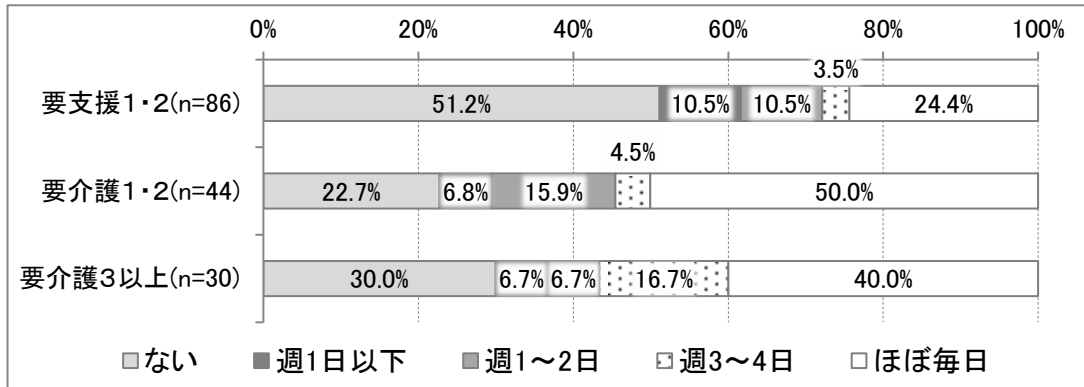
図表6-4 要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)



【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「ない」が51.2%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が24.4%、「週1日以下」、「週1～2日」が10.5%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が50.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が22.7%、「週1～2日」が15.9%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が40.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が30.0%、「週3～4日」が16.7%となっている。

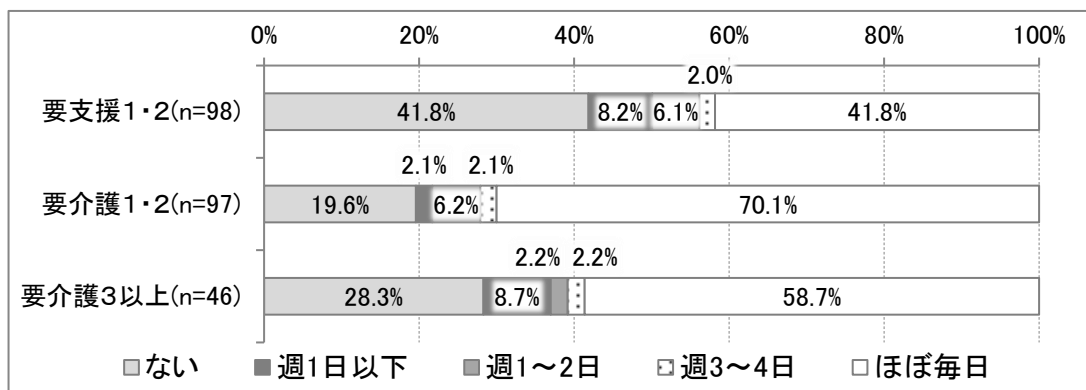
図表6-5 要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)】

ご家族等の介護の頻度を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「ない」、「ほぼ毎日」が41.8%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が8.2%、「週1～2日」が6.1%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が70.1%と最も割合が高く、次いで「ない」が19.6%、「週1～2日」が6.2%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が58.7%と最も割合が高く、次いで「ない」が28.3%、「週1日以下」が8.7%となっている。

図表6-6 要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)



③ 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

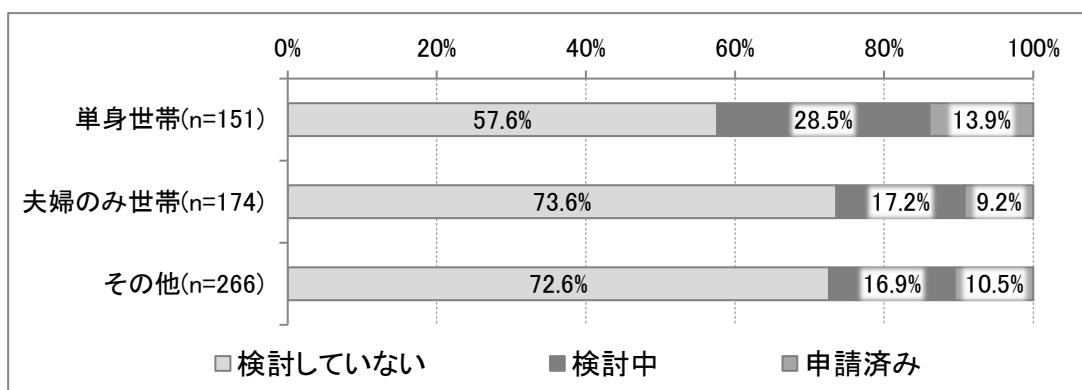
【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしている。(図表6-7～図表6-13)
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つである。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定している。

【世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が57.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.5%、「申請済み」が13.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が73.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が17.2%、「申請済み」が9.2%となっている。「その他」では「検討していない」が72.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.9%、「申請済み」が10.5%となっている。

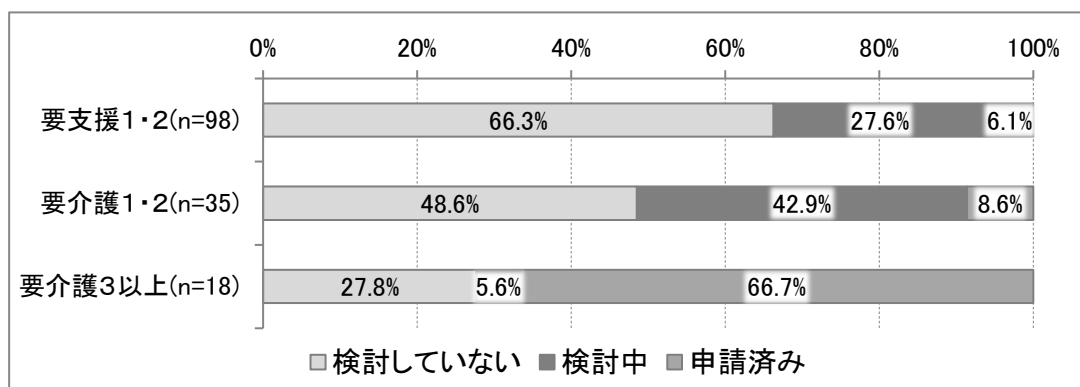
図表6-7 世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)



【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が66.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.6%、「申請済み」が6.1%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が48.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が42.9%、「申請済み」が8.6%となっている。「要介護3以上」では「申請済み」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が27.8%、「検討中」が5.6%となっている。

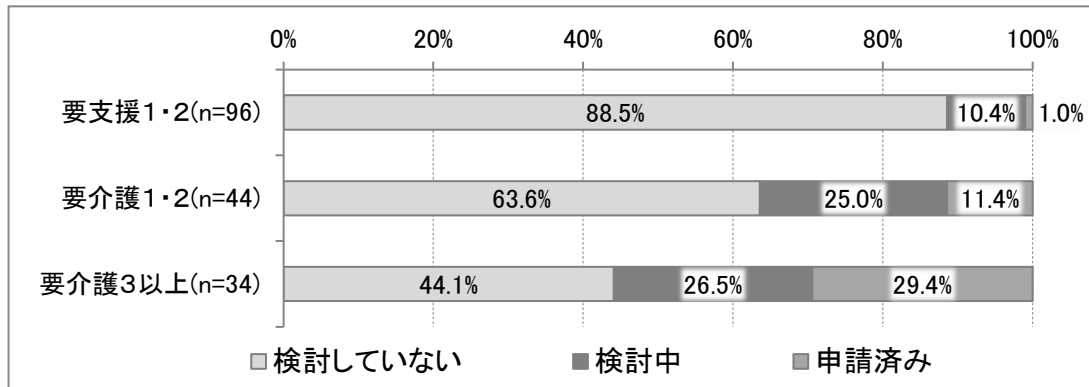
図表6-8 要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)



【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が88.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が10.4%、「申請済み」が1.0%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が63.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が11.4%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が44.1%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が29.4%、「検討中」が26.5%となっている。

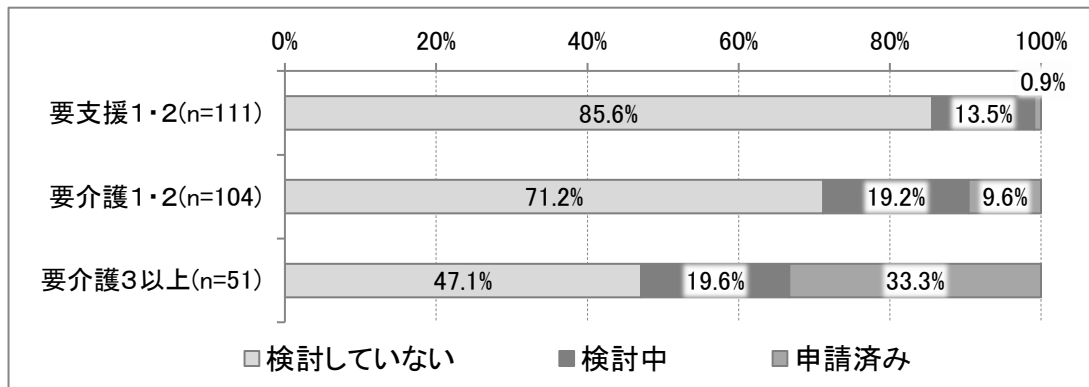
図表6-9 要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が85.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が13.5%、「申請済み」が0.9%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が71.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が19.2%、「申請済み」が9.6%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が47.1%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が33.3%、「検討中」が19.6%となっている。

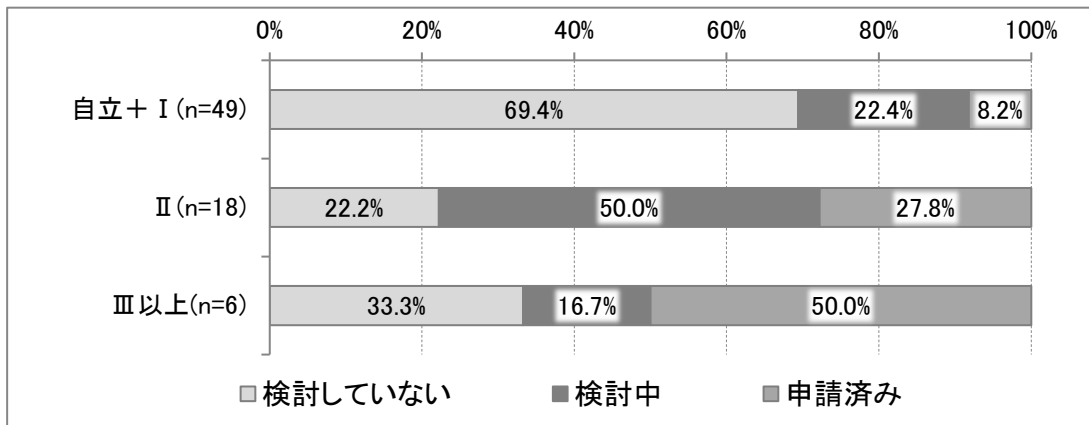
図表6-10 要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)



【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討していない」が69.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が22.4%、「申請済み」が8.2%となっている。「Ⅱ」では「検討中」が50.0%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が27.8%、「検討していない」が22.2%となっている。「Ⅲ以上」では「申請済み」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「検討中」が16.7%となっている。

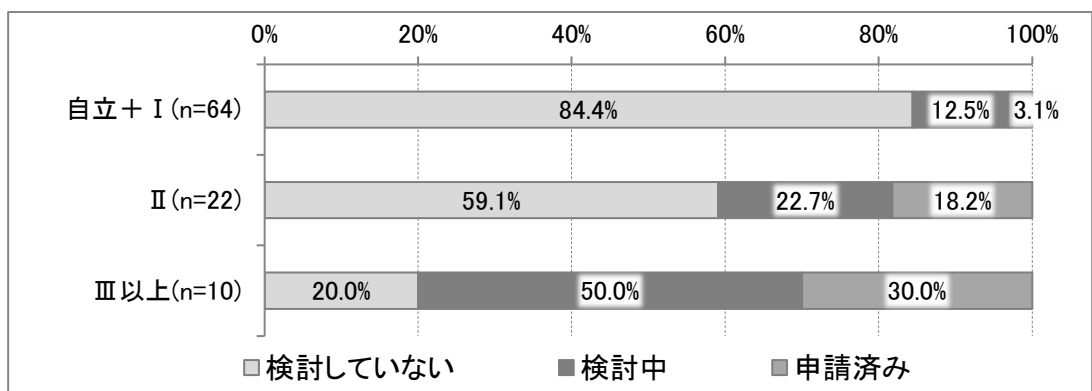
図表6-11 認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)



【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討していない」が84.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が12.5%、「申請済み」が3.1%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が59.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が22.7%、「申請済み」が18.2%となっている。「Ⅲ以上」では「検討中」が50.0%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が30.0%、「検討していない」が20.0%となっている。

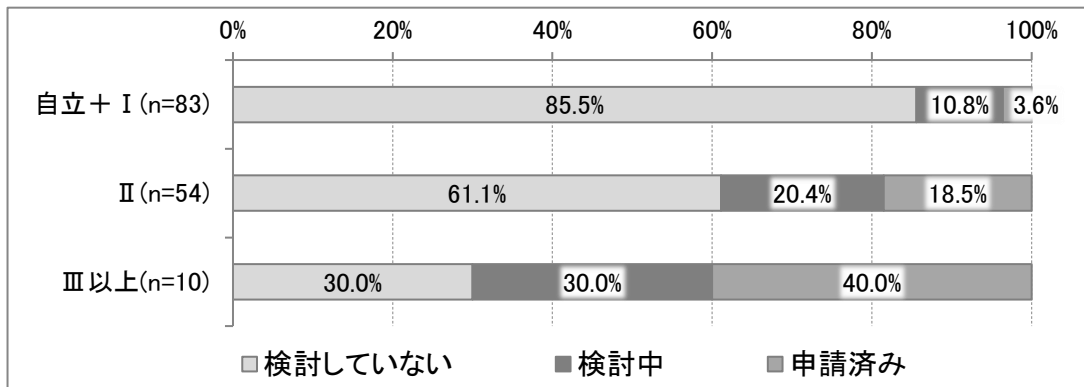
図表6-12 認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討していない」が85.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が10.8%、「申請済み」が3.6%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が61.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.4%、「申請済み」が18.5%となっている。「Ⅲ以上」では「申請済み」が40.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」、「検討中」が30.0%となっている。

図表6-13 認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)



5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

(1) 集計・分析の狙い

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行っている。
- 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行っている。

(2) 集計結果と着目すべきポイント

① 基礎集計

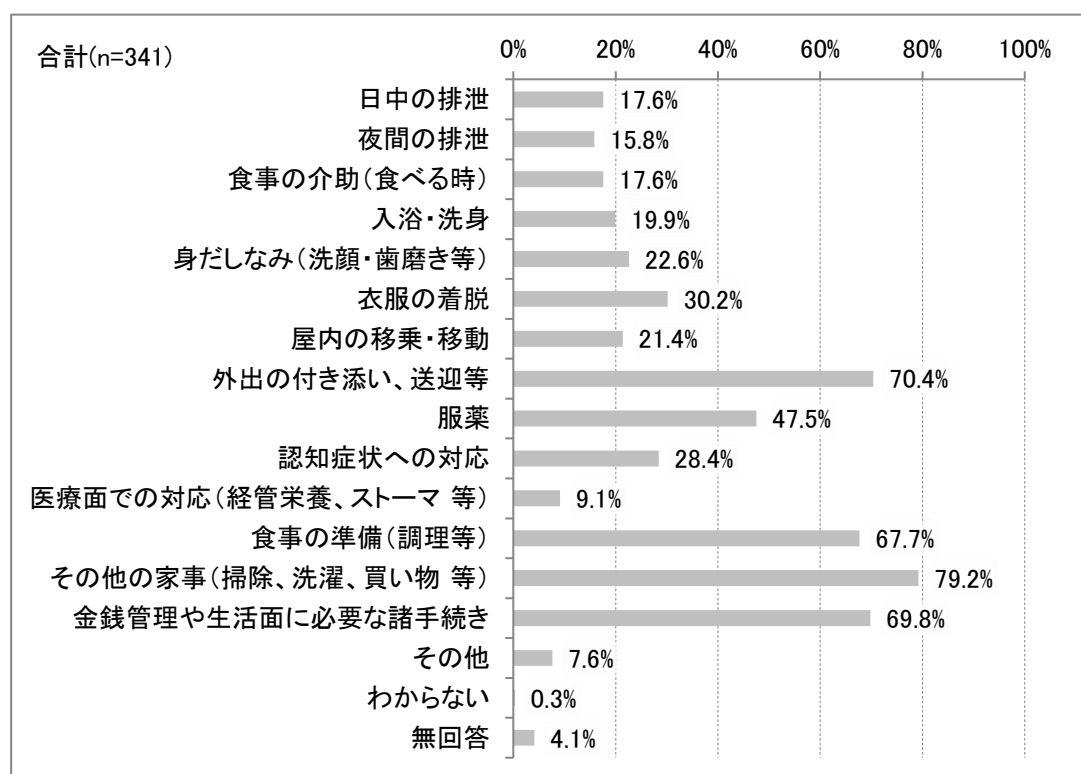
【着目すべきポイント】

- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っている。(図表7-1～図表7-3)
- ここでは、特に「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができる。

【主な介護者が行っている介護】

「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」の割合が最も高く79.2%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等(70.4%)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き(69.8%)」となっている。

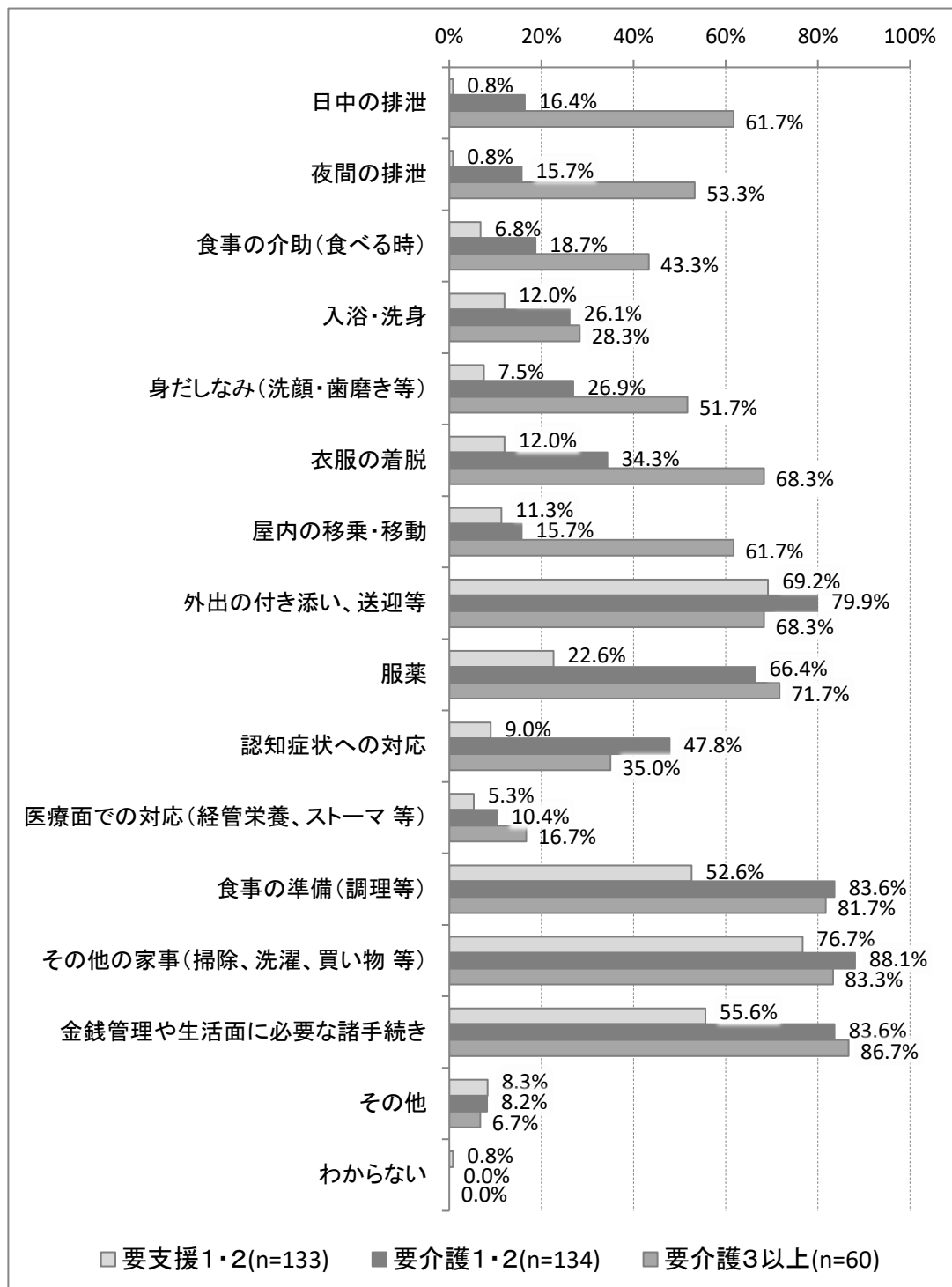
図表7-1 ★主な介護者が行っている介護(複数回答)



【要介護度別・主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が76.7%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が69.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が55.6%となっている。「要介護1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が88.1%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が83.6%、「外出の付き添い、送迎等」が79.9%となっている。「要介護3以上」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が86.7%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が83.3%、「食事の準備（調理等）」が81.7%となっている。

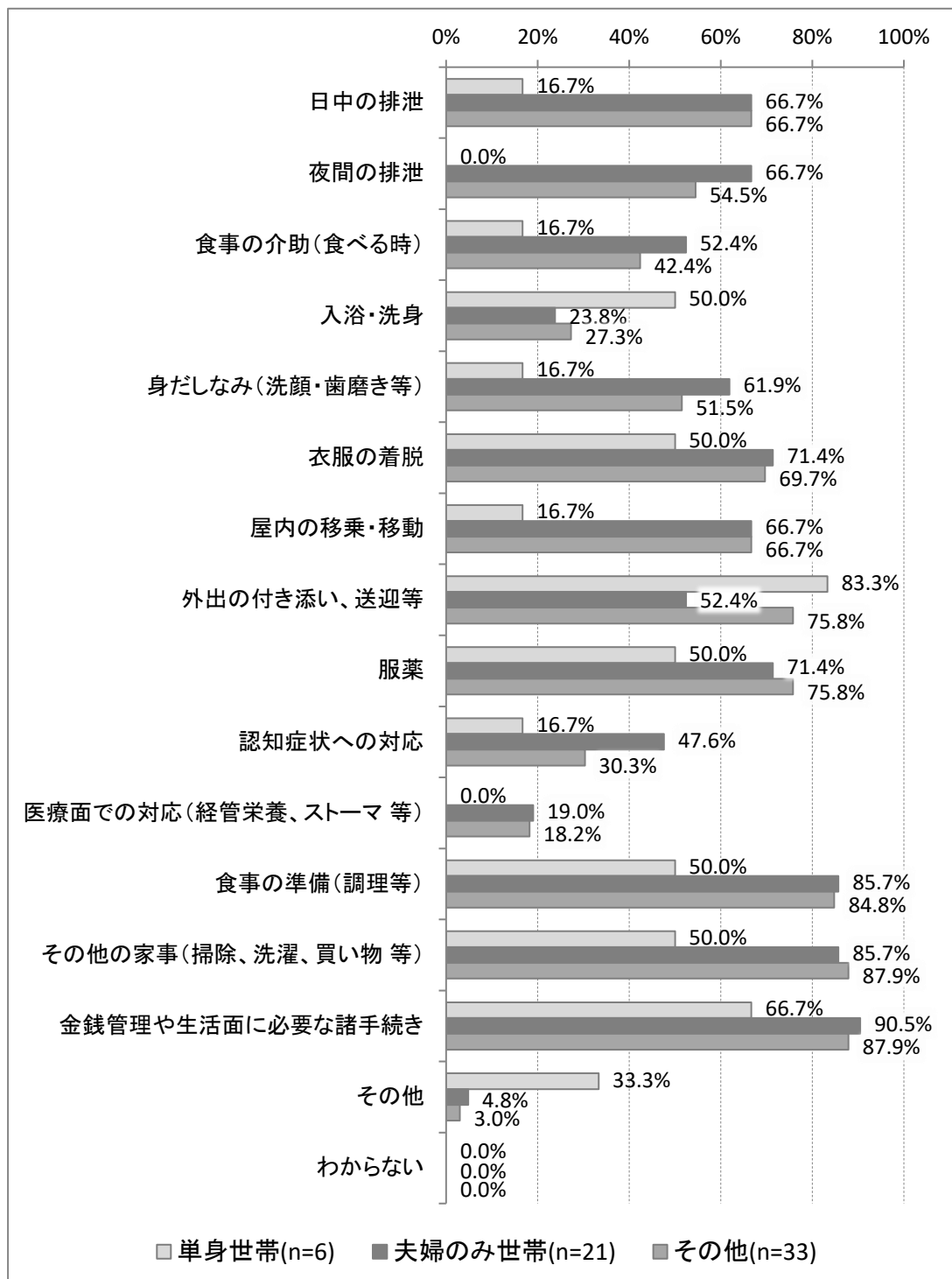
図表7-2 要介護度別・★主な介護者が行っている介護（複数回答）



【世帯類型別・主な介護者が行っている介護(要介護3以上)】

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「外出の付き添い、送迎等」が83.3%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が66.7%、「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「服薬」、「食事の準備(調理等)」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が50.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が90.5%と最も割合が高く、次いで「食事の準備(調理等)」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が85.7%、「衣服の着脱」、「服薬」が71.4%となっている。「その他」では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が87.9%と最も割合が高く、次いで「食事の準備(調理等)」が84.8%、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」が75.8%となっている。

図表7-3 世帯類型別・★主な介護者が行っている介護(要介護3以上)(複数回答)



② 訪問診療の利用割合

【着目すべきポイント】

- 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っている。(図表7-4～図表7-6)。
- 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乗じることで、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能である。

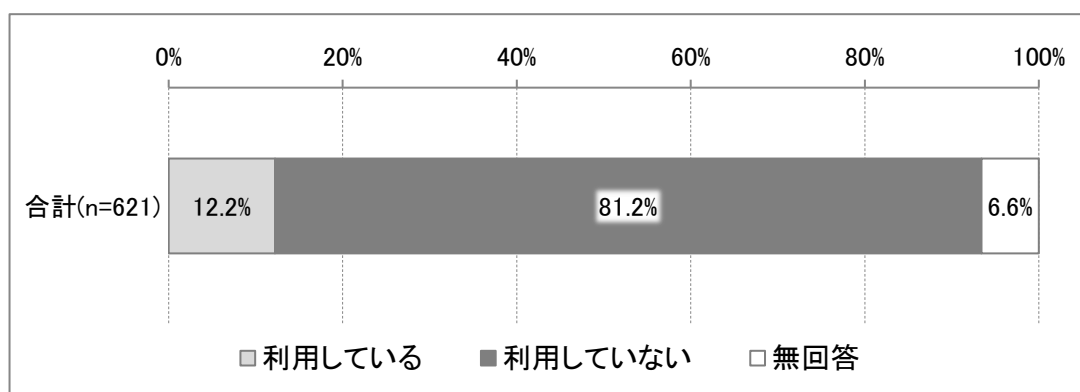
【留意事項】

- ここでの「訪問診療」には、訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含まれていない。
- また、上述の「将来の在宅における訪問診療の利用者数」を推計方法は、現在の訪問診療の利用割合を前提としたものであり、地域の状況の変化によっては誤差が大きくなることが想定される。粗推計のための手法である点については、注意が必要である。
- 必要に応じて、地域医療構想の検討における「2025年の在宅医療等で対応が必要な医療需要」の需要量予測の結果等も参照のこと。

【訪問診療の利用の有無】

「利用していない」の割合が81.2%、「利用している」の割合が12.2%となっている。

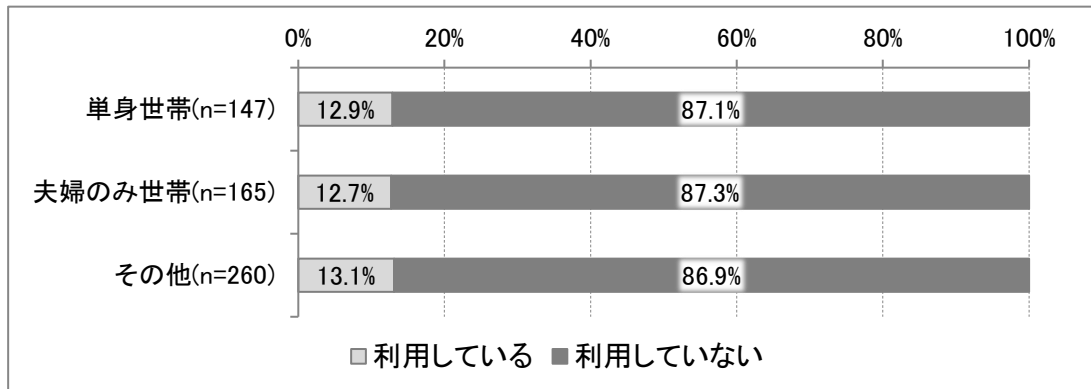
図表7-4 ★訪問診療の利用の有無



【世帯類型別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が87.1%、「利用している」が12.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が87.3%、「利用している」が12.7%となっている。「その他」では「利用していない」が86.9%、「利用している」が13.1%となっている。

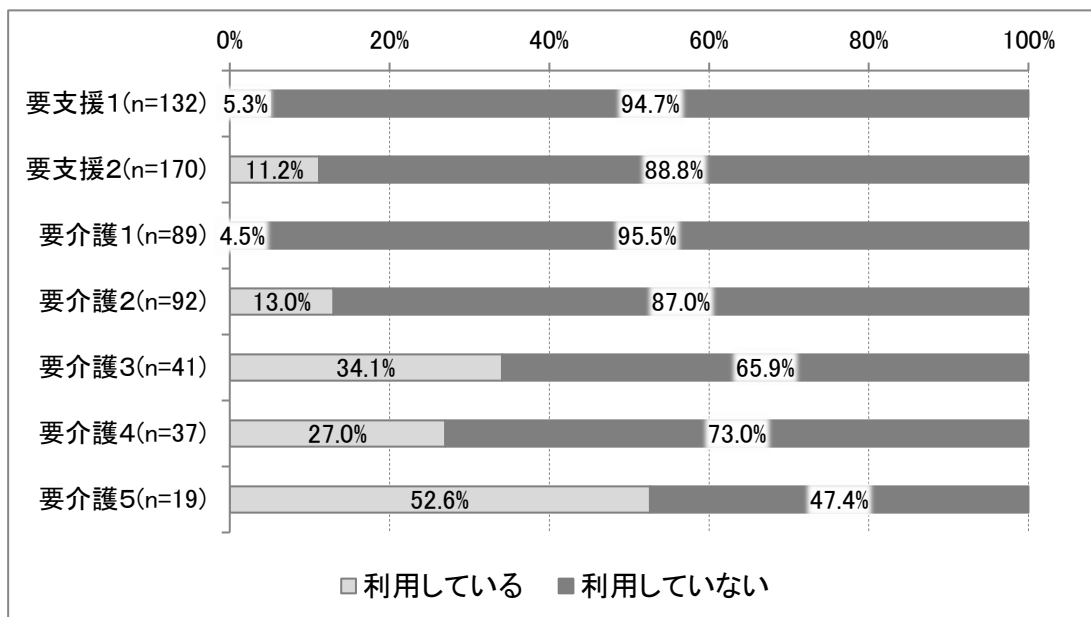
図表 7-5 世帯類型別・★訪問診療の利用割合



【要介護度別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を要介護度別にみると、「要支援1」では「利用していない」が94.7%、「利用している」が5.3%となっている。「要支援2」では「利用していない」が88.8%、「利用している」が11.2%となっている。「要介護1」では「利用していない」が95.5%、「利用している」が4.5%となっている。「要介護2」では「利用していない」が87.0%、「利用している」が13.0%となっている。「要介護3」では「利用していない」が65.9%、「利用している」が34.1%となっている。「要介護4」では「利用していない」が73.0%、「利用している」が27.0%となっている。「要介護5」では「利用している」が52.6%、次いで「利用していない」が47.4%となっている。

図表 7-6 要介護度別・★訪問診療の利用割合



6 サービス未利用の理由など

(1) 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理している。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ5において整理をしているが、ここで整理する集計結果も必要に応じて活用すること。

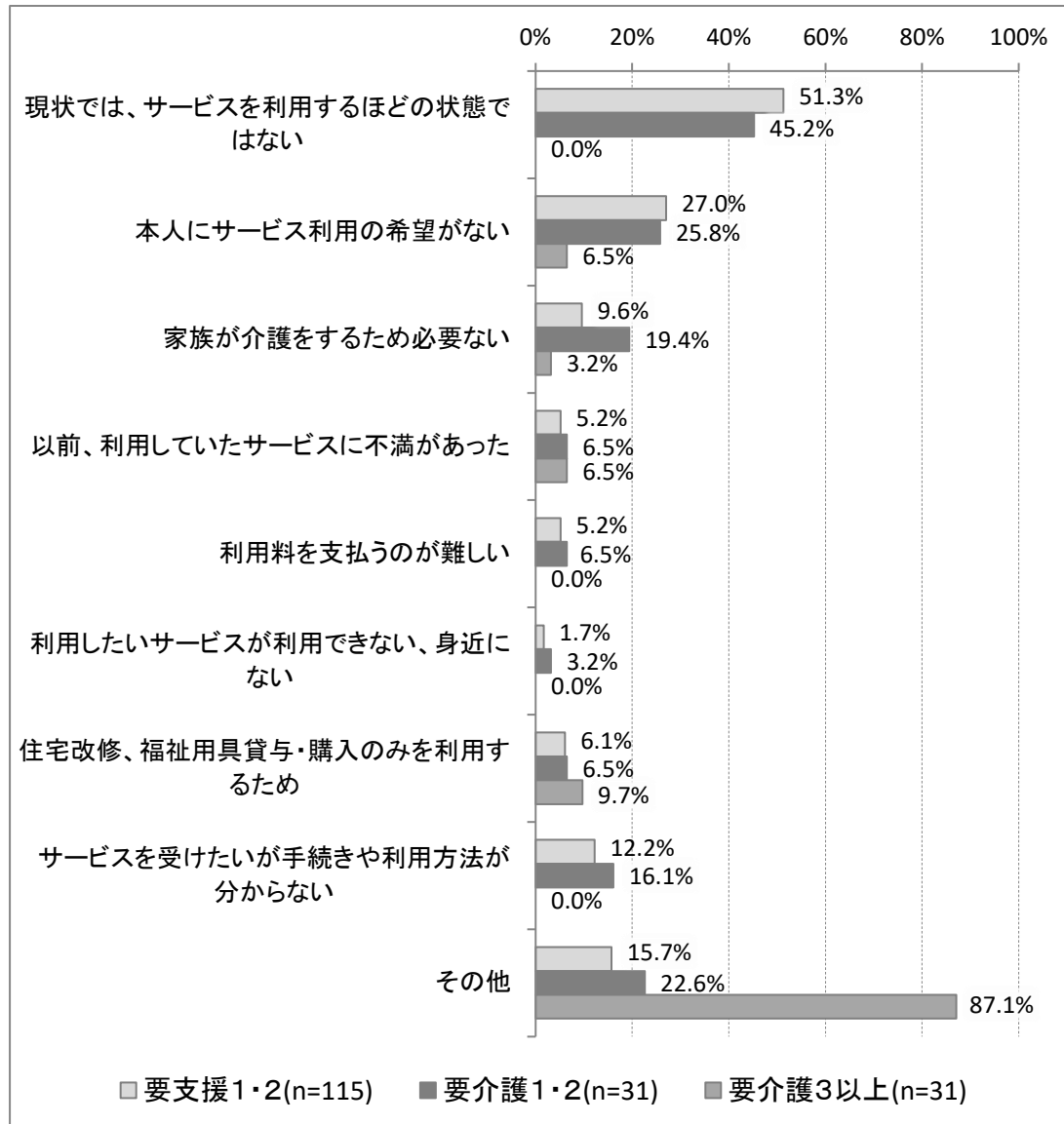
(2) 集計結果（参考）

① 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【要介護度別のサービス未利用の理由】

未利用の理由を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.3%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が27.0%、「その他」が15.7%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が45.2%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が25.8%、「その他」が22.6%となっている。「要介護3以上」では「その他」が87.1%と最も割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が9.7%、「本人にサービス利用の希望がない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」が6.5%となっている。

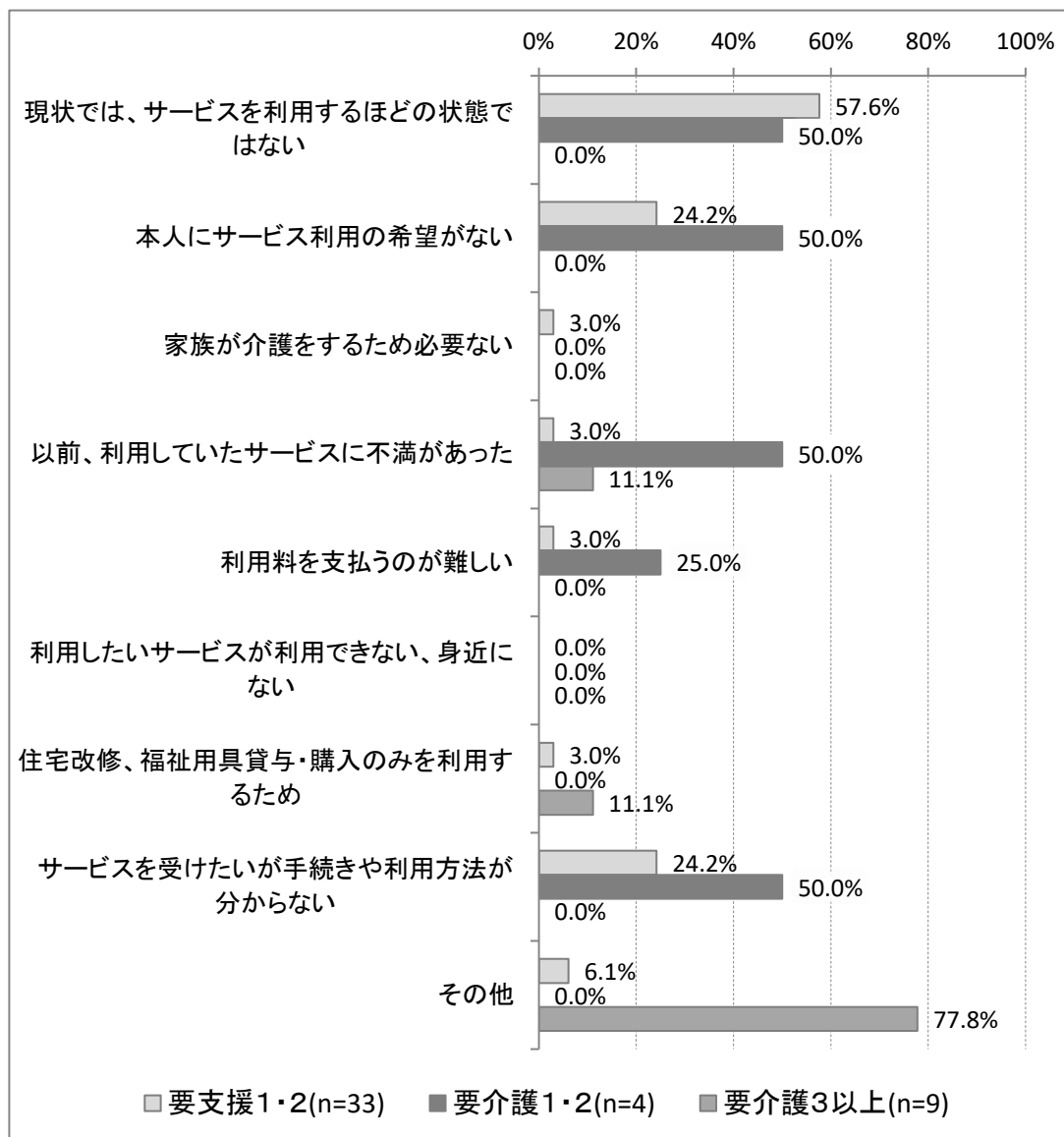
図表 8 - 1 要介護度別の★サービス未利用の理由（複数回答）



【要介護度別のサービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が57.6%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が24.2%、「その他」が6.1%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「利用料を支払うのが難しい」が25.0%となっている。「要介護3以上」では「その他」が77.8%と最も割合が高く、次いで「以前、利用していたサービスに不満があった」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が11.1%となっている。

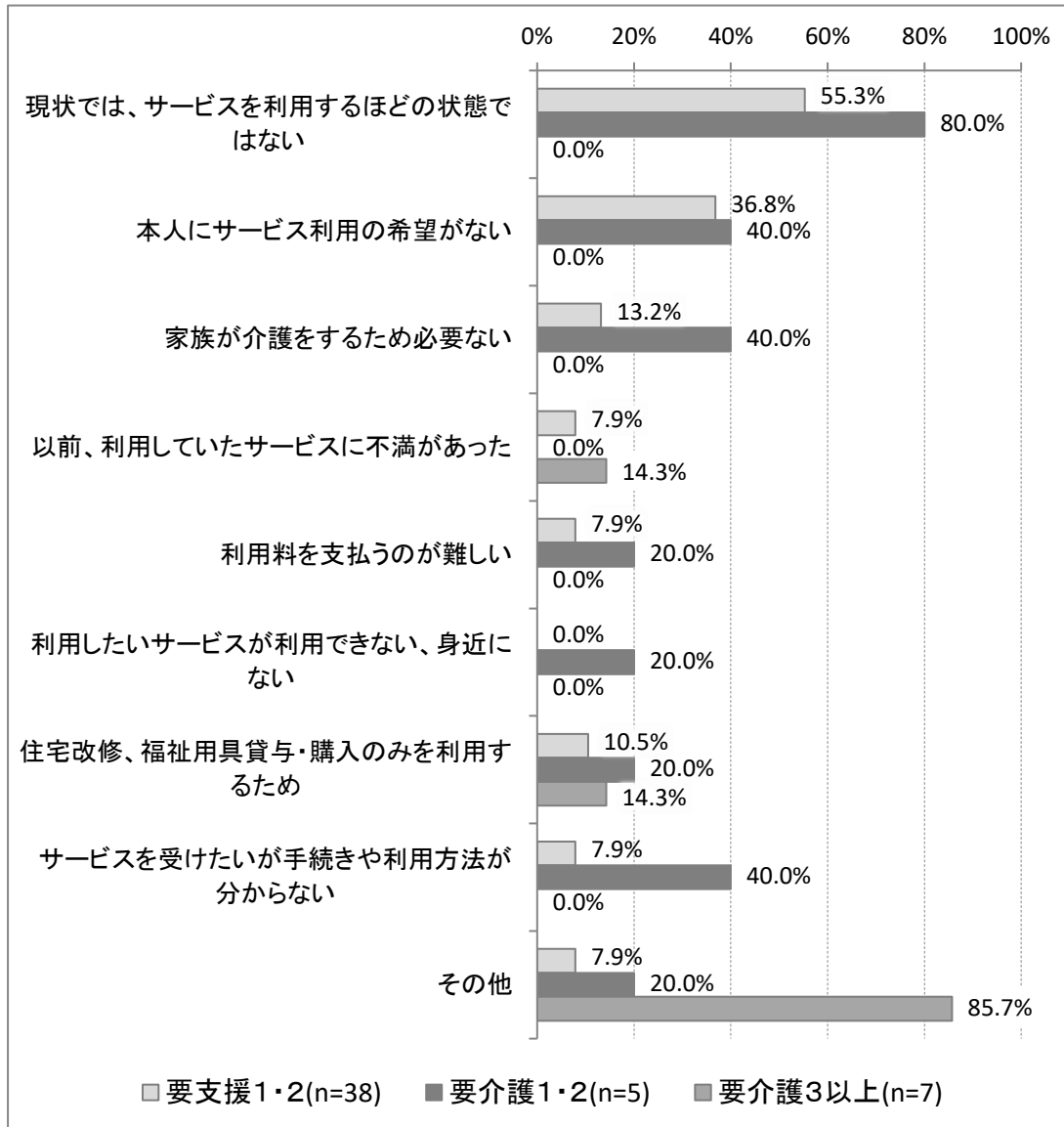
図表8-2 要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)(複数回答)



【要介護度別のサービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が55.3%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が36.8%、「家族が介護をするため必要ない」が13.2%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が40.0%、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が20.0%となっている。「要介護3以上」では「その他」が85.7%と最も割合が高く、次いで「以前、利用していたサービスに不満があった」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が14.3%となっている。

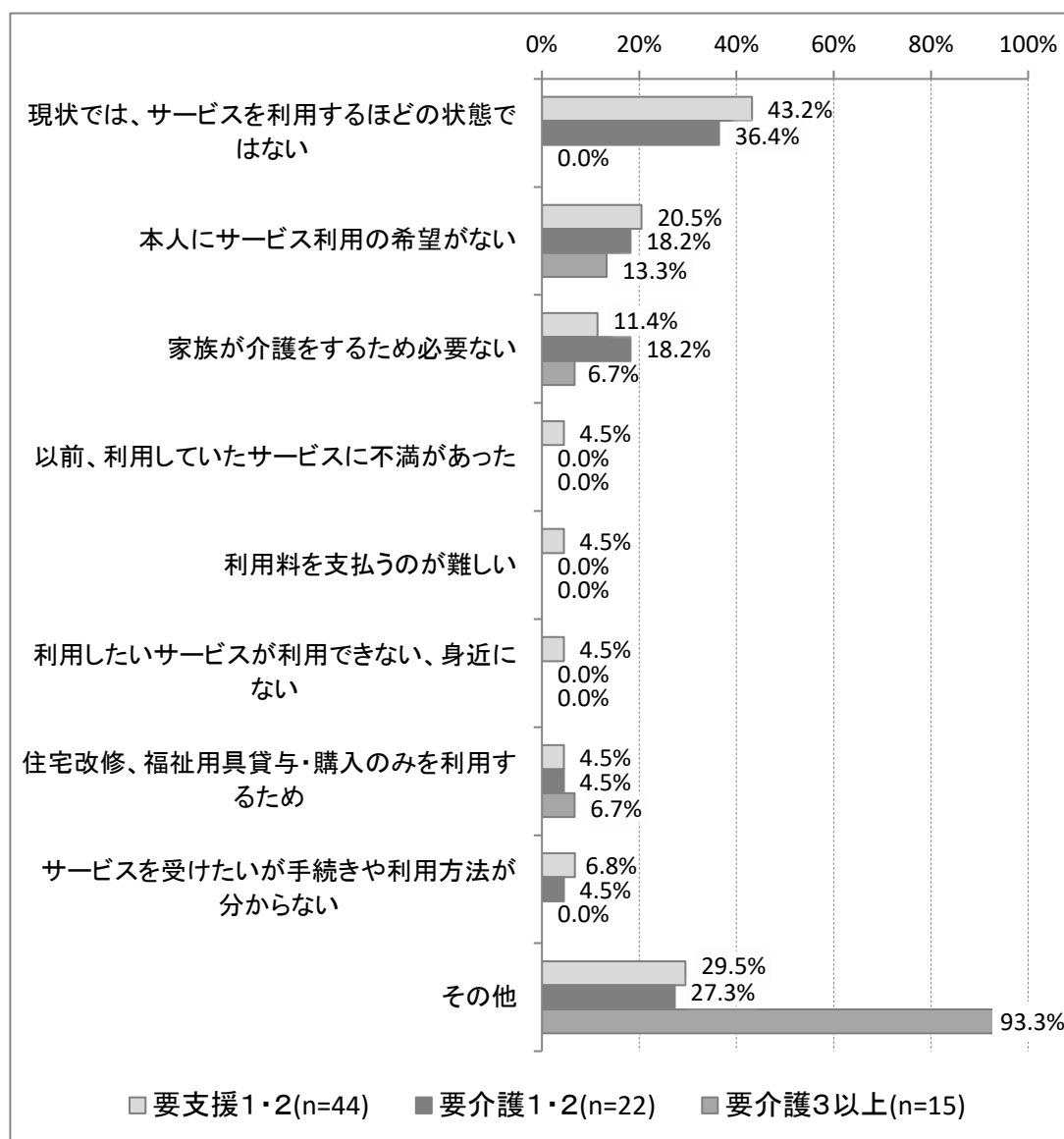
図表8-3 要介護度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)(複数回答)



【要介護度別のサービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が43.2%と最も割合が高く、次いで「その他」が29.5%、「本人にサービス利用の希望がない」が20.5%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が36.4%と最も割合が高く、次いで「その他」が27.3%、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が18.2%となっている。「要介護3以上」では「その他」が93.3%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が13.3%、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が6.7%となっている。

図表8-4 要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)(複数回答)

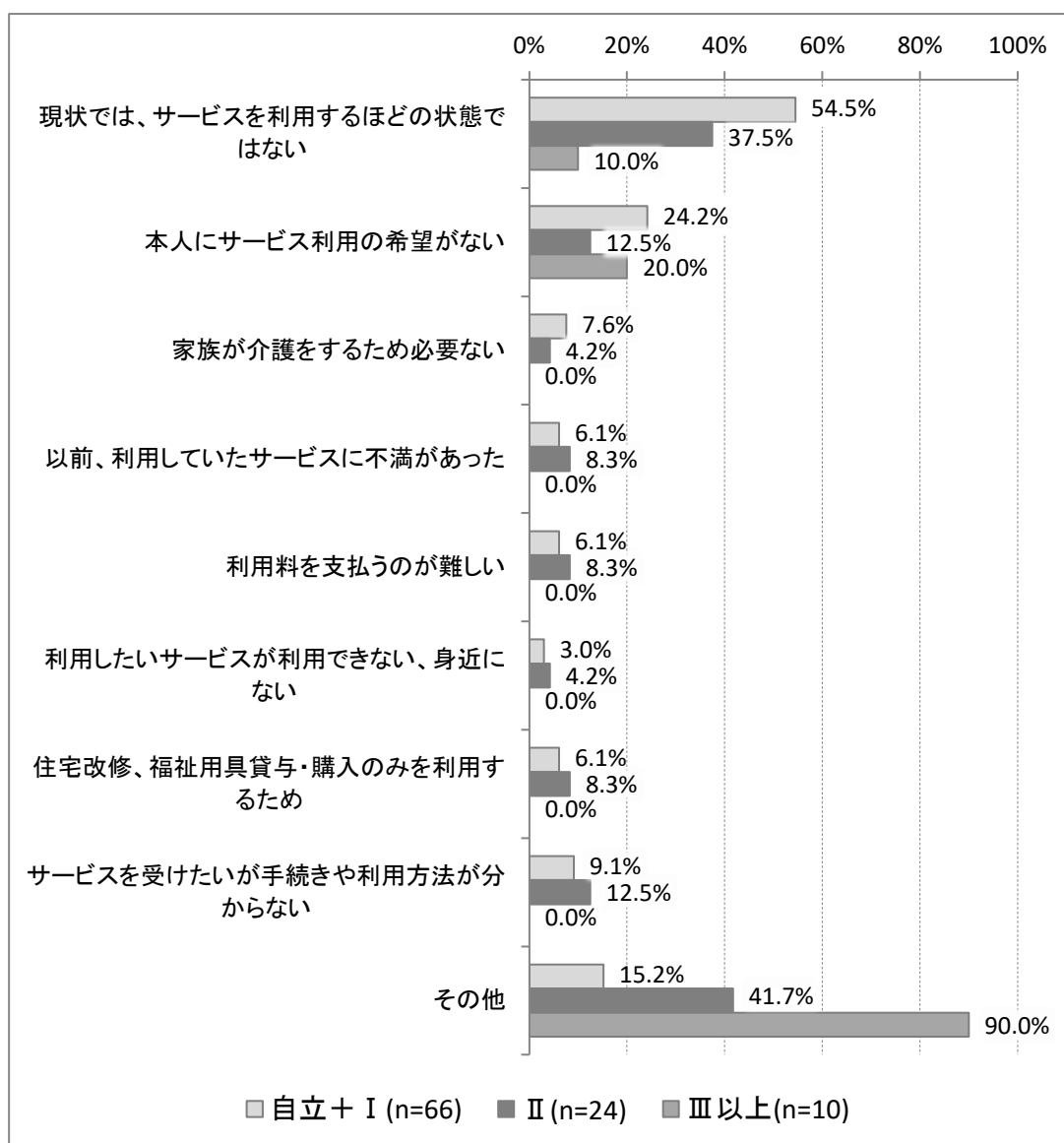


② 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別のサービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が54.5%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が24.2%、「その他」が15.2%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が37.5%、「本人にサービス利用の希望がない」、
「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が12.5%となっている。「Ⅲ以上」では「その他」が90.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が20.0%、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が10.0%となっている。

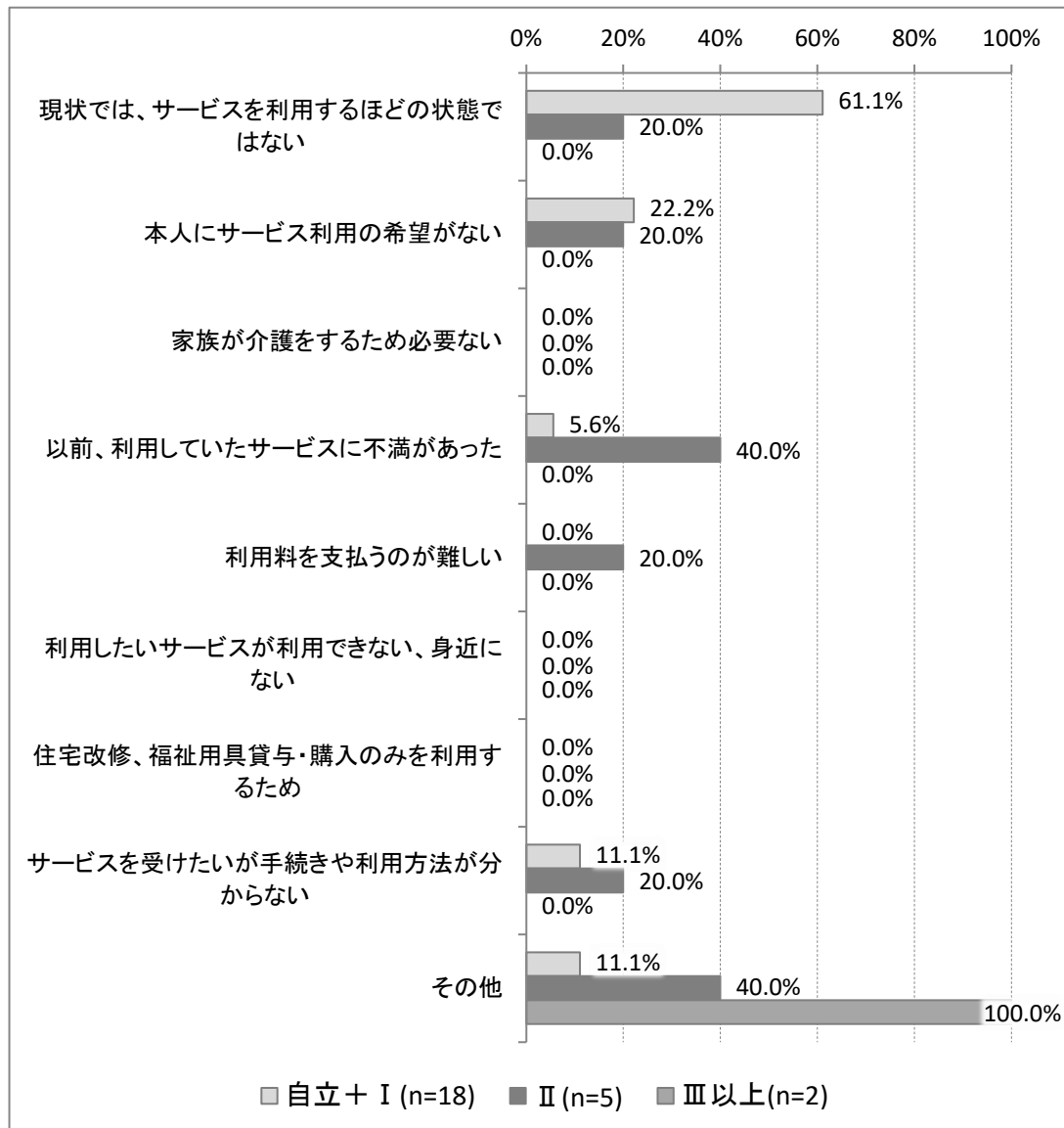
図表 8-5 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（複数回答）



【認知症自立度別のサービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が61.1%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が22.2%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が11.1%となっている。「II」では「以前、利用していたサービスに不満があった」、「その他」が40.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「利用料を支払うのが難しい」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が20.0%となっている。「III以上」では「その他」が100.0%と最も割合が高い。

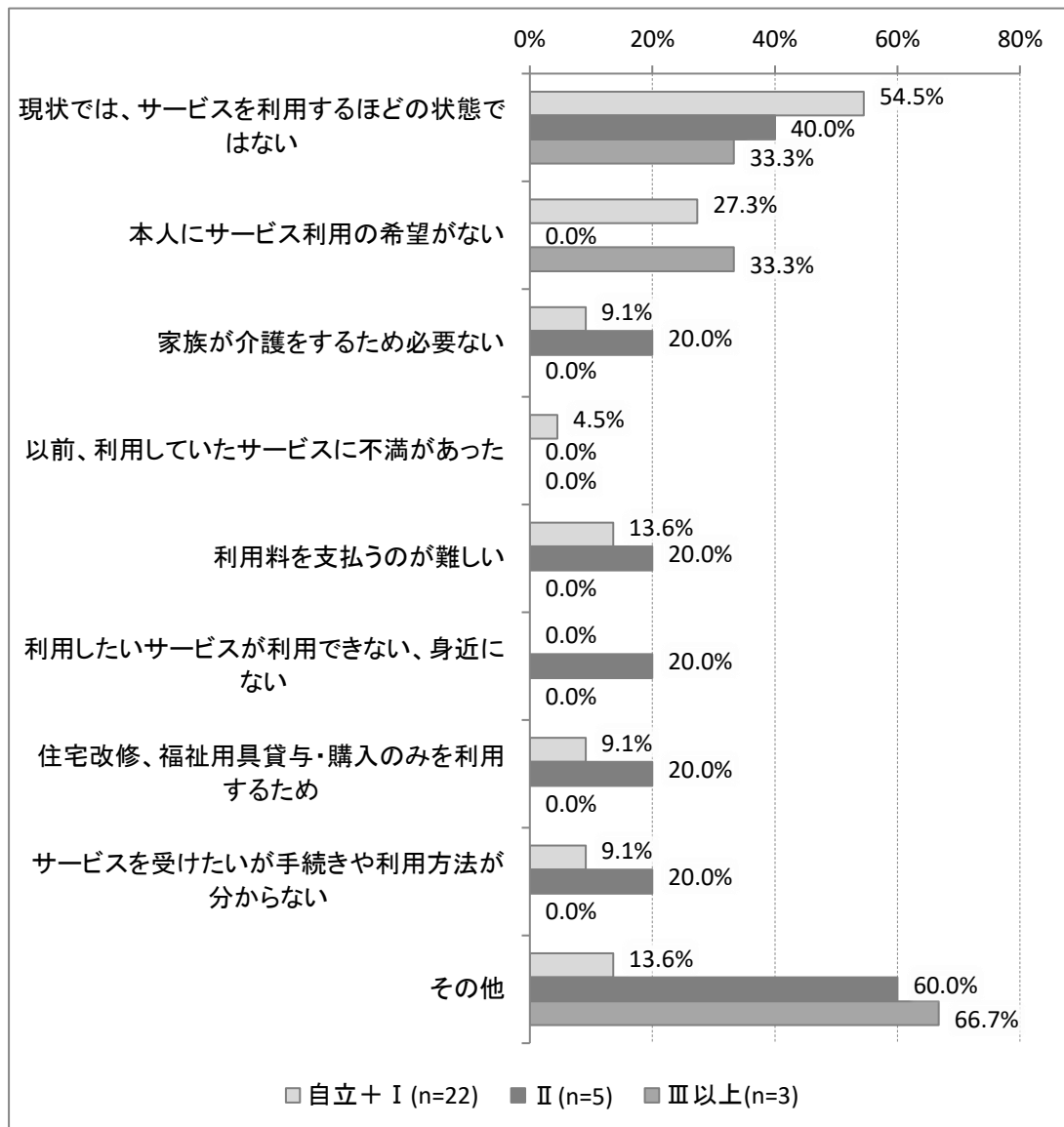
図表 8-6 認知症自立度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)(複数回答)



【認知症自立度別のサービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 54.5%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 27.3%、「利用料を支払うのが難しい」、「その他」が 13.6%となっている。「II」では「その他」が 60.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 40.0%、「家族が介護をするため必要ない」、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 20.0%となっている。「III以上」では「その他」が 66.7%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が 33.3%となっている。

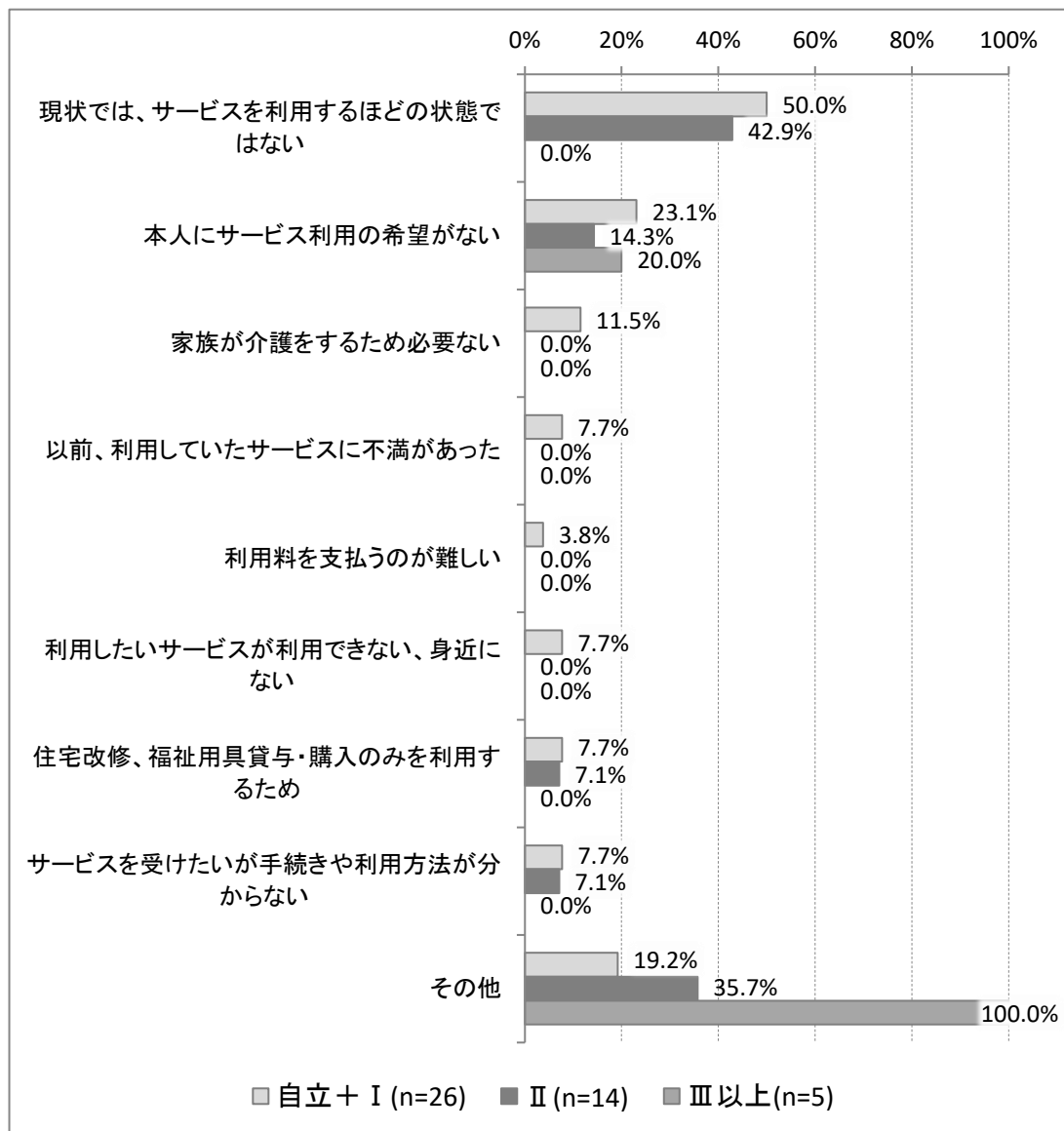
図表 8-7 認知症自立度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)(複数回答)



【認知症自立度別のサービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が23.1%、「その他」が19.2%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「その他」が35.7%、「本人にサービス利用の希望がない」が14.3%となっている。「Ⅲ以上」では「その他」が100.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が20.0%となっている。

図表 8-8 認知症自立度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)(複数回答)

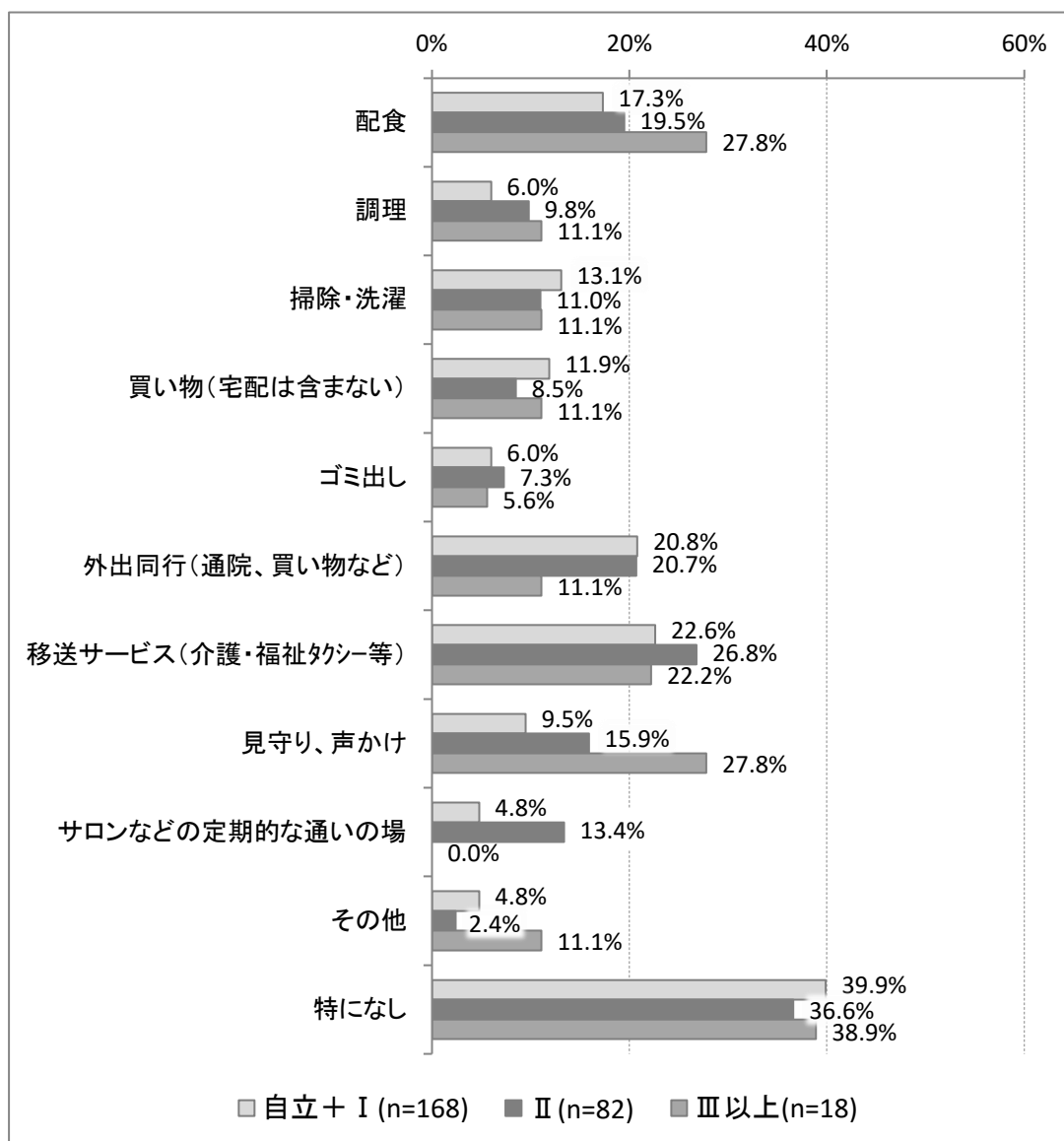


③ 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス

【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が 39.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 22.6%、「外出同行（通院、買い物など）」が 20.8%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が 36.6%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 26.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が 20.7%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が 38.9%と最も割合が高く、次いで「配食」、「見守り、声かけ」が 27.8%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 22.2%となっている。

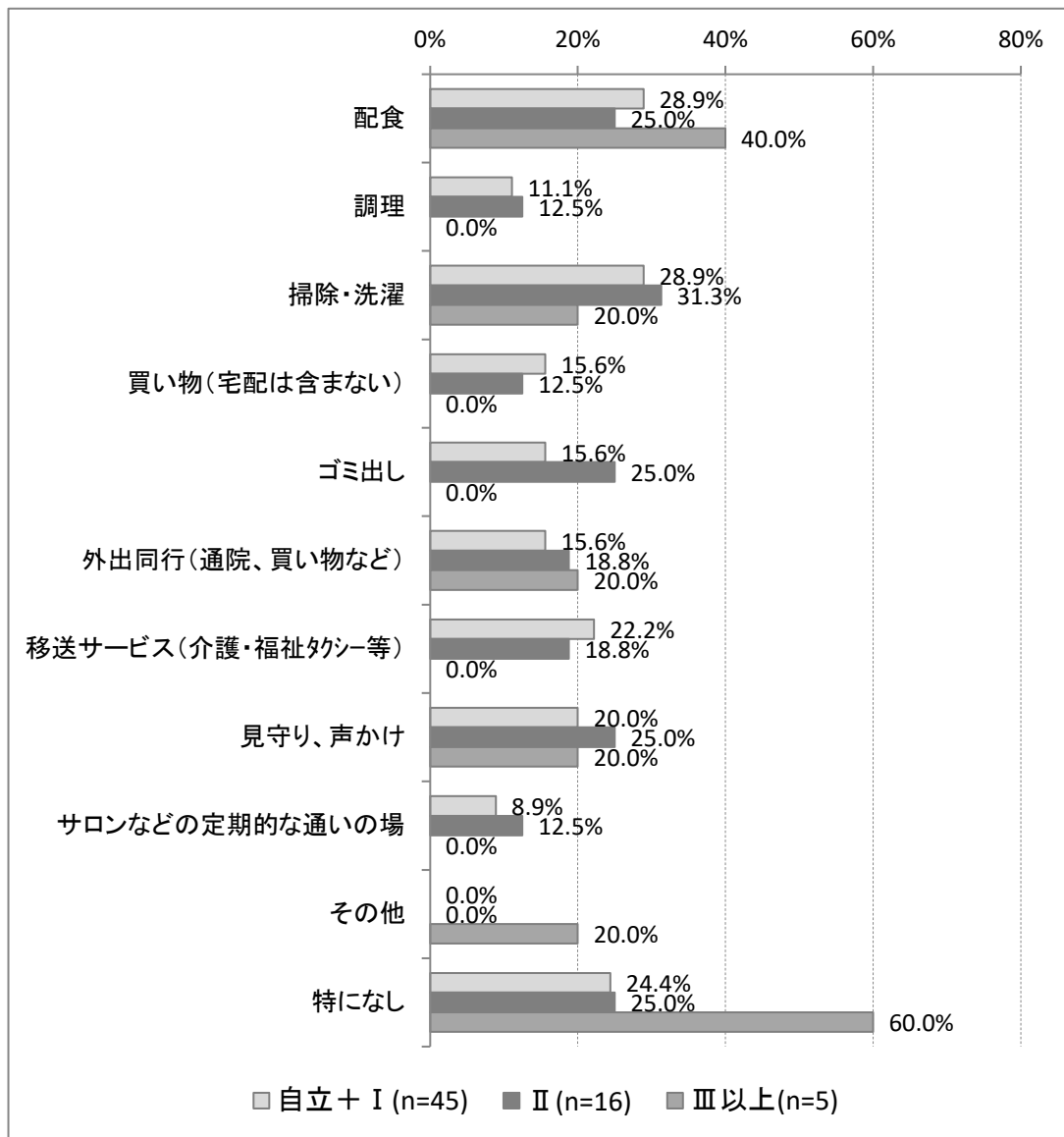
図表 8-9 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス（複数回答）



【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「配食」、「掃除・洗濯」が28.9%と最も割合が高く、次いで「特になし」が24.4%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が22.2%となっている。「Ⅱ」では「掃除・洗濯」が31.3%と最も割合が高く、次いで「配食」、「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」、「特になし」が25.0%、「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が18.8%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が60.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が40.0%、「掃除・洗濯」、「外出同行(通院、買い物など)」、「見守り、声かけ」、「その他」が20.0%となっている。

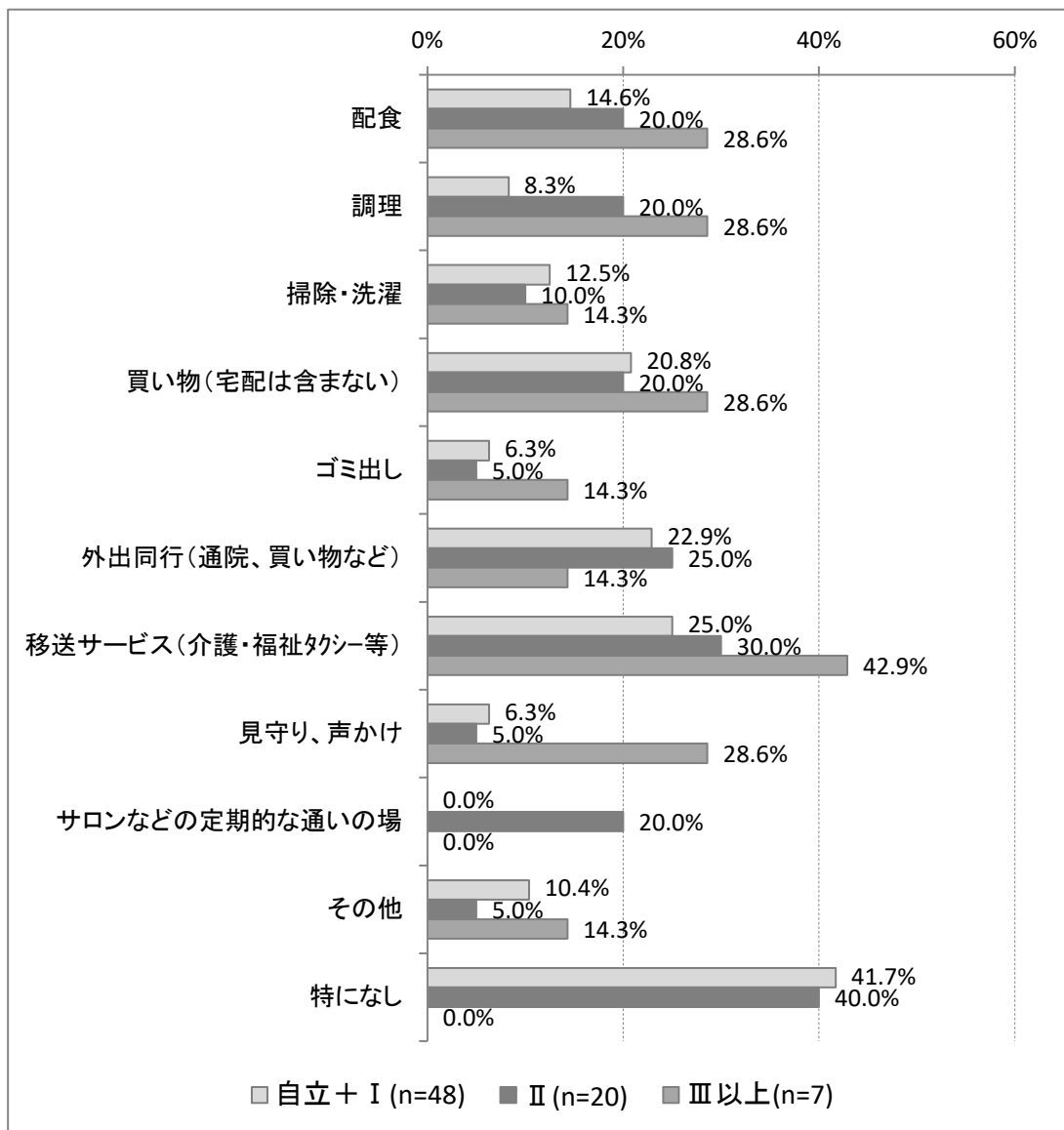
図表8-10 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス(単身世帯)(複数回答)



【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が41.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が25.0%、「外出同行(通院、買い物など)」が22.9%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が40.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が30.0%、「外出同行(通院、買い物など)」が25.0%となっている。「Ⅲ以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が42.9%と最も割合が高く、次いで「配食」、「調理」、「買い物(宅配は含まない)」、「見守り、声かけ」が28.6%、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」、「外出同行(通院、買い物など)」、「その他」が14.3%となっている。

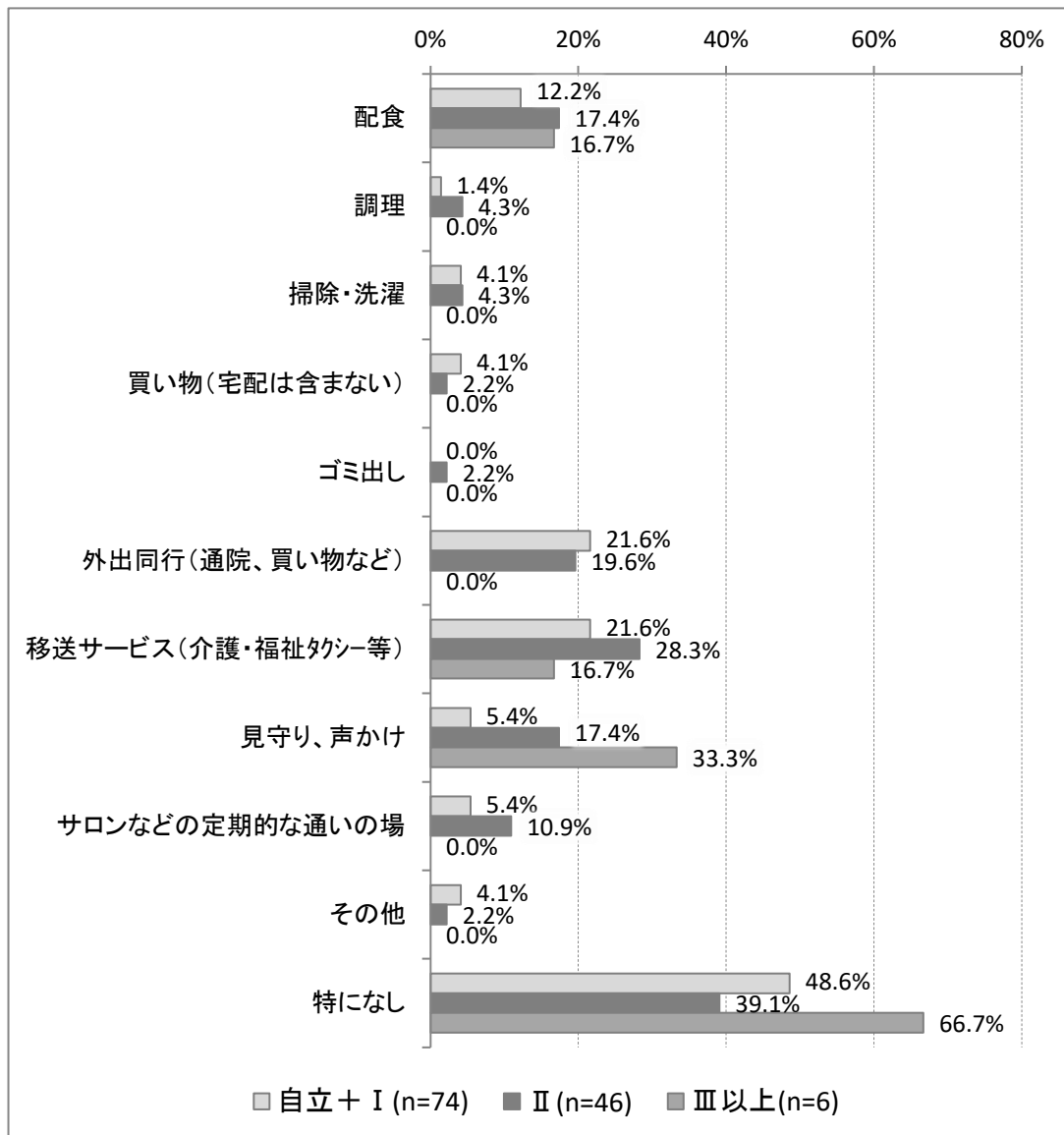
図表 8-11 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)(複数回答)



【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が48.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が21.6%、「配食」が12.2%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が39.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が28.3%、「外出同行(通院、買い物など)」が19.6%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が66.7%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が33.3%、「配食」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が16.7%となっている。

図表8-12 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)(複数回答)

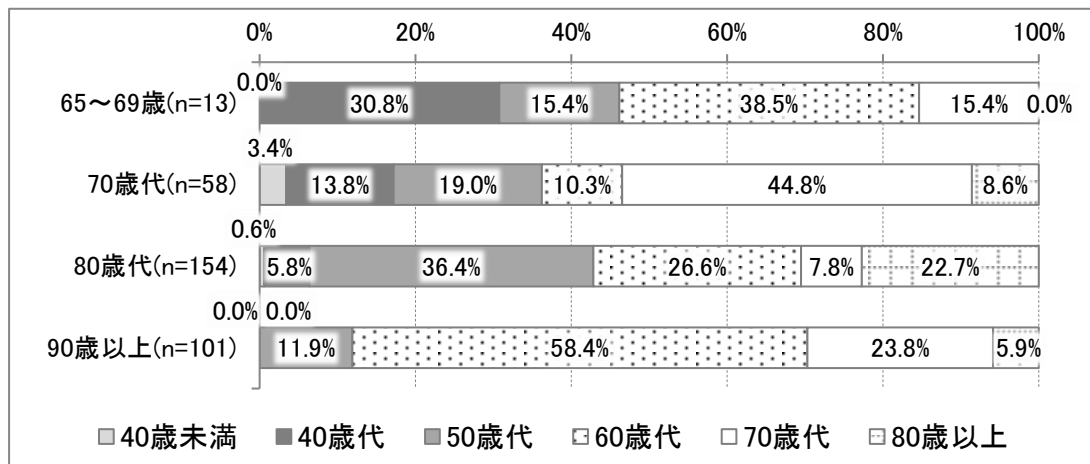


④ 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65～69歳」では「60歳代」が38.5%と最も割合が高く、次いで「40歳代」が30.8%、「50歳代」、「70歳代」が15.4%となっている。「70歳代」では「70歳代」が44.8%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が19.0%、「40歳代」が13.8%となっている。「80歳代」では「50歳代」が36.4%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が26.6%、「80歳以上」が22.7%となっている。「90歳以上」では「60歳代」が58.4%と最も割合が高く、次いで「70歳代」が23.8%、「50歳代」が11.9%となっている。

図表 8-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢

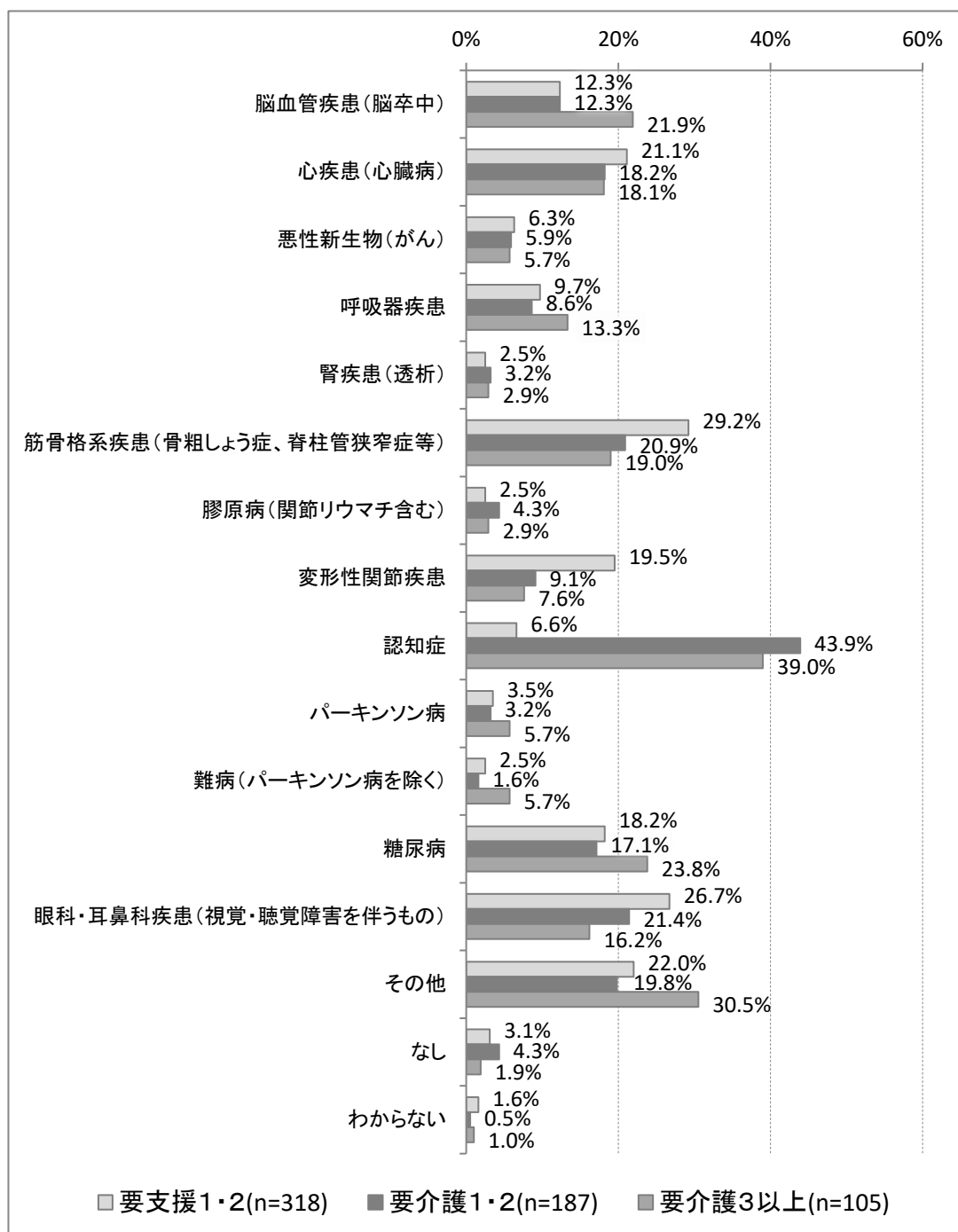


⑤ 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・抱えている傷病】

抱えている傷病を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が29.2%と最も割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が26.7%、「その他」が22.0%となっている。「要介護1・2」では「認知症」が43.9%と最も割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が21.4%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が20.9%となっている。「要介護3以上」では「認知症」が39.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が30.5%、「糖尿病」が23.8%となっている。

図表8-14 要介護度別・★抱えている傷病（複数回答）

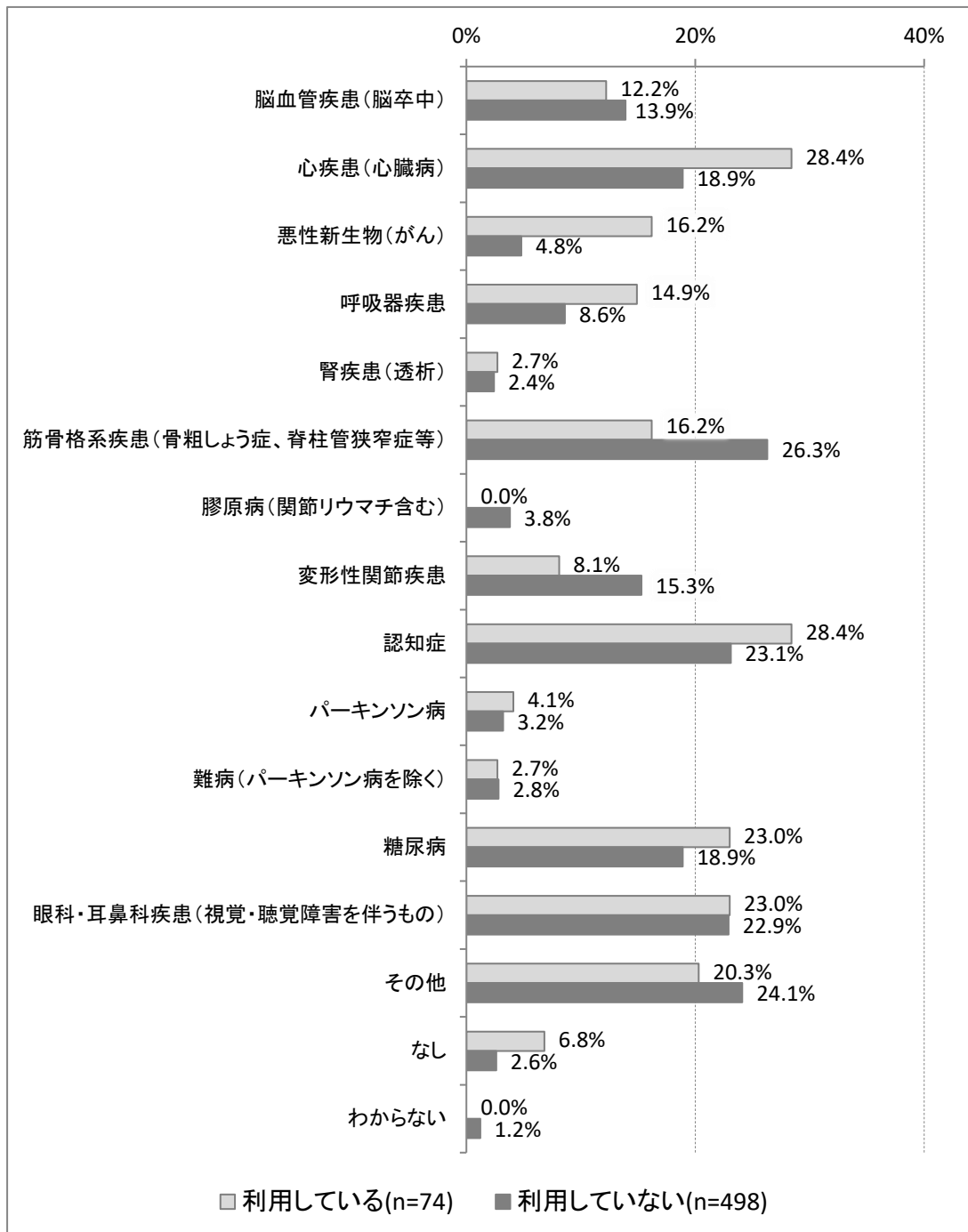


⑥ 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「心疾患（心臓病）」、「認知症」が28.4%と最も割合が高く、次いで「糖尿病」、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が23.0%、「その他」が20.3%となっている。「利用していない」では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が26.3%と最も割合が高く、次いで「その他」が24.1%、「認知症」が23.1%となっている。

図表8-15 ★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病（複数回答）



筑紫野市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
在宅介護実態調査
報告書
令和5年3月

編集・発行 筑紫野市役所 健康福祉部 高齢者支援課
〒818-8686
福岡県筑紫野市石崎1丁目1-1
TEL 092-923-1111（代表）
FAX 092-923-1134（代表）